特集❶＝

Achille Castiglioni：アキッレ・カスティリオーニ

——イタリアン・デザインの巨匠

ウィーンのカスティリオーニ展　パオロ・フェッラーリ

アキッレ・カスティリオーニ・イン・ウィーン　ベーター・ノオヴェー

美しい形は機能　パオロ・フェッラーリ

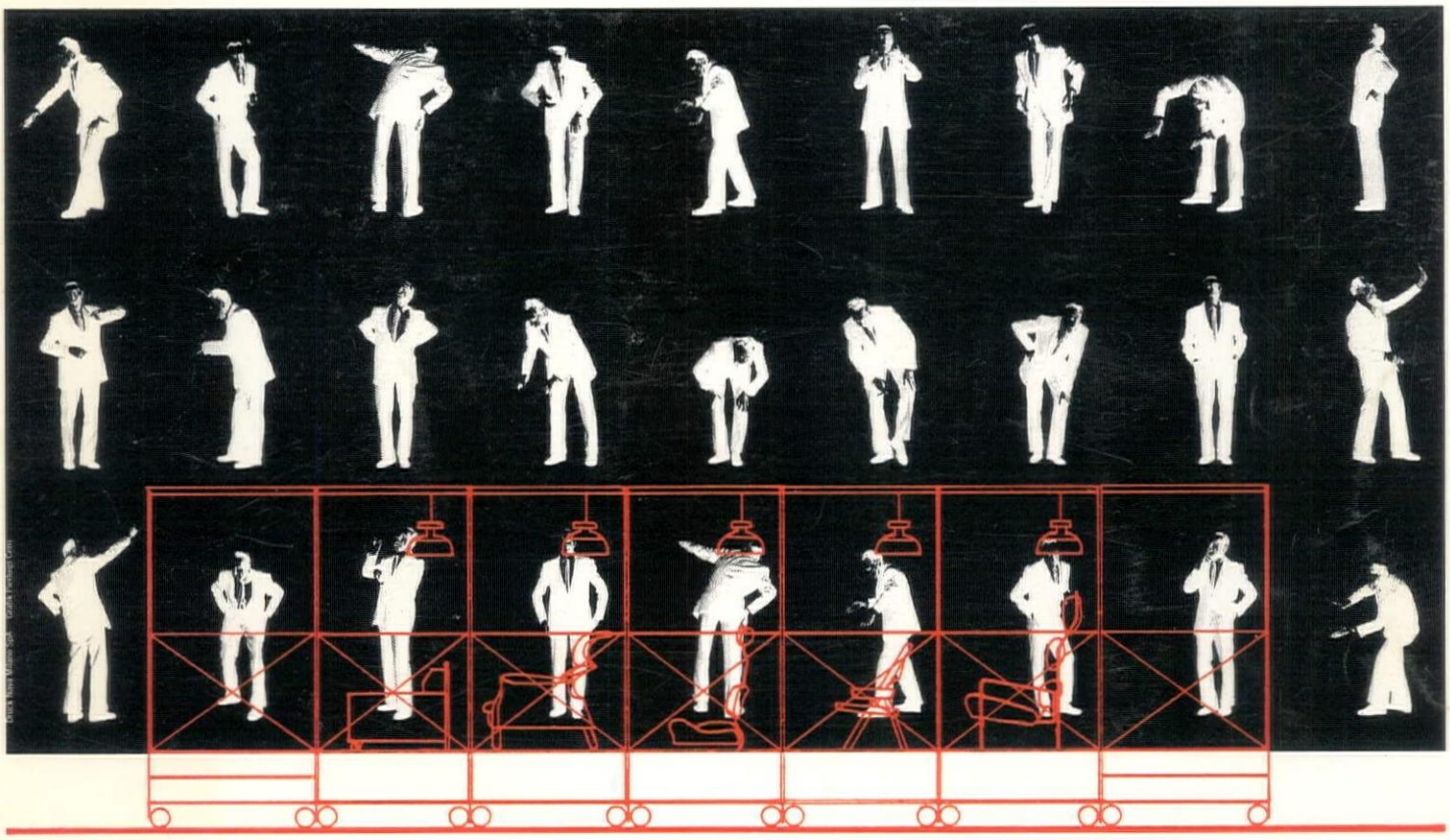
透明で泰然とした流れ　川上元美

カスティリオーニとイタリア・デザイン　松風正幸

アキッレ・カスティリオーニ　自在な遊戯精神　長尾重武

SD Space Design

スペースデザイン都市・建築・芸術の総合誌
第242号昭和59年11月1日発行毎月1回1日発行
昭和40年2月5日第3種郵便物認可
昭和59年10月9日国鉄首都特別扱承認雑誌第7825号



特集❷＝

表層の魔術——コーン，ペダーソン，フォックスの最新プロジェクト

K. P. F. 読解のためのフット・ノート　堀池秀人

表層の中のクラシシズム　圏紀彦

紙一重でイノヴェーター　六鹿正治

マイアミ旋風——アルキテクトニカ

アルキテクトニカの“ロマンチック・モダニズム”　竹山実

［色］色のポリシー　三輪正弘

■連載＝フランク・ロイド・ライトの呪術の空間❹

ソーローの森，ライトの森

11

November 1984



ベネチア 15804 18



それぞれに個性。

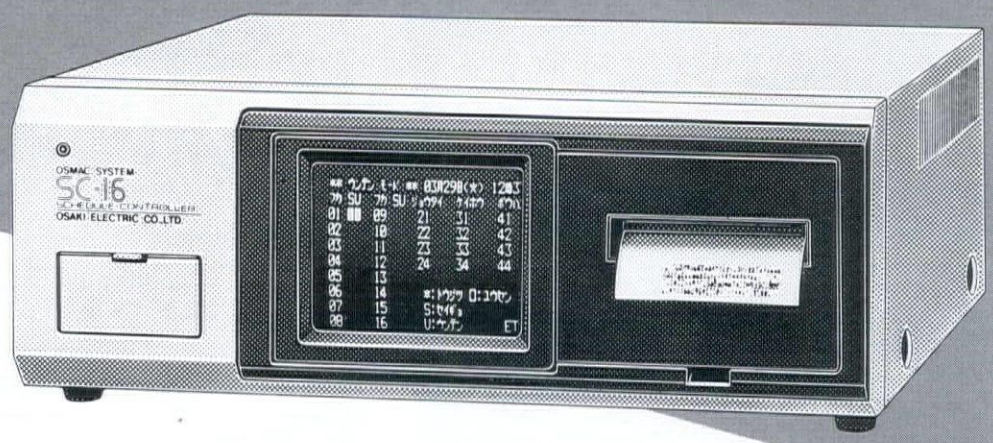
カーテンのオートクチュール ——— フィスバ

スイスに生まれ、160余年にわたる伝統を育みながら、
今や世界各国で愛されているフィスバのカーテン。
厳選された素材に加えて、フィスバならではの特殊縫製から
生まれるそれは、まさしくオートクチュール感覚。
今、鮮やかに、窓辺の個性を語ります。

FISBA
Switzerland

日本フィスバ株式会社 東京：東京都港区新橋6-1-1 秀和御成門ビル6F TEL. 03-431-6823(代表) 大阪：大阪市南区南船場4-6-10 新東和ビル6F TEL. 06-252-4305(代表)
● 全国の有名百貨店・インテリア専門店等で、ぜひとも、お手にとってごらんください。カタログの請求は住所・氏名・年令・職業をご記入の上、上記SD係へお申し込みください。

低価格、多機能、操作性を重視！
ソフトタッチによる対話を実現した
大崎のスケジュールコントローラ。



実用新案４件出願中
意匠登録１件出願中

OSAKI OSMAC SERIES
SC-16 スケジュール付監視制御ユニット

設備規模の大小にかかわらず、各種ビルや工場における電気設備運転を自動的かつ簡単・効率的に行うことは、必要不可欠となっています。ＳＣ－16は、こうしたニーズにお応えし最新のエレクトロニクス技術を駆使した省エネルギー・省力・安全管理の実現に貢献できる機器です。

特　長

❶この１台でスケジュール運転や監視が容易にできます。
❷本格的対話方式を重視した設計により、専門知識や専任オペレーターは不要です。
❸経済的な予算で導入いただけるよう低価格を実現しております。
❹外形は場所をとらないコンパクトな設計ですから、管理室などの特別なスペースは不要です。デスク上やパネル取付などご自由にお使いいただけます。
❺伝送ユニットにより、新設時だけでなく、後日の設備増設時、簡易中央装置や高級中央装置との対応などのシステムアップも計れます。

●CRT表示　各負荷機器の状態は一画面で表示され、拡大文字により、発停状態あるいは、監視状態が見やすく、全点の管理が簡単に行えます。また、この他に設定に関する画面やテスト画面などの豊富な画面が用意されています。

●タッチスイッチ　本格的マン・マシーンコミュニケーションを計るため、CRT表示面に透明タッチスイッチがセットされており、CRTに表示された文字を直接タッチする方式ですから、どなたにも簡単に扱うことができます。

●プリンタ　機器の制御状態、警報発生、停電・復電さらに防犯監視などのメッセージをアドレス・時刻と共に自動印字しますから、管理の引き継ぎメモ、確認データとしてご利用いただける他にモニタメニューやテスト時にもお使いいただけます。

大崎電氣工業株式會社

本　　社　〒141　東京都品川区東五反田２－２－７
☎ 03(443) 7 1 7 1（大代表）
大阪営業所　〒531　大阪市大淀区豊崎3-20-9（三栄ビル）
☎ 06(373) 2 5 5 6（代表）

National

エネルギーの効率利用と設備工事の合理化には、ビル空調も個別方式をおすすめします

ナショナルのビル個別空調システム

イニシアルコスト13%減※
ランニングコスト22%減※
ともに有利な個別方式

省エネルギー関係法令の公布に見るまでもなく、建築物にとっての省エネ対策――特に空調エネルギーの効率化は、ビル建築計画にとって重要テーマです。

住宅と異なり、ビル空調に個別方式が主流となりえなかったのは、設備費と機能の対比（コスト・パーフォーマンス）や、工事・メインテナンスに問題があったようです。

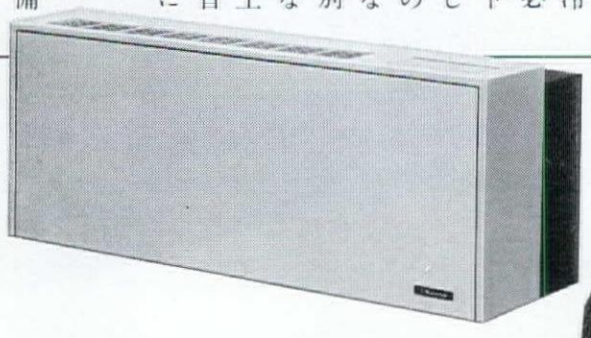
これらの問題を解決したのがナショナル・ビル個別空調機――大幅なコストダウンを可能にした省エネタイプの個別空調システムです。

※弊社計算による

多機能で、しかも簡単な操作
工事の合理化と省スペースにも

冷房・暖房・換気・除塵・外気冷房・熱回収など、ビルの空調に必要なほとんどの機能をコンパクトにまとめていますが、負荷に応じた冷暖切替を自動化していますので、操作はまったく簡単で特殊な技術を必要としません。また個別方式ですから、冷凍機・ボイラーなどの大型機器や、複雑なダクト工事が省略できますので、工事の省力化、ビル本体の省スペース化にも役立ちます。

あらゆる面で有利なナショナル・ビル個別空調システムを、皆様の設備計画・設計に、ぜひご採用ください。



エアーバランサー

室内の汚れた空気の強制排気が可能な、全電気ヒートポンプ方式。

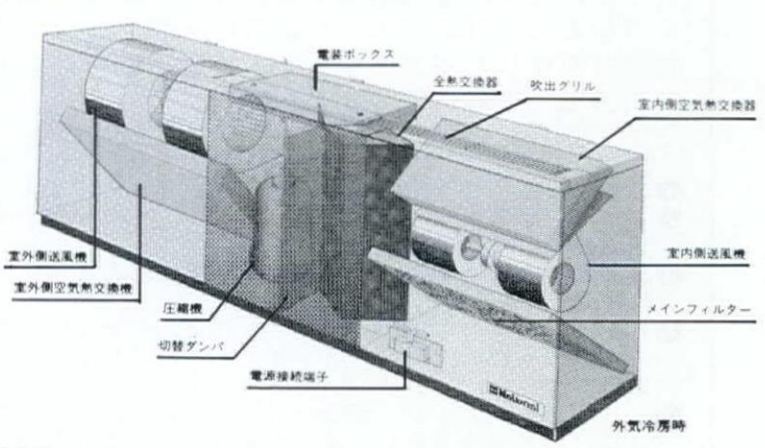
- 大口径シロッコファンにより高静圧を得ています。外風の影響を受けず安定運転が可能。
- 低入力、低騒音を可能にしたインジェクションタイプのロータリーコンプレッサ。
- 高圧圧力調整弁の採用で、高い外気温度での暖房運転が可能。
- 半導体ヒータを補助として採用、暖房の立上り特性がよく、吹出温度を自動的に一定化。
- 2段サーモスタットによる節電運転。
- 白を基調としたシンプルデザイン。



パコスメイク

熱交換により排気熱を回収、エネルギーを有効に利用する全電気ヒートポンプ方式。建築モジュールに合わせた施工により、内・外観ともにシンプルに納まるスルー・ザ・ウォールタイプ。

- 全熱交換器による冷・暖房の排気熱を回収。
- 低入力、低騒音を可能にしたインジェクションタイプのロータリーコンプレッサ。
- 高圧圧力調整弁の採用で、高い外気温度での暖房運転が可能。
- 3段サーモスタットによる冷房・暖房切替の自動化。
- 高性能カートリッジ形フィルター内蔵による高い空気清浄力。
- 白を基調としたシンプルデザイン。



松下電器産業株式会社
松下精工㈱冷暖送風事業部
〒251 藤沢市辻堂元町6丁目4番2号 TEL(0466)34-2111㈹

たしかな技術で世界をむすぶ
NEC

C&Cオフィスシステム

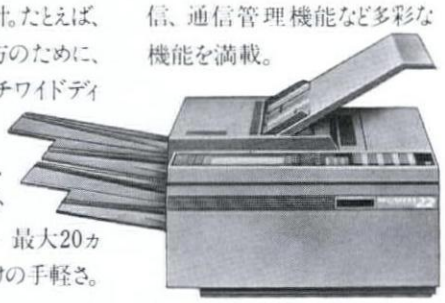
頭脳搭載

シリーズ第2弾、NEFAX-22新登場



OAインタフェースを装備。使いやすさ満載のNEFAX-22。

いま、頭脳搭載シリーズの第2弾、NEFAX-22が大きな注目を集めて華麗にデビューしました。NEFAX-22の魅力は、いたれり尽くせりの親切設計。たとえば、機械は苦手、という方のために、操作の手順をマルチワイドディスプレイにわかりやすく表示します。また、送信は原稿をセットしてワンタッチキー 最大20ヵ所まで を押すだけの手軽さ。通信モードの切替えもすべて自動で行ないます。さらに、使用中でも次の送信が予約できるプログラムダイヤルやマルチ送信、通信管理機能など多彩な機能を満載。



OAインタフェース（オプション）の装備により将来性も抜群。これからのOAを担う新鋭機です。

《姉妹機》
最大100ヵ所への同報通信を実現
頭脳搭載NEFAX-27
最大100ヵ所の宛先へ、ワンタッチで順次同報。グループ指定や時刻指定による同報も可能。機動力に富んだファクシミリです。
NEFAX-27



岡本綾子プロ
（大和紡）

- 1951年4月2日生 ●広島県出身
- 身長163cm ●1975年プロ合格
- 経歴
- ★第5回美津濃トーナメント優勝
- ★'82アリゾナコパークラシック優勝
- ★'83ロチェスター・インターナショナル優勝
- ★'84 J&Bスコッチプロアマ優勝
- ★'84メイフラワークラシック優勝
- ★'84 NECファクシミリTVCFに出演中

NECファクシミリ ネファックス NEFAX-22

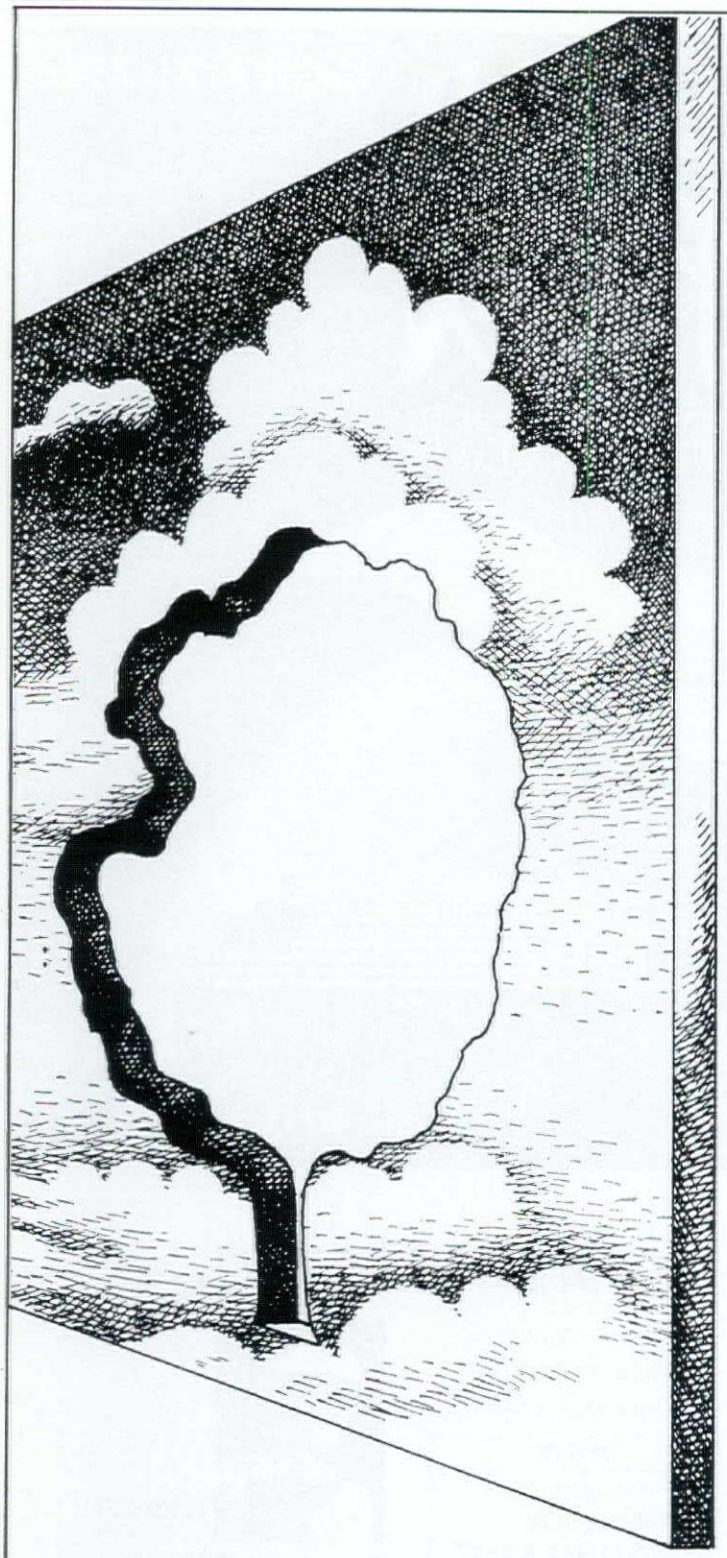
日本電信電話公社 型式指定番号 型式B-59-0069

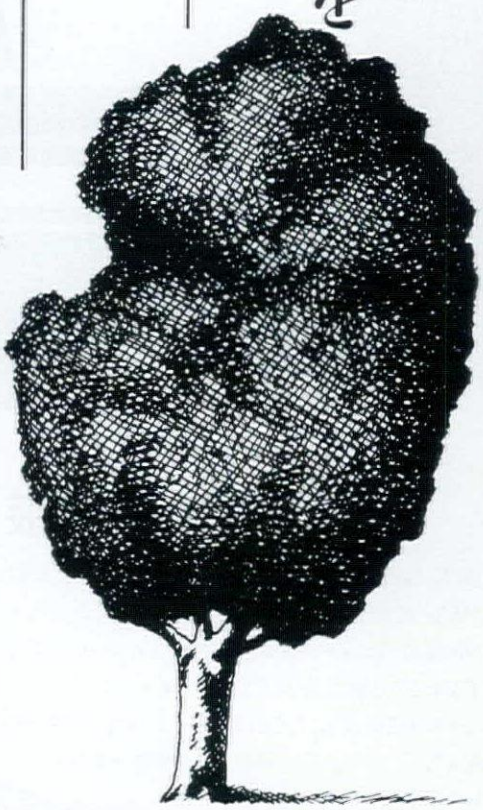
日本電気株式会社
お問合せは＝ファクシミリ販売推進本部 国内部
〒108 東京都港区芝5丁目33番7号（徳栄ビル） ☎(03)453-5511（大代）

資料請求券 SD11 NEFAX-22

空調を通じて最適環境を
創造する高砂熱学

一つひとつが新しいテーマです





空気調和。それは広範な分野にわたる最適環境のクリエイトです。居住空間を対象とするく一般空調〉はもちろん、生産工場や製造工程を対象とするく工場空調〉さらに電算機や精密測定器などの特殊条件に対応するく特殊空調〉など、目的により、状況によって、文字通りの千変万化。その一つひとつが、新しい熱と空気のエンジニアリングです。高砂熱学は、空気調和における多年の経験と実績を生かして、つねに新しいシステム技術の開発を怠りません。暮らしと産業の発展に貢献する高砂の技術は、海外でも高く評価されています。

高砂熱学

〒101 東京都千代田区神田駿河台4-2-8
電話 03(255)8211番(大代表)
大阪支店 06(372)2511番(大代表)
名古屋支店 052(231)6291番(代表)
札幌支店 011(261)2531番(代表)
九州支店 092(431)6111番(代表)
東北支店 0222(27)9551番

たしかに、そして堅牢に。

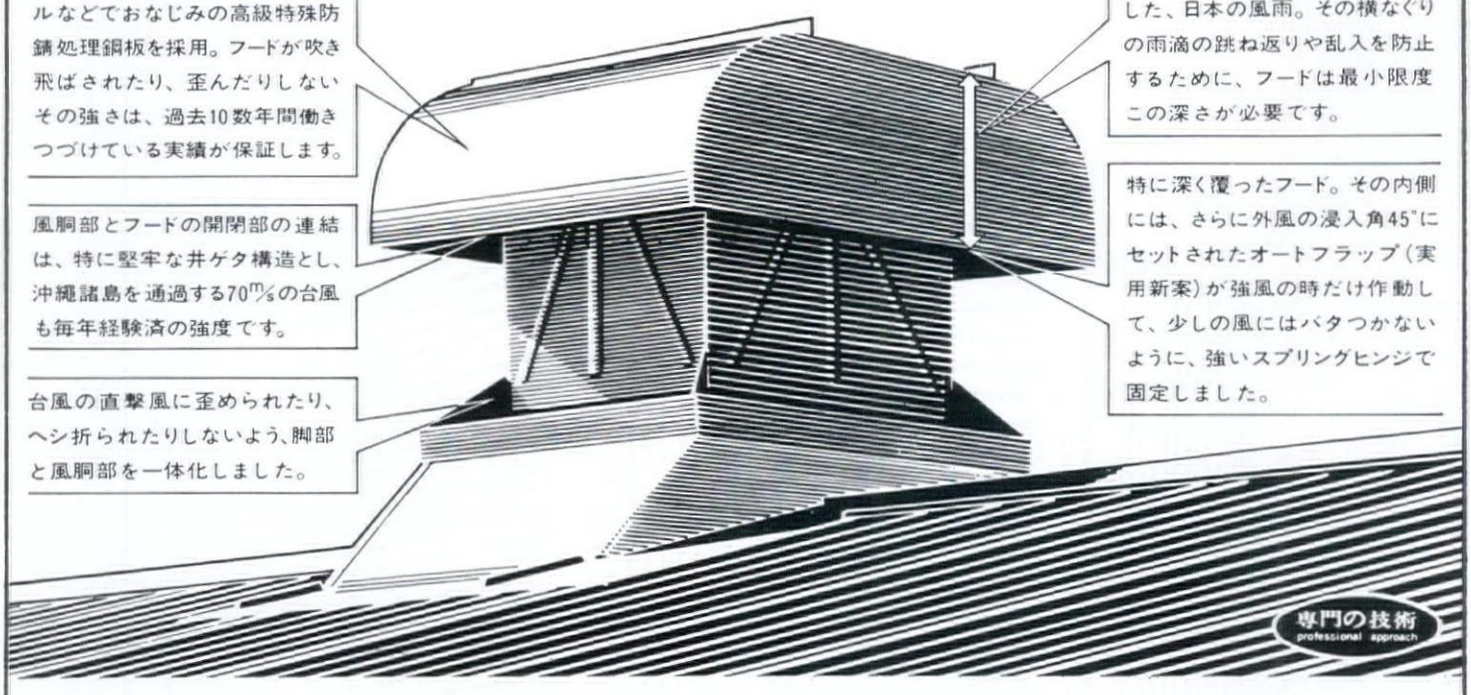
洗濯機、冷蔵庫そしてガードレールなどでおなじみの高級特殊防錆処理鋼板を採用。フードが吹き飛ばされたり、歪んだりしないその強さは、過去10数年間働きつづけている実績が保証します。

風胴部とフードの開閉部の連結は、特に堅牢な井ゲタ構造とし、沖縄諸島を通過する70m/sの台風も毎年経験済の強度です。

台風の直撃風に歪められたり、ヘシ折られたりしないよう、脚部と風胴部を一体化しました。

これまで10数年にもわたって経験した、日本の風雨。その横なぐりの雨滴の跳ね返りや乱入を防止するために、フードは最小限度この深さが必要です。

特に深く覆ったフード。その内側には、さらに外風の浸入角45°にセットされたオートフラップ（実用新案）が強風の時だけ作動して、少しの風にはバタつかないように、強いスプリングヒンジで固定しました。



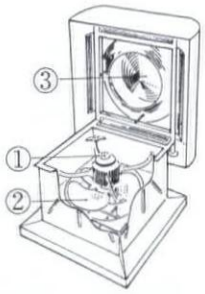
専門の技術 professional approach

日夜風雨にさらされるルーフファンにとって、耐久性はまず第一の条件です。材質も構造もきわめて強度のものが要求されてきます。——カマクラはこの問題ととり組み10数年。現在のこのルーフファンを生み出しました。高級特殊防錆処理鋼板を用いた全溶接仕上げで、塗装も万全。すべてが厳選された材料とすぐれた製作技術から生まれた堅牢な構造です。全国70,000もの事業所にお納めしてきたルーフファンは、今も変らず活躍中です。

産業用強制換気装置 カマクラ ルーフファン

低騒音N型ルーフファン

低騒音N型ルーフファンは、①多極モートルの採用②特別設計の3枚羽根の採用③新機構のケーシングにより、音の感覚量を大幅に低下させるとともに、豊かな風量を保ちました。



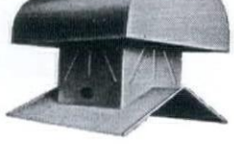
（上図はフードを90°開いた図です。）

FRP製ルーフファン



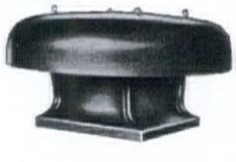
強化プラスチック製のルーフファン。軽量、耐薬品性、耐候性に優れた特性を発揮します。

畜舎用ルーフファン



標準型ルーフファンを畜舎用として軽量化したルーフファン。屋根の傾斜に合わせた直接取付型です。

RP型ルーフファン



FRP製ルーフファンをより軽量化したルーフファン。軽量鉄骨構造の建物、ビニールハウスなどに使われています。

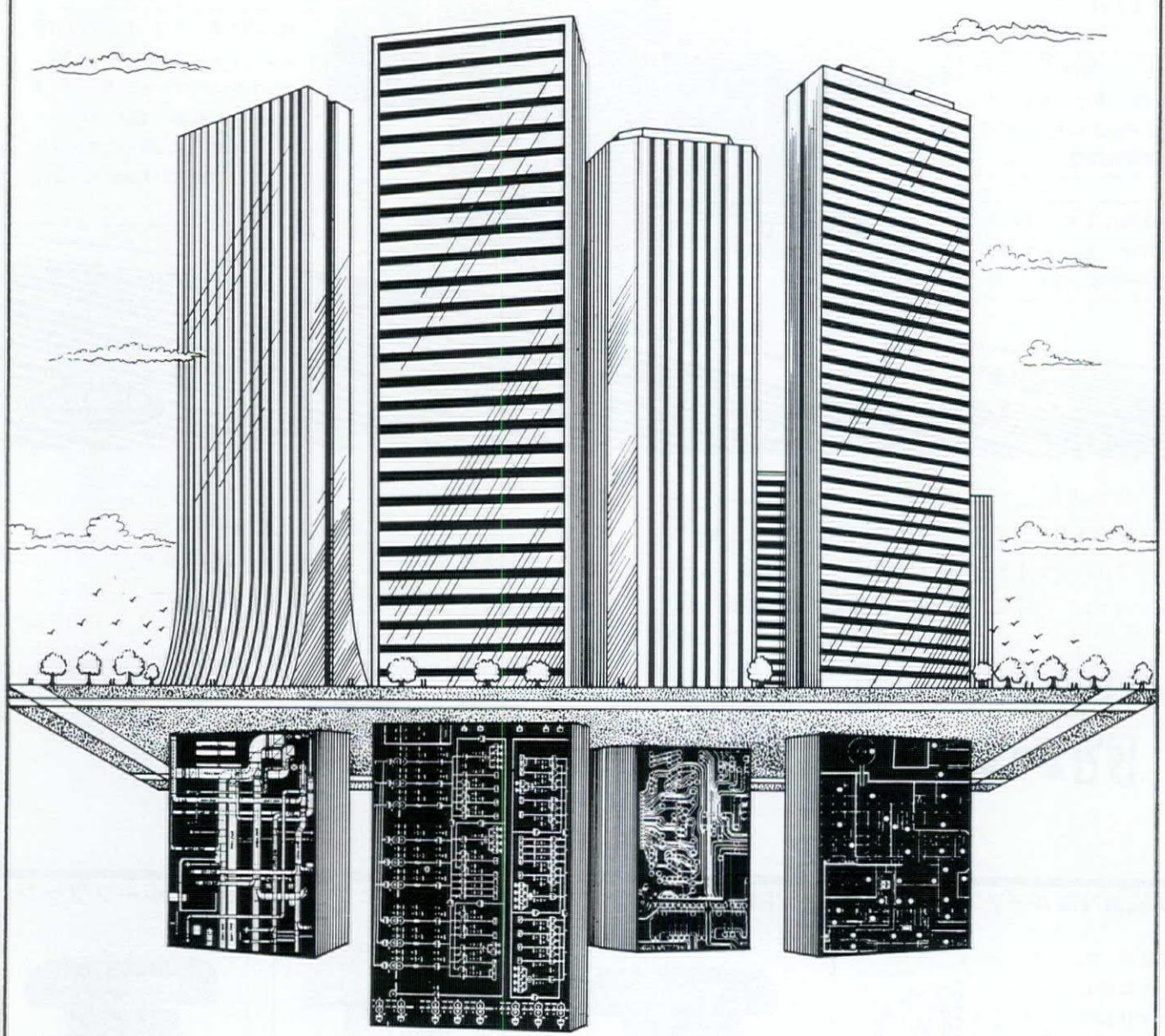
株式会社 鎌倉製作所

●カタログ・換気情報誌ご請求ください。

本　　社　東京都港区北青山2－7－11 〒107 TEL(03) 403-4311(代)
大阪支店　大阪市南区谷町9－43 新谷九ビル 〒542 TEL(06) 768-0345(代)
名古屋支店　名古屋市千種区仲田本通4-22御幸ビル 〒464 TEL(052)733-2811(代)
広島支店　広島市中区西十日市町8－9 新十日市ビル 〒733 TEL(0822)91-4771(代)
福岡支店　福岡市博多区美野島3-15-6大久ビル 〒812 TEL(092)441-6460
仙台支店　仙台市小田原2－2－43 佐幸ビル 〒983 TEL(0222)57-0319
小山営業所　栃木県小山市駅東通り2－30－14 〒323 TEL(0285)23-7847
富山営業所　富山市元町1－3－22 矢郷ビル 〒930 TEL(0764)91-2231

情報世紀を照準する……
近電工のシステムエンジニアリング

高度情報社会へと展開する都市……
新しい世紀へ　活動し制御する全機能をきびしく構成する
近電工の総合技術と総合施工体制——



電気・計装・空調・管・防災・土木

システムの信頼を高める
近電工

近畿電気工事株式會社
大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号　〒531　☎06(375)6000

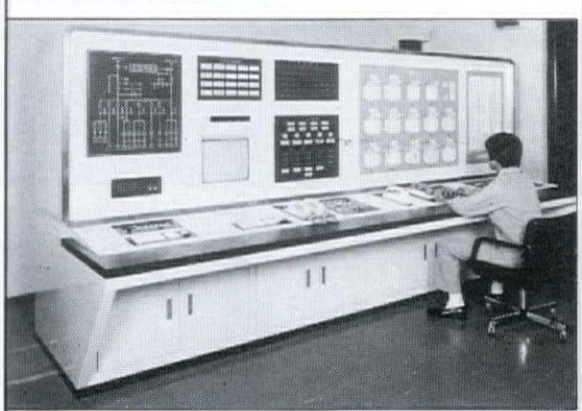
National
－技術でひらく 世界の繁栄－

安全・快適性さらに省エネを追求！

松下電器の総合技術力でお手伝いします



●ホームセキュリティシステム



●ビル管理システム



●昇降機設備

受配電・非常電源設備

- キュービクル式高圧受電設備
- 各種トランス
- 各種電力管理制御設備
- 直流電源設備
- 自家発電機設備
- ビル管理システム

換気送風設備

- 屋上換気扇
- 軸流・遠心送風機
- 排煙システム
- 各種換気扇

照明設備

- 各種HIDランプ（高輝度放電灯）
- 各種蛍光灯
- 各種電球

昇降機設備

- エレベーター
- エスカレーター
- ダムウェーター

通信・音響設備

- 各種インターホン
- ホームセキュリティ
- HAシステム
- 防災アンプ
- 各種音響機器

CATV・共同受信・映像設備

- SHF衛星放送受信システム
- テレビ共聴システム
- ビル陰共聴システム
- CATV共同受信システム

冷暖房設備

- 各種エアコン
- 大型空調機器
- ループコイルシステム（排熱回収設備）

給湯設備

- ソーラシステム
- 電気温水器
- 各種給湯器（電気・ガス・石油）

給排水・衛生設備

- 各種ポンプ
- 各種ユニット設備
- 産業用掃除機
- 生活排水処理装置

台所設備

- システムキッチン
- 電気レンジユニット
- 各種調理機器
- 各種台所まわり設備機器

ナショナル 松下電器

ナショナル建築設備

●お問合せは下記の松下電器／電設営業所・電材機器営業所・設備機器営業所へどうぞ。

札幌(222)5811　盛岡(53)4551　大宮(64)1821　横浜(651)5051　金沢(23)1122　名古屋(951)6281　大阪(906)1781　広島(248)1191　高松(22)8833　北九州(551)3137　熊本(366)3333
仙台(64)4321　水戸(27)0003　千葉(43)2231　横浜(681)3941　松本(26)2510　京都(256)0475　神戸(391)2405　岡山(25)1314　松山(47)1980　大分(46)1406　鹿児島(56)3110
青森(22)1211　宇都宮(37)2251　東京(437)1111　新潟(46)1211　静岡(47)5134　大阪(201)1421　松江(26)2151　山口(24)5975　福岡(472)3370　宮崎(28)4345　那覇(68)0131

多目的大ホールを経済的に造る、総合技術力の結晶

鉄骨巨大スパンドーム

ラメラドーム

LAMELLA DOME

最近、屋内野球場や多目的大ホールの計画が各地の話題をにぎわしています。この様な大空間の屋根を経済的に造る構造がラメラドームです。ラメラドームの形状は球面の一部で、ドームを構成するトラス部材の構面は全て球心を向いており、屋根の重さを効率よく支える仕組になっています。ラメラドームは、アメリカの屋内野球場アストロドームやスーパードームにも採用されています。

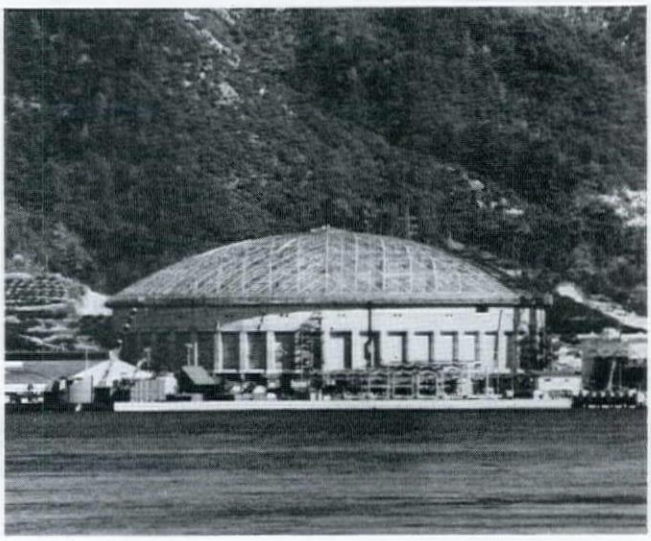


■ 特徴

〈1〉大スパン屋根構造として、抜群の経済性と安全性を発揮します。

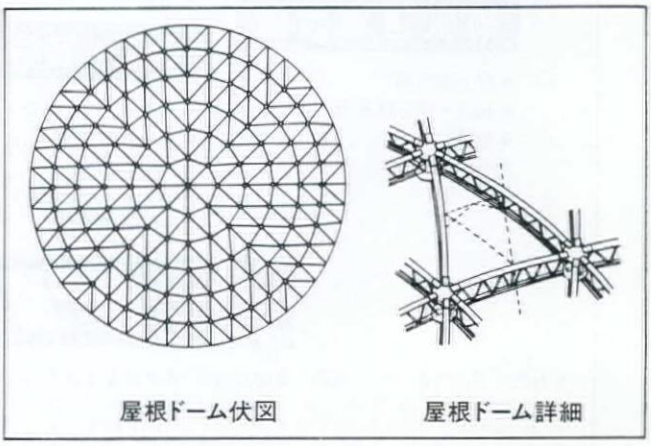
〈2〉ドームを構成するトラス部材は大組みでさらに曲率が一定のため、部材製作や現場組立ての高精度管理が可能です。

〈3〉地震や風に対して安全で、かつ経済的なラメラドームを建設するために、当社保有の薄肉シェル解析プログラムや風洞実験施設、施工用支保工システム、精度管理技術が活用されています。



■ 実績・適用範囲

- 屋内貯炭場―電源開発㈱竹原貯炭場(広島県・1982・直径124M)
- 屋内競技場・スタジアム等のスポーツ施設
- 展示場・催物・講堂・集会施設等の文化施設
- 浄水場・貯炭施設・発電所等の生産施設
- その他



屋根ドーム伏図　　屋根ドーム詳細

鹿島建設
KAJIMA CORPORATION

本社:〒107 東京都港区元赤坂1-2-7 お問合せ先 建築技術部(03)404-3311

地震に強い屋根材

本造下地でも建築基準法22条の制約を受けません。

マルエス不燃シングルSP

ベストロン

建設大臣認定・不燃(個)第1683号



maruesu shingle sp

1耐震性に強く、軽くて割れないため屋根から落下する心配がありません 2耐変色性にすぐれ 3寸法安定がよい

4凍害に強く寒冷地にも安心して使用でき5深みのある色調とソフトな感覚は6自由な曲線をつくれ7ユニークなデザインが可能です。

マルエス 日新

日新工業株式会社

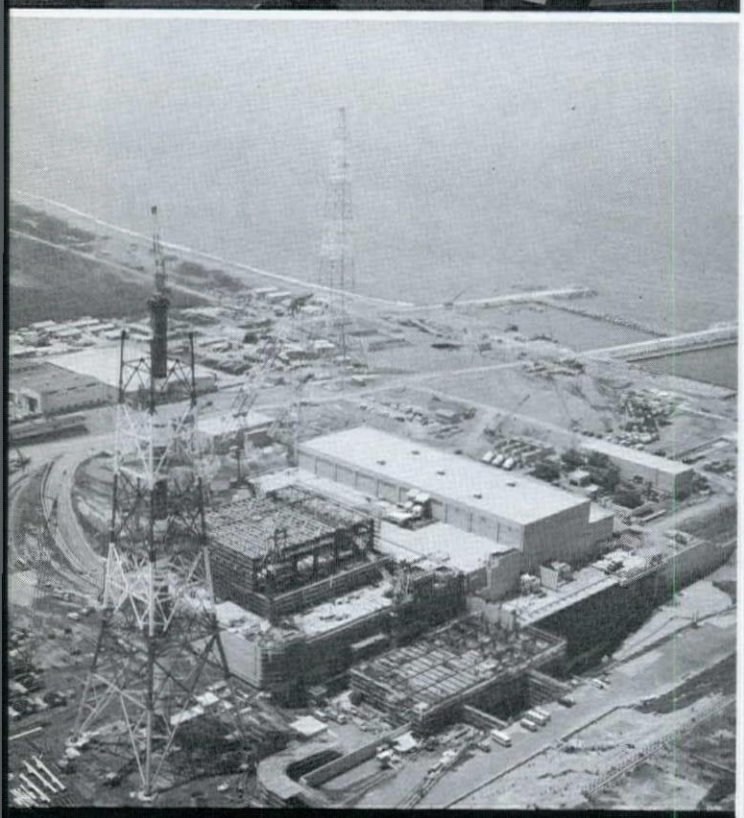
東　京■120/東京都足立区千住東2−23−4☎03(882)2424(大代表)

大　阪■☎ 06(533)3191(代表)　九　州■☎092(451)1095(代表)　名古屋■☎052(741)6257(代表)

札　幌■☎011(281)6328(代表)　広　島■☎082(221)1019(代表)　仙　台■☎0222(63)0315(代表)







信頼の技術が生きている施工実績！

営業種目

●建設資材

鉄鋼及び加工製品・仮設材・セメント・生コン・コンクリート二次製品・防水養生剤・内外装材etc.

●建設工事

鋼管杭・H形鋼・シートパイル・PCパイル各種打込工事・現場造成杭工事・ウエルポイント薬液注入工事・内外装仕上工事・サッシ・シャッター工事・パーティション工事・耐火被覆工事・断熱吸音工事・ALC材工事etc.

●建設機械

運搬機械・クレーンその他・基礎工事用機械・せん孔機械及びトンネル掘進機・締固め機械・骨材生産機械・コンクリート機械・空気圧縮機・送風機・ポンプ・原動機・各種施工機械・完成部品及び特殊機械器具etc.

●設備機器・工事

空調設備機器・衛生設備機器・電気設備機器・防災設備工事・厨房設備工事・昇降設備工事・駐車設備工事etc.

●インテリア

家具・応接セット・スチール棚・保管庫・移動書庫・ロッカー・施設用品etc.

●輸入業務

海外各種建設資材・スリップ・トルクコンベヤ及びスインガー（米国シャトルワース社提携）天然氷晶石・ニュージランドカゼインetc.

●一級建築士事務所

計画・基本設計・実施設計・工事管理・構造物のチェックと対策etc.

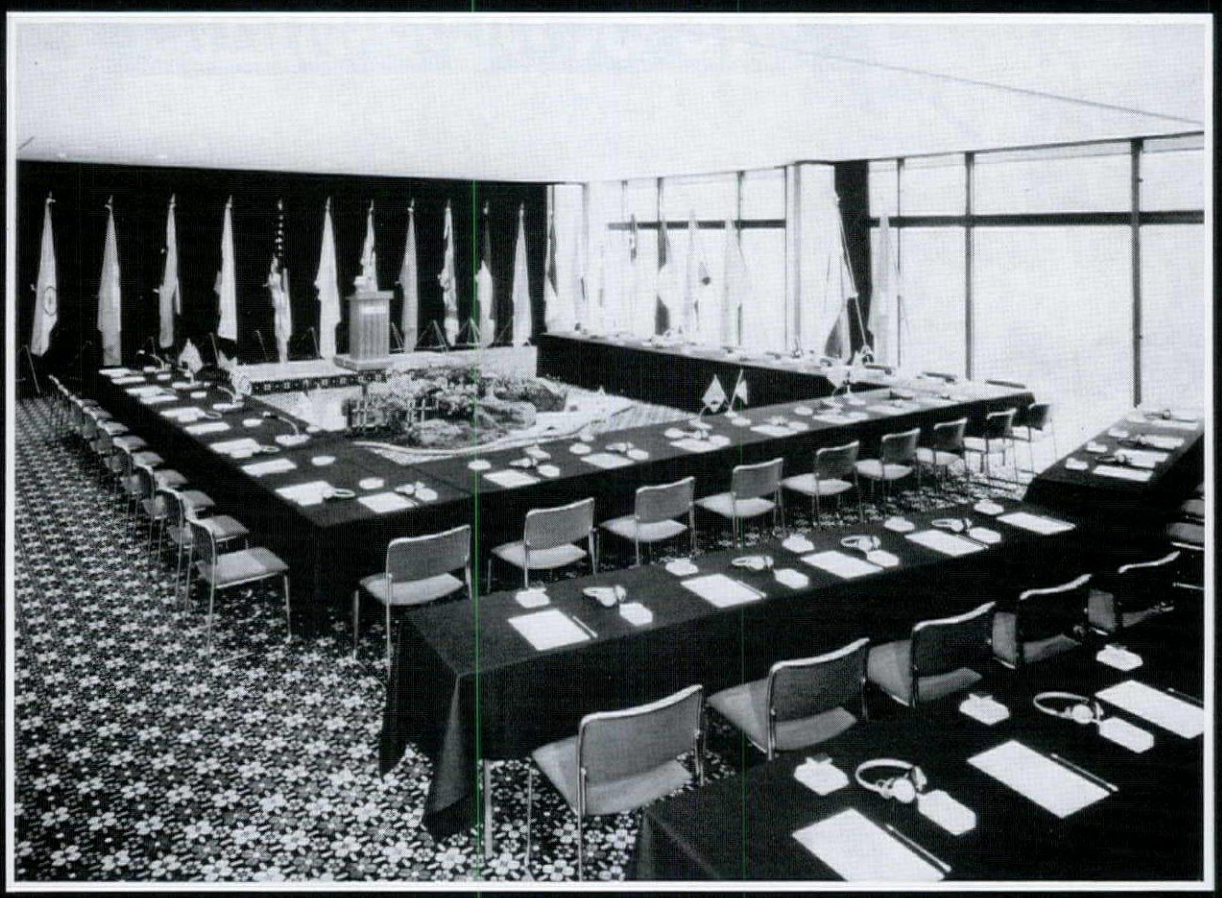
あらゆるニーズにお応えできる建設の総合商社

大興物産株式会社

会長　渥美健夫　社長　柴田銀造

本社	〒107	東京都港区元赤坂1−6−4　安全ビル7・8F	☎(03)423−2511	北陸	〒950	新潟市万代1−3−4　鹿島建設ビル	☎(0252)47−2286〜7
名古屋	〒450	名古屋市中村区名駅南1−24−21	☎(052)551−2131	横浜	〒231	横浜市中区弁天通り3−42　第3須賀ビル	☎(045)212−3925
大阪	〒540	大阪市東区谷町5−27　上町ビル	☎(06)762−5661	広島	〒730	広島市中区中町6−13　鹿島建設ビル	☎(082)249−9221
札幌	〒060	札幌市中央区北三条西3丁目　三井ビル	☎(011)231−6841〜2	高松	〒760	高松市亀井町1−3　鹿島建設ビル	☎(0878)39−3191
仙台	〒980	仙台市二日町1−27　鹿島建設ビル	☎(0222)61−4141〜3	福岡	〒812	福岡市博多区博多駅前3-12-10　鹿島建設ビル	☎(092)441−2624〜5

HOTEL KAJIMA NO MORI



軽井沢

Seminar
&
—Golf・Tennis—

鹿島ノ森ホール

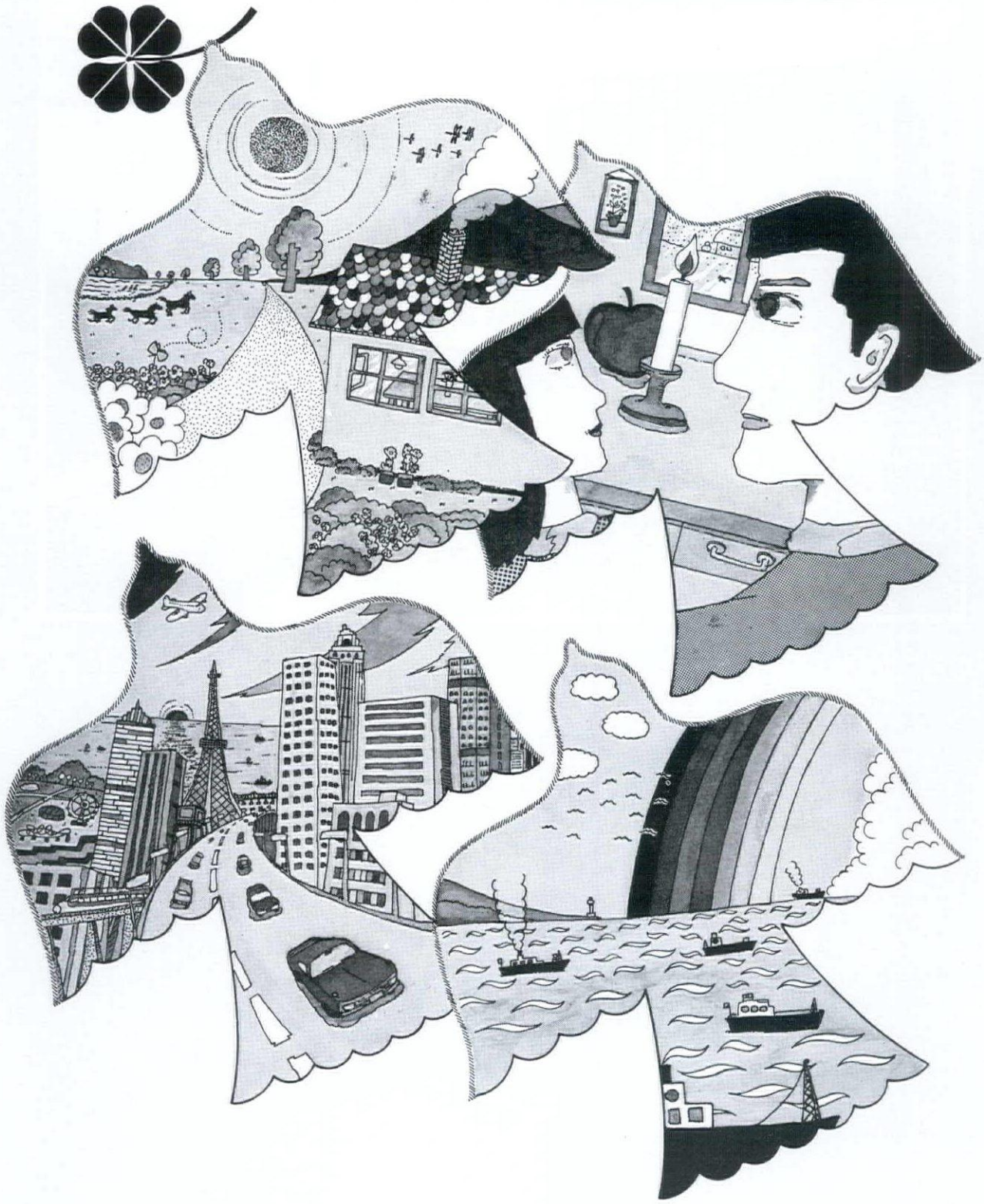
■セミナー：108人、16㎜映画映写装置、2ヶ国語同時通訳
■結婚式：教会・神式、ご披露宴
■展示会場　■パーティー会場

《鹿島建設グループ》

株式会社　ホテル 鹿島ノ森
ホテル　オークラ チェーン

●ご予約・お問い合せ：**ホテル鹿島ノ森予約係**　長野県北佐久郡軽井沢町離山　〒389-01　☎02674-2-3535㈹ TELEX 3328676

豊かな人間生活と
明かるい光の創造に



中立電気株式会社

取締役社長　斎　藤　　勲

本　　社	〒160 東京都新宿区新宿1丁目13番12号	☎東京(356)2511代
山梨支店	〒403 富士吉田市下吉田町2005番地	☎吉田(0555)(2)3258代
大月出張所	〒401 大月市大月町2丁目10番地14号	☎大月(05542)(2)1013
笛吹川事務所	〒405 山梨市小原西1118番	☎山梨(05532)(2)6651

広告についてのお問合せの際は≪SD を見て≫と御明記願います

ナイスコミュニケーション!

——トッパン

&

"&"から始まるコミュニケーション

コミュニケーションは、人&人、企業&企業の「結びつき」や「理解」を生むうえで大切な役割を果たしています。私たちトッパンの活動は、コミュニケーションの出発点である"&"から始まります。

そして、総合印刷企業トッパンの"&"は、よりいっそうの、大きな拡がりを秘めています。

印刷を中心に、暮らしのあらゆるところで役立つ私たちは、つねに"&"のもつ可能性を追求し、的確かつ高度な技術で良質な製品をおとどけし続けています。

ますます拡がるトッパンの"&"

たとえば、店舗など商業施設の設計・施工。

"真にみなさまのお役に立つスペースデザイン"をモットーに、よく売れるお店づくりを進めております。

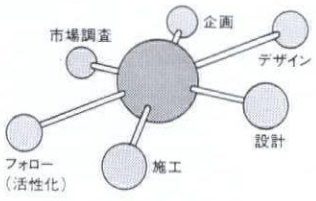
繁盛するお店づくりに欠かせないことは、お客さまとお店とがナイスコミュニケーションで結ばれていること。そのために、当社では、お得意さまのマーケティング計画から販売促進計画、事務合理化・省力化計画まで含めた、総合的、継続的、さらに、戦略的な店舗建設計画を立案し、SDプロデューサーが中心となり、デザイナー、設計技師、工事関係者なども含めたシステム的な展開体制をととのえております。

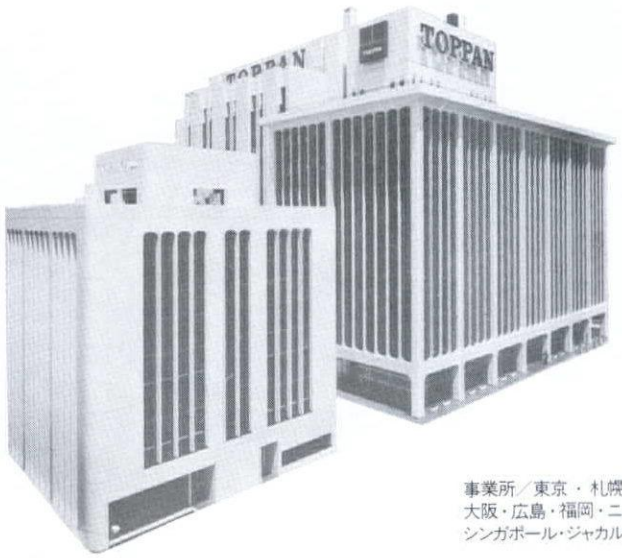
業際企業——トッパン

このように、私たちトッパンは、印刷はもちろんのこと、関連分野にもおしみなく高度な知識と独自の技術を提供、マルチタイプの活動力をもったコミュニケーション・インダストリーをめざしています。

私たちは、この活動を、自ら"業際"という言葉で表現しています。そして、"業際企業トッパン"であることこそ、私たちが新しい時代へ進むための使命であるとも考えます。トッパンの業際化は、さらに"&"をおし拡げます。

●トッパンスペースデザインシステム





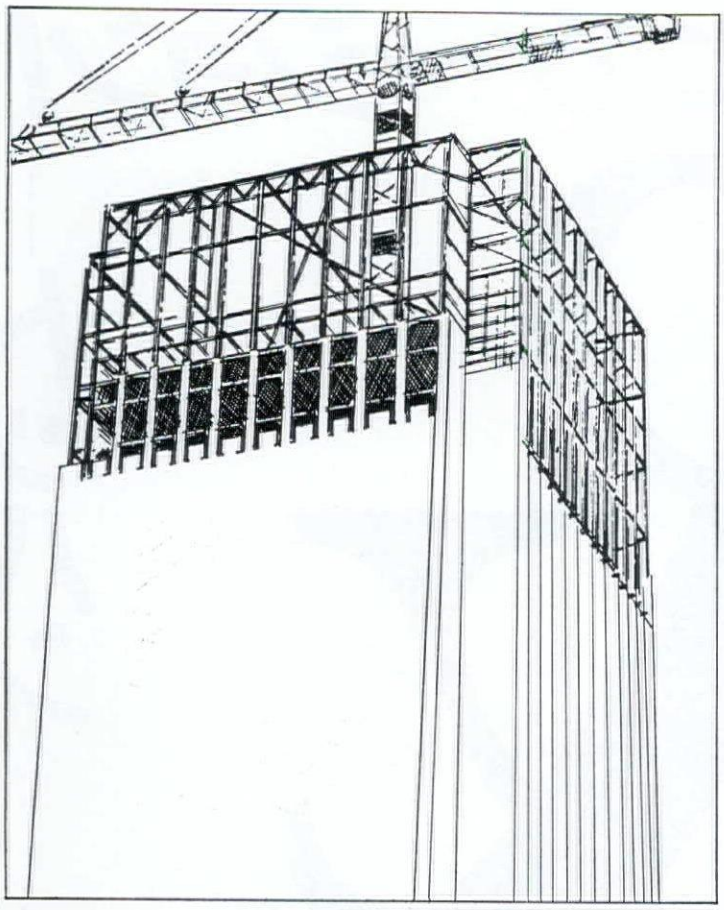
コミュニケーション・インダストリー

TOPPAN

凸版印刷株式会社

本社 〒110 東京都台東区台東1-5-1

事業所／東京・札幌・仙台・名古屋・大阪・広島・福岡・ニューヨーク・ロンドン・シンガポール・ジャカルタ・シドニー・ホンコン



耐火・断熱・防音

リンペット 石綿吹付
リフライト 石綿板
リフボード ケイカル板
バルカロック 岩綿吹付
バルカウエット 湿式吹付

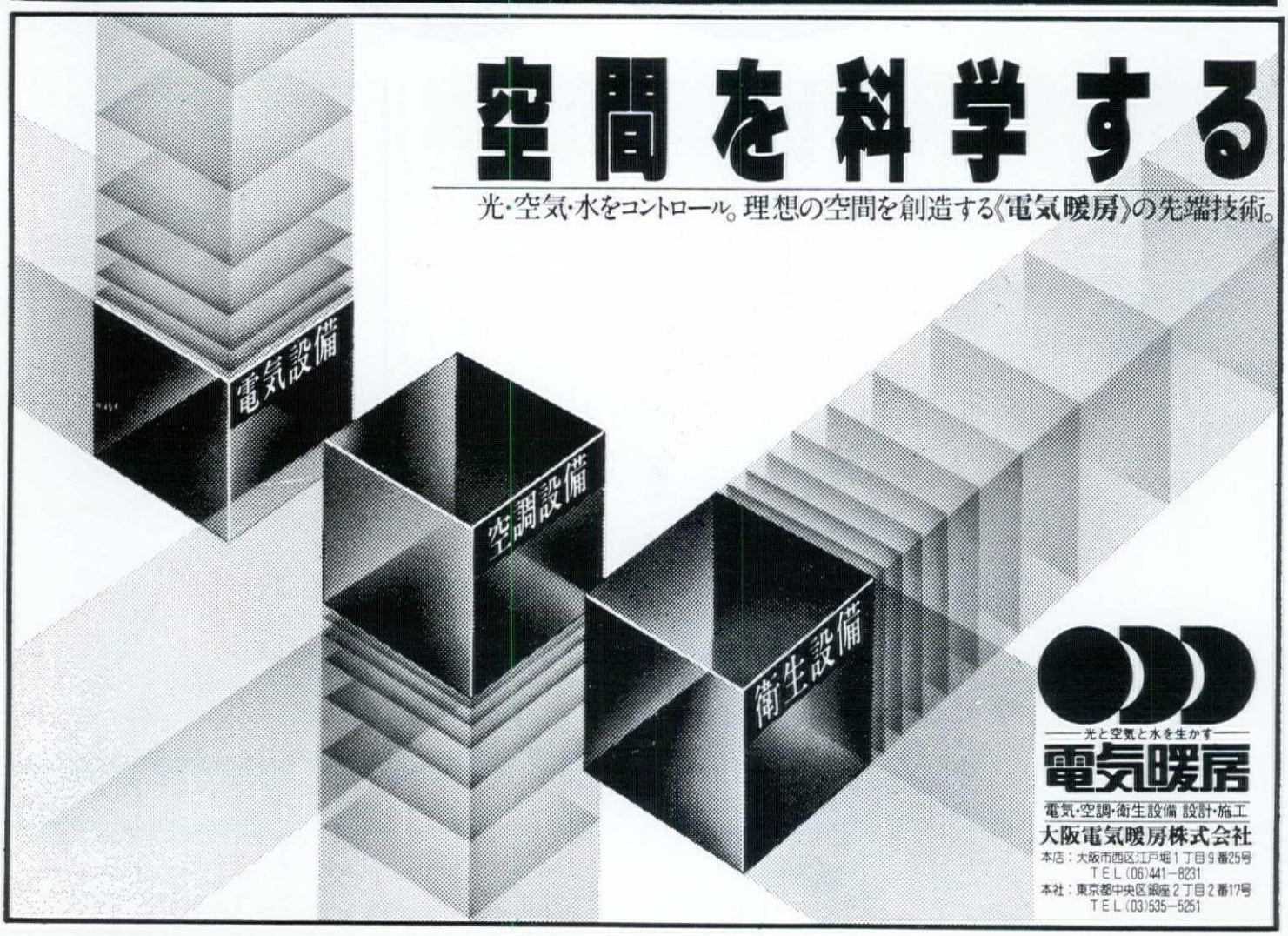
VALQUA

日本バルカー工業株式會社

工事部 東京都中央区京橋1－14－5（土屋ビル） 03-563-1991㈹
大阪営業所 大阪市西区江戸堀3－88（旭ケミカルスビル） 06-448-3861㈹
九州出張所 北九州市小倉区米町2-2-1（新小倉ビル別館） 093-531-6088㈹
本社 東京都千代田区丸ノ内3－3－1（新東京ビル） 03-212-8571㈹

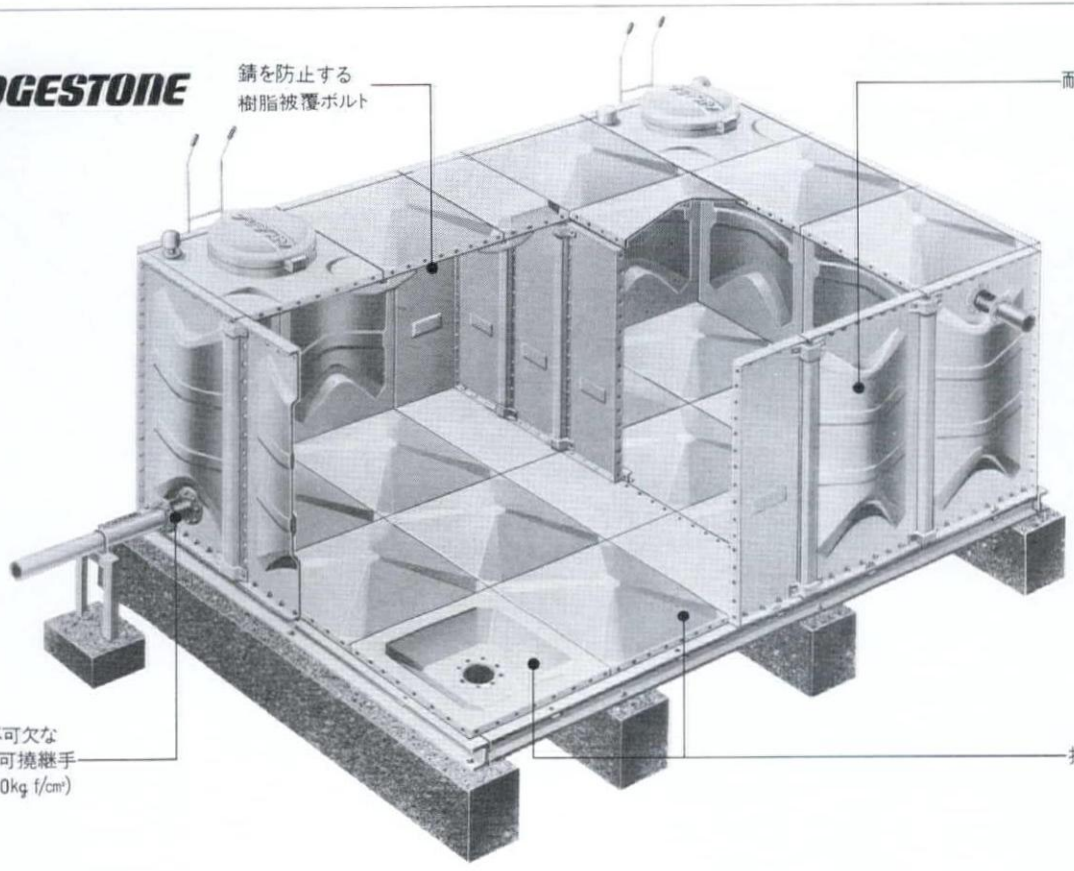
空間を科学する

光・空気・水をコントロール。理想の空間を創造する《電気暖房》の先端技術。



光と空気と水を生かす
電気暖房
電気・空調・衛生設備 設計・施工
大阪電気暖房株式会社
本店：大阪市西区江戸堀1丁目9番25号
TEL(06)441－8231
本社：東京都中央区銀座2丁目2番17号
TEL(03)535－5251

BRIDGESTONE



内部補強を不要にした耐震型FRPパネル水槽"スーパーウォータータンクE型"誕生。最新のコンピューター技術から生まれた大型パネル(1㍍×2㍍)の採用で、耐震性を確保し、清掃・保守点検が一段とラクな構造になりました。

■飲料水槽にかかわる法規制をすべてクリアー。

毎日の生活に欠かすことのできない水。この水をきれいなまま定安してお届けしているのが、ビルやマンションの飲料水槽です。この重要な役割を担っている水槽には、さまざまな法規制が課せられています。なかでも最も重要なことは、貯めた水を衛生的に皆様にお届けすること。1983年4月1日から施行された厚生省告示194号(定期的に貯水槽を点検し維持管理に努めなければならない)は、まさにこの衛生性の向上を目的としたものです。また、すでに施行されている建築基準法129条(地震に対し安全上支障のない構造とすること)や建設省告示1674号(給水タンク内部の保守点検を容易に行うことができる構造とすること)も水槽の安全性を重視した構造面からの規制となっています。

"スーパーウォータータンクE型"は、これらの法規制をすべてクリアー。ブリヂストンがまたひとつ、パネル水槽を理想のカタチに近づけました。

■水槽の衛生性を徹底的に追求。内部補強を不要にすると共に、水槽内部の防錆処理にも十分に配慮しました。

従来のパネル水槽は、内部補強により強度を確保していたため、衛生性の維持管理に必要な保守点検がしにくい構造となっていました。このため、衛生性をより容易に確保するためには、内部補強を取り除くと同時に水槽としての強度も保持するという相反する命題を克服しなければなりません。ブリヂストンは、有限要素法によるコンピューター技術を駆使して大型パネルを開発し、この問題を解決しました。また同時に、水質確保のため気相部には樹脂被覆ボルトを全面的に採用。水槽内部の他の金属部品もすべてコーティングするなど、金属の錆からくる水の汚れを防止し、いっそう衛生性を向上させました。従来の耐震型パネル水槽"スーパーウォータータンク"にも備わっている排水性の良い底壁構造に加え、さらに揺るぎない衛生性を実現した"スーパーウォータータンクE型"。"ブリヂストンだから"可能になったパネル水槽です。

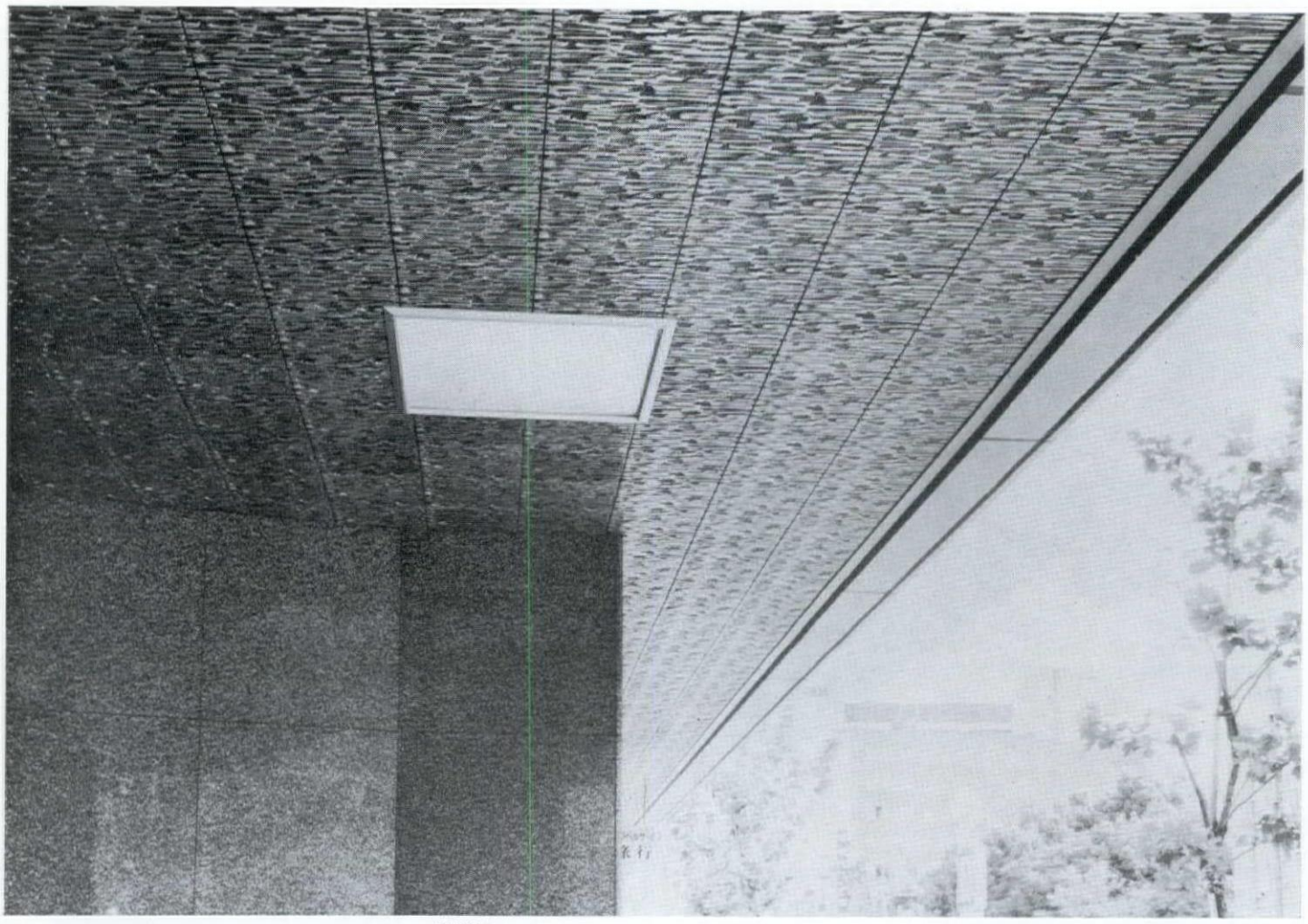
"スーパーウォータータンクE型"製品仕様		
標準サイズ	高さ	1m、1.5m、2m
	縦×横	1m×1m～5m×5m
耐震仕様	水平震度	2/3G、1.0G、1.5G
保温仕様	単板型、保温型	
用途	飲料水槽、海水槽	

耐震タンクは、衛生性で選ぶ時代。

ブリヂストンは、皆様の健康保持や地震時の飲料水を確保するためにも、古い貯水槽を**"スーパーウォータータンクE型"**にお取替えすることをおすすめします。

スーパーウォータータンクE型

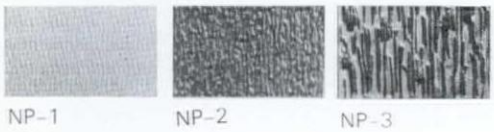
お問い合わせは――株式会社 ブリヂストン　建築用品販売第2課　東京都中央区京橋1-10-1 〒104 TEL.03-567-0111(大代)



立体造形、粧(よそお)いのアルミ。

建築空間をイメージアップするアルミ鋳物内外装材。

アルミ鋳物の重厚な立体感と変化に富んだ表情が、建物内外の個性を演出します。耐食・耐候性に優れ、肉薄軽量、半艶出しの表面処理が落ち着いたイメージを かもし出します。寸法精度が高く、標準化されたユニット方式ですから、施工は簡単でスピーディ、しかも経済的です。



NP-1　NP-2　NP-3

サンキャストＮＰは、内装パネルです。細目模様から荒目模様までの気品ある3タイプ。それぞれに、シルバーグレー・ゴールド・カッパーの3色を用意しています。



サンキャストＭＰは、ひさし廻りの化粧幕板です。イージーオーダーで、基準の6タイプ。色彩は、デュラクロンの標準色が自由に選べます。

アルミ鋳物内装パネル・化粧幕板

サンキャストNP・MP

きびしく選べば

三協アルミ

三協アルミニウム工業株式会社　〒933富山県高岡市早川70☎(0766)22－5030

SD
スペースデザイン
第242号
8411
昭和59年11月号

■特集①アキッレ・カスティリオーニ：イタリアン・デザインの巨匠 3–30

ウィーンのカスティリオーニ展 パオロ・フェッラーリ 6–8

アキッレ・カスティリオーニ・イン・ウィーン ペーター・ノオヴェー 11–12

美しい形は機能 パオロ・フェッラーリ 14–16

透明で泰然とした流れ 川上元美 17

カスティリオーニとイタリア・デザイン 松風正幸 21

アキッレ・カスティリオーニ 自在な遊戯精神 長尾重武 28–29

アキッレ・カスティリオーニ・デザイン展 4–10
ブリマヴィジョーネ展 13–16
展覧会ディスプレイ 18–20
プロダクト・デザイン カスティリオーニのデザイン哲学 22–27

経歴・作品リスト 30

■特集②＝表層の魔術——コーン，ペダーソン，フォックスの最新プロジェクト 31–50

K.P.F. 読解のためのフット・ノート 堀池秀人 32–33

表層の中のクラシシズム 團紀彦 48–49

紙一重でイノヴェーター 六鹿正治 50

作品＝ 34–47
第三ナショナル銀行，ヒューストン・オフィス・タワー，75フェデラル・ストリート・ビル
パーク・センター，ヒューストン・サウスウエスト銀行，プロクター&ギャンブル本社ビル，他

Serial Essay——色III 色のポリシー 三輪正弘 51–52

NICE SPACE ノートル・ダム・ド・トラヴァイユ教会，サン・トーギュスタン教会 53–56
下村純一＋小宮山昭

連載＝フランク・ロイド・ライトの呪術の空間④ 57–64
有機建築の魔法(3) ソーローの森，ライトの森 草森紳一＋大倉舜二

マイアミ旋風——アルキテクトニカ 65–76
アルキテクトニカの“ロマンチック・モダニズム” 竹山実 76
作品＝ 66–75
ジ・アトランティス，ザ・パレス，ジ・インペリアル，ザ・バビロン・アパートメント，
ザ・スクエア・アット・キイビスケイン，デコラティヴ・アーツ・プラザ，
ベター・ホーム＆リヴィング・センター，ハドン・タウンハウス，タガード・タウンハウス

ウォーレン・プラットナーの衛生陶器 78–79

記事・書評 81–90

海外建築情報 眩学のすすめ DUCTSPACE 編 93–98

国内建築ノート グッルポ・スペッキオ——その罪と終幕 グルッポ・スペッキオ 編 101–107

コラージュ：アキッレ・カスティリオーニ・デザイン展ポスター＋同展展示作品 表紙

●
発行人：
河相金次郎
編集人：
長谷川愛子
発行所：
鹿島出版会
〒107
東京都港区赤坂六丁目5番13号
電話（03）582-2251（代）
振替 東京6-180883番

●
編集長：
伊藤公文
編集スタッフ：
有賀秀典
吉田雅彦
相川幸二
浜地三千世

●
アート・ディレクター
工藤強勝
ロゴタイプ・デザイン
羽原肅郎

●
印刷・製本
凸版印刷株式会社
〒174
東京都板橋区志村1-11-1
電話（03）968-5111（案内）

取次店：
東販・日販・大阪屋・栗田出版販売・誠光堂
鈴木書店・西村書店・中央社

定価＝1,500円
年間直接購読料＝20,000円（送料込み）

SD
Space Design
No. 242
8411
November 1984

● **A Monthly Journal of Art and Architecture**

Publisher:
Zenjiro Kawai
Executive Director:
Aiko Hasegawa

● **Editor:**
Kobun Ito
Associate Editors:
Hidenori Aruga
Masahiko Yoshida
Koji Aikawa
Michiyo Hamaji

● **Art Director:**
Tsuyokatsu Kudo
Logotype Design:
Shukuro Habara

● **Published by**
Kajima Institute Publishing, Co. Ltd. ©
5–13 Akasaka 6-chome, Minato-ku,
Tokyo, 107 Japan
Telephone: (03) 582–2251
Printed in Japan

Overseas:
This copy: ¥2,500
(including seamail postage)
Subscription price
¥30,000 a year
¥50,000 two years
(including seamail postage)
Order form: pp. 109–110

■SPECIAL FEATURE ①
Achille Castiglioni: Great Master of the Italian Design World 3–30

Achille Castiglioni Design Exhibition in Vienna 6–8
by Paolo Ferrari

Maestro Achille Castiglioni in Vienna 11–12
by Peter Noever

Beautiful Form is Function 14–16
by Paolo Ferrari

Like a Calm, Clear Stream 17
by Motomi Kawakami

Achille Castiglioni and Italian Design 21
by Masayuki Matsukaze

Achille Castiglioni's Free and Playful Spirit 28–29
by Shigetake Nagao

Achille Castiglioni Design Exhibition 4–10

Exhibition "Primavisione" 13–16

Exhibition Display Design: 18–20
"Venti Progetti per il Futuro del Lingotto", "L'altra Metà dell' Avangardia",
"Telecom' 79", "Montecatini", "Vie d'Acqua da Milano al Mare"

Product Design 22–27

Personal History and List of Works 30

■SPECIAL FEATURE ② 31–50
Magic in the Exterior Skin: Recent Projects by Kohn Pederson Fox Associates

Notes on Interpreting Kohn Pederson Fox Associates 32–33
by Hideto Horiike

Classicism in the Exterior Skin 48–49
by Norihiko Dan

Innovators by an Inch 50
by Masaharu Rokushika

Projects= 34–47
Third National Bank, Houston Office Tower, Park Center,
75 Federal Street Building, Bank of Southwest, Procter & Gamble,
ABC Phase II, One Logan Square

SERIAL ESSAY—Color III 51–52
Color Choice as Policy or Preference
by Masahiro Miwa

NICE SPACE 53–56
Notre-Dame-du-Travail+St. Augustin, Paris, France
by Jun'ichi Shimomura+Akira Komiyama

SERIAL PRESENTATION <Frank Lloyd Wright's Enchanted Spaces> ④ 57–64
An Organic Magic (3): Frank Lloyd Wright in Thoreau's Woods
by Shinichi Kusamori+Shunji Okura

The Maiami Whirlwind: The Works of Arquitectonica 65–76
The Romantic Modernism of Arquitectonica 76
by Minoru Takeyama
Works= 66–75
The Atlantis, The Palace, The Imperial, The Babylon Apartments, The Square at Key Biscayne
Decorative Arts Plaza, Better Home & Living Center, Hadden Townhouses, Taggart Townhouses

The Warren Platner Collection 78–79

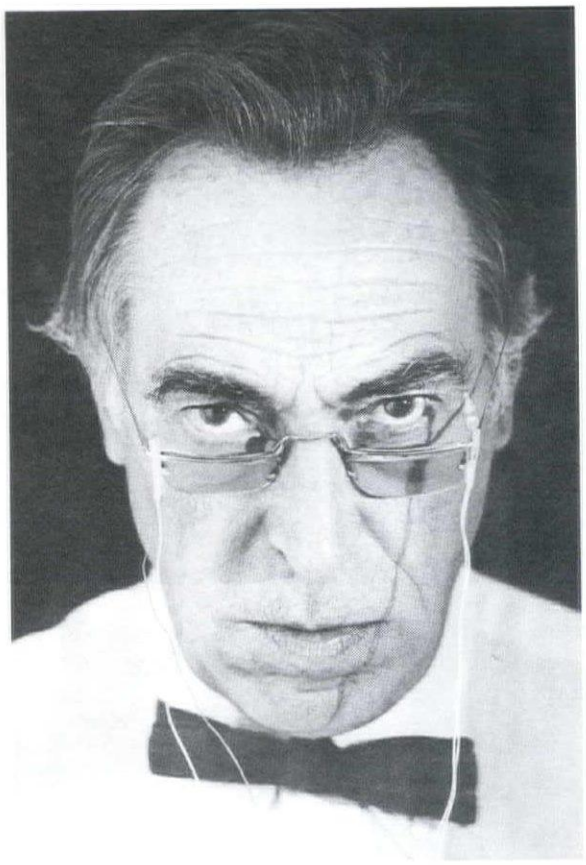
BOOK REVIEW 81–90

EMINENT WORKS ABROAD 93–98
In Praise of the Science of Duzzling
——compiled from foreign architectural magazines, *by DUCTSPACE*

DOMESTIC ARCHITECTURAL NOTES 101–107
Gruppo Specchio: Past Transgressions and a Finale, *by Gruppo Specchio*

Collage: A Poster of Achille Castiglioni Design Exhibition, etc. Cover

Achille Castiglioni
アキッレ・カスティリオーニ
イタリアン・デザインの巨匠



戦後のイタリアン・デザインの歴史を生きてきたマエストロ，アキッレ・カスティリオーニの40年にわたる活動――インダストリアル・デザインと展覧会ディスプレイ――のすべて．　それらは豊かな造形力に支えられながら，常に機知とユーモアを含んでいる．

アキッレ・カスティリオーニ デザイン展

展示プロデュース、オブジェとインダストリアル・デザイン

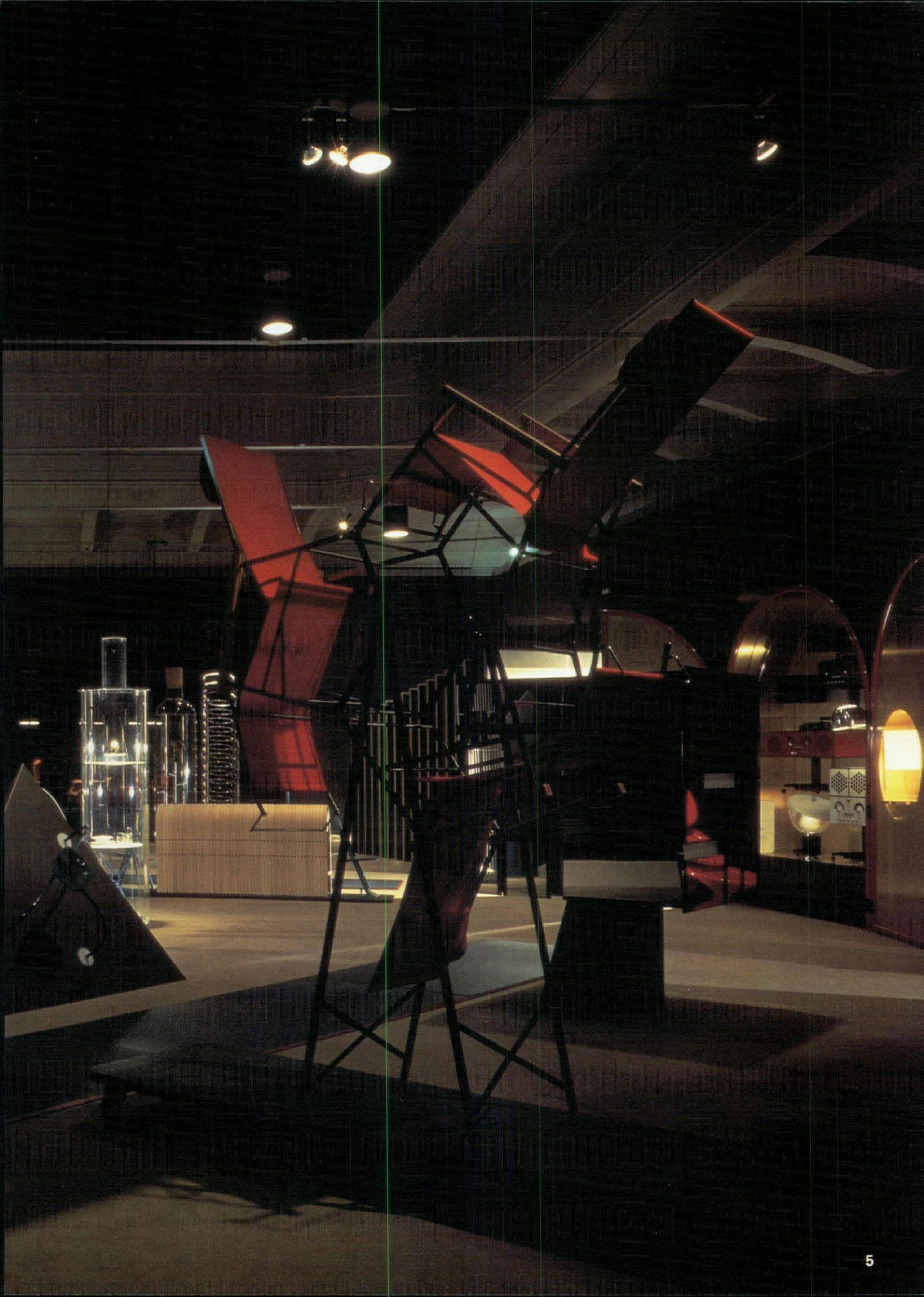


1950——1984

オーストリア国立工芸美術館、ウィーン　1984年3月——5月

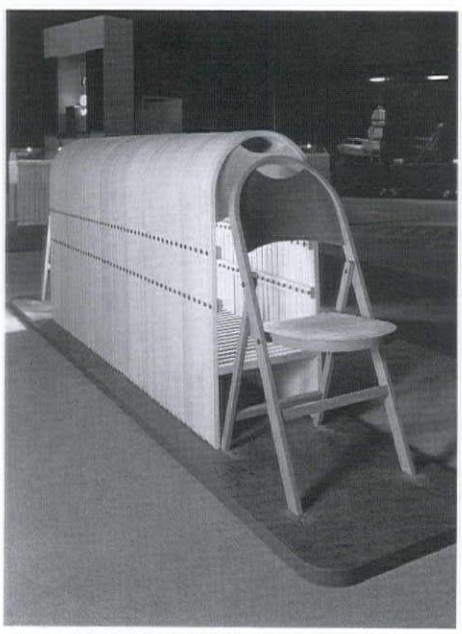
Achille Castiglioni Design Exhibition

Österreichischen Museum für Angewandte Kunst, Wien　Mar.——May, 1984

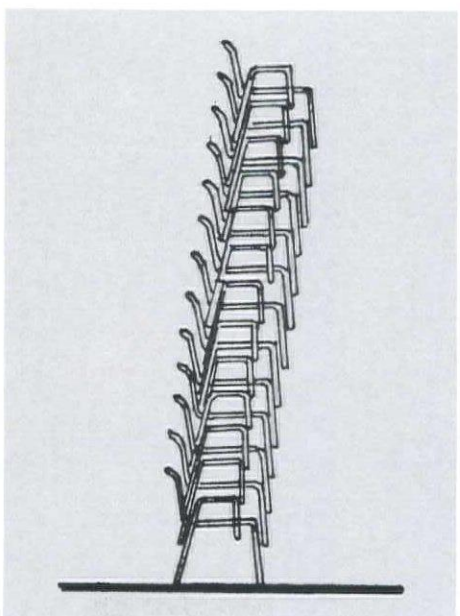


ウィーンの
カスティリオーニ展

パオロ・フェッラーリ



スタッキングされた折りたたみ椅子〈トリック〉。

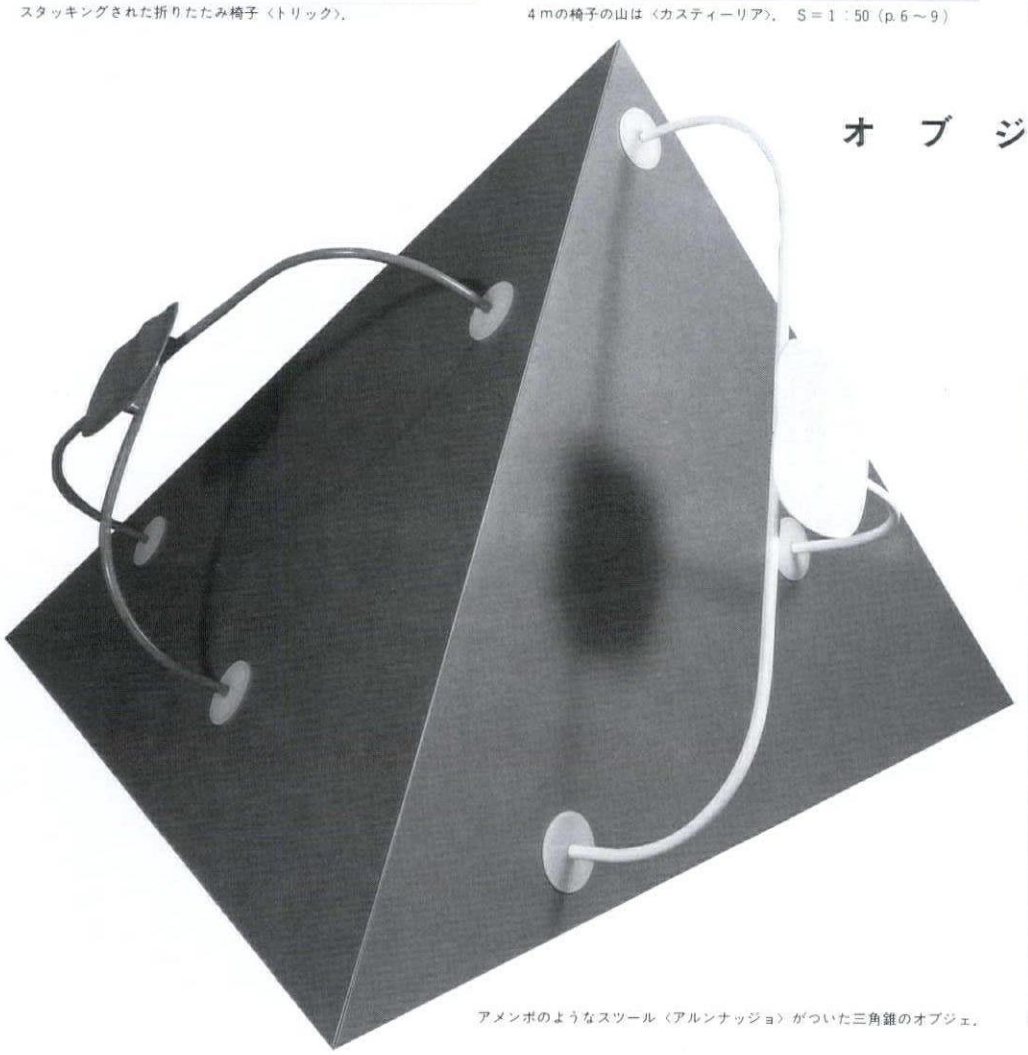


4mの椅子の山は〈カスティーリア〉。 S＝1：50 (p.6～9)

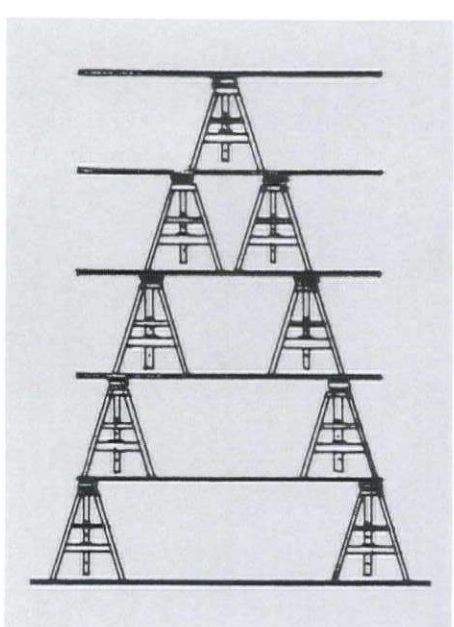


動く風車はアームチェアの〈インペリアーリ〉。

オブジェになった椅子や机たち

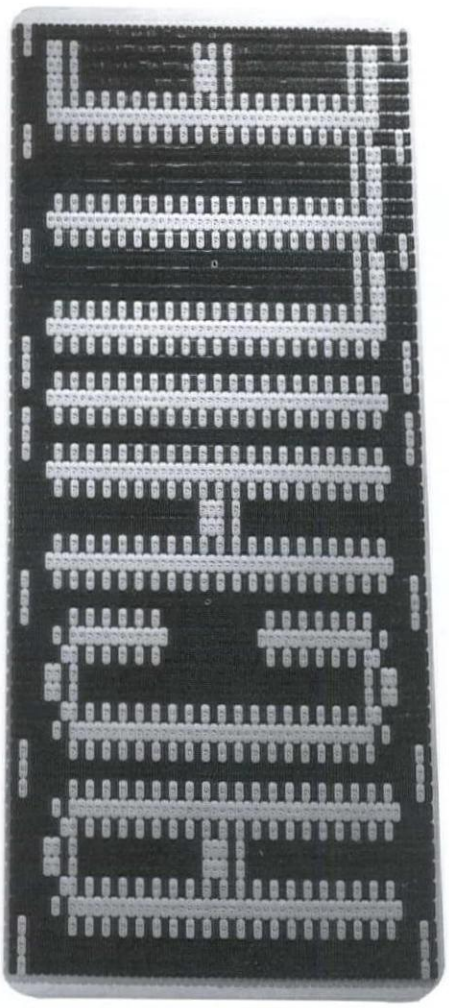


アメンボのようなスツール〈アルンナッジョ〉がついた三角錐のオブジェ。

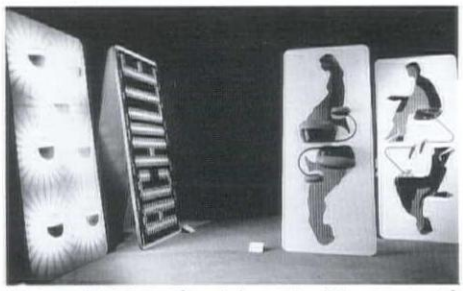


積み上げられて巨大な机になった作業机〈レオナルド〉。

ディスプレイは遊び心



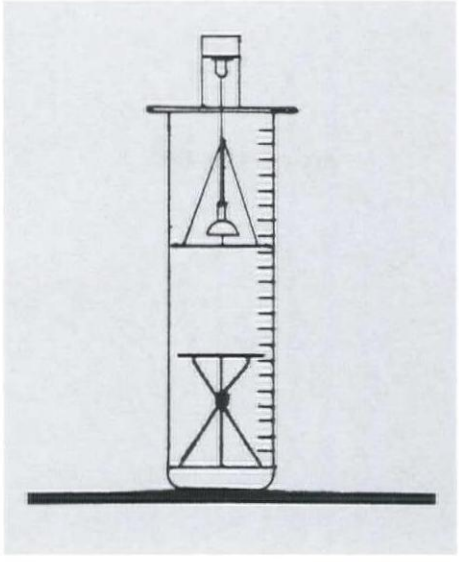
照明器具〈ジオーヴィ〉は，トランプの7のカード．　2802個の白と黒のスイッチでデザインされたACHILLEのカード．　カード・デザインはマックス・フーバー．

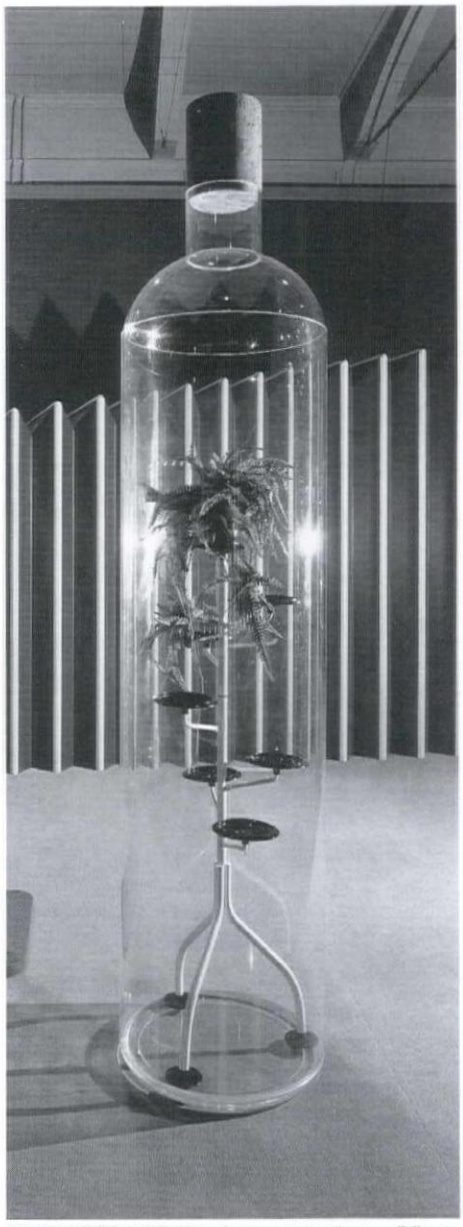


高さ3mの大きなトランプ．　クイーンのカードは，スツール〈プリマーテ〉．　キングのカードは，スツール〈メッツァードロ〉．



注射器の中には，照明器具〈フリスビー〉とテーブル〈クマノ〉．





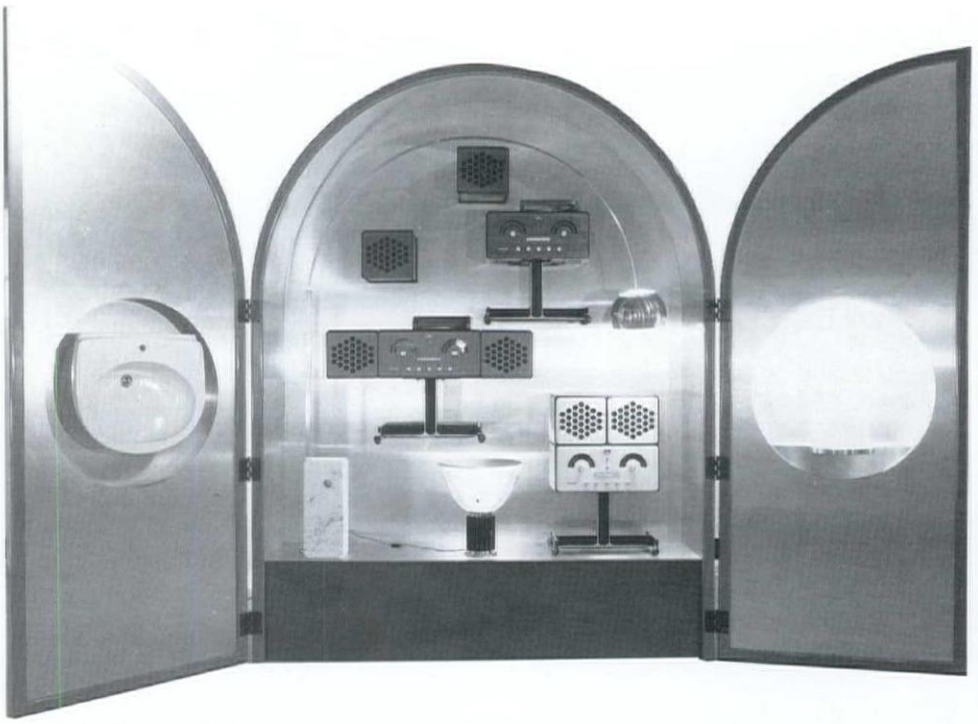
イタリア産薬草入りの酒グラッパ・デル・ルタの瓶には，薬草ならぬ植木鉢ポール〈アルベロ〉．

1984年3月16日からウィーンの工芸美術館で，イタリアのデザイナー，アキッレ・カスティリオーニの最初の個展が開催された．　これは，彼の40年の活動においてデザインされた一連の工業デザイン製品の中から60点を選んで展示したものである．　彼は今迄に沢山の展覧会の会場構成を手掛けているが，この度は個人展なので，このテーマを分析することで，このプロジェクトに更に何かを付け加えて展示をする必要があると感じた．　幾つかの場合，彼はこのプロジェクトの価値を風刺漫画風に強調する．　椅子カスティーリア，大変特徴のあるもので，間違いなく積み重ね不可能なのだが，この展覧会では積み上げられて4mの山で展示されている．　一方スツール・プリマーテは，展覧会で説明するには非常に難解なもので，シミレーションのマネキンが必要と思われるが，カスティリオーニは，この椅子のプロフィールの他にその使用者のプロフィールを切抜いたパネルにはめ込んだ方が面白いだろうと思った．　遊びのカードのように，逆さの像を重複していけないこともあるまい．　この遊びのカードは実に，3mの高さがある．　このカードでの展示には，7個の照明器具ジオーヴィ，大量生産を表わすため約3000個のスイッチが糊付されたものもある．

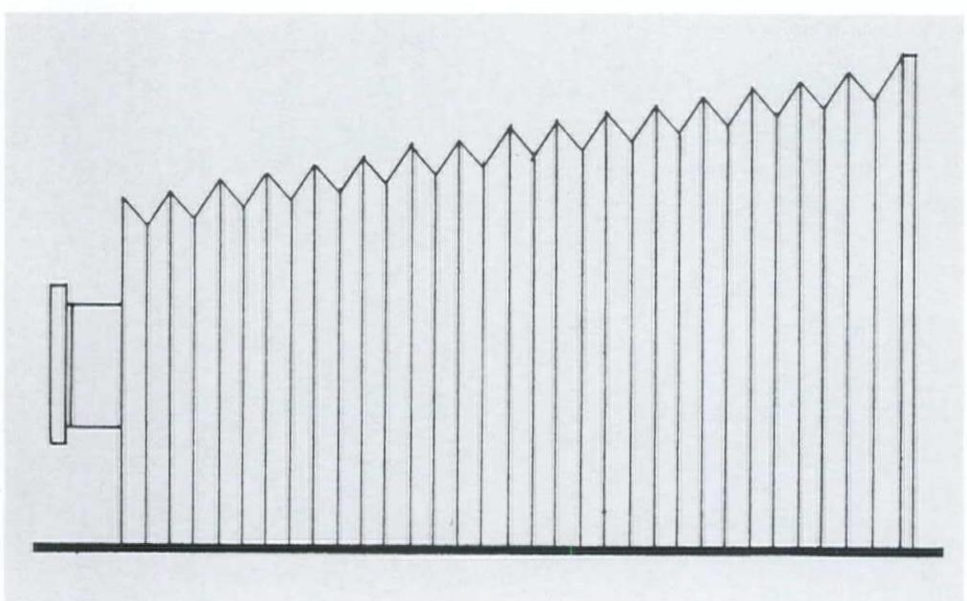
ものそのものを示すこの印象的な方法は，彼にとって，若干の自己批判，若干の自己皮肉，若干の啓蒙と共に，何よりも先ず，大衆に興味を与えるだけでなく，楽しませ，びっくりさせるような展覧会を準備することを自ら楽しみながら，40年間の仕事での製品について述べる意志だった．　カスティリオーニは楽しみ遊び，そして好奇心を刺激するものを探求する．　照明器具アルコ，ブリオンベガのレコードプレイヤー，照明器具タッチア，アオイ，洗面器アックアトンダを何故今迄に金の三幅画にのせなかったのだろうか．　彼

観客の心をくすぐるユーモアとアイロニー





聖体を安置する聖櫃には，照明器具〈アルコ〉（上）と〈タッチア〉（下），ステレオセット〈RR126〉，左側の扉には，洗面器〈アックアトンダ〉，右側には照明器具〈アオイ〉．





カメラの蛇腹で輝く照明器具〈ジビジアーナ〉．

がデザインしたものの中で，正にこれらが，種々の理由から，特別な価値を持っていることを説明するためである．　照明器具アルコ，デザインは単純であり，製造に於て本質的であるが，その得た大成功のためにステータス・シンボルのものとなり，インテリアの他の製品の広告や，多くの映画の舞台装置に使われて来ている．　鋳物の洗練された台の上に収められた彼の独創的提案によるステレオセットRR126，誇張された形の洗面器アックアトンダ．

衛生陶器シリーズ・リンダは小鳥の架空の籠の中の水飲みになっている．

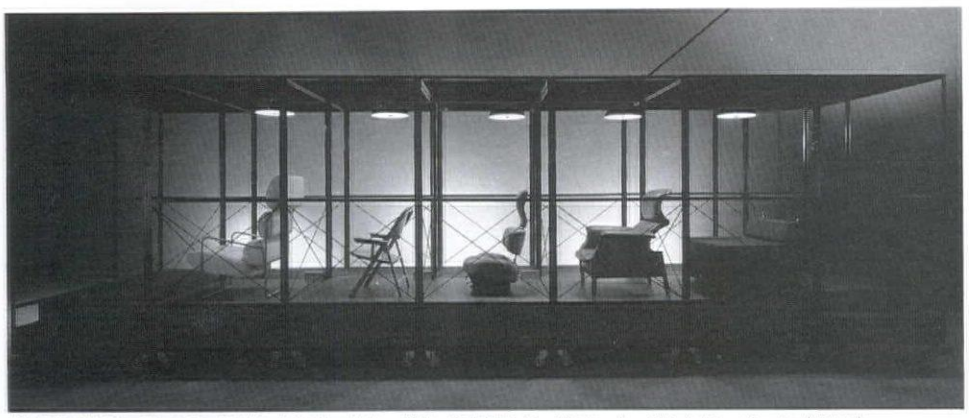
これは正にカスティリオーニの表現方法であり，地口や遊びで，或いはものの配置を変えることで注意をうながすものだ．

彼の５本のアームチェアは，この展覧会では，観客が乗る鉄道馬車の椅子になり，寝室アルフィエリはライオンの檻に見立てられ，巨大な写真機の蛇腹の中には照明が入っている．

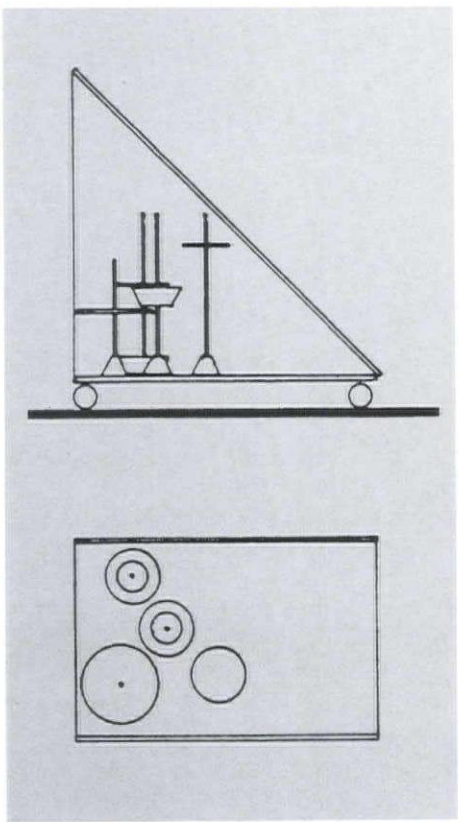
カスティリオーニは，真面目な啓蒙的なプレゼンテーションでというより，むしろ好ましいイメージを記憶に止めさす目的で，彼のデザインの多くの作品を紹介するこの展覧会スペクタクルを発明した．　そしてこれは，事実，ものを説明するのにより刺激的な方法であり，何よりも先ず，彼のデザインは楽しく，自由で，眺めるだけではなく使うものだという示唆である．

●Paolo Ferrari／デザイナー　（訳＝上松正直）

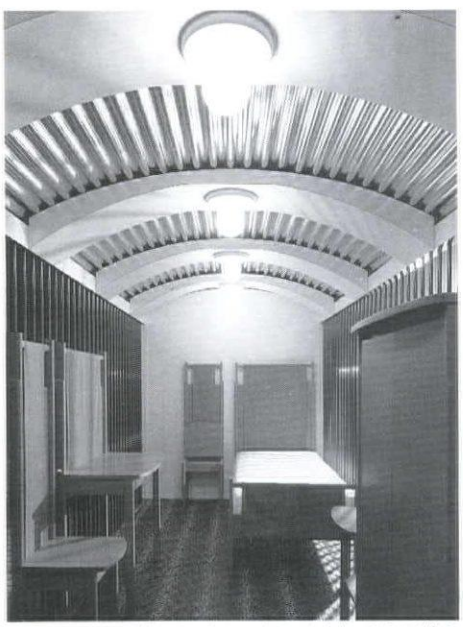
アキッレ・カスティリオーニ・デザイン展
――展示プロデュース，オブジェとインダストリアル・デザイン
1950―1984
会場：オーストリア国立工芸美術館（ウィーン）
会期：1984年３月16日～５月20日
企画・展示アイデア：ペーター・ノオヴェー
展示委員会：ヴィットリオ・グレゴッティ（ミラノ），ペーター・ノオヴェー（ウィーン）
準備期間：３年
展覧会開催予定：ベルリン，チューリッヒ，ヘルシンキ，アムステルダム，ミラノ



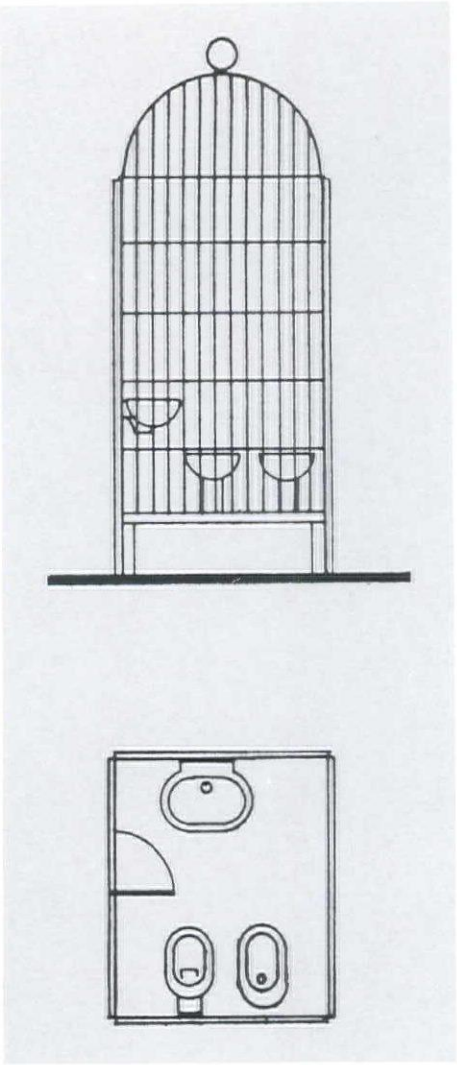
鉄道馬車の椅子は，アームチェア〈サンカルロ〉，〈ジネーヴラ〉，自動車ランチャ用のシート，〈サンルカ〉，〈クーポ〉（左から）．



狭いワゴンに押し込められた灰皿・傘立〈セルヴォフーモ〉と小テーブル〈セルヴォムート〉．

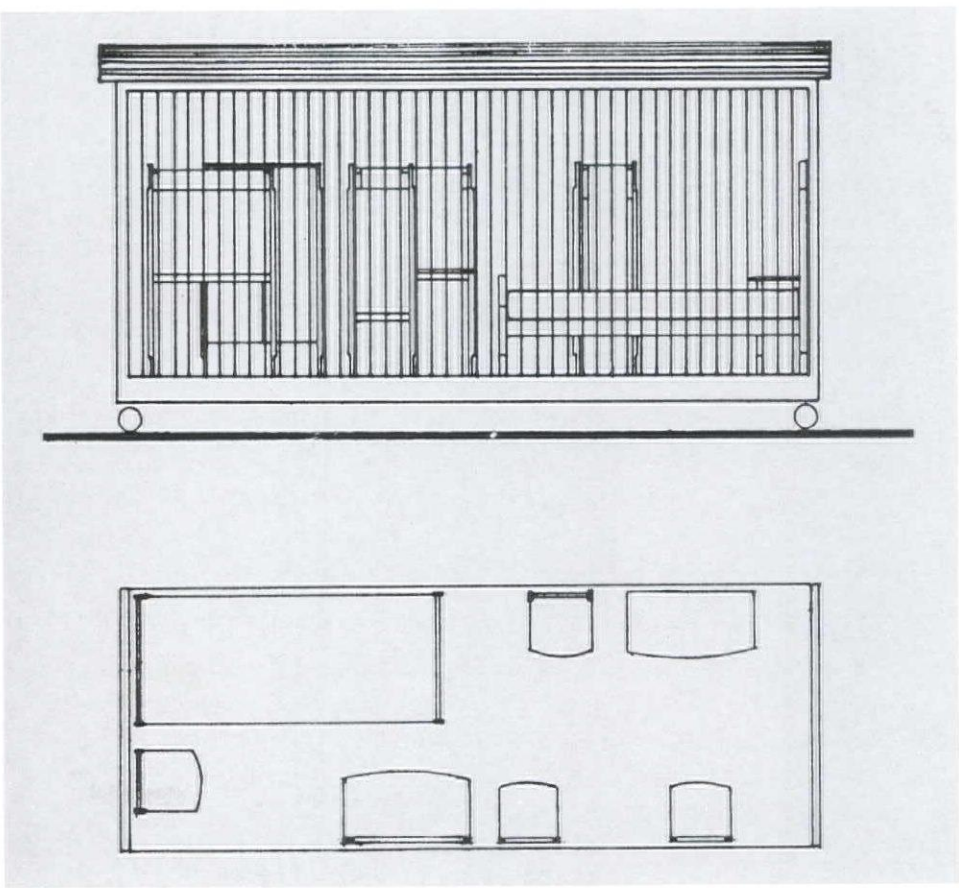


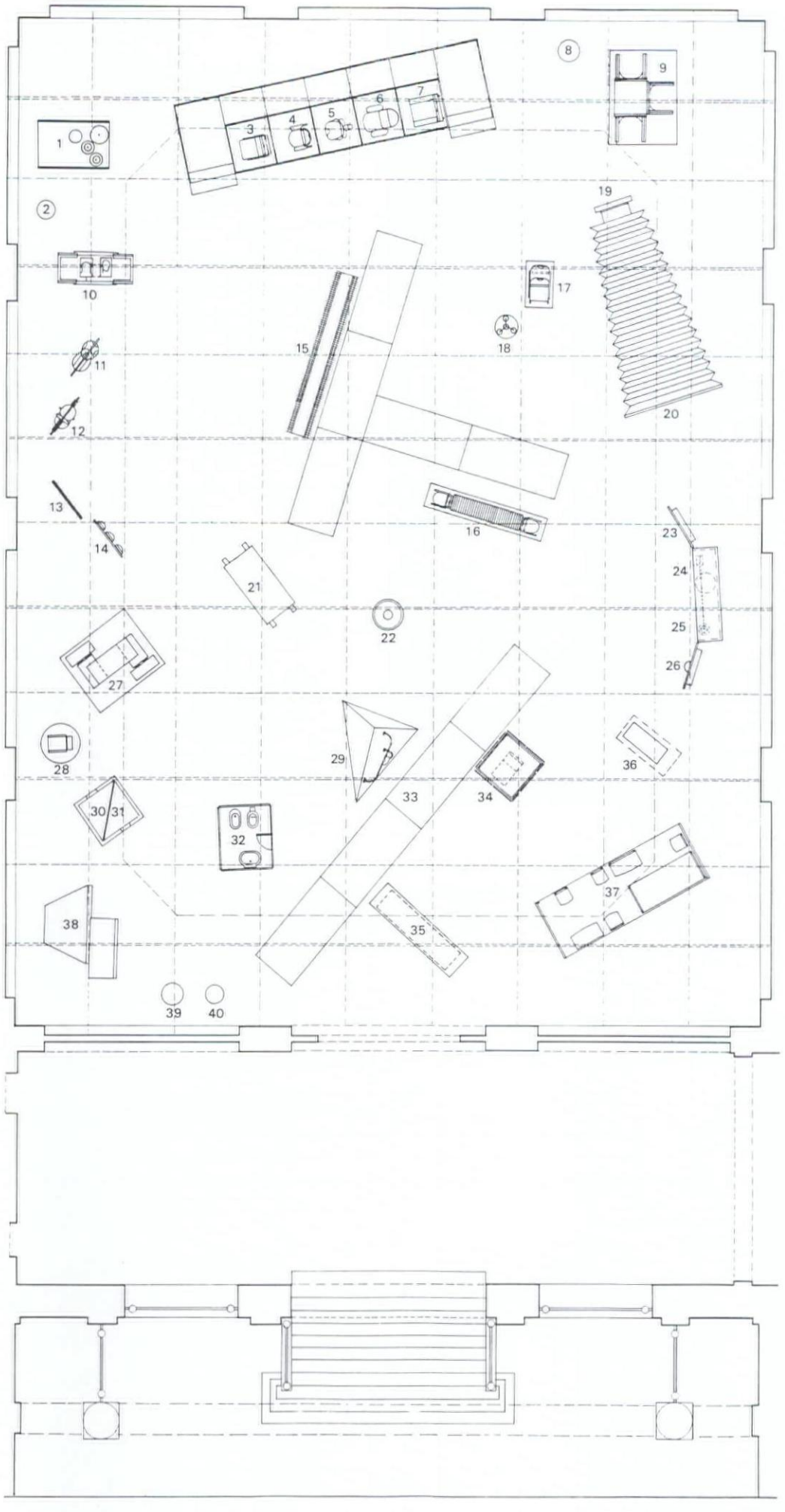
寝室になった猛獣の檻．　ライオンやトラのかわりにホテルの為のベッド，椅子，たんすが置かれている．　カーペットはトラの模様．



鳥かごの水飲みは衛生陶器〈シリーズ・リンダ〉．







展示会場平面図

1 灰皿・傘立〈セルヴォフーモ〉，小テーブル〈セルヴォムート〉 Zanotta
2 コップ Danese
3 アームチェア〈サンカルロ〉 Driade
4 アームチェア〈ジネーヴラ〉 BBB Bonacina
5 自動車ランチャ用シート B&B Italia
6 アームチェア〈サンルカ〉 Knoll International
7 アームチェア〈クーボ〉
8 調味料容器セット Alessi
9 机〈トラック〉 BBB Bonacina
10 シュプリューゲン・ブロイ・ビール用ディスペンサー
11 スツール〈プリマーテ〉 Zanotta
12 スツール〈メッツァードロ〉 Zanotta
13 スイッチ V.L.M.
14 照明器具〈ジオーヴィ〉 Flos
15 暖房用ラジエター Perani
16 椅子〈トリック〉 BBB Bonacina
17 椅子〈カスティーリア〉 Zanotta
18 植木鉢ボール〈アルベロ〉 Zanotta
19 照明器具〈ジビジアーナ〉 Flos
20 照明器具 Flos
21 作業机〈レオナルド〉 Zanotta
22 照明器具〈フリスビー〉 Flos，テーブル〈クマノ〉 Zanotta，テーブルウェア Danese，Alessi
23 洗面器〈アックアトンダ〉 Ideal Standard
24 照明器具〈アルコ〉〈タッチア〉 Flos
25 ステレオセット〈RR126〉 Brionvega
26 照明器具〈アオイ〉 Flos
27 本棚〈エタ・ベータ〉，机〈クオーク〉 BBB Bonacina
28 〈ボドスコピオ〉 Ortoteknica
29 スツール〈アルンナッジョ〉 Zanotta
30 椅子〈リエルナ〉 Gavina
31 椅子〈イルマ〉 Zanotta
32 衛生陶器〈シリーズ・リンダ〉 Ideal Standard
32 ラミネート・シート Abet Print
34 鏡 Kartell
35 アームチェア〈インペリアーレ〉 Zanotta
36 机，椅子 Kartell
37 寝室，ホテル用ベッド，椅子 BBB Bonacina
38 オフィス用家具〈ソローネ〉 Marcatre
39 鉢 Cedit
40 ラジオ Phonola



アキッレ・カスティリオーニ イン・ウィーン

ペーター・ノオヴェー

ウィーン――オットー・ヴァクナー，アドルフ・ロース，ヨゼフ・フランク，ルートヴィヒ・ヴィットゲンシュタイン，ヨゼフ・ホフマン等の伝統をはぐくむ街――旅行者と市民がまざり合う名物ザッハートルテ[*1]のような街――毎日仕事を終えた何10万もの市民がホイリゲ[*2]でワイングラスを傾けながら音楽やお喋りを楽しみ，また天気の良い日は，皇帝の時代からの習慣で皆どっとプラター[*3]にくり出す――そんな都市ウィーンに今またもうひとつ新たな魅力が付け加えられることになった．

●

伝統あるオーストリア国立工芸美術館――600㎡の大きさの展示室の壁は黒く塗りつぶされている．　暗くされたこの展示室の中を歩いてみよう．

3つの椅子が組み合わされてできている動く風車．　3m以上の高さのガラス瓶――イタリア人にはお馴染みの〈グラッパ・デル・ルタ[*4]〉である――中にはしかし薬草のかわりにカスティリオーニによってデザインされた植木鉢ポールが入っている．　子供達は猛獣の檻にびっくりするかも知れない――しかし近寄ってよく見れば何の危険も無いことがわかる――中にはトラもライオンも居ない．　それはカスティリオーニの寝室で，ただ人工の毛皮が敷かれているだけのことである．　また，見物者達の多くは，ウィーンにまだ鉄道馬車が走っていた頃に突然連れもどされることになるかも知れない．　その中にはカスティリオーニによって1950年から1984年までの間に設計された椅子が並べられているからである．　それらにためしにすわってみることができるからである．



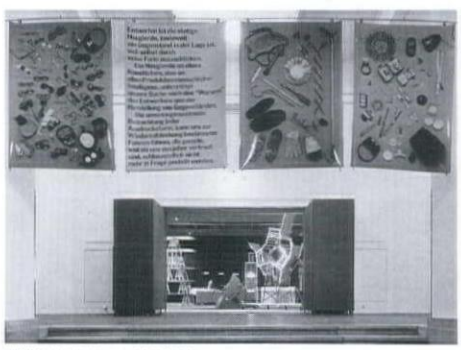
オーストリア国立工芸美術館前景．　梯子のデザインもカスティリオーニ．

建築家達は見た途端不快感を抱きかねない．――それは，彼等のシンボルとも言うべき製図机が，カスティリオーニによって1960年代にデザインされた，2つの構脚と1枚の板からなる製図机が，全く別なオブジェへと変換されているからである．　製図机を積み重ねた塔――この塔は天空に向かって成長して行くように見えるが，突如，建築家のアイデアが屢々行きつくところの〈構造的に最も危険な解決〉で締めくくられる．　すなわち，1脚の上に板が乗る，という形である．

高い聖櫃[*5]もいささかショッキングである．これの前に立った人々は，今にもミラノからやって来たデザインの司祭アキッレ・カスティリオーニが，〈ミサ〉を始めるのではないかと思いかねない．　彼は彼独特の皮肉で，時の流れとともにいわば祭壇にまつり上げられてしまったものたちをすべてそこに納めた．その中には，理想的な標準デザインの洗面器や彼の兄ピエルジャコモ・カスティリオーニと共働で考案した例の照明器具アルコが含まれている．

●

ウィーンは，よく知られているように，1920年代から30年代にかけて建築，工芸，インダストリアル・デザインなどの分野で世界中に衝撃を与えた．　しかし，その後，この都市には注目に値するようなデザイン活動は殆ど生まれなくなってしまった．　人々は栄光の時代の清算をすることに忙しかったからである．　例えば建築の領域ならかの近代建築運動の推進者達――かつて彼等が生きていた時には人々から敵対視されていたかの改革者達



美術館内正面入口の展示風景．

に，展覧会や出版物を通じて業績にふさわしい位置付けを回復させることに人々は汲々として来た．（もっとも時として観光事業の一環としてではあったが）　その他の分野でも事情は全く同じである．　要するにウィーンは，自らの最も重要だった時期を保存することに夢中だったのであり，それがこの都市におけるデザイン活動の新しい展開の出現をさまたげて来たのである．　そして事態は今も変わらない．

カスティリオーニの展覧会の第一の開催地としてウィーンが選ばれたのも，そうした背景があってのことである．　このミラノのデザイナーにとって，ウィーンのそうした状況自体への〈挑戦〉が意識のうちにない筈がないだろう．　幸い展覧会の初日入場者は1500人であった．　この数字は，このオーストリアの首都におけるこの種の催し物が到達し得たものとしては，破格である．　ただし，この真実は，このイタリア人デザイナーがこの地で如何に興味を持たれているかを示してはいるが，しかし，だからと言って必ずしも今後この種の催し物が常に成功するだろうということを約束しているわけではない．　自らの仕事・作品のための展覧会を演出することは，それ自体ひとつの〈挑戦〉である．　アキッレ・カスティリオーニはこの挑戦において，ウィーンで展示されるという事実から逃げ出そうとしなかった．　彼は作品の周囲を飾ったりせず，また作品そのものの魅力や影響力



展示会場セクションNの前景.

から目をそらさせるような展示空間を作ったりしなかった. 彼はあえてそうしなかったのである. 彼は自らのデザイン・スケッチや作品にまるで試験(テスト)でも受けさせているかの如く展覧会を演出した. すなわち, それらが置かれるべきふさわしい環境を取り上げてしまったり, 非常に狭い空間しか与えなかったり, またいくつかのものを組み合わせて全く別なオブジェに作りかえてしまったのである. そうされてもそれらが持ちこたえられるか, 存在感を失わないか, というのが彼の試験(テスト)である.

カスティリオーニのやり方は念が入っている. 彼は展示用構造物を殆ど前例の無い完璧さで製作させたのである. 時としてむしろそれらは展示される作品より精度が優れている場合さえあるほどであった. カスティリオーニの頭の中には自らの名誉だとかキャリア上の里程標(マイルストーン)を立てることなど全く無い. 彼はウィーンでひとつの実験を行うことだけを考えていた. その結果や解答はあらかじめ全く予想のつかなかった実験である.

ひとつだけはっきりしているのは, カスティリオーニが遊び心にあふれた茶目っ気たっぷりでしかも知性に豊んだやり方でウィーン子の心をくすぐり, 彼等の興味を再び目覚めさせることに成功したことである. 彼と話したり, 食事したり, また見知らぬ場所をジャンプするみたいに旅したり(彼の場合それ以外の旅行ペースはあり得ないのである)するとき, 常にその場を盛り上げてくれる彼独特のユーモアと皮肉(アイロニー)は, 実際この展覧会全体にあふれている.

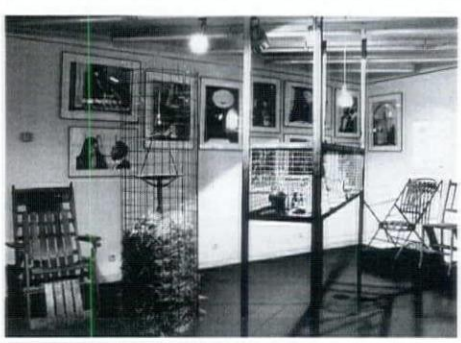
もしある別な展覧会演出家が, 全く同じようなやり方でカスティリオーニの作品を展示することを計画したら, はたして彼はOKしたであろうかという疑問は残る. しかし, 少なくとも展覧会をよく見ていると, デザイナー・カスティリオーニが演出家カスティリオーニの高度な要求によく答え, その手にあるすべての材料・スケッチを提出したことがよくわかる.

デザインは今日商業的要素(コマーシャルファクター)のひとつという側面を持っている. 市場競争力という観点から見ると, 価格・機能と並ぶ重要な要素である. カスティリオーニはこのあたりを実に慎重に扱い, 製作会社と危険負担を分け合うことで会社側の影響力を排除した.

●

アキッレ・カスティリオーニはモダン・デザインの鍵を握る人物として世界中に知られているが, 彼の活動は自らデザインした作品の範囲にとどまっていない. 〈プリマヴィジョーネ〉(初見参または初演の意味)という名の展覧会がウィーンで並行しておこなわれた. 展示場〈セクションN〉には, カスティリオーニの好奇心をくすぐった(彼がデザインしたものではない)ものたちが集められている. すべて彼自身それらと日常生活を共にし, また彼の仕事を理解する上でも大変重要なものたちばかりである.

「いくらお金を積まれても私には到底これほど機知の豊んだ作品は考案できそうもない」とアキッレ・カスティリオーニに言わせたのは, 現在〈セクションN〉に展示されている〈乳しぼり用椅子〉である. それはずっと昔から農夫達に用いられて来たもので, 木でできた半月形の椅子である. 人間の身体に合わせてカーヴが作られており, 皮帯でお尻のところに取り付けられるようになっている. 脚が1本だけ付いており, 乳しぼりをする人は自らの2本の足とこの1本の脚とで自らの身体を支えるのである. カスティリオーニはこれを〈第3の足の発見〉と呼んだ. この椅子の便利な点は手を用いずに椅子と共に移動できるところである. これによって手は常に清潔に保たれる.


〈プリマヴィジョーネ〉展示会場風景.

ミラノ工科大学における講義で彼はこの椅子を自ら使って見せた後, こう述べたそうである. 「この椅子は見掛けはとても単純だ. しかしこれを考案した人はまぎれもなく天才である. しかしこの発明者が一体誰だったか, 我々は知ることはないだろう」

このようにアキッレ・カスティリオーニにとっては, デザイン上最も重要なことは沢山の経験の集積の結果なのである. 彼が色々なもの, オブジェ, 製品を集め, 自らのまわりにそれらを置き, それらと共に生きて来たのもそのためである. カスティリオーニを魅了するのは, 〈セクションN〉に展示されているような(展示演出:ペーター・ノオヴェー)自らの固有の1回限りの形を有するものたちであり, 決して押しつけの形態をとるものたちではないのである. カスティリオーニが腹立たしく思うのは, 〈おもしろい製品(オジエッティ・デイヴエルテンテイー)〉——


乳しぼり用椅子

ほんの短い間人の気を引くことはできるだろうが, たちまちその内容の無さはばれてしまうようなものたちである.

ミラノのピアッツァ・カステッロにあるカスティリオーニの仕事場——彼はそれを〈ボッテーガ〉と名付けている——それは, ひとつの大きな倉庫である. 彼は, そこにありとあらゆるものを集めた. ランプ, 自転車のサドル, 椅子, ブリキのオモチャ, ビン, ツボなど. それらは皆, 彼が偶然見つけたか, また世界中から安い金で買い集めて来たものである. 彼の好奇心を強く引きつける, 〈取得物(オブジエ・トウルーヴエ)〉それらには特定のデザイナーの名は冠されていない.

●Peter Noever/デザイナー (訳=山下昌彦)

＊1 ウィーン名物, 冷たいチョコレート・ケーキ.
＊2 原義は本年度ワイン. 転じてそれを飲ませる居酒屋. 音楽も聞かせるところが多い.
＊3 ドナウ運河とドナウ河にはさまれたところの名称. 大遊園地となっている.
＊4 イタリアの地酒の一種で薬草入りの酒.
＊5 キリスト教会において聖体を保存するため祭壇上に設けた櫃.

プリマヴィジョーネ展

アノニマス・デザイン・コレクション

セクションN, ウィーン

1984年3月——4月





Primavisione

Section N,Wien

Mar.——Apr.1984

美しい形は機能

パオロ・フェッラーリ



カスティリオーニの，ものに対する好奇心について今迄にも何回か書いてきた．　ものが先ず何に役立つのかを発見するための彼の不断の研究の若干の例を示して，もっと分り易くしてみよう．　何故しばしば，その形が何の役に立つのか分からないのかというと，それが何の機能のために作られたのかを知らないからだ．　何故ものがこのように作られているのかのこの研究は，多分，カスティリオーニが知的若さを保ち，技術と習慣の変化に即応する事の一助となっている．　彼は遊びながら，客と特殊なものとの関係さえも変えてしまう．　まるで，彼と同様に他人も，人間の知性を経た物との新しい関係を発見することを喜ぶのを確めるために，彼は同席の人に，質疑応答のテストをしているみたいだ．

これらのものは収集趣味の例になるようなものではなく，その殆どは普通の製品だ．源が無名のデザインにあり，小職人のファンタジーから多く由来し，大量に作られたこれらのものに対して，カスティリオーニは何時も公然の好意さえ持っているように見受けられる．



雑貨品とおもちゃ

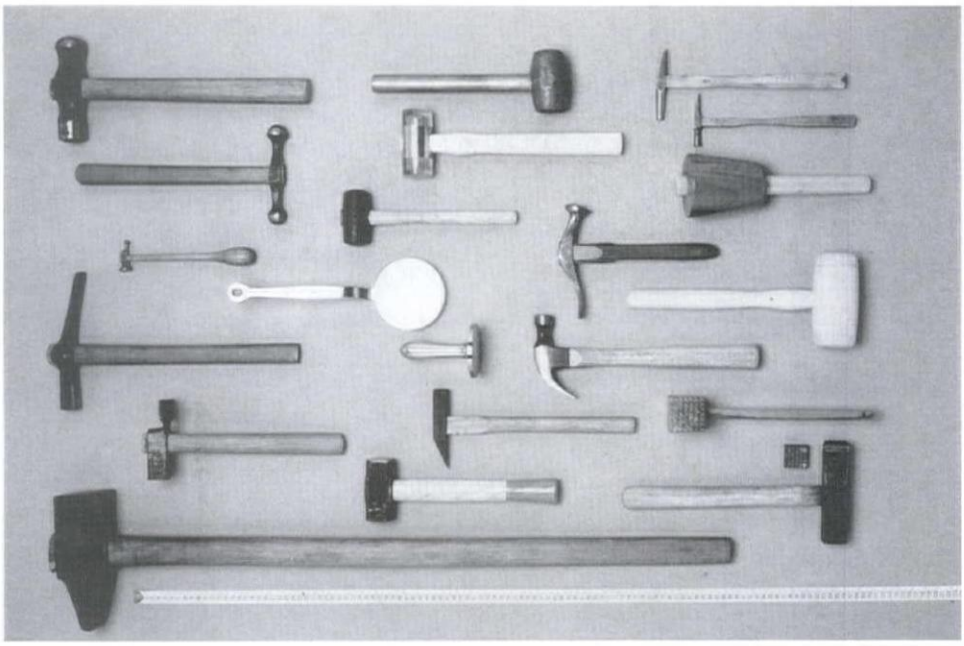
歩き(スリンク)バネは，はずみをつけられると，蛇のように伸びたり反転しながら階段を1段1段降りて来る．　これはただのおもちゃだが，テヘランで手に入れた，再生されたブリキのおもちゃの車は，それ自身に社会条件，経済交換の型，おもちゃの中にかくされた民族とその変遷の小史を要約している．

それに，中身に従ってその形を変える万能籠(ミラレウージ)は，無限の幾何を形作る．　染色された毛糸のついたイギリス製の細い管は，流体運動の法則の簡単な応用で動く．

ひよこの足の付いたゼンマイ仕掛けは，それだけでも動きは全くひよこなので，体を作る必要はない．　球の付いたコート掛，金属の薄板の巻尺は，堅くなり，わずかな曲げでひとりでに巻き込む．　吸盤．　鉛筆用のコンパス．　プレス加工の金属薄板の計量カップ，重ねてボタンで止めると，水の漏れない円錐になる金属薄板で出来た携帯用カップのように，どれもが皆簡単な機能，簡単な解決のものだ．　曲げられた1枚の小鉄板，発火石，粒々模様のついた金属薄板で作られているスイスのライター．　防護籠のいらない，柔らかい羽根の扇風機．

ブレラの学校で作られた大理石の卵には，加工の手の熟練の興味深いテーマがある．　一般には壊れ易いと思われ，ある強さを要求される機能に使われている材料の魅力からなる，フックの形の陶器のような，材料のアトラクション．　又は，化学実験用の色々な大きさの計量皿．　ミラノ北鉄道の灰皿．

カスティリオーニは，収納可能という，何時も興味深いテーマに魅せられている．　スイスの万能ナイフののこぎり，刃を内蔵する回転する柄ののこぎり．　ツァイス製のレンズの付いたひさしでは，小籠のように頭にのせ，熔接マスクになるひさしとして，仕事をするのに両手が自由になる．

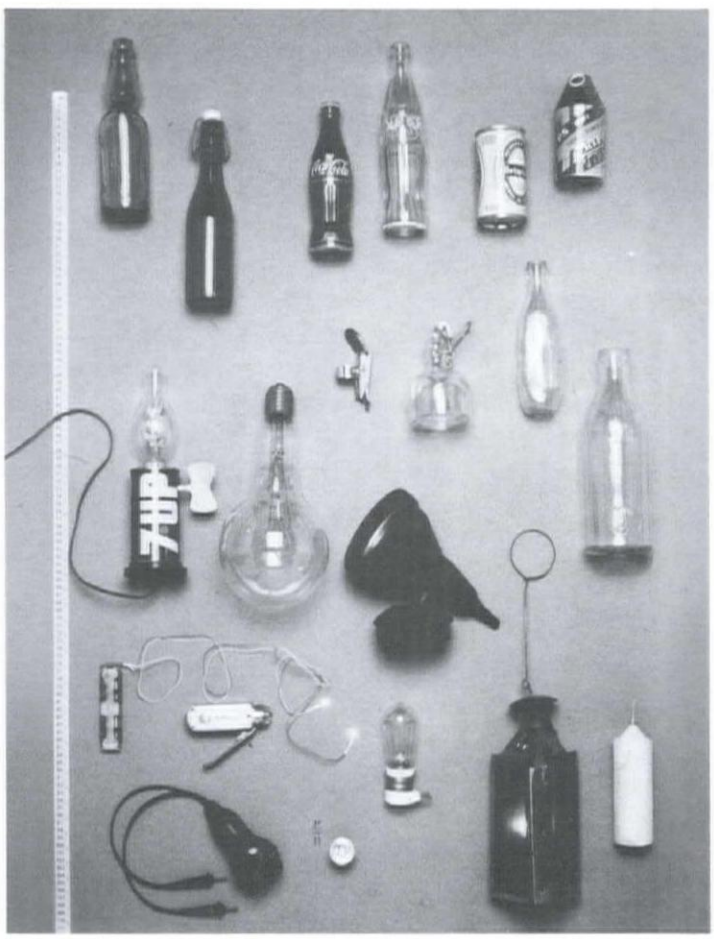


ハンマー

それがなされたその行為の結果，特殊な機能を分析することで，形／機能の関係はより一層明確になる．

異なるハンマーで打つ行為の現代的理論は，何を打つかに応じたハンマーの変形を明確に説明する．

従って，石を割るハンマー，壁職の槌やハンマー，床職のそれや，大理石を粗面に仕上げるためのもの，頭の取り変えられるもの，同一機能のもの，しっくい塗の仕上げのためのハンマー．　木製だが頭の先が尖っている肉を叩くもの，又は彫刻の粘土を打つハンマー．釘を抜くのに役立つ丸味のついた長い〈燕尾〉があり，反対側で釘を打つ，大工のハンマー．　スリッパ作りのハンマー，他の２つは木製で，１つは粘土用で，他の円錐形のは木彫のためのもの．　椅子張職の２つのハンマー，このうちの１つは，片手で布を引張りながら，木の枠組に針を取って打てるように頭の後ろが磁石になっている．　３つの槌，１つは自動車工のためのゴムのもの，２つは機械工のためのもので，製品を傷つけないようにプラスティック材と鉛の頭を持つ．





容器と照明器具

閉めるためのガラスとゴムのパッキンのある，型で作られたガラスの炭酸水の容器（19世紀末）．　陶製の栓，ゴムのパッキンと機械仕掛のバネ（チエステロ）のある壜（1920），今でも製造され，流通している．　コカコーラの壜，王冠の栓を持ち，その時代の女性の流行を思い起す格好をしている．　金属容器の小さな缶．　粉末の炭酸水のための付け加えられた栓．　機械仕掛のバネと丸い穴のあるパッキンを持った陶製の栓の壜．

牛乳の壜．　転がらないように表面を平らにしてある哺乳壜（1918）．

宣伝のためのもの，蛍光塗料のデザインのある照明器具の缶．　磁石付の工事現場灯．　ハロゲンの明るい小さな光源．　カーボン・フィラメント球のプラグ付ソケット．

手動の発電灯，キャンドル，値段が廉いために盗む気にならない道路の馬の照明．

特殊なもの

乳絞りの腰掛け，手が自由になるように，腰に結び付ける．　クリップ．　蒸器の中籠．　角度が変えられる釣竿受．

おもちゃの能手，その歯は切断された鉄板で，ビス止めされている．　水中用のプラスチック材の鎖．　自給自足時代に使われた，ガラスの樋のためのガラスのジョイント．

雨用のオーバーシューズ，室内用オーバーシューズ，日本の下駄，戦争の残骸で作られた靴，氷用アンダーシューズ，イランの靴．　仕事の手袋．



切る行為

これらのはさみは，その形，或いは切る材料，又は用途，材質，使われている技術に基づいて選ばれている．ある種のはさみは，仕事に使う実際の道具だ．　ブリキ屋の仕事ばさみは，刃が短く柄が長い．　仕立屋のものは刃が長く柄が短く，指に接する面積を大きくするよう考えられた握りを持ち，刃を開くためにも，仕事台の上で刃の根元や握りが真直ぐによく走るのを容易にしている．

園芸のものは，一般に元に戻るバネが付いていて，床屋のものには，毛を透くのための櫛刃がある．　普通の床屋のものは，先が尖っていて，指穴の外に中指をかける支えが付いている．

包帯を取るために先が丸くなっている診療所のもの．柄が絶縁されていて，電線の被服をはがすための半月刃のある電工のもの．　一方，刃が短くて鋭く，正確であるために柄が短いもの，寸法を固定するための止めねじのあるボタン穴を切るはさみのように，特殊な切断のためのはさみがある．　爪を切るはさみ．　鼻毛を切るための先が丸くなっているもの．　同じ用途のための円筒型のはさみ．　支点が先の方にある葉巻切り．　じゅうたんの仕上げのための，指穴が１つで支点が後の方にあるもの．

鉛をつぶし，ナイロン糸を切り，結び目を解き釘を付け，一般に栓抜きを備えた漁師のはさみ．　これも又，支点が後の方にある剪毛のためのはさみ，一片の金属薄板から切出され，絞られ砥がれている．　伸びるはさみと畳めるはさみ．　多用途のはさみ（スイスの万能ナイフ），胡桃割・栓抜き・ねじ回し，大体曲った形をしているが，総合的な機能は曲っているからだ．

２つの材料のはさみ．　この場合の特殊性は，機能以外に，これを作る方法にもよっている．　プレスされた金属板とプラスチックの柄，以前には木の柄だった．これはナイフと同じ技術による．　或いは，２つの切刃か埋込まれた総てプラスチック材のはさみ．　又は，金属板と指の接触を柔らげるためにプラスチック材の指穴を付けた，切抜かれ加工された金属板だけでのもの．

（訳＝上松正直）



透明で泰然とした流れ



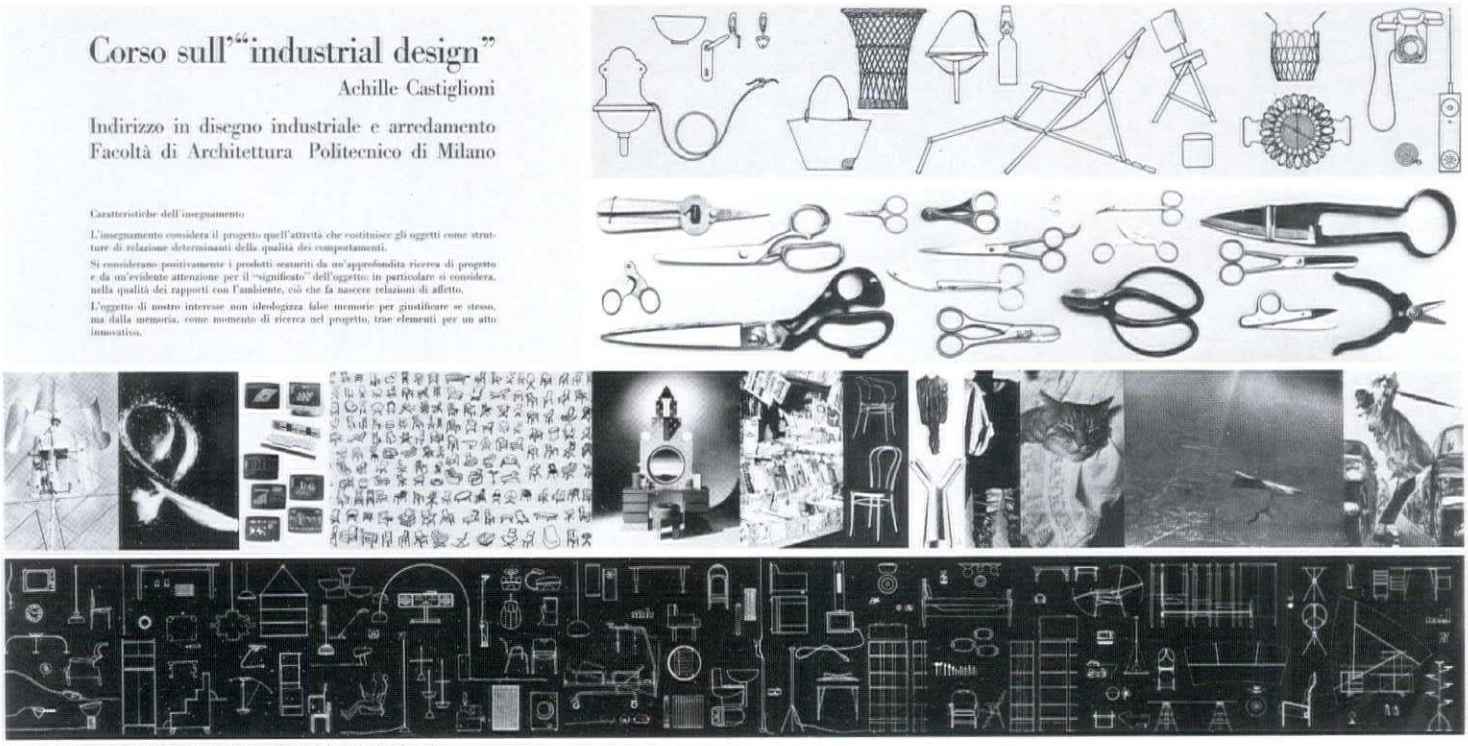
川上元美

バウハウスのモノトーン，戦後アメリカから強く影響を受けながら経済立地の発生経緯を持つ日本の現代デザイン等とは異なった多様な言語を有するイタリアのデザイン文化の土壌は，醸成した大きな流れにより育まれて今日に至っている．　その河の流れは多岐に共存しながら肥沃な土を運んでくるが，それらが合流することはまれである．　それら河の中でイタリアの現代デザインを築いて来た本流の１つがカスティリオーニであろう．　彼のデザインベースはイタリア特有のかたちをとった近代合理主義にその源流をみるが，ポスト・モダンの激流が早々とその流れを弱めようとしている今，カスティリオーニ河は透明に澄みわたって泰然と流れているようだ．

彼の長いデザイン活動の間にものしてきた多くの家具，照明器具，オーディオ，テーブルウェア，展示空間等，そのデザインは多種にわたり，又そのコンセプト，フォルムも多様であるが，彼の思考は基本的にイタリア近代合理主義のそれである．　曰く，デザインは明確な社会概念により考察され構築されるものではなく，人間的，個的な造型，技術，経済そして政治的判断によるものであり，送り手，使い手として，それを実際に作り出す労働者との協働により，工業のために秩序立てをするプロジェクトであると．　そして彼の特質は，デザインするものの技術的，経済的あるいはエルゴノミックな点をも考慮しながら，テクノロジーの神話を観念化したシンプルな形状で表現したり，ドグマ的形状を押しつけがましく使うことではなく，人々の興味，好奇心，人間愛のメッセージの伝達にあり，彼の作品はいつも，アイロニカルに，質の高い知的遊戯心にあふれている．　そして彼にとって単なる外観上の美しさや製品上の工業的質が問題なのでなく，形の意味，価値を追求した，より本来的な〈質〉の発見が最大の関心事であるといえよう．　どの作品，又どの展示空間構成をとりあげてもこの先覚の卓越した，自由な発想に目を見はるが，特に照明器具においてキーワードともいえる「事物事象の発見発明と遊戯性」が豊かに，おおらかに表出されていることに驚愕する．

彼の事務所を訪れると，旅先や道端で見つけ心の琴線に触れたものであろう，おびただしい数の古道具や雑貨，部品あるいは木片にいたるものが所せましと置かれており，あるものは日常使われている（これらのものが，プリマヴィジョーネ展に展示された）．　これらは彼のデザイン理念と同一線上のものであり，道標でもある．　アノニマスに長い時の経過から生まれてきた日常的普遍性を持つこれらに「物の意味に深い洞察の足跡，万人の体験，環境にかかわる質の問題」を学びとることが出来ると言い，彼の大学の講義テキストにまとめてもいる．　この蒐集物と作品群を眺めると彼独特の表現上の多様性の理由もよく解かる．　そして，進行の速すぎるハイテクノロジーな道具世界に対して特に注意して見まもっていくことの必要性を力説していたことが印象的である．

●かわかみ・もとみ／デザイナー



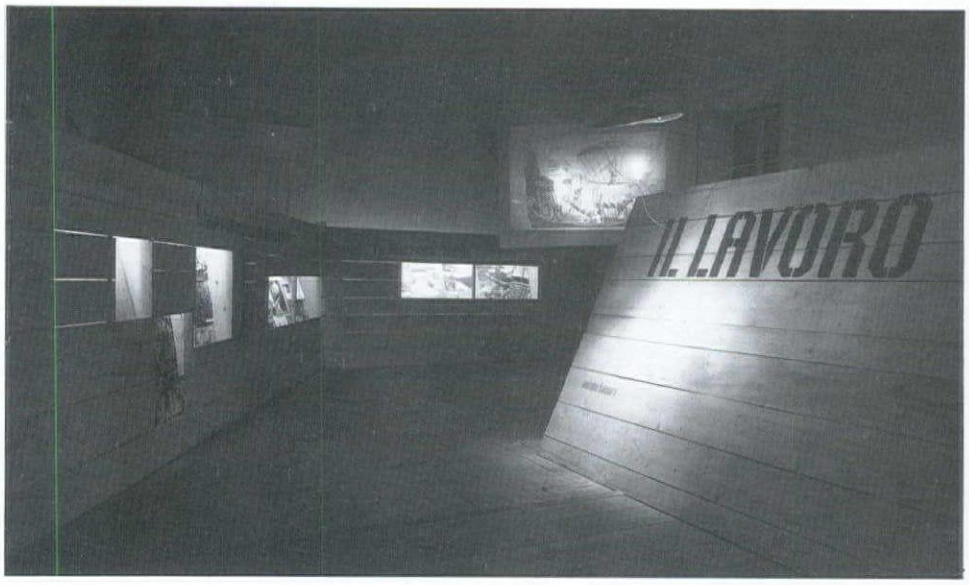
カスティリオーニの蒐集物と作品群の関係を示す講義用テキスト

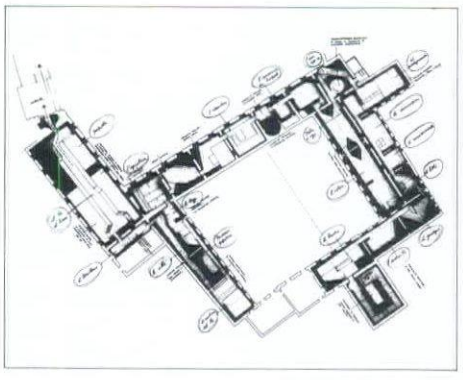
Vie d'acqua da Milano al mare

Palazzo Reale, Milano　1963

〈ミラノから海への水路〉展

展示計画●アキッレ・カスティリオーニ
　　ピエルジャコモ・カスティリオーニ
グラフィック●マックス・フーバー
装置●ルチャーノ・ダミアーニ







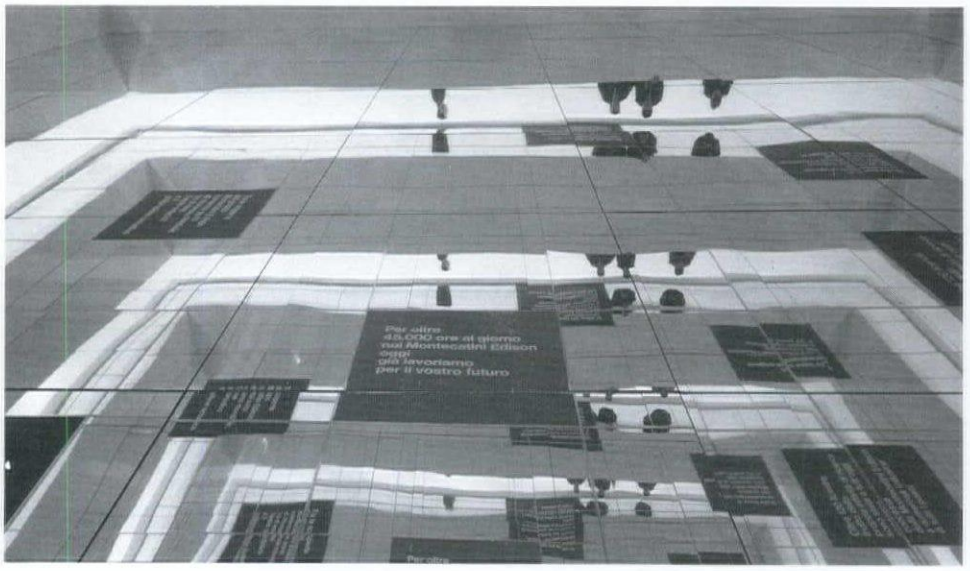
この展覧会の目的は，北部イタリア内陸部への船舶航路を可能にした，ポー川渓谷一帯の経済問題への関心を呼び醒すことである．　展示装置はすべて同一の板材で構成され，展示空間の分節が，その板材による壁と天井とでなされる．　絵画，彫刻，写真，船舶模型，船舶の実物といった多岐にわたる展示物の混合は，可能な限りフレキシブルな展示構成を必要としていたが，板材によって新たに設けられた壁は，あらゆる展示要求にも適切な配置を可能とした．

Montecatini

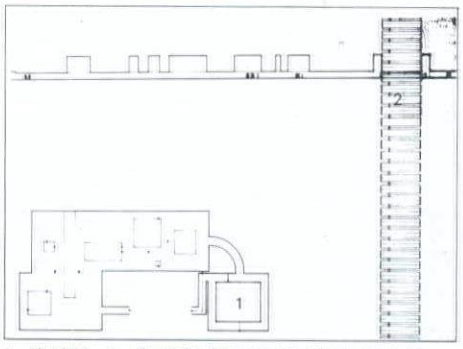
Fiela di Milano, Milano　1967

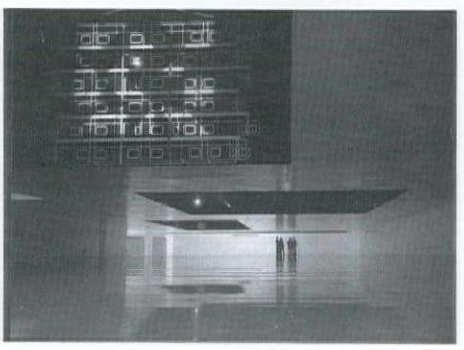
〈モンテカティーニ〉展

展示計画●アキッレ・カスティリオーニ
　　ピエルジャコモ・カスティリオーニ
グラフィック●マックス・フーバー
照明・動線計画●ルチャーノ・ダミアーニ



この展示計画では，巨大なパビリオンの輪郭まで達する垂直壁面は悉く廃止された．　天井面は床から２mの高さまで全体的に下げられて，幾つかの場のみが垂直方向の高さを獲得する．　こうした空間比による魔術に引き寄せられた鑑賞者は，天井に穿たれた６つの光に満ちた潜望鏡のような空間のもとに集まる．　その空間の中に，展示の映像が集約される．　最後の部屋は，それまでとは逆に床に掘られた巨大な〈井戸〉である．　その周囲から覗き込むと，床の鏡と，一段低くなった天井の鏡とで，空間が反復する．　そこでは，最小限のオブジェと人間の運動が反射し，複層して，上下２方向への奥行をつくり上げる．





1．鏡の部屋　2．鏡が谷底に無限に見えるように表現した図

Telecom'79

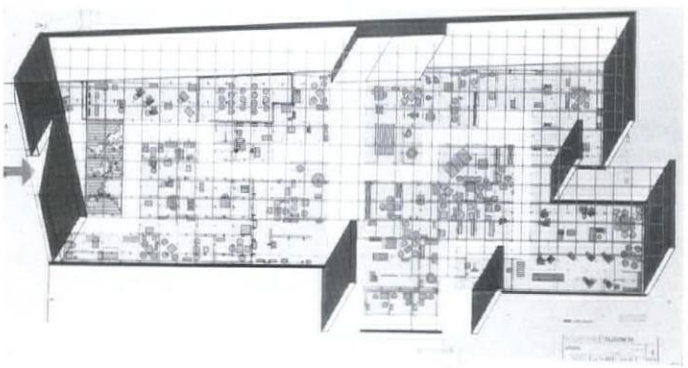
Ginevra 1979

〈テレコム'79〉展　イタリア部門

展示計画●アキッレ・カスティリオーニ
パオロ・フェッラーリ共同
グラフィック●マックス・フーバー







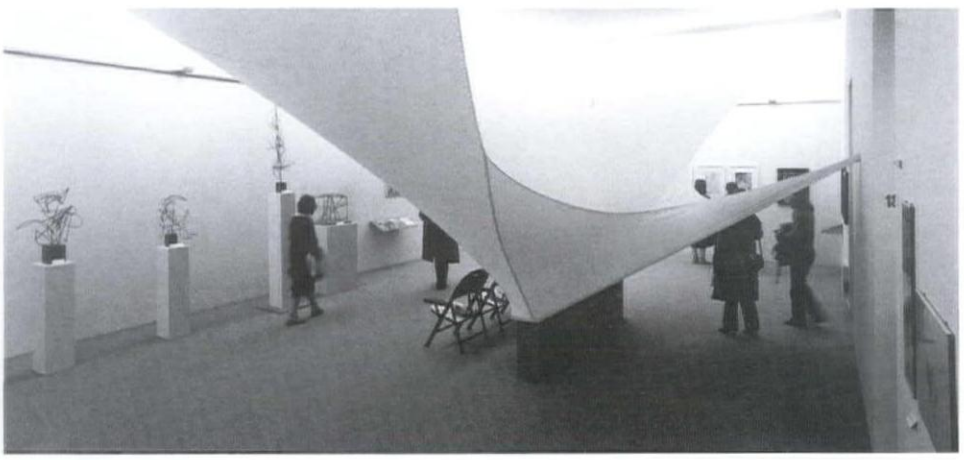
ジュネーブのテレコムは，ヨーロッパにおける通信に関する最も重要な博覧会であり，カスティリオーニは，既に1971，75年の2回展示計画を担当している．　計画の前提として要請されたのは，各々の出品者の個別の要求を考慮しながらも全体の統一を図り，順路を一方向に限り，電気系統を簡略化することであった．　そこで，床から4.1mの高さで，内部に電話配線を含んだ，2mグリッドのシステムが計画され，そこからアルミ・パネルとネット・パネルが吊されて展示に供される．

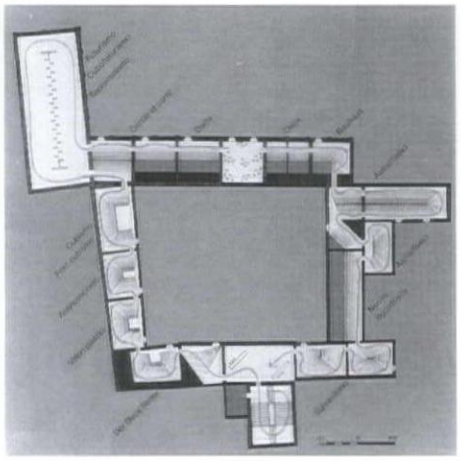
L'altra metà dell' avanguardia

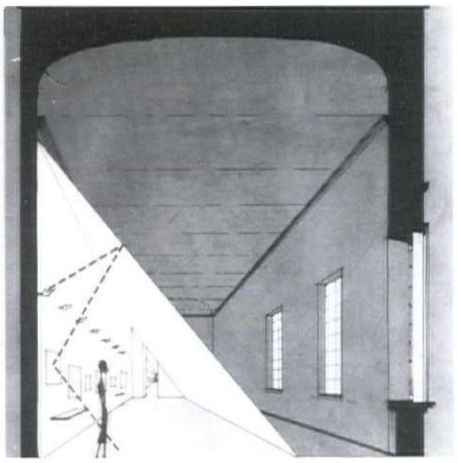
Palazzo Reale, Milano 1980

〈もう一方のアヴァンギャルド〉展

展示計画●アキッレ・カスティリオーニ
展示・グラフィック協力●グラーツィア・ヴァリスコ







これは，アヴァンギャルド運動の一翼を担った，女性芸術家たちの展覧会である．　会場の動線計画は，常に左から右へと鑑賞が進むよう考えられた．2.5m間隔に据えられたハロゲンランプの光は，5mの高さから45度に張られた天幕に反射されて作品を照らすために，作品鑑賞の眩しさは軽減される．　床，壁，天幕によって区切られた空間は，鑑賞者と作品とを対峙させる．　資料展示は部屋の中央にある自立する木製台により，順路指示は，芸術運動の解説文とともに，陶器と金属のスタンドで示されている．

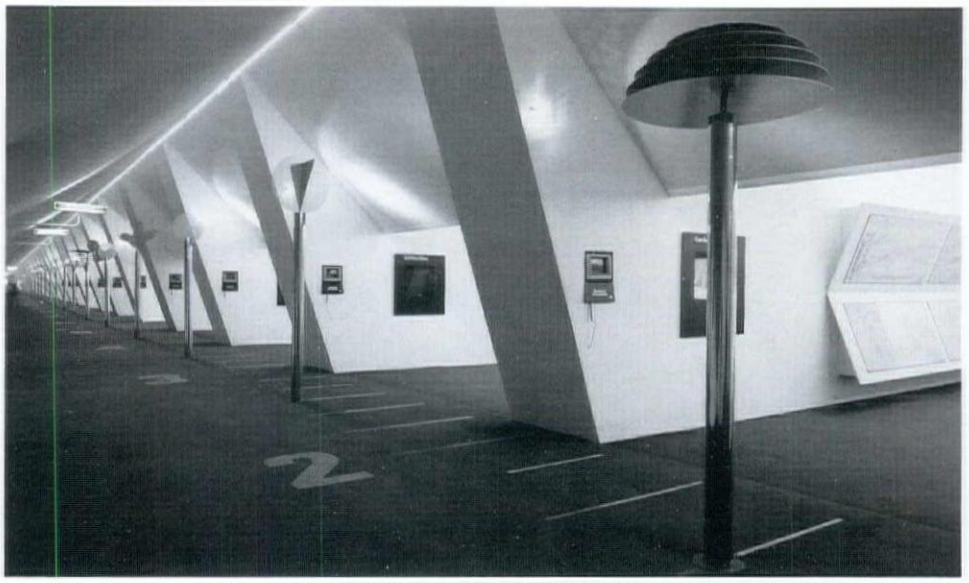
（編・訳＝鵜沢隆）

Venti progetti per il futuro del Lingotto

Torino　1984

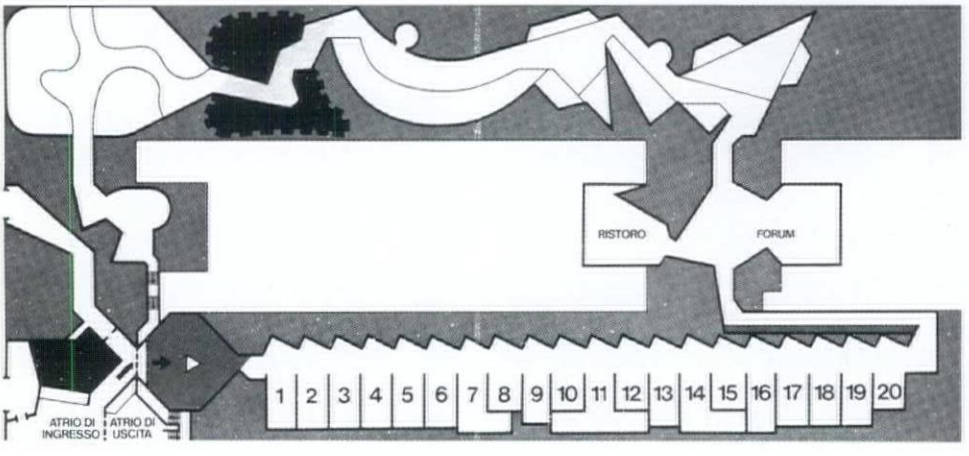
<リンゴットの未来を展望する20のプロジェクト>展

展示計画●アキッレ・カスティリオーニ
グラフィック●ピエルルイジ・チェッリ









自由な違犯[鵜沢隆]

既存空間から如何に逸脱するか。　カスティリオーニがこの展示計画で意図したものを，そう表現しても差し支えあるまい。　フィアットの工場として，あるいはイタリアの初期近代建築として著名なリンゴットを，フィアットの撤退後，如何に再利用を図るかの20のプロジェクト（SD8410で紹介）を展示し，併せてフィアットの歴史を視覚化して提示することが，この展覧会に要請されていた。

4.5mの天井高を持ち，6mスパンで構成されたリンゴットの均質な内部空間は，構造体が露出したままの素っ気ない空間である。　この堅苦しい既存フレームの中で，一時的な展示空間としての虚構性を如何に演出するか。　そこにカスティリオーニの力量が注がれる。〈20のプロジェクト〉を展示するスペースは，間口6mのブースを20並列して配置した点で，既存フレームからの敷衍であり，その6mスパンは床に標されたサインからも暗示される。　しかし，そうした20人の建築家への不偏な配慮は，訪れるトリノ市民のプロジェクト選択への参加が前提にある。　因に各ブースには，入場者のプロジェクト評価がその場でインプットできるように，マイコンが据えられる。　その点では，カスティリオーニが目論んだ既存フレームからの逸脱は，断面方向のトライアングルな形状に集約される。　ネオン・ビームで強調されたトライアングルな空間が，20のブースを連結し，その終点に穿たれた覗き窓からリンゴットの裸形の既存フレームを眺める時，カスティリオーニの意図した逸脱がいっきに露呈するよう仕組まれている。

これに対して，フィアットの歴史を視覚化するスペースは，既存フレームから自由に跳梁し，6mグリッドのリジットな空間は，窺い知るべくもなく変質されて，流れゆく空間のシークエンスが形成される。　20年代の展示室のメタリックな感性から，サーチライトに揺れ動く30年代の光と影，そして50年代以後の成熟を暗示する展示室といったように，時代の感性が空間に凝縮する。

堅苦しい既存フレームから自由に違犯したこの展示計画は，リンゴットの展示スペースとしての再生を具体化した，カスティリオーニによる21番目のプロジェクトとしての意味も担っている。　高揚する議論の中で見失われがちな20のプロジェクトの実現の可能性に対して，カスティリオーニは彼の自由なアイデアをそこで既に実現させてしまった。

●うざわ・たかし／東京工業大学篠原研究室

カスティリオーニとイタリア・デザイン



松風正幸

ファニチュア，ランプ，ラジオ，ステレオ，スプーン・ナイフ・フォーク，テレフォン，ショップ，広いフィールドに点在するカスティリオーニのデザインを，たんねんに見ていく作業は実に気持のよいものだ．　村上春樹風に書けば「朝起きたてのビールのように，あくまでもさわやかな」デザインであり，「気分がいい」のである．　だからといって，カスティリオーニのデザインがウエスト・コーストの白人のジャズ風のといっているわけではけっしてない．　消費されては消えていく理念とか，ヴォキャブラリーとか，カルチャーとかいった重く意味のない主張を大上段に振りかざすのではなく，これはたかだかこんなものですよと，気のきいたアイロニーをパッと見せてくれる明るさを，気分よく感じるからである．　この「気分のよさ」はイタリア・デザインが多く共有する感覚なのだが，カスティリオーニ兄弟とドミニオーニが1940年にデザインしたラジオを，イタリア・デザインの実質的発芽と見ると，のちの44年間のイタリア・デザイン史からカスティリオーニのデザインをマイナスすると，「気分のよさ」にひたることが難しくなってしまう．　彼のデザインを見ていくことは，つまりイタリア・デザインのキーワードを探し出すことと同じ作業といってもよさそうなのだ．　実際カスティリオーニ兄弟（兄ピエルジャコモは1968年に亡くなった）のデザイン行為はイタリア・デザインの重要でクリエイティヴな節目に，際立った才能を表わしていて，そのアリバイを証明する材料には事欠かないのである．　それは今世紀のイタリア文化史の一面に，幸福な結果をもたらしたといっていい．

先に述べたラジオのデザインから，イタリア・デザインが開花するのは経済成長の始まる50年代であるが，さらにルーツを見る上で，10～20年代にちょっと後戻りすることは無駄ではないし，彼のデザインをゆっくり楽しむ上で役に立つはずだ．　近代デザインの理念がイタリアに表われるのは，1909年マリネッティが《フィガロ》紙に〈未来派宣言〉を発表，芸術，文学，思想に過激な活動を行ない，数年して短い生命を終焉した後であった．　近代の機械とスピード，ダイナミズムに新しい美を求めた未来派は，ダダ，シュールレアリズムと20年代のアヴァンギャルドに続くのだが，イタリアの20年代は近代合理主義と未来派の余韻が接吻し，イタリア合理主義へと変身する．　現実とユートピア，秩序と破壊，コラージュと抽象，この一見対立しあう興味深いカクテルは後のイタリア・デザインのベースになったといえる．　事実イタリア以外のヨーロッパで近代合理主義がデザイン上に蒔いた種は，みのりの少ないものだった．　このカクテルは一方で戦後復興するインダストリーの側にもうまく作用して，デザインに対してフレキシブルに対応する能力をひき出した．　この点でまだ手のついていない，意外でファンタジックなインダストリアル・テクニックを，デザインのソースに味つけてしまうカスティリオーニの非凡な能力もひき出されたと見ることが出来る．　ここでカスティリオーニの代表作となった1957年のメッツァードロ・スツール及び，同時にコモ湖畔の別荘オルモで発表した電話用スツール，ランプ・トイオなどを見てみるのも悪くはない．　ダダにはアイロニー，突飛な組合せのモンタージュ，コラージュ，ナンセンス・オブジェといった言葉で語られる世界がある．　日常的思考，リアリズムからふっきれた物の転位，切断といった感覚と，デュシャンがしばしば引用した〈レディメイド〉の方法が，彼のこれらのデザインの手法になっている．　たとえば電話用スツールではデュシャンの〈自転車の車輪〉の作品から取り残された腰掛けが，アイロニカルにデザインされているし，トイオは自転車のヘッドライト，むき出しのトランスに釣棹のコラージュ，メッツァードロでは農業用トラクターの座面が〈レディメイド〉の手法で家庭用スツールにといった調子である．「もう前からこんなものはあったよ，われわれは何もデザインなんてしていないさ」，メッツァードロに対してどんな思いつきでデザインしたかの質問に答えていった逸話など，一番好きなところだ．　彼はダダの手法で自己主張しているわけではなくコラージュやレディメイドの手法を楽しんでいるのである．　アームチェア・サンルカ，インペリアーレ，スツール・プリマーテ，ランプ・アルコでも未来派の典型的特徴であるダイナミズム，スピード，運動の感覚で，見事にボッチョーニ，バッラ達の遺産を生かすのに成功している．　特にアルコは形態的にも技術的にも完全なデザインであり，多くのコピーを生み出した稀有の例だ．　1957年のプリマーテも最近デンマークのバランス・チェアが解明してくれた，エルゴノミック上の問題を既にクリアしている点で見過すことが出来ない．　そのほかアイロニカルなカリカチュア化，照明のオブジェ化など彼のデザインはモダンの枠から大きくはみ出していて，それらの内にひそんでいる問題提起をあげていくと枚挙にいとまがない．　だがその中でマッキントッシュ，ホフマンの家具レプリカとまったく違った次元で，つい近年まで一般家庭や農家で使用されていた椅子，テーブルのリデザインを行なっていたことも特に記しておく必要がある．





カスティリオーニ兄弟とドミニオーニのデザインによるラジオ　1940





電話用スツール〈セッラ〉　1957　〈自転車の車輪〉　マルセル・デュシャン　1913

最後になったが，今年3月ウィーンのオーストリア国立工芸美術館で開催されたカスティリオーニ・デザイン展では，通常デザイン展が陥りやすい物哀しく，また気まずい雰囲気を，あっさり取り払ったおもしろい構成になっている．　それぞれのデザインの持つ意味がダダ的手法によって転位していて，アームチェアが風車に，衛生陶器が鳥かご，スツールがキングとクイーンのカード，スイッチがオプティカル・ネームプレート，植木鉢ポールが巨大なピンの中におさまり香草入りグラッパ酒といった具合で，まさに気分のいいデザイン展に仕上っている．

●まつかぜ・まさゆき／デザイナー

カスティリオーニのデザイン哲学

カスティリオーニのデザインは，
機能――知性――あそびの3つの哲学をもっている．
この3つが，それぞれ主役と脇役を演じつつ，
あるものではハーモニックに，またあるものでは，
ポリフォニックに見え隠れしながら，
質の高いデザインを作り上げている．

デザインとは機能である

機能――新たな創造による〈用〉の拡張

ないし社会的要請への解答



玄関，クラブ，集会場のための折りたたむと壁にかけることも可能なテーブル〈クマノ〉



植木鉢を異なるレベルに配置するスチール・パイプの幹と枝．　植木鉢ポール〈アルベロ〉

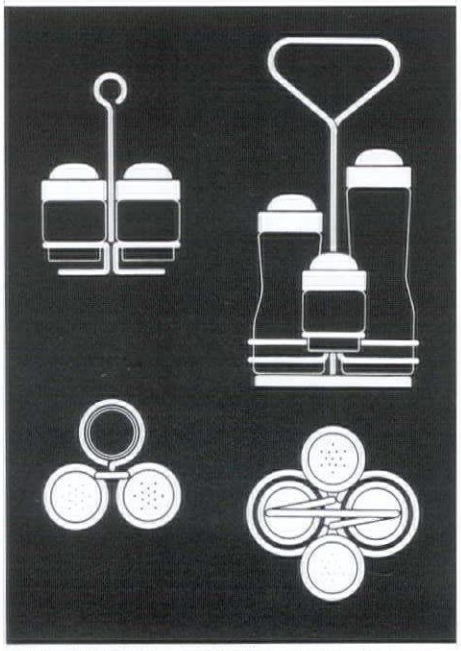
■折りたたみテーブル〈クマノ〉
Cumano　1977(1979)　M：Zanotta
1981年〈黄金コンパス賞〉受賞．
モナコ現代美術館永久保存作品．
これは居室，玄関，クラブ，あるいは集会場のために作られたもので，14㎜φのスチールパイプの脚部と鋼板の天板とナイロン製の折たたみジョイントによりできている．　そして天板にあけられた穴は備え付けのフックにより壁に掛けられるように工夫され，セットしたフォルムも，折たたんだフォルムも共に洗練された美しさを備えている．　仕上げは焼付塗装で，白，青，赤，緑，ピンクの5色がある．

■植木鉢ポール〈アルベロ〉
Albero　1983　M：Zanotta
この作品は幾種類もの植木鉢をそれぞれ違ったレベルに配置できる器具の要請から考案されたものである．焼付塗装されたスチールパイプの幹の5つの異なったレベルに，受け皿の付いた枝を差し込むだけで，それらは回転も取り外しも自由である．　脚部はスチールパイプの三脚で，それにナイロン製の足が付けられている．　本体の色は，白，青，赤，緑，ピンクの5色である．

■椅子〈イルマ〉
Irma　1977(1979)　M：Zanotta
Victoria & Albert Museum(ロンドン)永久保存作品．
これは彼のデザインによる家具の中でも最も美しい創作の1つで，そのシンプルで上品なフォルムは室内を演出するのに最適なものであり，座り心地もすこぶる

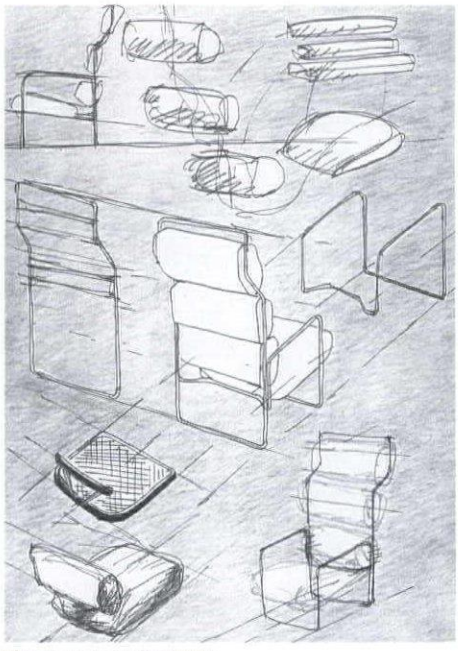


入念な研究により生まれたシンプルで快適な座り心地の椅子〈イルマ〉



実用性に富んだ機能美。　調味料容器セット〈シリーズ・フィル〉





一見気楽なフォルムの中にも，椅子生活の伝統に培われた良い椅子の基本を守るアームチェア〈サンカルロ〉

快適にできている。　とりわけこのスチールパイプのフレームには入念な研究の後が窺え，技術的に困難な曲げ部分など巧みな処理で技術的かつ意匠的に解決されている。　フレームの色は黒，炭色，パールホワイト，赤，それにヘアーライン仕上げがあり，座と背は革張りで，黒，ブルガリアレッド，白，灰色，それに生地の5色がある。

■テーブルウェア〈シリーズ・フィル〉
Phil　1982　M：Alessi

調味料容器セット
ステンレスとクリスタルガラスによる一見さりげないデザインにまとめられたこの小品は，〈用〉に対する綿密な分析に裏打ちされ，極めて実用性に豊んだ清潔感あふれる味を醸し出している。

■アームチェア・ソファ〈サンカルロ〉
Sancarlo　1982　M：Driade
2つの軽いスチールパイプのフレームに，気楽なフォルムの個別化したクッションによりできているこの作品は，なにか不思議な上品さを備えている。　しかし，一見気楽なこのフォルムもよく見ると，そこには座り心地に対する綿密な配慮がなされており，それは椅子生活の伝統に培われた良い椅子の基本ラインがしっかり守られているのである。　つまり，椅子のデザインにとってとりわけ重要なポイントは座る人の腰の部分を少し前に押し出すようなラインをもたせることであり，それが人をして姿勢良く快適に座らしめるのである。

デザインとは知性である

知性——生活に根ざした〈用〉に対する謙虚な姿勢，

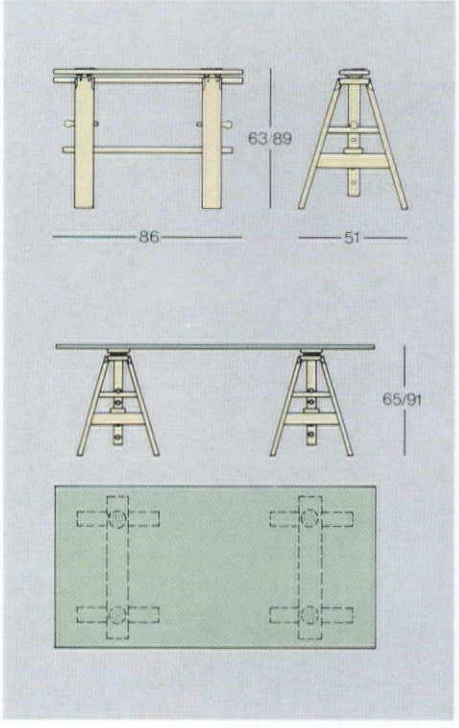
さらには知的ひらめきと放縦な感性の御者．



天才レオナルドの馬型作業台を原型にした作業机〈レオナルド〉



ピアノ線で吊られたアクリル製円盤の放つ光，
照明器具〈フリスビー〉



■作業机〈レオナルド〉

Leonard 1940 (Production1969)

M:Zanotta

Victoria & Albert Museum（ロンドン）永久保存作品．　これは1940年に，カスティリオーニ兄弟が天才レオナルドの馬型作業台を原型に，新たな2つの解決を施すことで，もとの利点をそのままに完成させたものである．　テーブルの高さは木製のピンを差し込むことで5段階に調整でき，馬のフレームには堅くて素朴なぶなの木を用い，天板には強化合板にクリアーあるいは白色の焼付塗装を施している．　また馬の部分との取り合いには，テーブルの安定性を計るために，特別にデザインした弾性ゴム盤が取り付けられている．

■ペンダント型照明器具〈フリスビー〉

Frisbi 1978 M:Flos

この照明器具はテーブルより90cmの位置にセットし，テーブルの径は120～130cmで平均照度700ルクスが得られる．　光源は150Wの水銀球で，同等の白熱球より35％強の照度を持っている．　半球の笠は内側をエナメル焼付塗装で，外側をクロムメッキで仕上げている．乳白色のアクリル製の円盤は，中央に穴があり，それを通して直接光がテーブルに落ち，アクリル板を通過した光は適度に柔らいで，目に穏やかな光を送る．また，幾分かの光はアクリル盤により反射され，上方にほのかな明るさをもたらす．　電球の笠と円盤の位置は，如何なる場所からも人に眩しさを与えないよう配慮されている．　それらは電球のソケットと連結して，スチールパイプとステンレスのピアノ線で位置を保ち，そのピアノ線は好都合にも中央の光源を囲う格子の役割も果たしている．　さらに，この照明器具はそれぞれのエレメントが独立しているため，梱包が小さくて済み，組み立ても容易である．

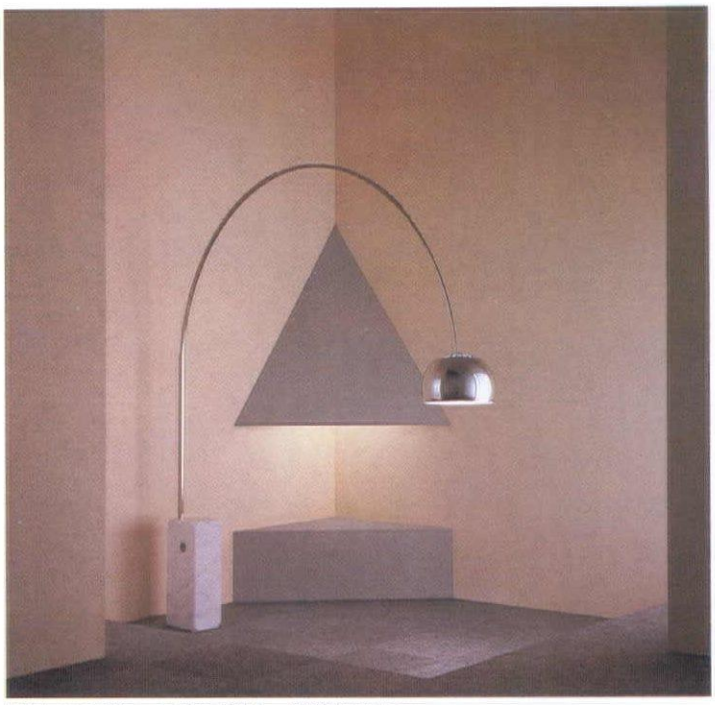
■衛生陶器〈シリーズ・リンダ〉

Linda 1973 (1977) M:Ideal Standard

このシリーズは各分野の協同を伴った長期にわたる設計過程から生まれた成果であり，そこには集積された創造性が内包されている．　また，これは今日の経済的な私有および公有の建物に使用するためのものとし



長期間の設計過程から生まれ，計算し尽されたデザイン美．　衛生陶器〈シリーズ・リンダ〉



知性あふれるモダン・デザインの神髄．　照明器具〈アルコ〉



イタリア食器の伝統に現代性を加味したテーブルウェア〈シリーズ・ドライ〉

て開発され，生産過程の簡便化，寸法の極小化，重量の軽量化，輸送費の低減化，給水蛇口の有効な解決，メインテナンスの経済性といった特性に力点が置かれている．

■スタンド型照明器具〈アルコ〉

Arco 1962 M:Flos

今や周知のこの照明器具は，天井配線のない部屋のテーブルや家具に直接照明を設ける必要から生まれたものである．　白大理石でできた直方体のベースよりランプ本体までの距離は２ｍで，そのベースには取り外しを容易にするための穴があけられている．　U型アーチのフレームはステンレス製で，３つの部材に分かれ，それぞれをスライドすることでランプの位置を変えることができる．　笠はアルミ製で頂部に放熱のための穴があいている．

■テーブルウェア〈シリーズ・ドライ〉

Dry 1982 M:Alessi

ナイフ・フォーク・スプーン．

これらの小品はスカンジナヴィア・デザインの成果よりもたらされたものではなく，イタリア食器の古典的伝統を基調に現代的表現を施したものである．　より正確にいえば，中部ないし南ヨーロッパの古典的伝統のそれである．　即ち，良くすくえるスプーンであり，長い４本歯のフォークであり，刀身の長いナイフである．　新しい要素としては，鋳造による握り部分の形態的特徴と，アレッシ社の高度な技術により裏打ちされた細くくびれた継手部分である．　コーヒー用のスプーンなどは正に小型化したものの傑作といえよう．これらすべてのものが全き手仕事により研ぎ澄まされ，握りの部分にはヘヤーライン仕上げが施されている．ナイフは特殊炭素鋼を使い，高度な焼き入れ技術によって優れた耐力性と稀なる刀線美を備えている．　また，このシリーズの姉妹品として純度92.5%の銀製のものと銀メッキ製のものがある．　さらにカスティリオーニのデザインによる梨の木でできた収納ケースも秀逸なデザインである．

デザインとは遊び心である

あそび——条件づけの対象を解放する適度な距離をもった眼差し．
それはイタリアデザインを牽引する力でもある．

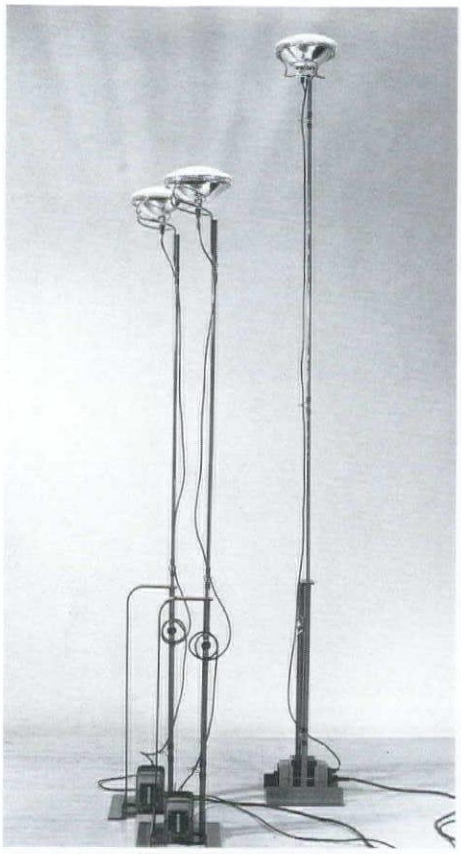




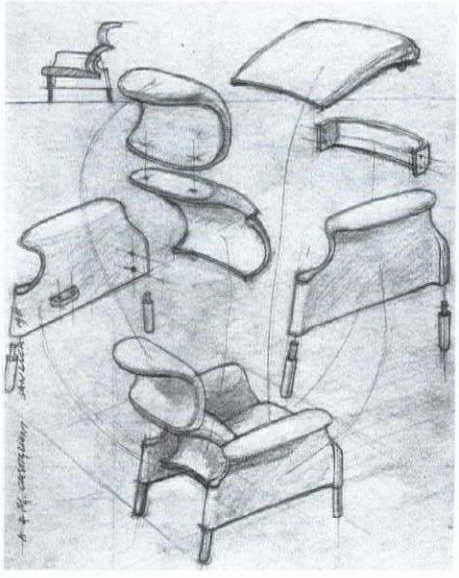
曲線が生み出す美しいフォルムのアームチェア〈サンルカ〉

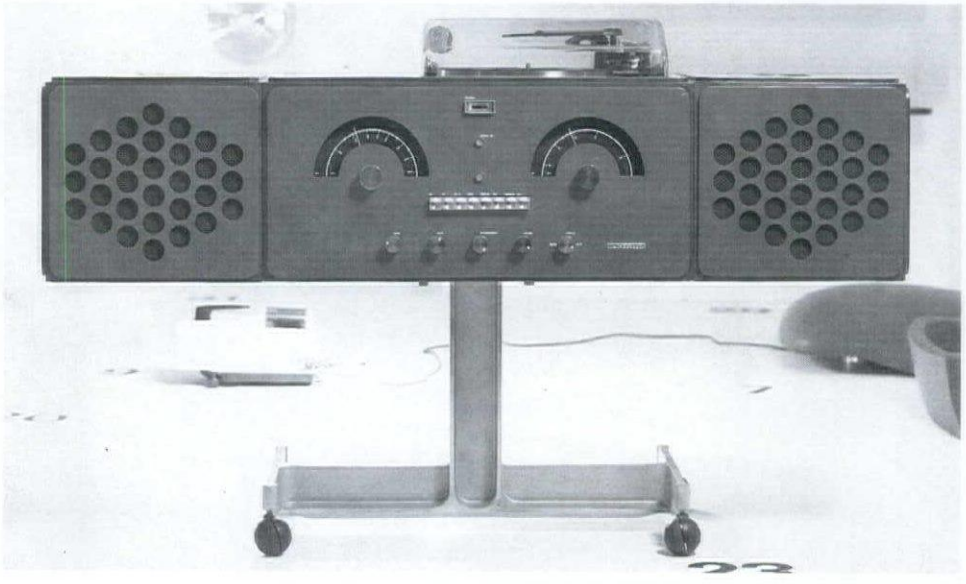


18年前にデザインされたファニーな表情のステレオ・セット〈RR126〉



イタリア未来派の心意気を見るような照明器具〈トイオ〉





■アームチェア〈サンルカ〉
Sanluca 1960, 1969
M:Gavina, Knoll International
この椅子はプレス加工した鋼板を芯にしたそれぞれ個別のクッションをビスで接合し，それに旋盤がけした木製の足を差し込むだけで組み立てられている．　従来のこの種の椅子は一体成型のため，その梱包と輸送には多大の不利益が伴うのであるが，この椅子はそれをみごとに解消している．

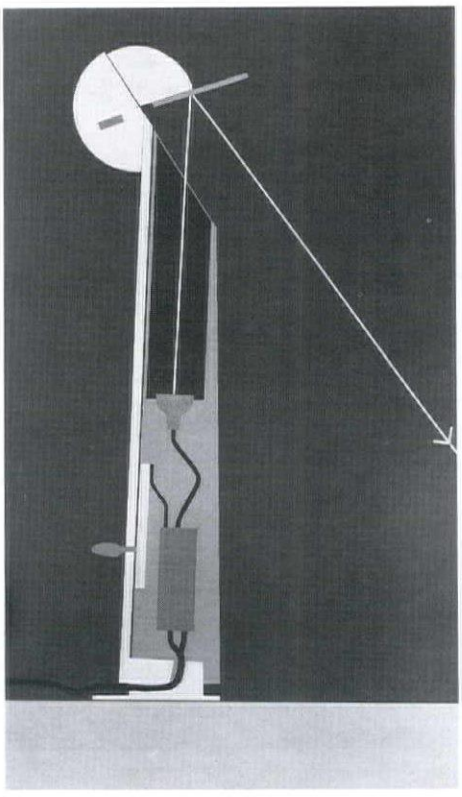
■ステレオセット〈モデルRR126〉
Stereo RR126 1965 M:Brionvega
中央の本体にはプレイヤーとAM・FMのチューナーが組み込まれ，その両側にスピーカーが連結されている．　またそれらは回転して上に載せることも，さらにはそれらを取り外し，ステレオ効果を最も高める位置に持って行くこともできる．　素材は木製のラッカー仕上げで，脚部はアルミ・ダイキャストである．
今にして見れば，オールドスタイルの感無きにしもあらずではあるが，なんと18年前の作品である．

■スタンド型照明器具〈トイオ〉
Toio 1962 M:Flos
これは裸形の機械が即デザインという美学の具体化であり，イタリア未来派の心意気を見るようで痛快である．　その構造は，ラッカー仕上げの鋼板をベースに可変変圧器が取り付けられて，その重量が本体の安定性を担っている．　またそれは頭部にある125V－300Wの船舶用の特殊ランプに給電し，その間を繋ぐスチールパイプは170cmから200cmまで高さを変えることができる．

■照明器具〈ジビジアーナ〉
Gibigiana 1980 M:Flos
この照明器具はアルミ製の本体の中に変圧器，調光型スイッチ，ヒューズ，それにまっすぐ上に向けられた



電球の存在を感知させず，調光機能をも備えたユニークなフォルムの照明器具〈ジビジアーナ〉





新しい座り方を暗示するスツール〈プリマーテ〉





トラクター用座席の椅子からヒントを得たスツール
〈メッツァードロ〉

20W—12Vのハロゲン球が組み込まれ，それらはすべて安全規準に基づき，ひとまとめにして箱に閉じ込めて本体と隔離されている。　本体の上部には反射鏡と光束の方向を変えるための回転装置がついている。
大きさは，ベースが10cmφで，高さが41cmと52cmである。　この照明器具の特性は，しっかりした安定性を持つとともに，光の調光機能を有し，電球の存在を感知させず，反射鏡の角度を変えることで収光面積を増減できるといった点である。　これは一様に薄暗い部屋でふたりの人間が同時に異った明るさで，他を妨げることなく，それぞれ違った作業をする時に最適のものであろう。

■スツール〈プリマーテ〉
Primate 1970 M:Zanotta
この椅子は新しい座り方を暗示するもので，従来の椅子とは際立ったコントラストをなしている。　日本式正座法から着想したかどうかは定かではない。　下座はプラスチック製のボックスに革仕立てのクッションを嵌め込み，上座も同様の革仕立てとし，それらをスプリング機能を持たせたスチールパイプで接続している。

■スツール〈メッツァードロ〉
Mezzadro 1957(1971) M:Zanotta
ヴィッラ・オルモで催された〈今日の家のための色と形〉展の展示作品。
この椅子は3つの部品でできており，座板には1935年に生理学に基づいてデザインされたトラクター用のプレス鋼板の座が使用され，それに弓型状のステンレス製の板バネを大きな平ビスで固定し，他方にはその軸に直交して紡錘型の木の足が特殊な留金物で取り付けられて3点支持の脚部を作っている。　各部材は容易に取り外すことができ，梱包を小さくまとめることを可能にしている。　（編・訳＝清口オサミ）

アキッレ・カスティリオーニ
自在な遊戯精神

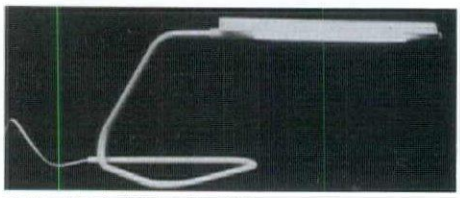
長尾重武



今年の3月，ウィーンで開催されたアキッレ・カスティリオーニ（Achille Castiglioni）の2つの展覧会は，このデザイナーの個性とイタリア・デザインを考えさせる上で格好の催しであった．

1918年ミラノに生まれた彼はすでに60代半ばに達している．　1944年にミラノ工科大学建築学科を卒業するや，ただちに兄弟のリヴィオとピエルジャコモ(Livio, Pier Giacomo Castiglioni)とともに仕事を開始した．　その活動はもう40年を経過している．　彼の音響製品のデザインや照明器具，家具などの，ほとんど神話的な名声を得た作品群や，世界各地で開かれた展覧会のディスプレイを通じて，彼の名は国際的に知られるようになった．　ミラノを拠点に活躍した彼は，ミラノ・トリエンナーレに何回も関与したのは当然のことだが，ミラノに本拠を置く〈インダストリアル・デザイン協会〉（ＡＤＩ）の設立会員でもある．数限りない受賞の中には，〈ニューヨーク近代美術館賞〉の6点，イタリアの〈黄金コンパス賞〉[*1]（Premio Compasso d'Oro）で6度の受賞がある．

このように見てくると，このアキッレ・カスティリオーニというデザイナーは，戦後のデザイン界を風靡したイタリア・モダン・



デスク・ランプ〈トゥビーノ〉 1949
アレドリュース社（1971-75，フロス社）

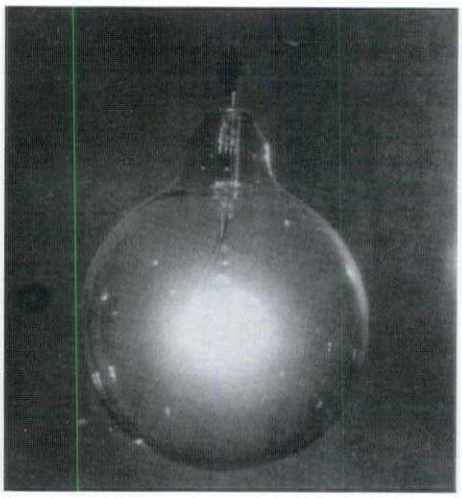
デザインの中心人物のひとりであるといえよう．　けれども，それだからといって，この度の展覧会がそうした高い名声を得たデザイナーの仕事の回顧展であったと考えるのは早計である．　というのも，彼の果敢なヴェンチャー精神は相変らず新しいデザインへの挑戦を持続させているばかりか，旺盛な想像力には目を見はらせるものがあるからであり，今回の展覧会は他ならぬ今日の問題に対して直接的なメッセージを送るものであるからだ．

イタリア・デザインを考える上で，60年代後半に提出された1つの裂け目を見逃がすわけにはいかない．　それは1つの分極点を形成しているかに見える．　イタリア・デザインは，1950年代から60年代にかけて，文字通りの黄金時代をむかえた．　イタリア・デザインという言葉は，スカンディナヴィア・デザインとともに，良きデザイン，あの〈グッド・デザイン〉とその方向を指し示す言葉となった．　キラキラと輝かしく，滑らかで，余分なものがはぎとられた，この上なく純粋なオブジェとなった日用品は，新しい生活のイメージそのものであった．　しかしながら，ほとんど様式化されたそのような製品の絶え間ない交替に端的に示された消費主義的傾向に対してデザイナーの側から反乱がおこったのである．　上述した裂け目とはそれを指している．　良きイタリア・デザインに対する総攻撃は，同時に，現代の商品経済に向けられたものだったのである．　デザイナーは，大量生産のためにデザインをするが，良いデザインが大量生産されることは稀である．　利潤の追求がすべてに優先され，プロトタイプは美的価値や使用価値とは別の次元で次々と作り替えられていく．　それはいうまでもなくデザイナーの生き方に深く影をおとす事態である．　こうした情況認識から生まれた反乱は，新しい波をつくり出していった．　デザイン評論家のジッロ・ドルフレスは，これを，1．超一資本主義的な消費主義に対する非難の開始，2．〈反デザイン〉あるいは〈貧しいデザイン〉の新しい作品の創造を目指すものとしてとらえている．[*2]

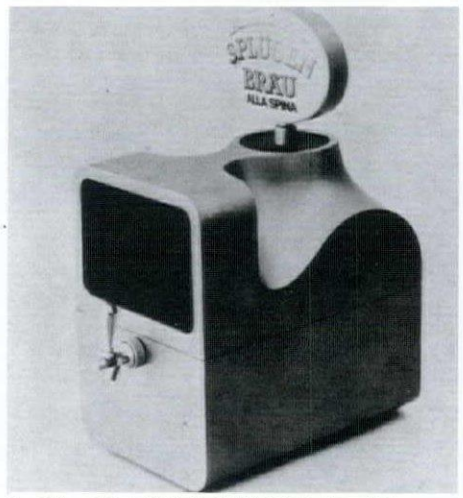
アーキズーム（1966年結成），スーパー・スタジオ（1966年結成），ＵＦＯ（1967年結成），といったグループをはじめ，ソットサ



電機掃除機　1956　REM社



電球　1957



シュプリューゲン・ブロイビール用ディスペンサー　1964
ボレッティ社

ス，ウーゴ・ラ・ピエトラなどがこうした動きに呼応した．　そして，やがてソットサスは〈メンフィス〉グループを華々しく登場させることになる．　〈メンフィス〉は一躍有名になったが，それをたんなるファッションと受けとめるとしたら誤りを犯すことになろう．

ところで，アキッレ・カスティリオーニはこうした分極点のこちら側でどのように評価されているのか．　アーキズームのアンドレア・ブランツィ――急進派の最も重要なイデオローグ――は，カスティリオーニについて次のように述べている．

「アキッレ・カスティリオーニの面白さは，彼がわれわれの〈父なる創始者〉のひとりとして歴史的世代に属する一方で，彼の同世代の人々が固執して決してそこから動こうとしないあの純粋でシンプルな〈グッド・デザイン〉という枠組からはみ出す革新性をもち合わせている点である．[*3]

これは新鮮な驚きを失なわずに創造的活動をつづけるデザイナーの，豊かな才能に対するほとんど最上級の讃辞というべきである．さらにブランツィは，カスティリオーニがわれわれの時代の最も中心的な課題を理解していることを示し，〈裸〉で生まれたテクノロジーに，衣服を与える仕事としてのデザインを示してきた，と述べている．

カスティリオーニの自在さは，同世代のデザイナーたちの中ではほぼ同年のエットーレ・ソットサス（1917年に生まれた）を想起させる．　表現の方法はともに異なるとはいえ，彼らに共通するのは豊かな遊びの精神である．　〈グッド・デザイン〉のテーゼのあとで，デザインは〈知的な遊び〉となった．　テクノロジーの神話をシンプルな形状で表現することにもはやリアリティを感じることなく，時にはアイロニカルにそこから解放してみせる．　おそらく産業の側も頭の切換えを余儀なくされるにちがいない．　たとえば，よく言われるように標準的なよく売れるであろう製品の大量生産から多品種小量生産へと．

カスティリオーニの作品は，したがって，きわめて多彩である．　その表現の多様性に驚くほどである．　けれども，方法的な共通点に着目するのは，このデザイナーを理解するために是非とも必要なことだ．

カスティリオーニの作品は，どれほど〈知的な遊び〉とみえるデザインにおいても，決して抽象的，観念的な方法によってはいない．それは，イタリアのデザイナーの多くに共通する興味深い点であるかもしれない．　それが生身の人間の手の温かさに通じ，人間味あふれる豊かさを感じさせる点である．　カスティリオーニがフォーク，スプーン，ナイフをアレッシ社のためにデザインするプロジェクトに参画した際，スカンディナヴィアのデザイナーたちによってつくられたシンプルで抽象的な60，70年代のデザインを批判して，スパゲッティやスープのために使いやすいイタリアの古典的な形に立ち帰って，これを近代的な形につくりかえたエピソードを伝えている．　彼が好ましく思うのは「〈古典的な中部と南ヨーロッパの伝統〉すなわち，深くくぼんだスプーン，4つに先が長く分かれたフォーク，とても長い刃先をもったナイフ」[*4]だというのである．

このように，彼は，すでに存在しているものを再デザインするみごとな能力を身につけている．　彼自身の作品であれ，既成の何であれ，結局のところ，彼の手によって，さらに純化された形に変形されてしまう．

今回の2つの展覧会において，カスティリオーニが示そうとしたのも，こうしたことではなかったのか．　オーストラリア国立工芸美術館において開催された彼の作品展は，ディスプレイも彼によるものだが，そこには多くの工夫が見られた．　彼の椅子は3つ組み合わされて風車と化し，また別の2つの椅子は2つずつ組み合わされて大きなトランプカードのキングとクイーンとなり，〈レオナルド〉と称されるウマは積みあげられて大きなウマとなり，1組の衛生陶器が大きな鳥カゴの中に置かれるといった具合である．　彼自身の作品がモニュメンタルに展示されることの対極，ユーモラスに，アイロニカルに展示されたのである．　その結果，彼の作品の日常的な機能の彼方に，人々のイメージをはばたかせることに成功している．

もう1つの展覧会，〈セクションN〉で開かれた〈プリマヴィジョーネ〉（ロードショーという意味）展は，カスティリオーニのコレクションであるアノニマスな様々な道具類や部品を展示したユニークなものである．　彼はそうした名もない，非モニュメンタルなものを愛したし，それらをたんねんに，彼の形へと作り替えてきたというべきであろう．

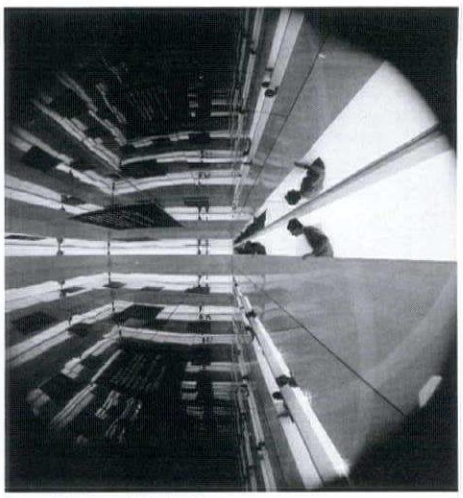
●ながお・しげたけ／東北工業大学助教授

＊1　イタリアの〈ゴールデン・コンパス賞〉については，1983年秋大阪市立美術館で，これまでの受賞作品が，一堂に展示されたので御存知の方も多いにちがいない．

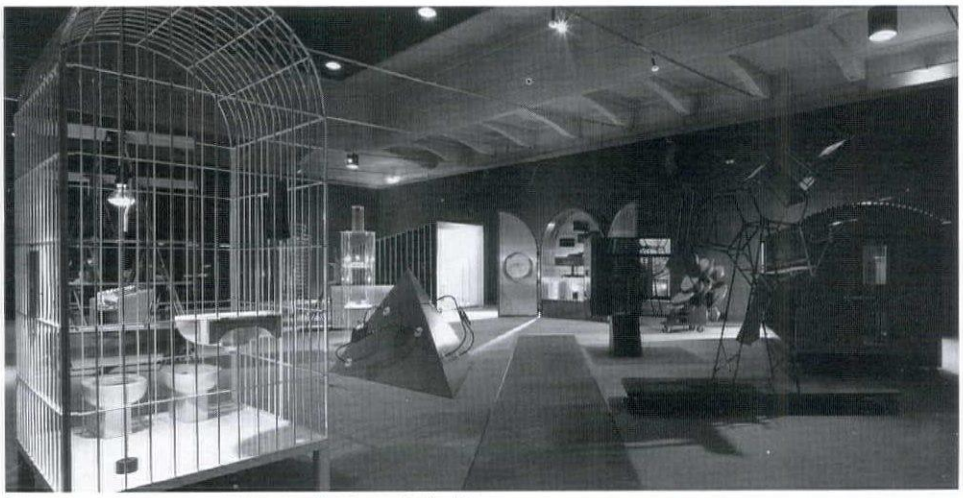
＊2　Gillo Dorflesが，〈イタリア・デザイン展〉（1976年12月5日～26日，東京イタリア文化会館のカタログに寄せた文章より．）
この展覧会は当時のイタリア文化会館館長（＝現館長）ジョルジョ・デ・マルキス氏との雑談の中から生まれ，ミラノの〈インダストリアル・デザイン協会〉のドルフレス氏が作品をセレクトし，東京のスタジオ・レオナルド（代表，長尾重武）がカタログ制作，展示ディスプレイほかを受けもったものだった．

＊3　Andrea Branzi, 'Nasce nuda (e si veste di design)'Modo N.69　5／1984より．

＊4　Alessi社のナイフ・フォーク・スプーンの説明書であるAchille Castiglioni, "Le mie nuove posate italiane" より．



〈モンテカティーニ展〉展示ディスプレイ　1967



〈アキッレ・カスティリオーニ・デザイン展〉展示ディスプレイ　1984

●アキッレ・カスティリオーニ　Achille Castiglioni

1918

リヴィオ(Livio　1911～1979)，ピエルジャコモ(Pier Giacomo　1913～1968)の弟としてミラノに生まれる．

1944

ミラノ工科大学建築科卒業．

1945

兄ピエルジャコモと協同でプロダクト・デザインおよび展覧会ディスプレイの仕事を始める．

ミラノ・トリエンナーレに度々関与．

ミラノに拠点を置くインダストリアル・デザイン協会(ADI——Associazione per il Disegno Industriale)の設立メンバー(1956年設立)のひとり．

1969～

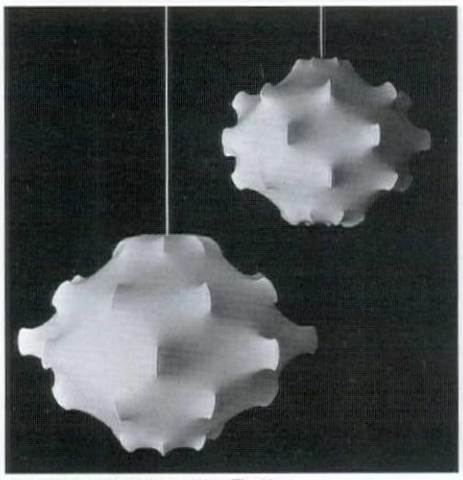
ミラノ工科大学建築科およびトリノの大学で教鞭をとる．

受賞：

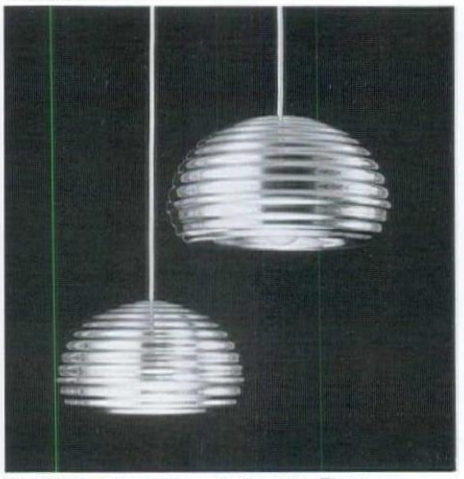
ミラノ・トリエンナーレ賞．

黄金コンパス賞(Compasso d'Oro, 6度受賞．)

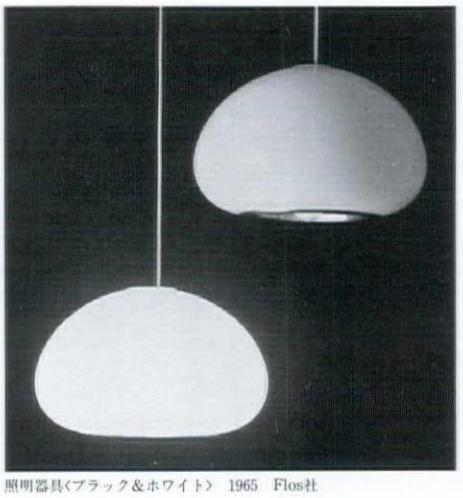
ニューヨーク近代美術館賞(6点受賞)．



照明器具〈タラクサカム〉　1960　Flos社



照明器具〈シュプリューゲン・ブロイ〉　1961　Flos社



照明器具〈ブラック&ホワイト〉　1965　Flos社

〈作品リスト〉

1939(1940)ラジオ　L.&PG.カスティリオーニ，L.C.ドミニオーニ
　Phonola Radio
1946　ホテル用の家具　Zari
1951(1974)　照明器具〈Tubino〉　Flos
1955，1957　照明器具〈Luminator〉　Gilardi, Arform
1955　把手〈Messing〉　Cassina Milano
1956　電気掃除機　REM
　タイル　Ruggeri
1957(1983)　スツール〈Sella〉　Zanotta
1957　電球　Leuci
1958　カメラ　Ferrania
　ソファ〈Babela〉　Gavina
1958，1961　本棚〈Mariano〉　Brenna, Gavina
1959　銀製テーブルウェア　Reed&Burton
1959　照明器具〈KD6〉　Kartell
　照明器具〈KD7〉　Kartell
1959，1973　照明器具〈KD51 Teli〉　Kartell, Flos
1960　スライド・プロジェクター〈Rocket〉　Ferrania
1960，1969　椅子〈Lierna〉　Gavina, Knoll International
1960，1969　アームチェア〈Sunluca〉　Gavina, Knoll International
1960　照明器具〈Taraxacum〉　Flos
　椅子　Palini
1961　コーヒーわかし器〈Pitagora〉　Cimbali
　照明器具〈Splügen Bräu〉　Flos
　灰皿・傘立〈Servofumo〉〈Servopluvio〉　Flos, Zanotta
1962　照明器具〈Relemme〉　Flos
　照明器具〈Arco〉　Flos
　照明器具〈Taccia〉　Flos
　照明器具〈Toio〉　Flos
　スプーン〈Mayonnaise〉　Kraft
　回転椅子〈Giro〉　Gavina
　スポットライト〈Ventosa〉　Flos
1964　ビール用ディスペンサー〈Spinamatic〉　Poretti
　テーブル〈Milano〉　Gavina
　ビールジョッキ　Poretti
　ビールジョッキの為の盆　Poretti
　テレビ〈Cynius〉　Brionvega
　照明器具〈Papavero〉　Flos
1965　コップ　Arnolfo di Cambio
　掛け時計　プロトタイプ
　ステレオセット〈RR126〉　Brionvega
　ワゴン〈Rampa〉　Bernini
　照明器具〈Light Ball〉　Flos
　照明器具〈Black&White〉　Flos
1965，1975　椅子〈Tric〉　Bernini, BBB Bonacina
1966，1981　小テーブル〈Cacciavite〉　Bernini, Zanotta
1966(1957)　壁掛け用本棚　Bernini
1966　ガラス戸棚　Bernini
　照明器具〈Sciuko〉　Flos
　照明器具〈Padina〉　Flos
1966(1980)　スツール〈Allunaggio〉　Zanotta
1966　小テーブル　Kartell
1967　照明器具〈Velella〉　Flos
　同時通訳用レシーバー　Phoebus Alter
　照明器具〈Snoopy〉　Flos
1968　ラジオ　Brionvega
　スイッチ　VLM
1969　作業机〈Leonardo〉　Zanotta
1970　スツール〈Primate〉　Zanotta
　椅子〈Castiglia〉　Zanotta
1971　テーブル〈Desco〉　Zanotta
1971(1957)　スツール〈Mezzadro〉　Zanotta
1971(1984)　灰皿　Bacci, Alessi
1971　洗濯機〈Linea〉　S. Giorgio
　ラジエター〈Termoradiante〉　Perani
　照明器具〈Parentesi〉　Flos
　洗面器〈Aquatonda〉　Ideal Standard
1972　照明器具〈Lampadina〉　Flos
　照明器具〈Noce〉　Flos
　エアコンディション　Aerotecnica Italiana
1973(1977)衛生陶器〈Linda〉　Ideal Standard
1973　病院用ベッド　OMSA
　車用シート　B&B Italia (プロトタイプ)
1974　小テーブル〈Servomuto〉　Zanotta
1975　照明器具〈AOY〉　Flos
　照明器具〈Ipotenusa〉　Flos
1976　机〈Trac〉　BBB Bonacina
1977　鏡　Kartell
　照明器具〈Bibip〉　Flos
　ラジエター〈Ritmo〉　Perani
　扉の安全システム　Parma
　テーブル〈Cumano〉　Zanotta
　食卓〈Cena〉　Zanotta
　椅子〈Irma〉　Zanotta
　規格型電話機(スタディ，プロジェクト)
1978　照明器具〈Frisbi〉　Flos
　蛇口〈Fonte〉，Teorema
　規格型電話機(スタディ，プロジェクト)
1979　アームチェア〈Ginevra〉　BBB Bonacina
　本棚〈Eta〉　BBB Bonacina
　本棚〈Beta〉　BBB Bonacina
　小テーブル〈Bass〉　BBB Bonacina
1980　照明器具〈Gibigiana〉　Flos
1980，1984　調味料容器セット　Rossi&Arcandi, Alessi
1982　オフィス用家具〈Solone〉　Marcatre
　机〈Quark〉　BBB Bonacina
　調味料容器セット〈Phil〉　Alessi
　アームチェア〈Sancarlo〉　Driade
　テーブルウェア〈Dry〉　Alessi
　照明器具〈Giovi〉　Flos
　照明器具〈Moni〉　Flos
　フットライト〈PTF〉　Ortotecnica
1983　盆〈7000〉　Alessi
　アームチェア〈Imperiale〉　Zanotta
　植木鉢ポール〈Albero〉　Zanotta
　コップと水さし　〈Ovio〉　Danese
　コップ〈Paro〉　Danese
　スツール〈Rosacamuna〉　Zanotta
　ホテル用家具〈Gli Alfieri〉　BBB Bonacina

編集協力：葵フーバー河野
写真提供：Fiat S.p.A.(p.20上，中上)
　ヤマギワ(p.25〈アルコ〉)
　イタリア商事(p.25〈シリーズ・ドライ〉)
　カッシーナ・ジャパン(P.30)

表層の魔術

コーン・ペダーソン・フォックスの最新プロジェクト

MAGIC IN THE EXTERIOR SKIN

RECENT PROJECTS BY KOHN PEDERSEN FOX ASSOCIATES PC

都市のコンテクストの解読と，
クラシシズムとモダニズムを巧みにモディファイすること．
そんなK.P.F.の作品には，アメリカン・アール・デコへと通ずる，
ポスト・モダンとは一線を画した，
彼ら独自のオーナメンタリズムの世界が感じとれる．
ここに，ニューヨークに拠をかまえ進境著しい，
アメリカン・デザイン・ファーム＝K.P.F.を紹介する．

K.P.F.読解のためのフット・ノート

■

堀池秀人

建築を読むという行為は，そこに在るひとつの断面を位相（フェーズ）の中に位置づけ，他のフェーズとの距離をはかったり，建築を社会との脈絡の中で睨んだり，あるいは創造の対象（オブジェ）として審美の目を向けたり，というような方法（アプローチ）によりなされるものらしいが，いずれのやり方にせよ，そこにその読者ないしは評者のドグマティズムが多かれ少なかれ介在するものである．　そして，このドグマがいかなる地平に置かれたものかにより，いい換えると，どこに視座が据えられたかにより，当然見え方も異なり，それ故，パラドクスとして読むというドラスティックな芸当すらさえも登場してこようというものである．　しかし，これは建築の読解，つまりレクチュールが無限定に可能だということを意味してはいない．　何故なら，そこには根拠や手掛りといったものが，（たとえメタファーという形式（モード）であったとしても）厳然たる事実として存在するからである．　この事実を図式（シエマ）として読むか，言葉（パロール）として読むかは読む側の勝手であり，そこに，避け難い恣意性の問題が（読解という行為に）つきまとってはくるが，この事実を指摘すること，そしてそこにフット・ノートを付けていくことは読解のストラクチュアを構築することであり，読解に対する布置行為，つまりパースペクティヴを定めることを意味している．

一般に建築作品を読もうとする場合，あるいはある建築家の作風を語ろうとする場合，それに先立つ前作を含めた過去の蓄積を通読することにより，背後に共通して存在する理念なり，手法なりを把え，その読解の助けとすることができる．　しかし，ここで対象としようとするK.P.F.については新進の組織であるだけに，それらにあたる情報は充分とは言えない．　そこで，いきおい彼らの傾向の表層をかすめるだけの論に終始してしまうことになりそうだが，幸い，彼らと頻繁に接触し議論をしたり，作品をみたり，説明を受けたりする機会に恵まれたため，かなり理解を深めることができた．　しかし，それにしてもまだ何か釈然としないものが残っているのは何故だろう．　訪れる度に膨張しているその組織の規模か，あるいは，どんどん増えているプロジェクトの数か，はたまた，じっと見入らされてしまう美しいドローイングや迫力のある模型のせいか――いずれも，否である．それぞれ驚きに足るものであるのは確かであるが，それにも増して，彼らに対する評価が想像以上に急上昇していることが驚異なのである．　建築議論のメッカ，ニューヨークを中心に全米で話題となっているこのたかだか8才にしか過ぎない組織が，何故にここまで注目されるのかを解明していこうというのである．　しかも，彼らがそのデザインを評価されることにより頭角を現わしている点からすれば，当然ながらそのデザインを読解することが解明することに他ならないはずである．

ところが，彼らは自分達のデザインを支えるコンセプトについての公の発言をやっていないし，そうした議論に参加することもしていない．　寡黙な彼らの理念を表明するのは建築それ自体のみであり，対比的に雄弁な（？）建築作品と個人レヴェルの議論を手掛りに，彼らの設計手法や投錨された理念を理解するためのキー・ノートを提示することにより，解説にあてることにしよう．

150名を越えるスタッフにより組織されていることや，比較的メジャーなスケールの仕事を行なっていることなどはK.P.F.を際立たせるものではもちろんないが，彼らが建築クリティシズムの輻輳する磁場であるニューヨークに拠を張っていることは少なからず注目に値する．　P.ジョンソン，I.M.ペイといったヒーロー達やSOM，DMJMのようなメジャー・ファーム，そして，M.グレイヴス，R.スターン，P.アイゼンマン，R.マイヤーなどといった面々，それに，R.クールハースやガンデルゾナスのような外国からの移住組，さらには，HOKやE.ララビー・バーンズなどの国内移住組も加えたウルサイ連中がしのぎを削っているのがニューヨークである．　そこではあたかも賑やかなエクジビション，言い換えると一大建築ショウが繰りひろげられていることは周知の通りである．　そして建築議論のいくつかのパラグラフが浮遊するトポロジー的状況の中でひとつの地平を切り拓いたのが，AT&Tビルに端を発すると言われる件の超高層（ハイライズ）建築議論であり，K.P.F.がこの議論にその作品でコミットしていることは，彼らの体質を表わすひとつのキーである．

一方，グレイヴスやスターンのようなポスト・モダニストの作風にみられる装飾的要素（オーナメンテーション）のアッサンブラージュや断片化された様式のブリコラージュといったやり方（マニエール）はK.P.F.の作品にはあまり見られない．　むしろ，ひとつの統語法を用いながらオーナメントを再編し，高位の様式を生み出していこうとする．　様式の切り取り（デクバージュ）を行ないながらもこうした方法を採るあたりに，微妙にポスト・モダニズムとの決別が見られる．　彼らはオーナメント

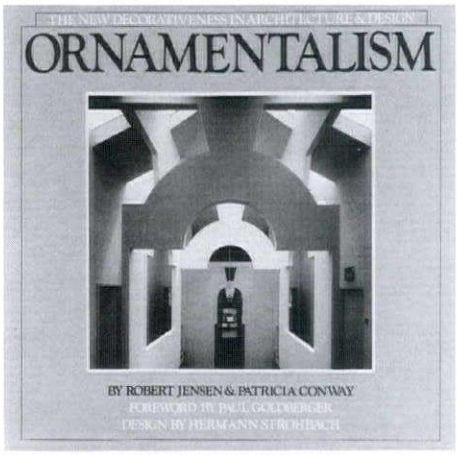
を異化させることにより古典的表現の世俗化を計ることを忌避し，コンテクストで繋ぎながらインテリアから超高層に至るまでオーナメントを同化させることを目指しているのである．　7人いるパートナーの一人であるP.コーンウェイ女史の著書《オーナメンタリズム》はポスト・モダニズムというあいまいな言葉で語られていた近年の傾向をオーナメンタリズムという定義で括り直した好著であるが，K.P.F.のこの姿勢をものがたってもいる．

そして，彼らのオーナメンタリズムが範型としているのはネオ・クラシシズムとアール・デコのそれであり，これらの作法とオーナメントをパラダイムとして用いており，折衷的な表現の中で纏めていくことにより，キッチュとなることを避けている．　こうした彼らの性癖は，1930年に登場したクライスラー・ビルに象徴されるアメリカン・アール・デコが，アメリカが誇る唯一のオリジナルな様式であることと無関係ではなさそうである．

そして，丁度その頃，彼らがもう一方で注目しているというラショナリズムの運動がイタリアを中心におこっており，(同時期のこれらの動きに彼らが興味をもつのも当然のことかもしれないが) そのイデオロギーを継承するイタリアのアルド・ロッシらの一派に向ける視線にも熱いものがある．　彼らはラショナリズムを標榜することはないが，作品の解説にラショナリスティックという言葉を用いることがある．　しかし，そもそもイタリア人ほどポレミックではない彼らはイデオロギーの上で連鎖することはなく，しかも作品にその傾向があるといっても，ロッシのようにペシミスティックに排斥を強調するものではなく，よりオプティミスティックなそれであるといってよい．

さて，3つめのキーを示しておこう．K.P.F.が誕生し，今日に至るまでの過程はあの超高層建築の議論が話題となった過程と時をまったく同じくしている．　彼らがマスコミで取り挙げられ，注目をされ始めたのも，この議論によってである．　そもそも，AT&Tの設計者選びが行なわれた1977年に，K.P.F.のボス，E.コーンがP.ジョンソンに向って，自分と組むと勝つチャンスが大きいよ，ともちかけたが，P.ジョンソンはこの申し入れを断わり，しかもその設計者に選ばれてしまった．　この因縁な出来事がE.コーンを駆りたて，超高層議論に彼らをインヴォルヴさせたのである．　彼らの超高層建築の作品を見ると，彼らの超高層に対する意思表示が明確になされていることに気付かされる．　巨大なこと＝モニュメンタルというメガロマニアックな発想を否定し，古典的な三層構成と上昇形態のジグラッドの形式に超高層の資質を読み込むことにより，超高層という文脈の中で建築を成立させようとしているかに見える．

また，彼らの超高層に見られるもうひとつの特徴は，その足元廻りにある．　他の多くの超高層建築が足元にジャイアント・スケールのグリーク・オーダーなどを登場させるのに対し，K.P.F.の作品では必ずヒューマン・スケールへディダクションさせることを原則としている．　こうしたやさしさは彼らの都市や環境に向けての姿勢と大いに関わっており，彼らを理解する上での4番目のキーでもある．



P.コーンウェイ著《ORNAMENTALISM》表紙

環境や都市への対応のしかたについて，彼らははっきりとした思想をもっており，これが4番目のキーを成している．　彼らのアーバン・デザイナーとしての体質は極めて現実的な面に於いて発揮され，イタリアのラショナリスト達が都市的事実をタブローの中に見い出していこうとする姿勢と好対称である．

K.P.F.は，その発想段階に先立って，敷地や周辺の都市的状況を読解する作業をかなり重要視しており，スケールやグレインを読み取る作業と並行して，敷地を周辺との関係において，形態分析し，コンポジション・スキームなどを作成しながら発想段階の議論に用いており，この分析的な態度は都市的状況をメタフィジックスで論ずる立場と極だって異なる特徴である．

また，彼らが写真モンタージュを多用しながら，周囲の町並みへのレスポンスのさせ方を検討し，ここで議論されるグレインやヴォリュームやスケールなどといったことがらを立面構成上の決定要因としていることなどは都市のコンテクトに対する一貫した姿勢であろう．

こうした姿勢は，一般誌にもぞくぞく登場した超高層議論により，市民の建築に対する関心を呼び起こしたが，同時に批判の目も厳しくなってきた現在のアメリカでは説得力をもつ方法であるが，建築の内的コンテクストを重要視する，つまり建築の自律性を表現することと環境のコンテクストとの相克に常に悩まされる方法でもある．　そして，このことが，7人のパートナー・シップで維持されているK.P.F.にとっては，最もデリケートな調整事項ということになるらしい．

さて，最後に，建築家の作風を読む上で忘れることができないキーを挙げておこう．これまで述べてきたどのキーよりも，彼らをわかり易くしてくれるのは，彼らの血統を知っておくことである．

ペン大とハーバード出身が多いK.P.F.は見事にフィラデルフィア・スクールとハーバード・スクールの特徴を併せ持っている．　グロピウスの派をひくところに彼らが位置しているようには見えないが，アーバン・ファブリックを読みとりながらレスポンスさせていく，というアーバン・デザイナーの目と，文脈の中に現われる〈多義性〉のようなすぐれて文学的な目，あるいはコンテクスチュアリズムとフォルマリズム，こうした特質を相関関係の中に成立させているのがK.P.F.の最も大きな特徴なのである．

7人のパートナーで150人を超えるスタッフ——と膨れあがっても，依然としてアトリエ的な作風を保持できるこのK.P.F.の強みは，何といってもW.ペダーソンのデザイン力と他のパートナーの協力姿勢であり，それら全体を統括するE.コーンのリーダー・シップを要としたチーム・ワークの良さはまだ当分，この組織の躍進が続くことを予感させるに十分である．

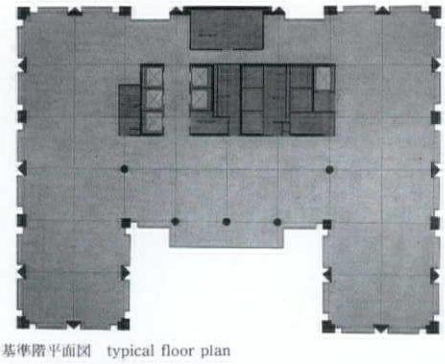
●ほりいけ・ひでと／建築家

Third National Bank

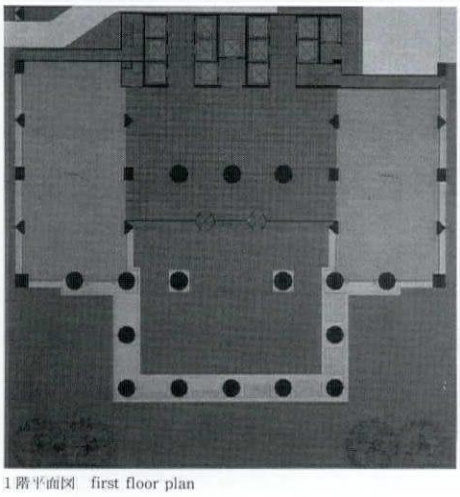
Nashville
Tennessee
U.S.A.

第三
ナショナル銀行
［プロジェクト］

K.P.F.の中でアーサー・メイがデザインを担当すると，ネオ・クラシカルな臭いが強くなってくる．　この建物はナッシュヴィルに計画中の第三ナショナル銀行のビルであるが，一部既存建物をとり込むためにU字型の平面が採用されている．　ボルティコの部分にはギリシア様式が多いナッシュヴィルに対応してグリーク・リヴァイヴァルが登場している．　ネオ・クラシックといっても，幾何学主義と，シンケルに見られる多様式性がわずかに顔をのぞかせる程度で終っているのは，こうした都市的状況の中で彼らがコンテクストを優先させるほうに重点をおいたからであろう．　ここでいうコンテクストとは彼らのいうフィジカル・コンテクストを意味している．



基準階平面図　typical floor plan



1階平面図　first floor plan

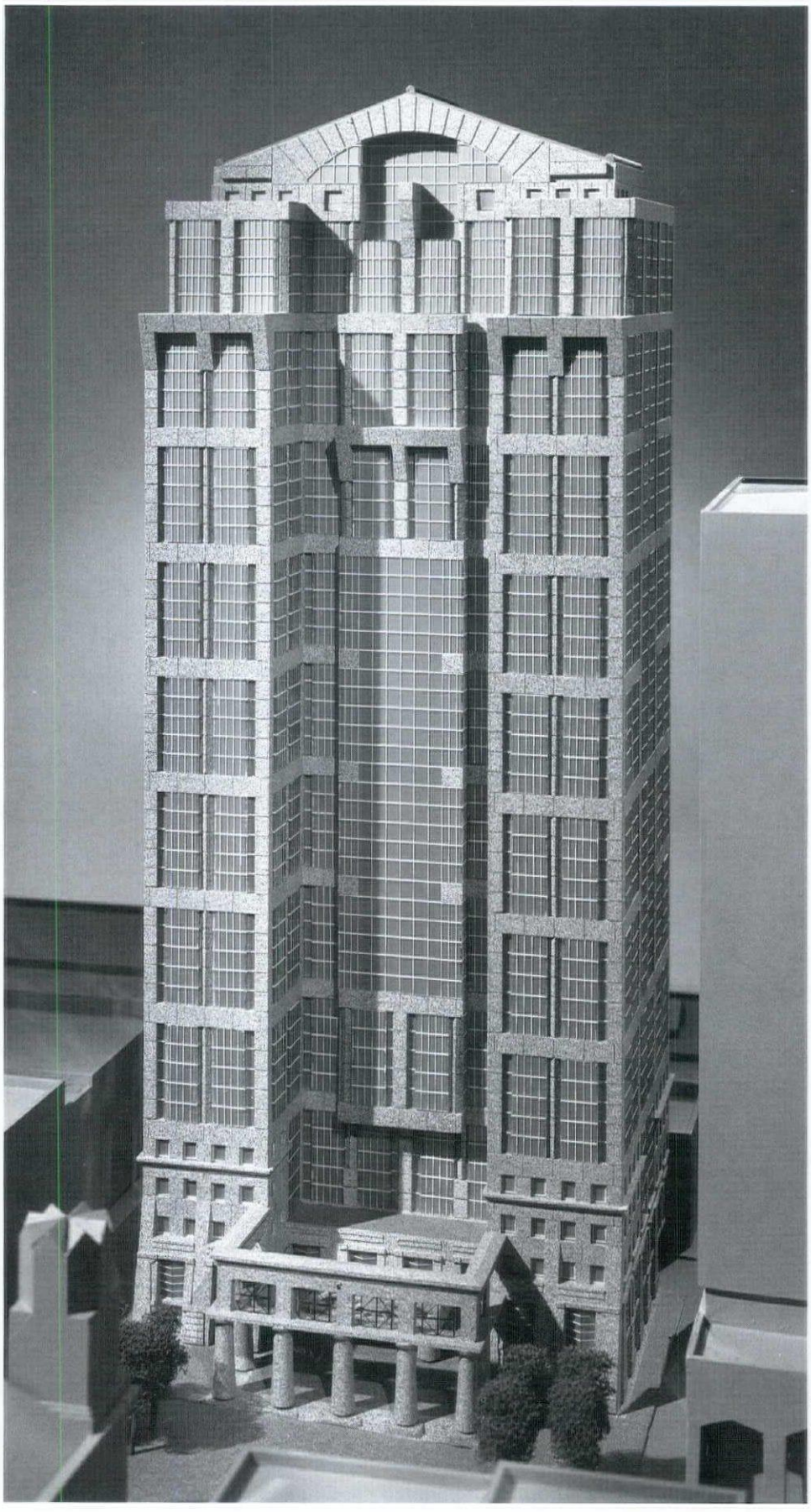
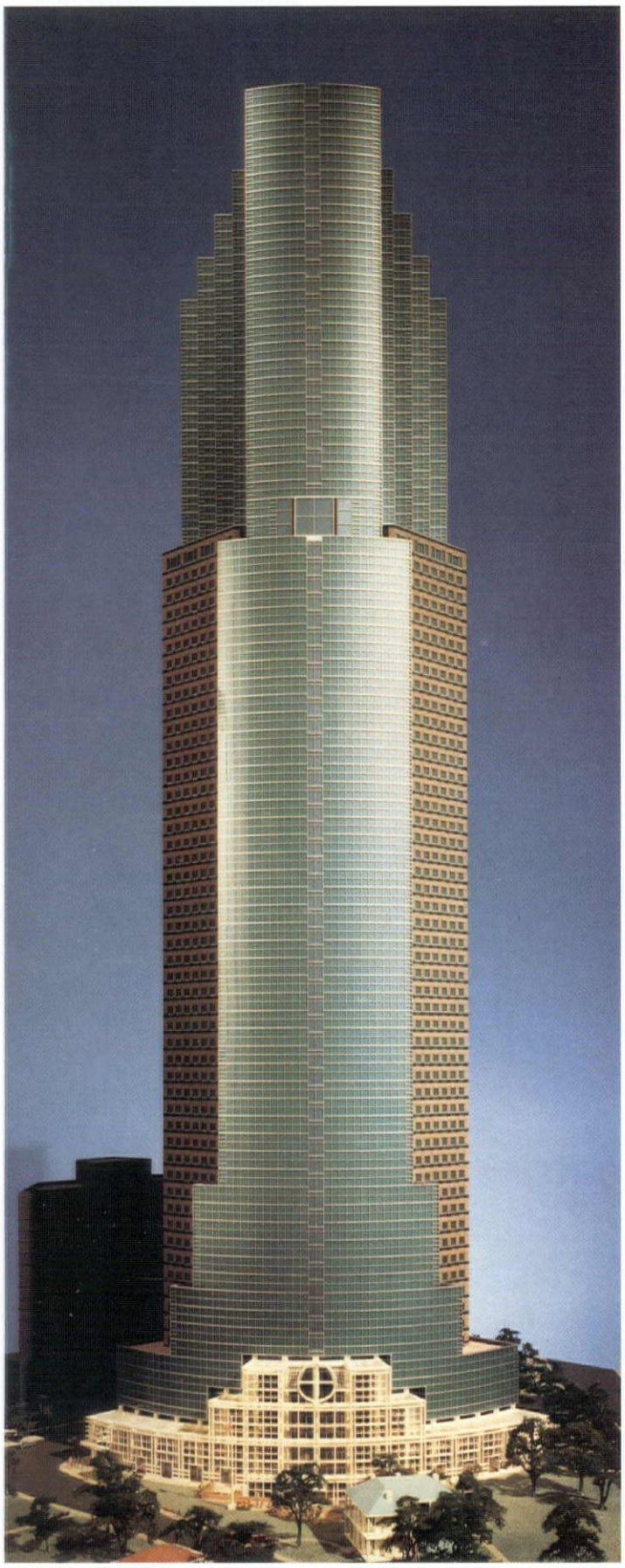


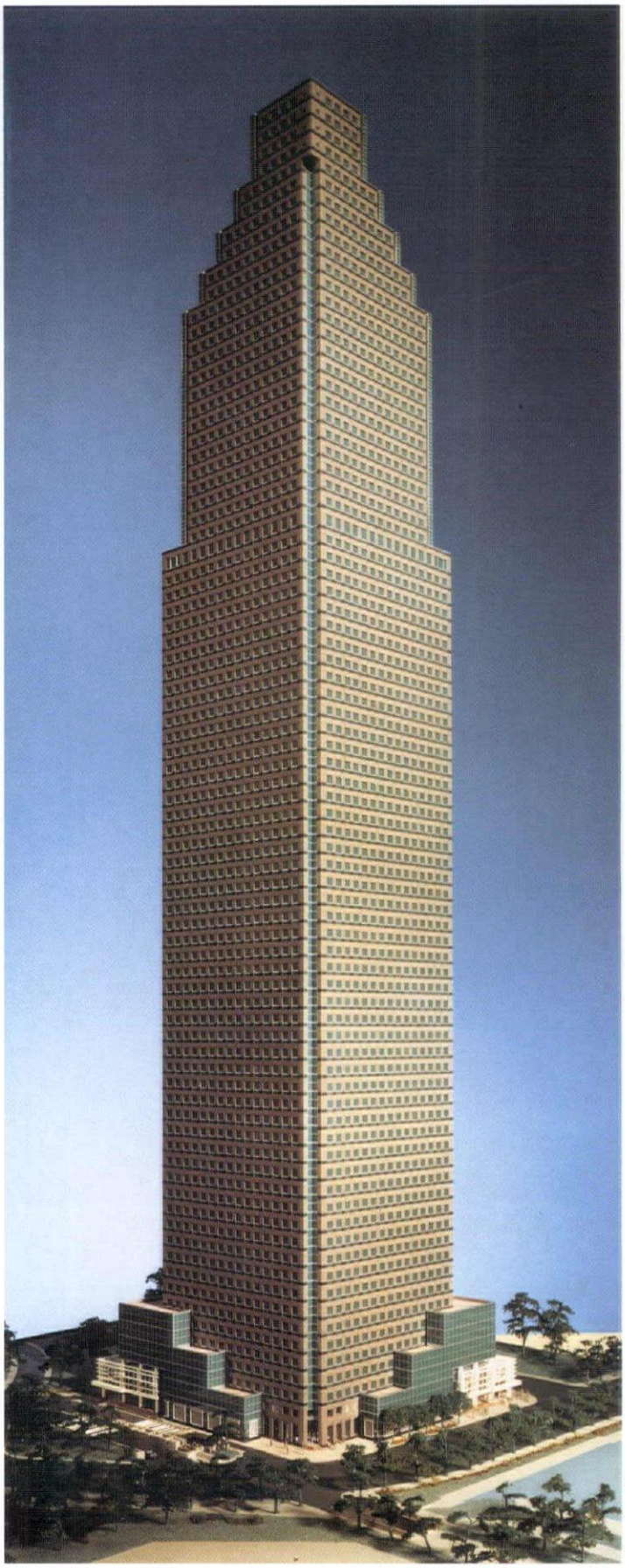
photo:Dan Cornish

Houston Office Tower

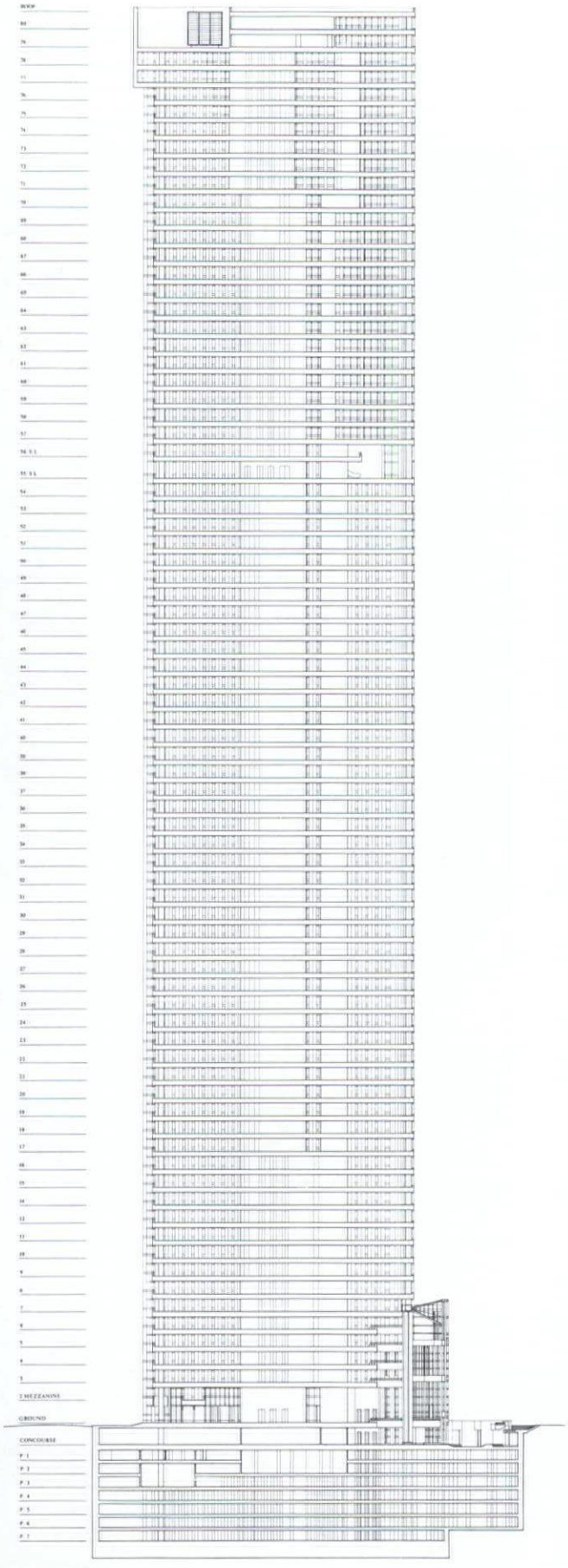
Houston
Texas
U.S.A.

ヒューストン
オフィス・タワー
［プロジェクト］

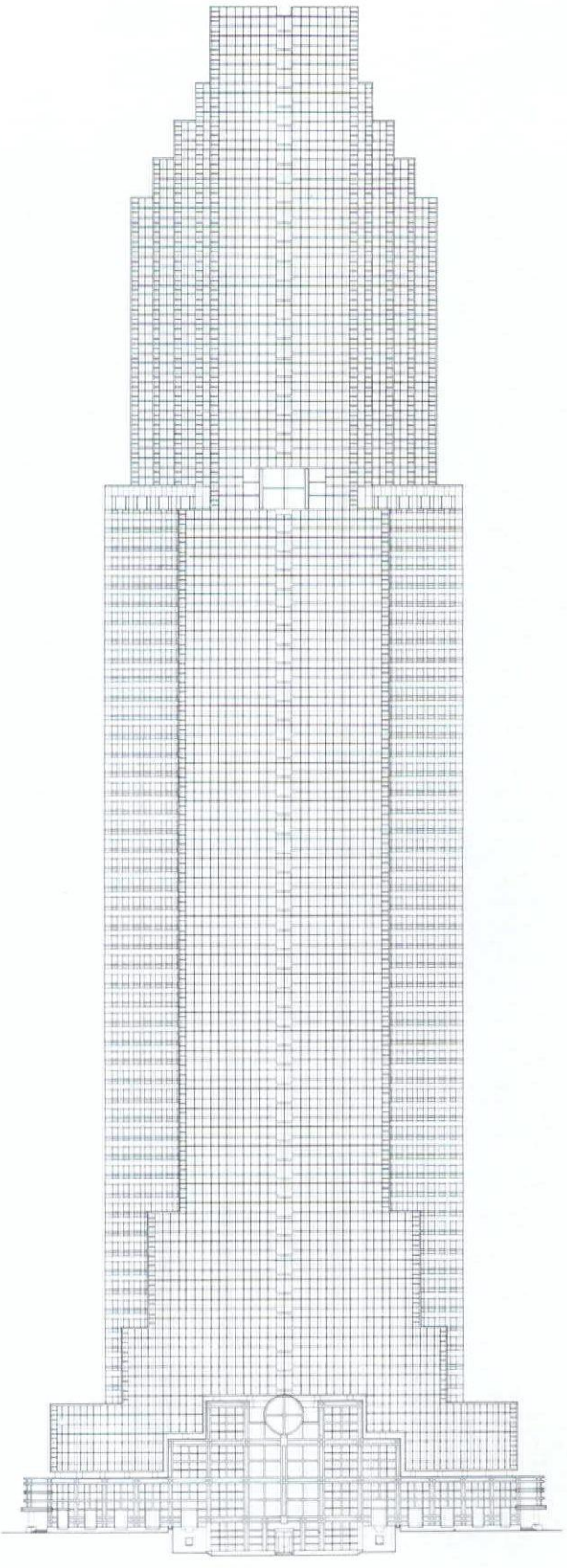




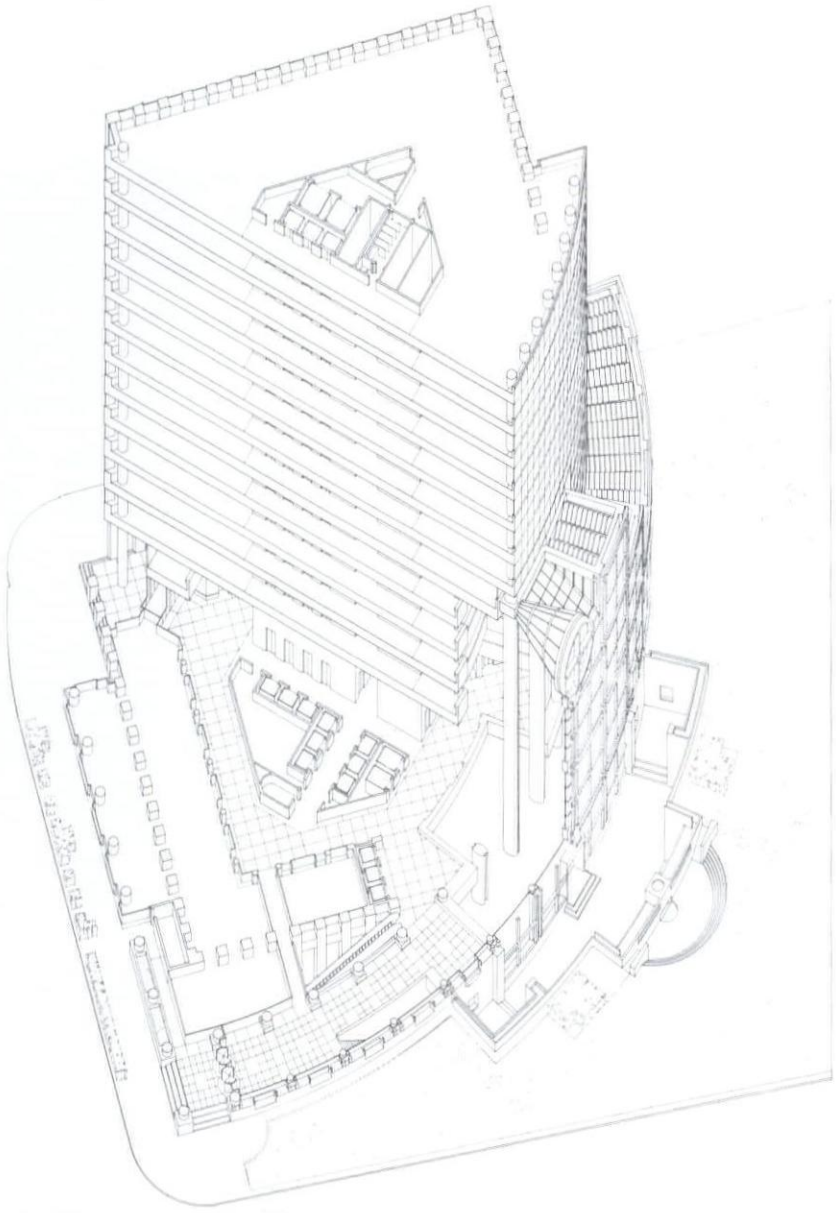
photos:Jack Horner



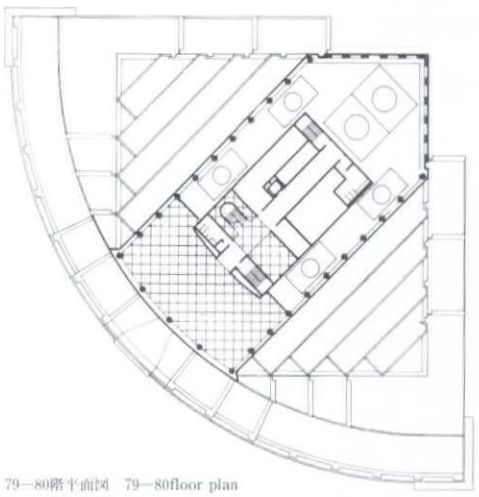
断面図　section



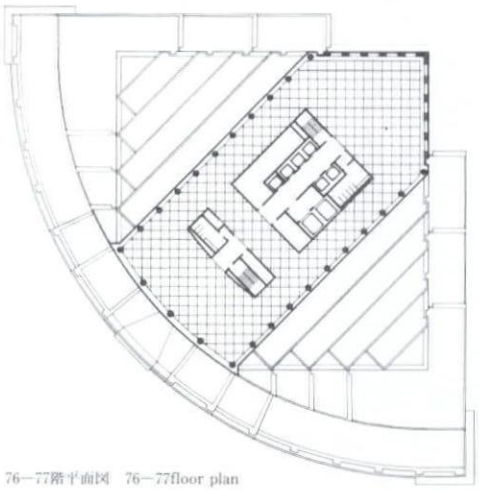
北立面図　north elevation



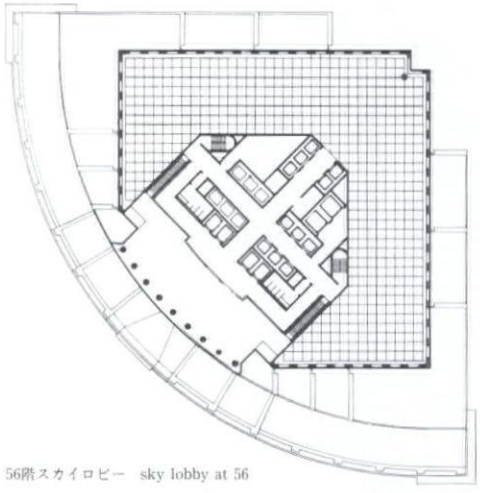
1階ロビーアクソメ　axonometric of lobby



79—80階平面図　79—80floor plan



76—77階平面図　76—77floor plan



56階スカイロビー　sky lobby at 56

彼らの超高層建築に対するロマンを典型的にもの語るプロジェクトである。　今や近代的な高層建築の無味乾燥な展示場と化してしまったヒューストンの景観は，見ようによってはエネルギーの無意味な消費（コンサンプション）の形骸化された墓石（トゥーム・ストーン）群にも見えてしまう。　それらのモダン・デザインによる超高層建築群に対するアイロニーがこの建物には込められている。　彼らが大切にするコンテクスチュアリズムのためか，ガラスのカーテン・ウォールというモダン・デザインの手法によって，周囲の建物にレスポンスさせておきながら，背後では，それが破裂したような表現になっているのがそれである。そして，超高層に寄せる彼らの夢が，高くなるほどセットバックするジグラットの形態と三層構成により謳歌されている。　もはや，彼らにとっては，頂部・軸部・基部の三層構成は超高層建築を成立させるためには欠くことのできない形式概念と把えられているかに見える。



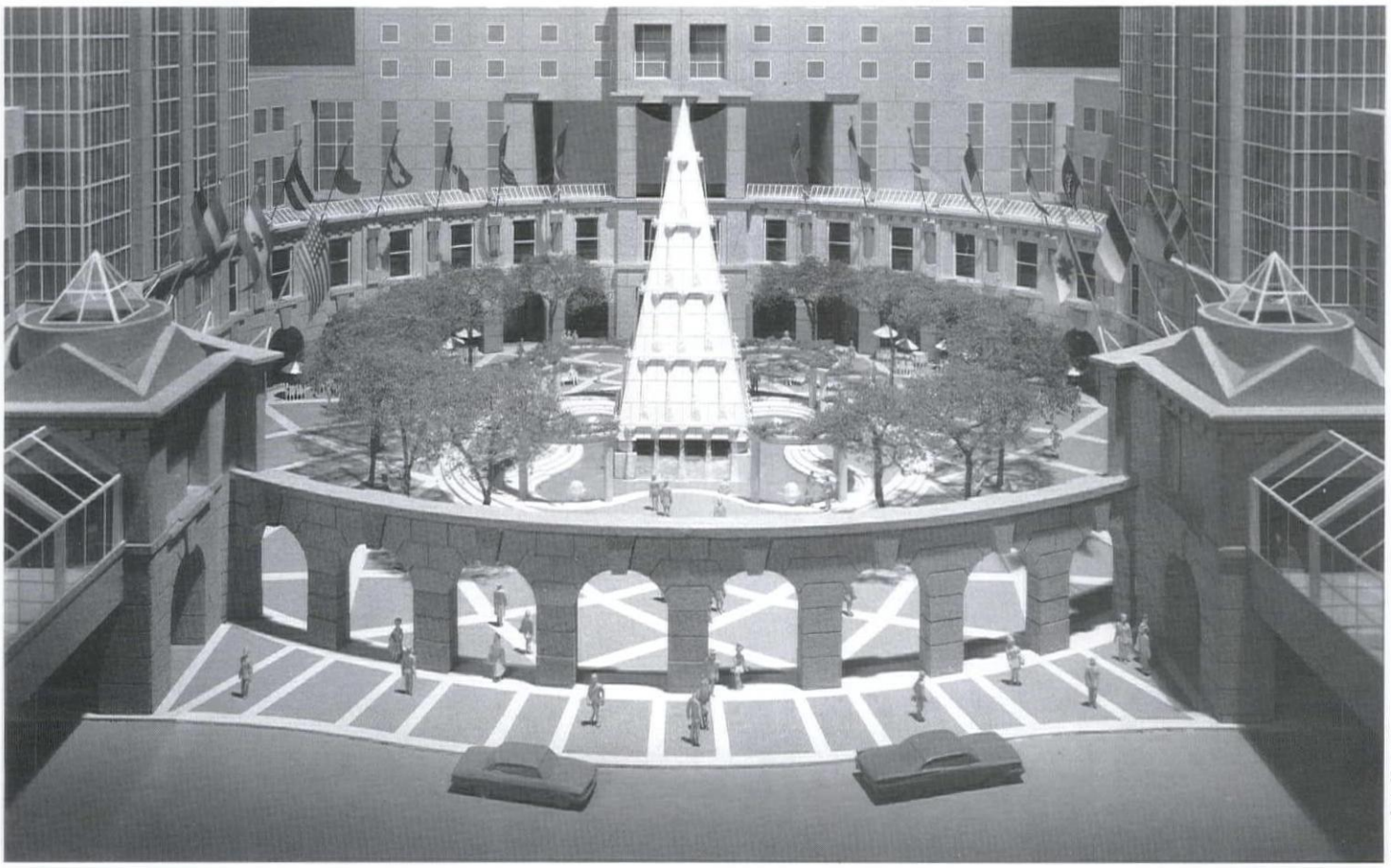
photo Jack Horner

Park Center Calgary

Calgary
Alberta
Canada

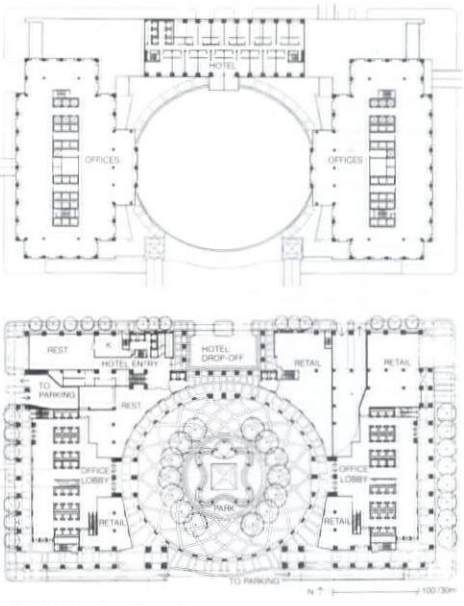
パーク・センター
［計画進行中］





photos/Jack Horner





1階平面図　first floor plan

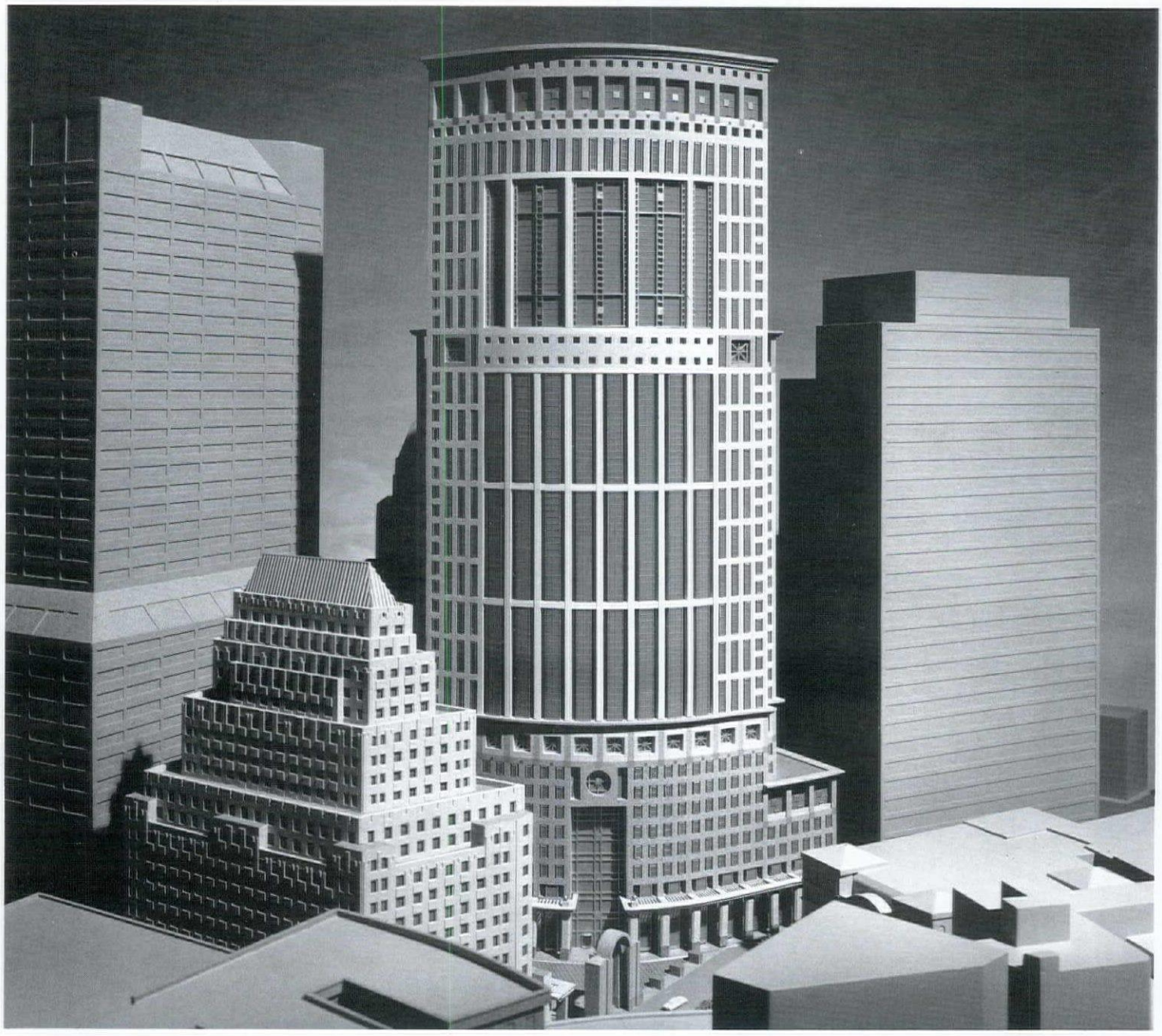
カナダのカルガリー市に計画されたコンプレックスである．シンメトリーを強調しながら，それぞれの建物（マッス）の高さを変えてあるのは，今後急速な発展が見込まれるカルガリー市の各発展段階のスカイラインの状況にレスポンスできるようにと意図されたからである．

都市のゲートを意識した両翼部の高層棟と中央棟の立面においては石とガラスを反転しながら対比的に用い，全体を構成している多種多様な言語の混成と併せて，歴史的言語と現代的言語の対決図式を引き出している．そして，仕上材のブレンドによって全体の統一感をねらうと共に，ルドゥにならった形態統辞にもその狙いが期待されていよう．

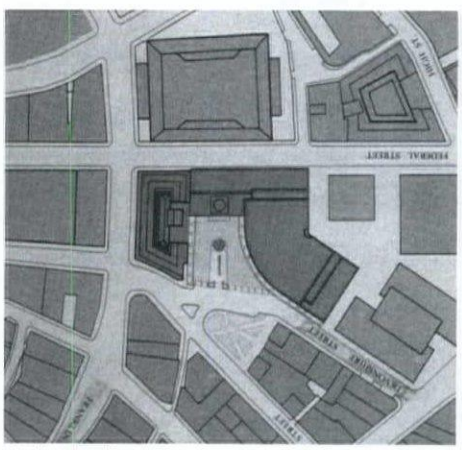
75 Federal Street Building

Boston
Mass.
U. S. A.

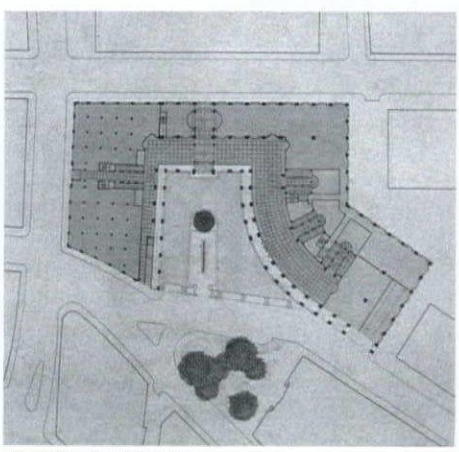
75フェデラル
ストリート・ビル
［プロジェクト］



ボストンの金融街に建つオフィス・ビルのプロジェクトである。　歴史のある街ボストンにあって，近代建築が集まってしまっているこの地区に，もう一度歴史的な文脈をもち込もうという企図（プログラム）であり，初期の彼らの作品に見られた石のフレームによるファサードの分割などの手法が再び用いられ，古典趣味を強く出そうとしている。　細かくは，この地にあった19世紀終りのランドマークを思い起こさせる突き出たモールディングや軒蛇腹（コーニス）をデザインすることにより，記憶の再現を試みている。　そして，ここでも周囲の建物の高さとのコンテクストを意識しながら，立面を分割し古典的な三層構成を表現（マニフェスト）させている。



配置図　site plan

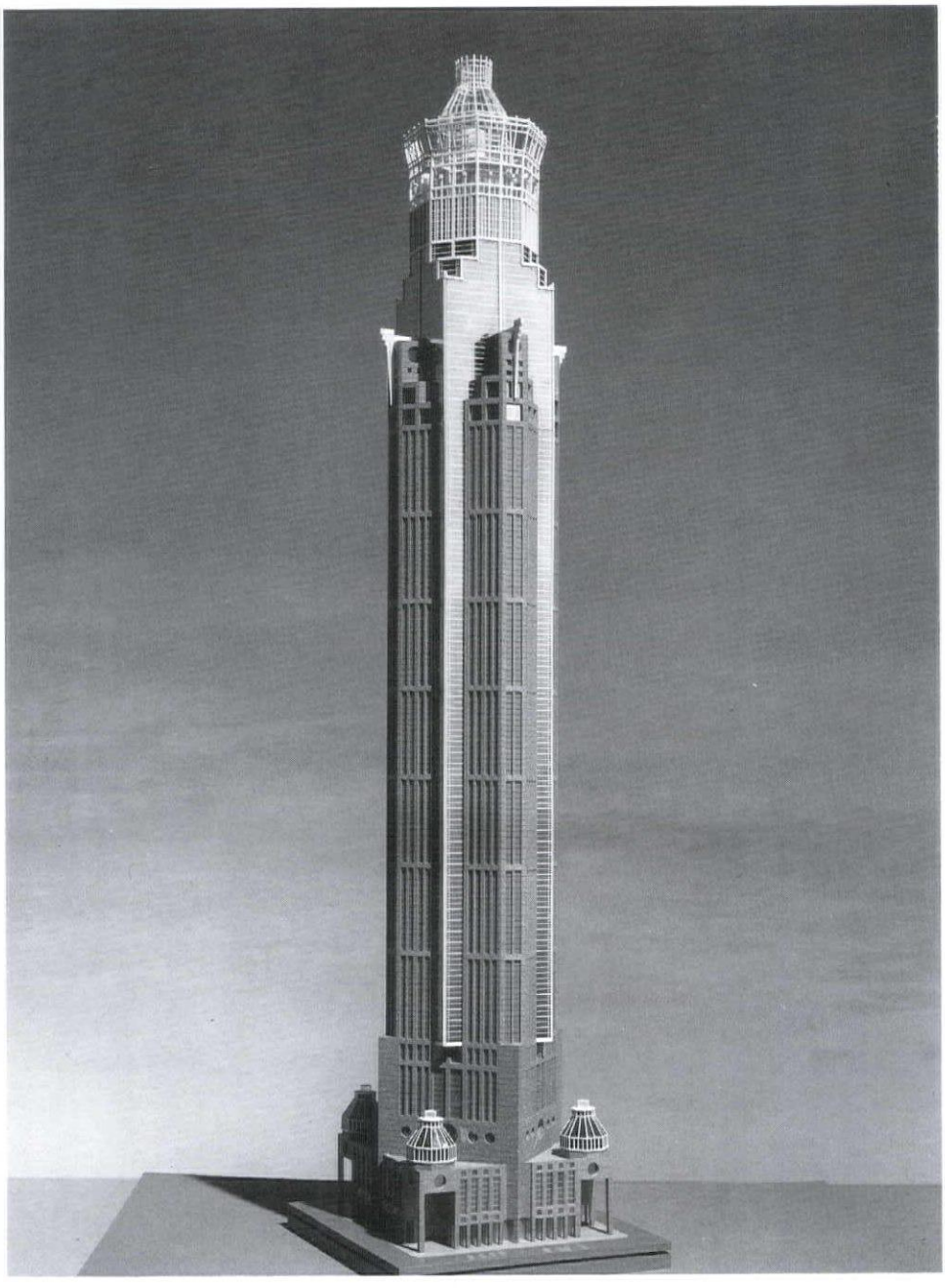


1階平面図　first floor plan

Bank of the Southwest

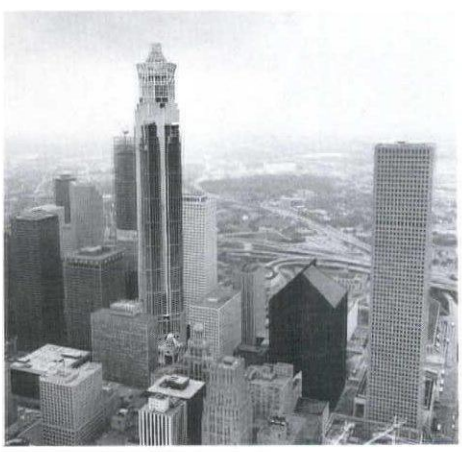
Houston
Texas
U. S. A.

ヒューストン
サウスウエスト銀行
［コンペティション］



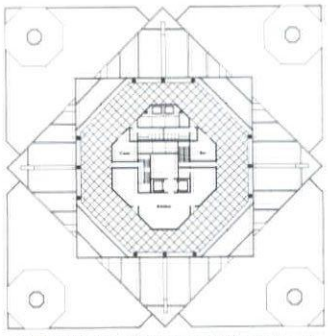
photos:Jack Horner

ヒューストンの都市組織を背景に敷地や周囲に対しての文脈を意識しながら，つまり都市建築としての資質を付与しながら成立することが目論まれた超高層建築である．ここでは歴史的に超高層が持ち得てきた形式をスタディする中から，三層構成がしかもそれぞれの部分（基部・軸部・頂部）をアイデンティファイできるように配慮されながら提案されている．超高層建築の与える巨大さを回避させるために，立面構成上でグレインを小さくする方法が採られ，同時にこれが装飾性を付与することに役立ち，単調で退屈な建物となることを避けている．モダニズム建築が横行するヒューストンに対して，彼らが投げかけたアメリカン・アール・デコのメッセージである．

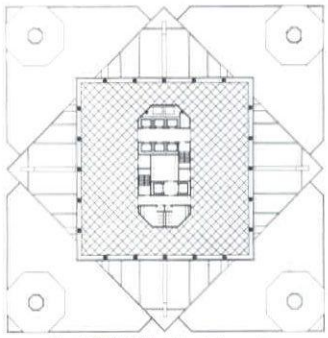




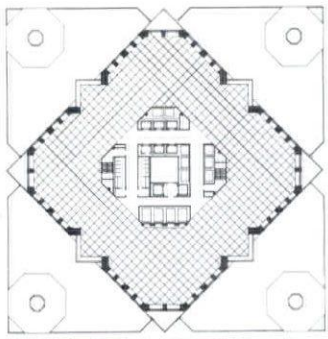
レストラン・展望階平面図



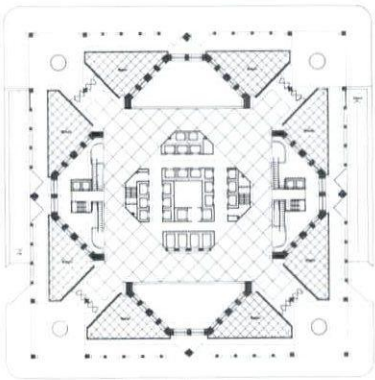
restaurant and observation deck at 91—92



79—82階平面図　79—82floor plan



20—32階平面図　20—32typical floor plan



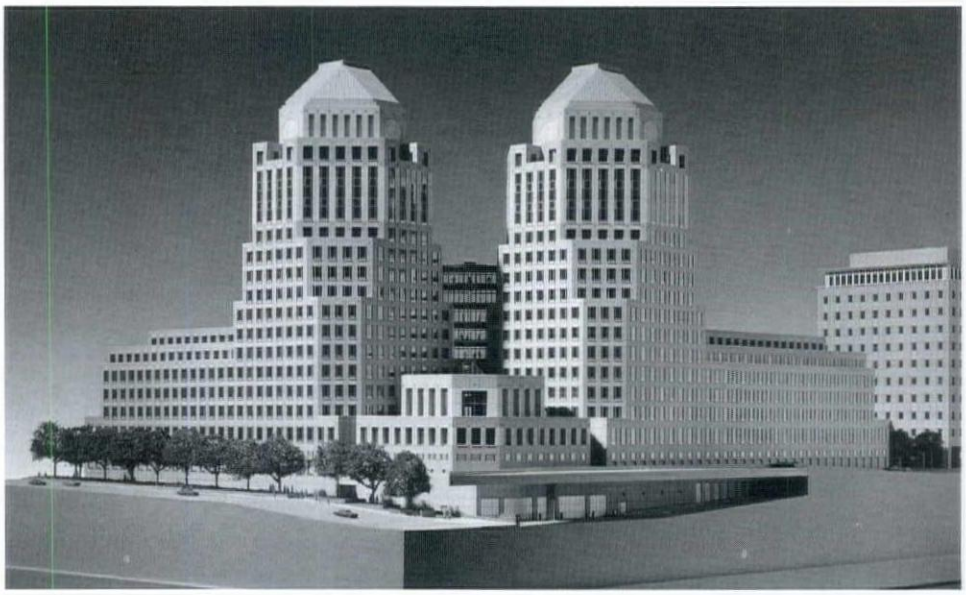
1階平面図　first floor plan

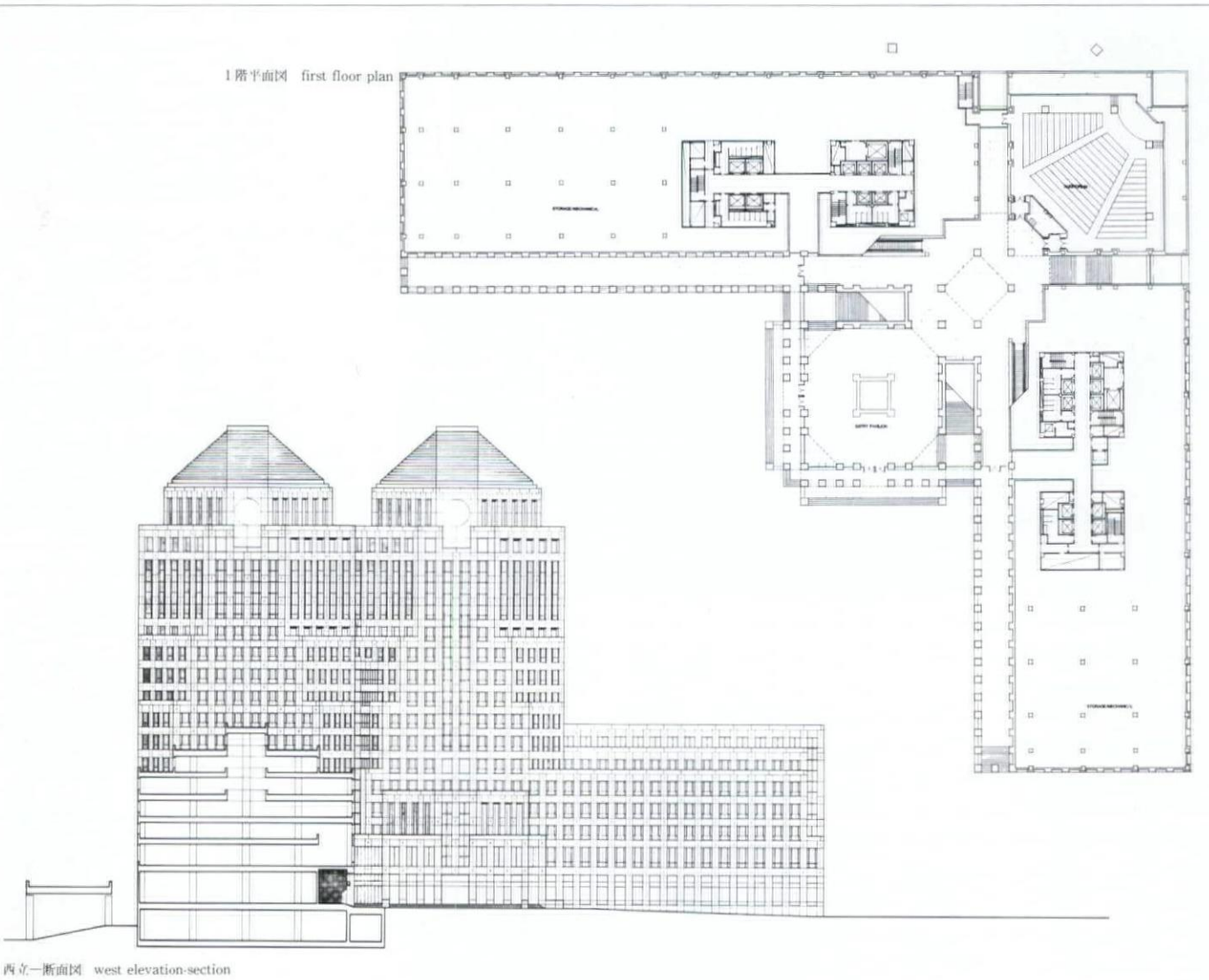
Procter & Gamble World Headquarters

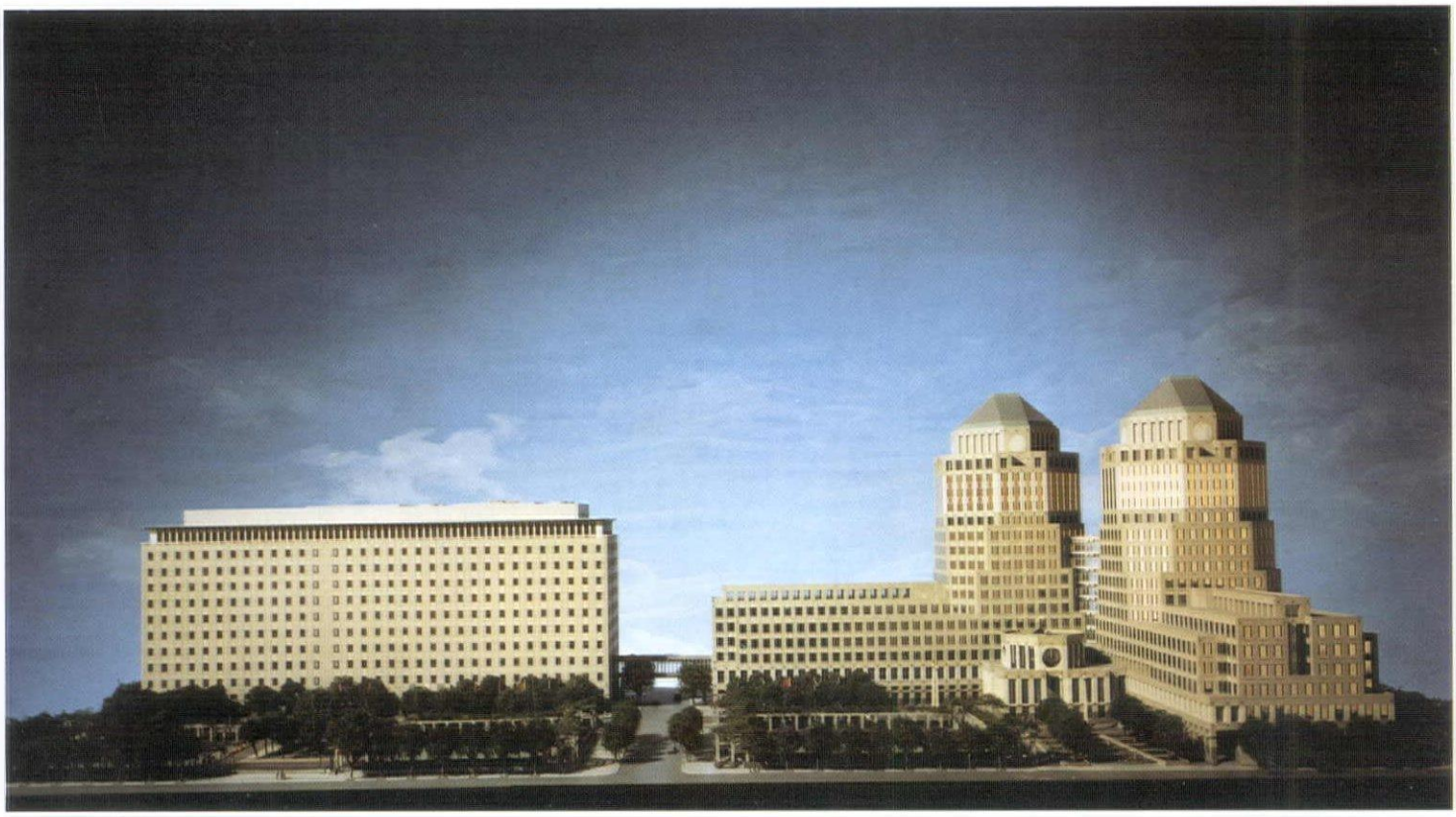
Cincinnati
Ohio
U. S. A.

プロクター・アンド・ギャンブル
本社ビル
［建設中］

アール・デコが台頭していた時代のシンシナティのスカイラインにもう一度戻そう，という願いを込めて計画されたプロクター・アンド・ギャンブル本社のプロジェクトである．　全体をアール・デコに味つけされたこの建物は批評家のP．ゴールドバーガーにより，1920年代のクラシシズム，つまりアール・デコを醒めた目で再現したプロジェクトと評され，さらに同氏はこの建物とM．グレイヴスによるフマナ・ビルとを並べ挙げ，ロマンティック・モダニズムと命名している．彼らはこの建物でも，御影石と大理石により，立面上での材料のブレンドという方法を採っている．　こうした方法は古典趣味であると同時に，彼らのやさしさの現れでもある．







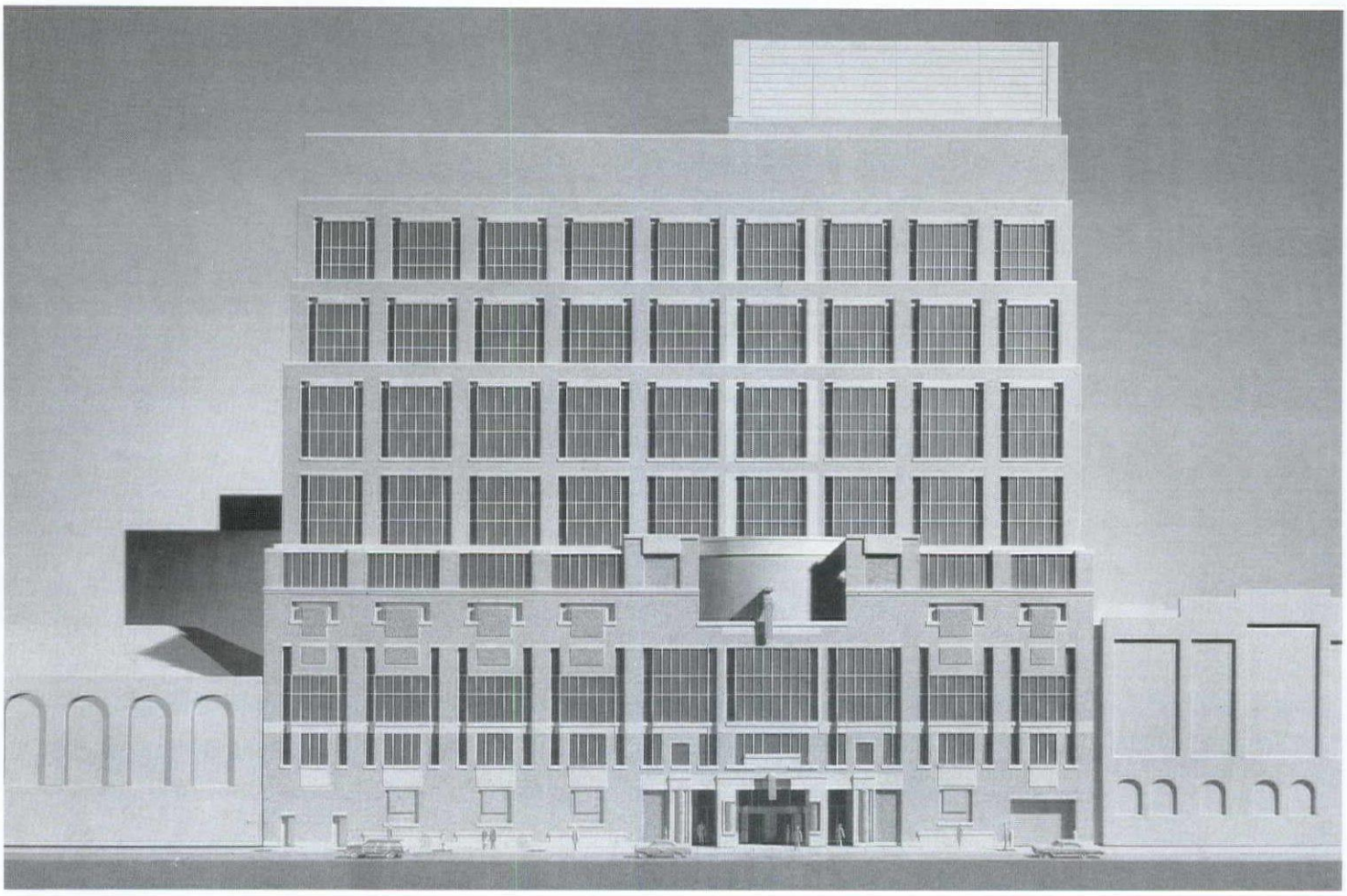


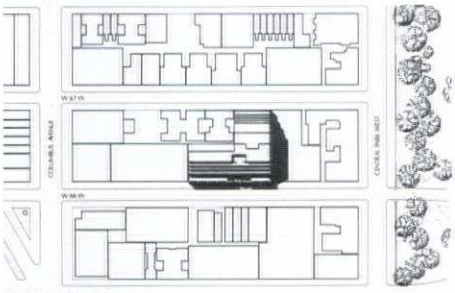
photos: Jack Horner

ABC Phase II

New York
N. Y.
U. S. A.

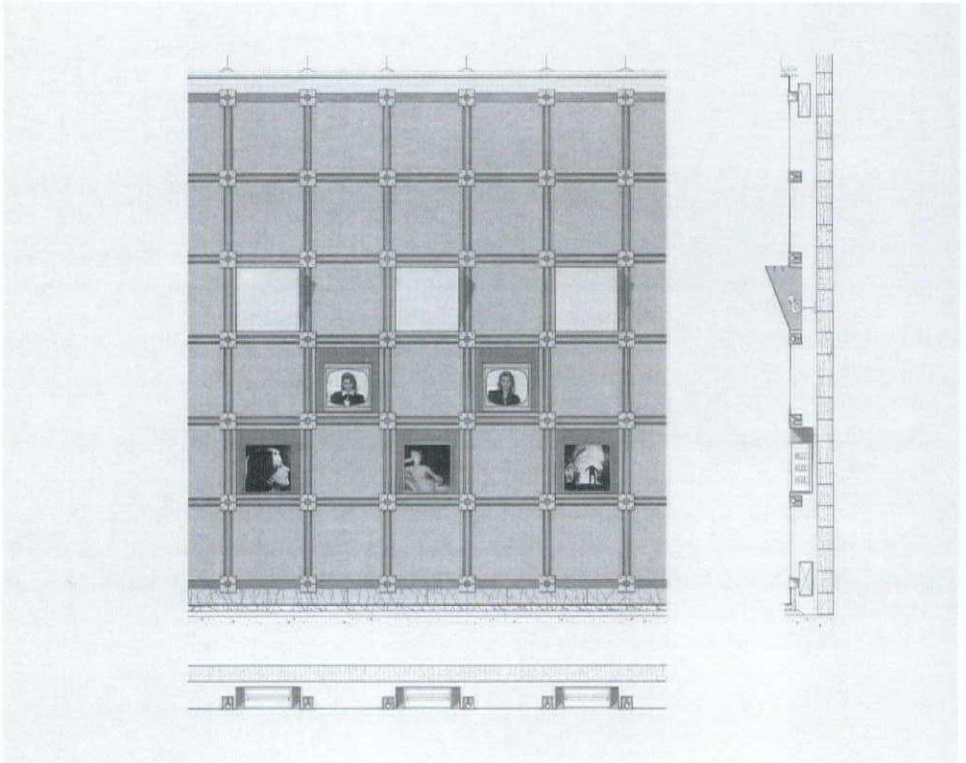
ＡＢＣ放送ビル
第II期
［建設中］





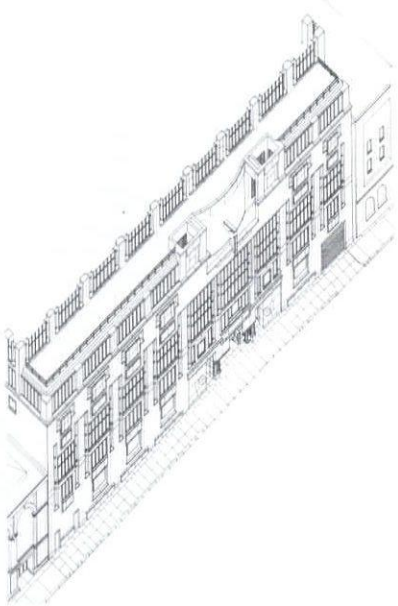
配置図　site plan

マンハッタンのＡＢＣ放送のための第二期プロジェクトである．　ここでは隣立する両側の建物に対して調停をはかることが試みられている．　左右の建物を読みながら，それらにスケールとグレインでレスポンスさせる形態操作による調停と併せて，レンガと御影石を立面上でブレンドさせるマチエール操作を行ない，両側の建物との馴じみをよくする調停が計画されている．　こうした町並みに対するオペレーションと並行しながら，計画建物に正面性（フロンタリティ）と個性（アイデンティティ）を付与することに配慮したコンテクスチュアリズムの香り高い設計といえよう．　そして，彼らの古典趣味はブレやルドゥといった幾何学主義のネオ・クラシシズムに，そのリファレンスの脈絡を見ることができるといえよう．

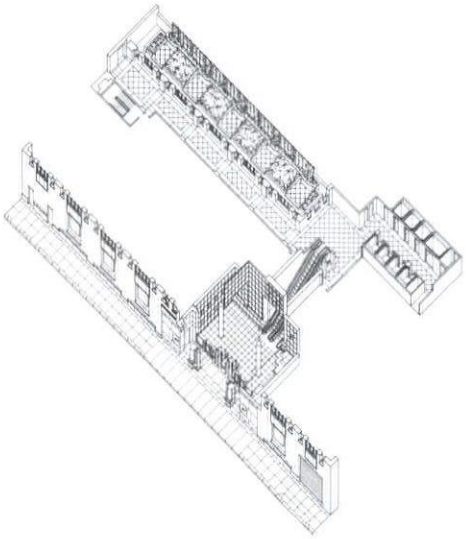


ロビー壁面詳細　lobby wall details

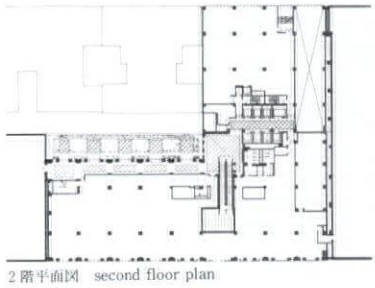
photos:Dan Cornish



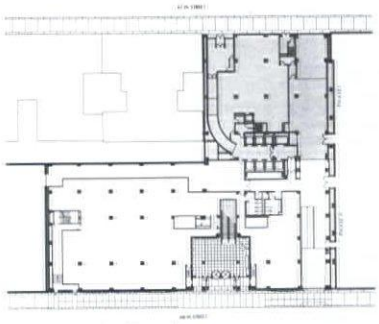
ファサード・アクソメ　facade axonometric



ロビー，ガーデン・テラス・アクソメ
lobby and garden terrace axonometric



2階平面図　second floor plan



1階平面図　first floor plan

One Logan Square

Philadelphia
Pa.
U.S.A.

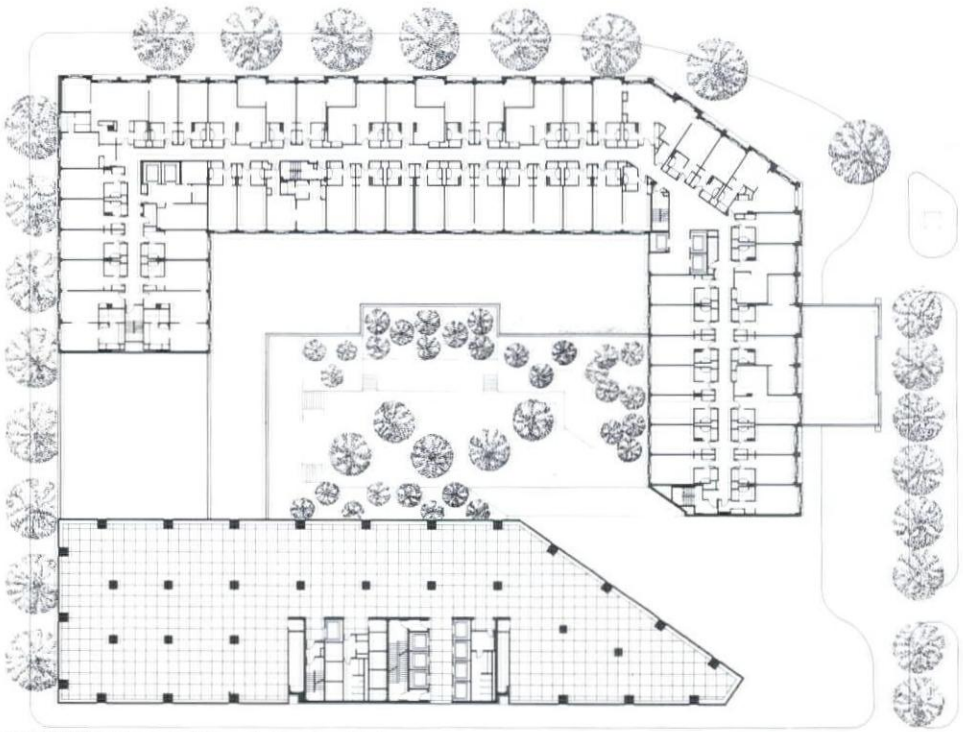
ワン・ローガン
スクウェア
[1983]



photo:Jack Pottle



読みとられたアーバン・ファブリックにレスポンスさせながら脈絡づけていくといった姿勢を堅持した作品であるが，彼らの最近のもう一つの顔である歴史主義への憧憬もうかがうことができる．　開口部まわりのディテールやプロポーションのとらえかたにカーンやハーバード・スクールを感じさせながら，幾層ものフェーズをレイヤードさせている……，こうした芸当ができるのも彼らのソフィスティケイトされた感覚がなせる技であろう．　そして，こうした手続きにより建物表層に深みを与えていくあたりに彼らなりの歴史主義の展開をみてとることができるのである．　ヴォリュームやプロポーションといった基本的な操作指標を熱心に討議する彼らが，その技量にものをいわせながらコンテクスチュアリーとクラシシズムに対して強烈に発言した作品の一つである．　（解説＝堀池秀人）



低層棟基準階平面図　typical floor plan(low-rise office)

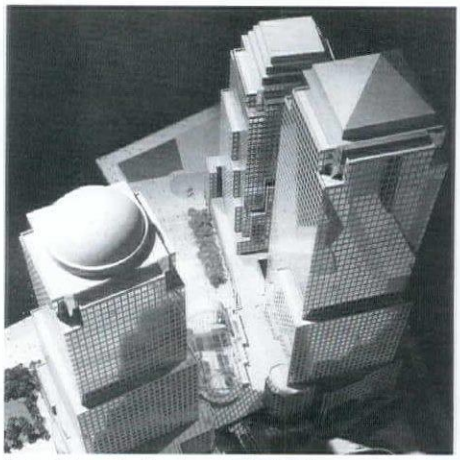


photos:Norman McGrath

表層の中のクラシシズム

■

團 紀彦



①バッテリー・パーク，ニューヨーク／C.ペリ

1980年を前後して，高層ビルを中心とする大型のアメリカの現代建築は，一つの転換期を迎えたといってよい．　1940年代から着実にアメリカの社会に定着していったミース的な方法に対して，ネオ・クラシシズムの波が押し寄せて来たからである．　この新しい流れも，住宅建築のレベルではすでに1970年代から模索され始めていたわけであるが，高層建築にまで，浸透し始めたのは，1980年代に入ってからと考えることが出来る．K.P.F.の一連の作品群が，このネオ・クラシシズムの高層建築への援用を強く示していることは明らかなことであるが，一方この現象は特にK.P.F.に限ったものというわけではなく，P.ジョンソンのＡＴ＆Ｔビルや，C.ペリのバッテリー・パークのプロジェクト①，さらにはH.ヤーンのワン・サウス・ワッカー②やK.ローチのワン・ユナイテッド・ネイションズ・プラザなどの中にも顕著に見ることのできる全体的な傾向なのである．

しかしここで興味深いのは，このような流れを支える彼らのほとんどが，ミース的な教育の中で育った者たちであり，鉄とガラスのモダニズム的な〈スキン〉を発展させながら，一時は頻繁にそれらを駆使していたという点である．　そして彼らは，自らの建築表現が，ネオ・クラシシズムに傾斜しつつある今もなお，引き続き〈スキン〉に対する特別な執着を失ってはいないのである．　シカゴの333ワッカー・ドライヴ③の基部の表現は，石材を使っていながらも本来の重みは無く，むしろことさらに薄い紙のような表現に抑えられることによって，湾曲したミラー・ガラスの〈スキン〉と溶け合っている．　またアルバータのパーク・センター④(→p.38)では，双塔の表層表現の中で，二種類の異なった〈スキン〉を重ね合わせており，あたかも，モダンな肌の上にクラシカルな衣を薄く纏っているように見える．　このような姿勢は，ハーキュールズ本社ビル⑤の表層の割り付けのディテールの中にも色濃く現われており，二つのスキンのモデュールを一致させていることからも，両者を同一のレベルで把えていることが理解される．

K.P.F.の作品はこのように〈スキンとコア〉の方法，さらには〈ユニヴァーサル・スペース〉といったミース的な概念を引き続き踏襲しており，この意味では，生地の種類が変わっただけで，その纏い方は変わっていないとさえ言いうるかもしれない．　しかし一方では，古典的な表層は本来，現代のニュートラルなスキンとは全く別のオーダーに従っており，必然的に建物の構成もそれに合ったものを持たなければならないという問題に直面するのである．　本来ミースの場合などは，マリオンを，スパンドレルの手前にピッチをつめて配列させることで，垂直性を高めようとしたが，その後の世代では，スパンドレルの巾は非常に細く，マリオンと区別がつかなくなるまでになり，ミラー・ガラスの併用とともに，スキンのイメージは極めてニュートラルなものとなった．　つまり，垂直方向と水平方向の方向性を全く消し去ることが可能となった．　これに対して古典的な表層は，単に石材の壁からタテ長の窓を打ち抜けば良いというだけではなく，上端部はコーニスによ

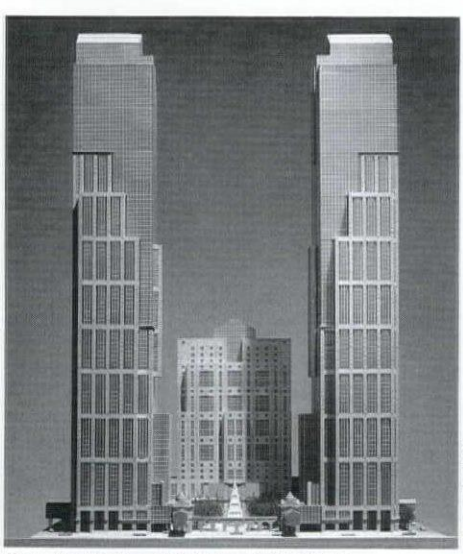


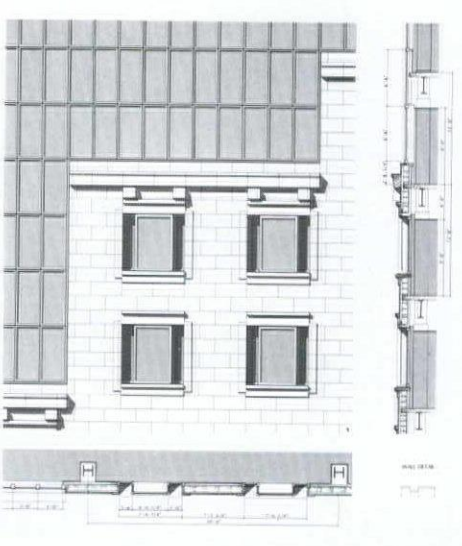
photo : Jack Horner

④パーク・センター，カルガリー，カナダ／K.P.F.



photo : Norman McGrath

⑤ハーキュールズ本社ビル，ウィルミントン／K.P.F.



⑤ハーキュールズ本社ビルのディテール



②ワン・サウス・ワッカー，シカゴ／H.ヤーン

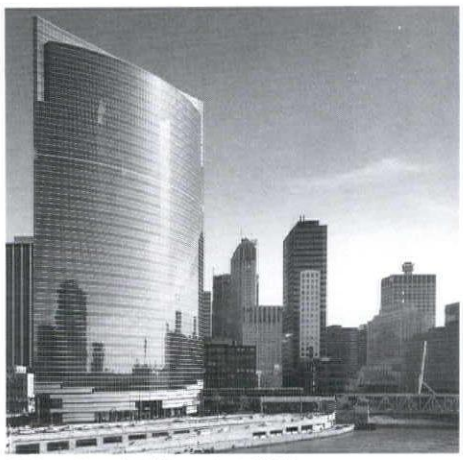
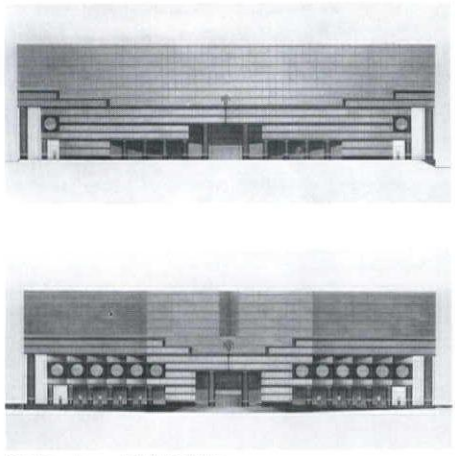


photo : Barbara Kavanl

③333ワッカー・ドライヴ，シカゴ／K.P.F.



③333ワッカー・ドライヴの基部

って押さえ，全体的には，三層構成といった特有のシンタクスに基づいて構成されなければならないといった様式上の制約を受けるのである。　アルバータのパーク・センターの双塔の立面も，上層部のニュートラルなスキンの中に古典的な表層が融合するように意図されており，階段状に立ち上がる石材の表層は，唐突な並列を避けるために，中央の部分よりもやや古典性を弱められた表現となっている。　ここでは耐力壁からタテ長の大窓を打ち抜いた古典的な色彩の強い壁面ともとれるし，また構造体を外部にむき出しにしたモダニズム的表現ともとれるように，様式上の操作がなされている。　階段状に立ち上がるこの表層の上部に，ほんの申しわけ程度のコーニスが載っているのもこのような古典と現代の間の様式上のゲームを物語っている。

ボストンの75フェデラル・ストリート・ビル計画案⑥（→p.40）は，湾曲した立面がモダニズム的な〈スキン〉の概念をそれとなく連想させるものの，上端部をコーニスで押さえながら，基部を重厚な表現とするなど古典的な操作性がみられ，他の作品と比べて折衷主義的な傾向は弱まっている。　K.P.F.における現代のネオ・クラシシズムが，1920年代のアメリカの初期の高層建築のクラシシズムと根本的に違う点は，立面の平面性を強調しながらも，〈ファサード〉としてではなく，〈スキン〉として把えている点にあると同時に，マッシヴな重量感といったクラシシズム特有な表現が見られないという点に集約されるように思う。　ここにミースの世代によって隔てられた二つの時代の本質的な差異があらわれているのである。

1922年のシカゴ・トリビューン社屋の設計競技のなかで，今日のわれわれの目から見て最も斬新な提案をしたのは，総てヨーロッパの建築家たちであった。　B.タウトの案⑦は，やわらかい〈スキン〉を予側していたし，W.グロピウスもまた，シカゴ派の最も先端的な技術をとり入れた新しい考え方を示していた⑧。しかしほとんど総てのアメリカ人の建築家達がボザール的で折衷主義的な案⑨を提示したのは，必ずしも彼らが合理主義的な考え方に無頓着であったからではない。　すでに19世紀の終り頃には，高層ビルに対する斬新で合理的な解決を示したシカゴ派の建築を見ていたのであり，むしろそれに対する反動が，クラシシズムの巻き返しとなって現れていた時期であったからなのだ。　グロピウスのシカゴ・トリビューン案が，シカゴ派に対する理解を示したために〈流行おくれ〉という理由で落選したのも，皮肉なことではあるが，決して不思議なことではない。

現在のアメリカの高層建築も，今まさにこれと類似した状況に立たされているように思う。　歴史がファッションとしての付加価値を持つアメリカ特有の状況のもとでは，古典的な衣を身に纏うことが，より新鮮な行為なのであり，それがファッションとしてのみ止まるか否かは，衣の向う側にあるものがどれだけ変貌を遂げうるかどうかにかかっているのではなかろうか。

●だん・のりひこ／建築家

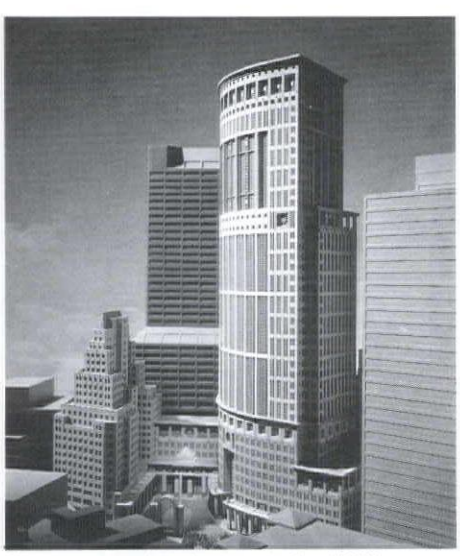
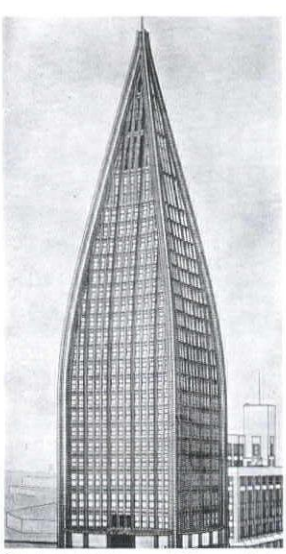
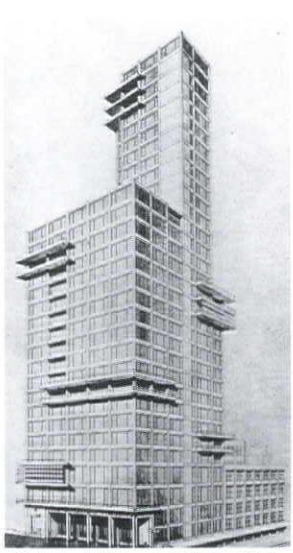


photo : Jack Horner

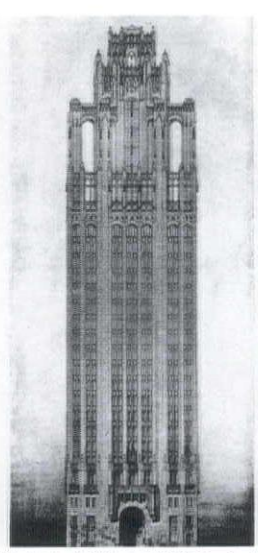
⑥75フェデラル・ストリート・ビル，ボストン／K.P.F.



⑦シカゴ・トリビューン社屋コンペ案／B.タウト



⑧シカゴ・トリビューン社屋コンペ案／W.グロピウス



⑨シカゴ・トリビューン社屋コンペ一等案／フッド&ホーウェル

紙一重でイノヴェーター

■

六鹿正治

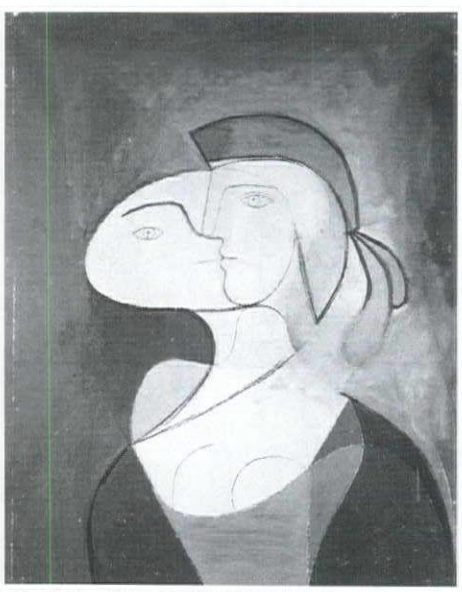
いま，アメリカの建築界では，オフィスビル・デザインの話題を中心に全体が展開しているかのごとき観がある．　1970年代後半を吹き荒れたポスト・モダニズムの嵐が，勢いを減じるどころか，ますます尖鋭的傾向を示し，目新しい形態のオフィスビルがつぎつぎと生み出され，あたかも百花撩乱のごときありさまを呈しているからである．

フィリップ・ジョンソンの活動がまず注目の的となり，次いでシカゴのヘルムート・ヤーンが新しいスターとして一躍脚光を浴び，そしていま，慧星のごとく現れたK.P.F.が，まぶしい光を放ちはじめているのである．

ＰＡ誌のジム・マーフィー氏によると，K.P.F.の実践哲学は次の２点に集約される．
１．設計は施主のサーヴィスを旨とするプロフェッションであり，優れたデザインの提供，予算の尊重，与条件の熟知は絶対条件である．
２．デザインは，その建物を取り巻く環境等の諸条件，すなわちコンテクストから手がかりを得て取り組むものである．

前者は全く当然のことではあるが，何があっても絶対に守ろうとするところが，事務所運営の要諦であり，きわめて短期間に信頼を獲得して，目を見張る施主リストを持ちうるに至る基礎条件となる．　その具体的やり方にも特色があるのだが，ここでの関心は事務所運営法よりもプロダクトにあるのだとすれば，後者においてこそK.P.F.の独自性が発揮されていることに何よりも目がひかれる．

すなわち，その建物をとりまく時間的・空間的・環境的諸条件をコンテクストとして，そこから抽出された様々なイメージの断片を集合させ，コラージュ風にひとつの建物のデザインにまとめあげていくという方法である．その結果できあがった建物は，一目見ればわかるように，石造風の壁と全面ガラスの壁の併存であったり，歴史的様式を想起させる装飾が散りばめられていたり，上中下・裏表の激しいコントラストであったり，あるいはふと，正面と横顔が同時にひとつの顔に描かれた，有名なピカソの絵を思い出させたりという，多様なイメージが巧みにコラージュされた，複雑な形態となる．　それは，現代のデザイン界の先端的傾向を反映するものではあっても，よく見ると，K.P.F.独特のものであり，決して範を外に求めた追従者的なものや亜流ではない．



マリーニテレーズ：正面と横顔／P.ピカソ

さて，時代の風潮を見事に反映するがゆえに，時代の勢いに乗って急成長しているK.P.F.の独自性に瞠目し，大きな興味を呼び起こされてはいるものの，それと同時に，私はいま，多少とも距離をおいて見ていようとする気分がいくばくか心の中にあることも否定できないでいる．　その理由を考えよう．

まず，K.P.F.は新しい形態をつくりつつあるイノヴェーターであることは疑いもない．そしてイノヴェーターが撒きちらす尖鋭的雰囲気は，つねに興奮を伴って極端な形で姿を現わす．　多くのイノヴェーターが一発花火で終わることもある中で，独自のスタイルを確立するほど連作に成功し，上昇気流にのっているのは，K.P.F.の力量の素晴しさを物語るものであろう．　ただ，イノヴェーターのデザインは少数派だからこそいいのであって，圧倒的に多数のモダニズムおよびそれ以前のビルの海の中でこそ，アクセントとして光りうるのである．　逆を考えればわかりやすい．現在のK.P.F.の作品のような建物ばかりでできた都心には，モダニズムのミニマリスティックな四角い箱こそが最も新鮮なイノヴェーターたりうるであろう．

また，コンテクストを読んで，イメージをコラージュすると言っても，333ワッカー・ドライヴなどは一個の建物としてのインテグリティが保たれている優れた例であるが，計画案や進行中のものの中には，人によっては，悪趣味，ハリウッドの書割り，チンドン屋等と罵しりかねない，紙一重のきわどさでかろうじて持ちこたえている風情のものがある．

それらをアメリカの大施主たちが喜んでいるのが現状であるとすれば，彼らの感覚の違いが実に興味深く思われてくる．　どうも，私にはほんとうに上等のものは，いかに豊かなものでも，ギラギラ露出させるのではなく，ほどよく抑制のきいたものであるべきだという価値感が，伝統的にわれわれの感覚の中にしみついているように感じられてしかたがない．　〈おくゆかしさ〉をめぐる美意識である．　いわんや，何十年かの間は少なくともスカイラインを支配し，企業イメージを支配する高層オフィスビルにおいておや，である．

かつて私は，本誌8301号に「思いが表層をすべっていってしまう取りつくしまのないモダンな箱よりも，思いが佇める手がかりのある，身ぶりのある建築が今，見なおされているのである．」と書いた．　K.P.F.の作品群を見ると，〈身ぶり〉などという生やさしい言葉など吹っ飛んでしまうほど，あっけらかんとしたものがある．　情緒の抑揚激しく，ゼスチュアたっぷりに，また饒舌に迫られる感じである．　私をかくのごとく悩ませるK.P.F.はやはり真のイノヴェーターなのだろうか．イノヴェーターには，そんなすべてが許されるから強いし，また面白いのかもしれない．

ロスアンゼルス・オリンピック開会式のアメリカの行進や演出と，日本選手団の行進のコントラストが二重写しになって，チラチラ脳裏をかすめることではある．

●ろくしか・まさはる／建築家，日本設計事務所

〔色〕

三輪正弘 建築家

いろ

8401——栗津潔
8402——金壽根
8403——村上静男
8404——宇佐美圭司
8405——早川邦彦
8406——川本恵子
8407——栗辻博
8408——村井修
8409——武井邦彦
8410——黒木靖夫
8411——三輪正弘

色のポリシー

数年前，東京の都バスの色が問題になった．　当時都内を徘徊するバスの中で目立ったのが，卵の黄味のボディーに濃い紅色の水平帯を走らせたもので，美濃部時代からの淡いブルー基調のダブル・トーンは次第に劣勢になりつつあった頃のはなしである．

オピニオン・リーダーやデザイナー達の意見は，いっせいにその彩色の劣悪さをついたものであり，やがてそれは，東京の風格や気風にそぐわないものであるといった空気をつくり，管理当局たる都交通局への批判につながっていった．

私自身も，《日経アーキテクチュア》のアート欄に，東京にながらく住んできたある老人の言葉を引き合いにして，かなりハッキリした意見を述べたものである．　その老人は，「暑苦しい色だネエ……」，といったのである．　日本人の長年使ってきた美質をうんぬんするときの言葉として，涼しげな色，さわやかな色に対して，暑苦しいというのは，かなり嫌悪すべき状態をあらわす言葉ではないだろうか．

その頃，あるジャーナリストの口から，都バスの色は，都の担当所管が勝手にきめたものらしい，という情報が伝えられた．それは，専門家に相談したものでないことを裏づけてきた，……という口ぶりであった．　さて，それからしばらくすると，デザイナーや画家を中心にした〈公共の色彩を考える会〉が，都バスの色彩キャンペーンに乗り出したことが新聞紙上であきらかにされ，そうこうするうちに，何種類かの試色車バスが走りはじめた．

そのなかから，現在の草色とミルキーホワイトと薄茶のスリートンのものが選ばれていったのである．　それは，いつの間にかきめられた，という感じで，決定のために何かメリハリのきいたイベントが催されるでもなかったのである．　ミス東京コンテストのように安っぽくさわぎ立てることもないだろうが，しかし，都民の心をかきたてる参加の意識をひきだすには，またとないチャンスではなかったかと思うのである．　やり方が下手なんだな，燃えないんだよネ，といつもの調子でおわってしまったような気がする．　選ばれた結果だって，それまでの黄と赤の膨張色とは画然たる差をつけたかもしれないが，それ以前のカラーに比べて，決定的によいとは言えない程度のちがいである．

それにつけても，旧東海道線を長年走り続けた東海号の，カラースキームのことを語っておきたいと思う．　東海号は，長距離走行を牽引車と客車の別のない，いわゆる国電タイプで編成した戦後最初の試みであった．　主として東京・名古屋間を約5時間で走り，新幹線登場までは，この区間不可欠の列車だったのである．

国鉄は，このボディー・カラーをきめるに当って，画家猪熊弦一郎を起用した．　そして，東海号の車体は，緑と橙のツートンに塗られた．　現在でも，湘南区間を走り続け，東海号時代か

ら通算して，30年にはなろうとするロング・ライフのカラー・デザインである．　私はのちに，猪熊さんからその頃のことをじかに伺う機会を得た．　「この色は蜜柑の色なんです，……だから葉の色の濃い緑はオリーヴグリーンに，実の色は強いオレンジに．……それを，色づいた実がいっぱい生っているときの感じにしたかったのです．……だってそれが，この列車の窓からいちばん見たい風景でしょう」

その後東京の国電は，総武線と中央線の一部がレモンイエローに，京浜東北線がライトブルーに塗られていった．　猪熊弦一郎に直接それを依頼したものかどうか，私は知らない．　しかし，公共の乗物のカラー・スキームは，何の曖昧さもない明快な色彩が用いらるべきことを，国鉄は十分に画伯から学んでいたにちがいない．　いまは，何かにつけてさんざんにいわれている国鉄であるが，その当時はチャンとした色彩へのデザイン・ポリシーをもっていたことは立派である．

私は，何べんか訪れたデンマークで，この国の国鉄Sトレインが，地味な表現でありながら，じつに行きとどいたカラー・デザインをもっていることを理解するようになった．　すべての車体の色は，ややくすんだ赤，といっても以前の日本の国鉄の赤錆色に近い赤褐色とはちがって，ずっと明るく楽しい色である．そしてすべての駅がこの赤と白のツートンのパネルで組立てられている．　それはどんな小駅にも及び，新設のものはすべてプレハブ化されていく．　車輛は新しいものも古いものも，すべて同色だが，車内へはいると，そのインテリアはがらりと変わって，親しみやすいドメスティックな色調になる．　近距離用の新車輛は，明るい薄茶に斜めのベージュのストライプがはいったシートがハイバックのソファ並みにつくられていて，とても公共車輛のなかで味わえる感触ではない．　Sトレインのカラー・デザインのポリシーは，黒の骨太の構造に赤と白の面材で外側をユニフォームに守った駅舎と，赤のボディーの中味は身体的な触覚で受けとめようという車体にハッキリ示されている．　こうしたコンセプトは，もともとこの国の建築の考え方からきている．

今年の夏，ウィーンを拠点として，はじめて東欧へ旅をした．シェーンブルン宮殿の外壁に塗られた，もう少しで辛子色といってもいいような濃いクロムイエローは，18世紀のハプスブルグ家の盛名に華をかざった女帝マリア・テレジア好みの色である．旅行中私が，チェコのブラチスラバやプラハで，またポーランドのクラクフで目の前にしたいくつかのファサードのこの黄色は，かつて広大なオーストリア・ハンガリー帝国の支配のなかで実現した，ポリティカルなカラー・スキームという意味で，文字通り，デザイン・ポリシーをもった色彩であった．　しかしこれを，国家権力の悪しき面から見てしまっては大切なことを見失ってしまうと思う．　それは，民主的なポリシーで選ばれた東京の都バスの色の無性格さが，皮肉にも十分に反論してくれることである．

こんどは，アルヴァ・アアルトの晩年に近づきつつある頃の作品であった白いフィンランディア・タロを見よう．　それまでのアアルトの作品は，レンガと木質のナチュラルな素材性に執着してきた．　フィンランド特産の銅も，それまでの建築家が使わなかった方法で，彼のデザインの重要なエレメントに加えられた．しかし，大理石は，室内で，それも極くひかえ目にしか使われてこなかった．　このようなアアルトの材料への選択が最も明瞭に見てとれるのがカンサネラケライトス（国民年金協会）とオタニエミの工科大学である．　もちろん白が彼のレパートリーになかったのではない．　それどころか，初期のパイミオのサナトリウムからヴオクセニスカの教会，カレ邸などは，外壁が白く仕上げられているが，それらはモルタルか煉瓦を白く塗ったものである．

それがフィンランディア・タロではイタリア産の，ミケランジェロがダヴィデやピエタを刻んだ，あのカララの白大理石を徹底して全面に使ってしまっている．　それまでのいくつかの事務所建築のファサードに白大理石が使われたことはあるが，そんな生やさしい使い方ではない．

私は1981年の夏，ここフィンランディア・タロのすべての空間を使った10日間に亘っての国際デザイン会議に参加した．　外壁だけでなく内部の主要な面が殆ど白色のこの建築は，そのとき集まったほぼ2000人に近いデザイナー達のさまざまな行動に対して，つねに明るい背景として存在した．　私は，外部に立並んだ各国の旗のなかで，その半ばを占めていたフィンランドのブルーと白の長十字のパターンが，木々の葉色とともに，大理石のファサードをバックに揺れうごきはためき続けるのを，何遍も立ち止まっては見つめたものである．　そこには，国家のフィンランドのポリシーが，少しも重圧の影をみせることなく，アアルトのデザイン・ポリシーの上にしっかりと重なっているのだった．

ウィーンを出発してジュネーヴに向かうOS（オーストリア航空）の機内に身を落ちつけると，東欧でのいささかの息苦しさがリラクゼーションへと解放されていくのを抑えることができなかった．　真紅のコスチュームに笑みをたたえたスチュワーデスのワイン・サービスがそれをもっと楽しくしてくれる．……よく見ると機内のパネルは，緑と赤と黄の純色のチェック・パターンなのに気づくのだった．　左の窓にアルプス，直下はチロルの野山と谷．　そしてこの機内のデザイン・ポリシーも，チロルの樹木の葉の緑と赤と黄の花々，秋の黄葉をとらえたチロルの民族衣裳の色だったと，納得するのであった．

●みわ・まさひろ

ノートル・ダム・ド・トラヴァイユ教会　Notre-Dame-du-Travail　設計＝Jules Astruc 1903 Paris, France

サン・トーギュスタン教会　St-Augustin　設計＝Victor Baltard 1866 Paris, France



①

君は鉄を見たか　　下村純一

石と鉄が混在する建築だと聞いていた。　だから私はこのふたつの教会に，まだこなしきれない何かが秘める，新しいものだけに備わったあの魅惑的な美を期待した。　やっと使われ始めた鉄材と，連綿と蓄積を重ねてきた石の技術との出遇い。　それは当然に，ある種の不調和を優しく奏でることだろう。　明治，大正の西洋館が醸し出す危うい美しさと同じ，ソフィスティケートしきれないその残滓が検出されるはずである。

ところが，どちらの教会も，見事に隙のない石と鉄の存在と化していた。

その美しさは，あたかも初めから成熟してしまったものの姿でもあった。

鉄という近代の異物は，石に溶解し，あるいはきちんと石と共存しえている。

鉄は石に対しての無頼の侵入者とはならなかった。

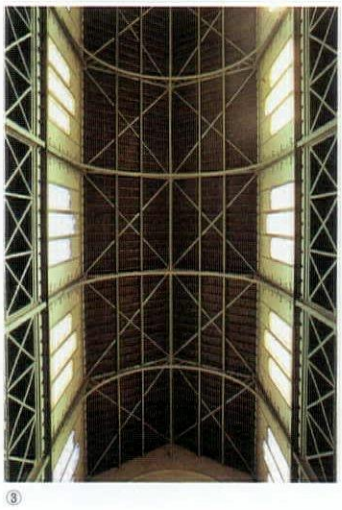
事実，サン・トーギュスタン教会では，円柱仕立ての鈍い黄金色の鋳鉄が石壁の中に埋め込まれ，石への一体化を企てるのであった。　その目論見は十分に達成されている。　鉄が鉄であることを主張するのは，屋根支持の軽快さにおいてだろう。　しかし，その巧みに透かし細工された鋳鉄は，鉄の表現である前に，ゴシックのトレーサリーの延長と解釈したい。　重厚さとか細さとが背中合わせになった，ゴシックの奇妙な石の世界がそこにある。

一方のトラヴァイユ教会は，時代をもう少し下った錬鉄とスチールの架構物である。　すでにパリには，鉄だけの大建造物がいくつも現われていた。

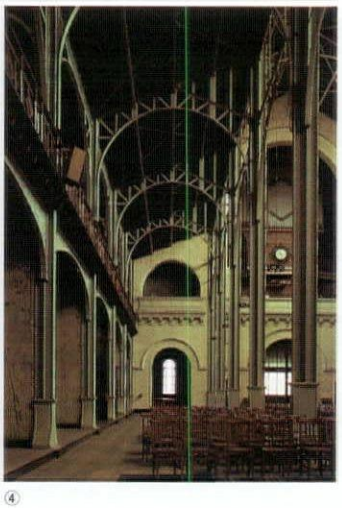
中央市場，エッフェル塔，機械館。　力強く雄々しいその鉄の様に比べると，この教会はあまりに静かに佇んでいる。　大柄ではあっても，濃やかに描かれ



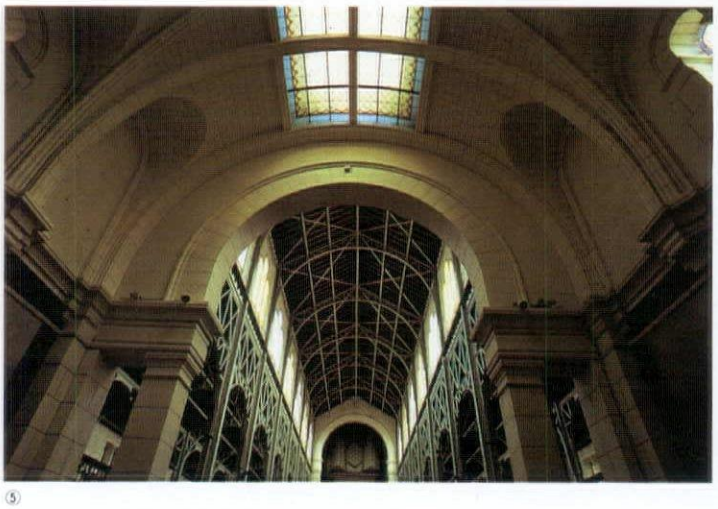
②



③



④



⑤

た鉄骨組みには，全体に透かし彫り模様のような深さと透明感が漂う．さらには，その柔らかな鉄の架構が，構造とは無縁となった厚い石壁に包み込まれている．　内壁の鉄骨の周囲には，まるで鉄のオーラでもあるかのように淡い草花が浮遊する．　おもしろいことに，祭壇上の石のヴォールトにはスカイライトを巧みに設けたのに対して，身廊の開口部は石壁の構築によって極めて限られたものとなった．　鉄材の導入は，必ずしも開口部の拡大を促すわけではないのである．

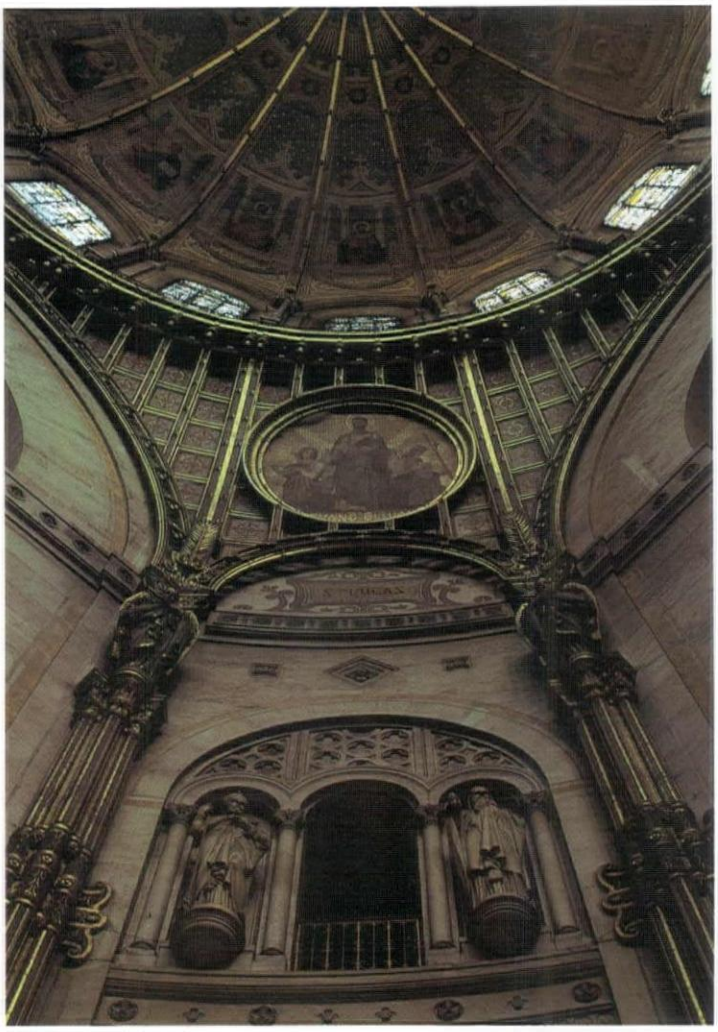
不可解なのは，むしろ石の存在なのではあるまいか．　この鉄をも飲み込んでしまう石の頑強さ．　そもそもゴシックの放つ美は，自然の石が素材として紡ぎ出すものではない．　矯正されたその石の美に，鉄材が合理的にしかもさりげなくつながることはありうるのである．　そしておそらくは，コンクリートも石に埋もれるかもしれない．　考えてみれば，パリはいつも石とともに発展を重ねてきた．　パリは観念的にであろうと，実際的にであろうと，石の上に築かれた街なのだ．　言ってみれば，ポンピドーも，新しいレ・アールも石に囲まれた鉄なのである．

君はこれらの教会に鉄を見たのか，と問われてみても，石の影を見たのかもしれないとつぶやくしかないようだ．　それは，自ら歴史を書き綴ることのできた街だけに許された，おそろしいまでに強靱な消化力なのである．

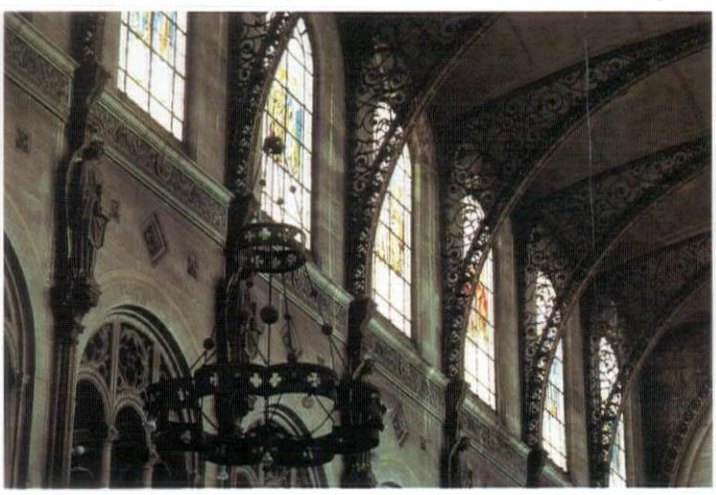
●しもむら・じゅんいち／写真家



⑥



⑦



⑧



⑨

異父兄弟の二軒の教会　　小宮山 昭

僅か，３～４kmしか離れていないこの二軒の教会には，その相互の近さ以上に同時に取り上げられるべき事情がある．

そのひとつは両方に共通点があることである．　30数年の隔りがあるといっても，ほぼ同時代といって良い教会建築であるということ，そして何よりも，組積造と，鉄骨造の混構造であるという点である．　記念碑的建築の架構法が，石造から鉄骨造やコンクリート造に急速に変っていったこの一世紀間にあっても，その移り変りの証人とでもいうべき混構造の数は多くない．

もうひとつはむしろ両方の相異点である．　何も知らずにこの二軒の教会を訪れた人は，歴史的な類似点があることなどに気付くまい．

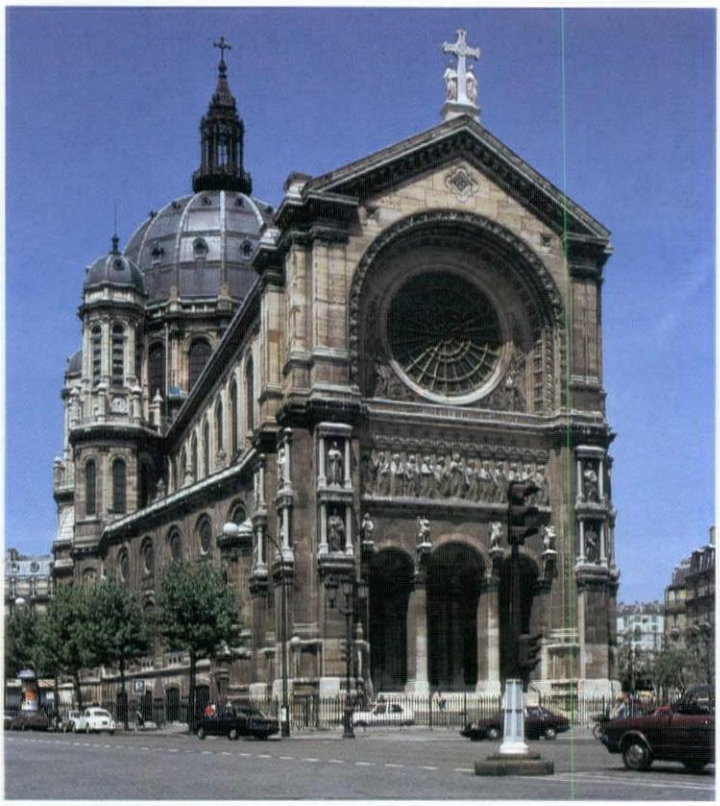
ナルテックスをくぐってサン・トーギュスタン教会の教会堂に入った時，一瞬目に親しまぬものはない．　上質の建築家的構成の技法をもって，見事に調和した空間が構成されている．　しかし，暫くすると，その通常ではない点に気付く．　身廊を取り囲む壁はかなり平坦であるし，高窓は通常より大きい．　そしてその内側に，細い鋳鉄の骨組みが巡らされているのに注意が



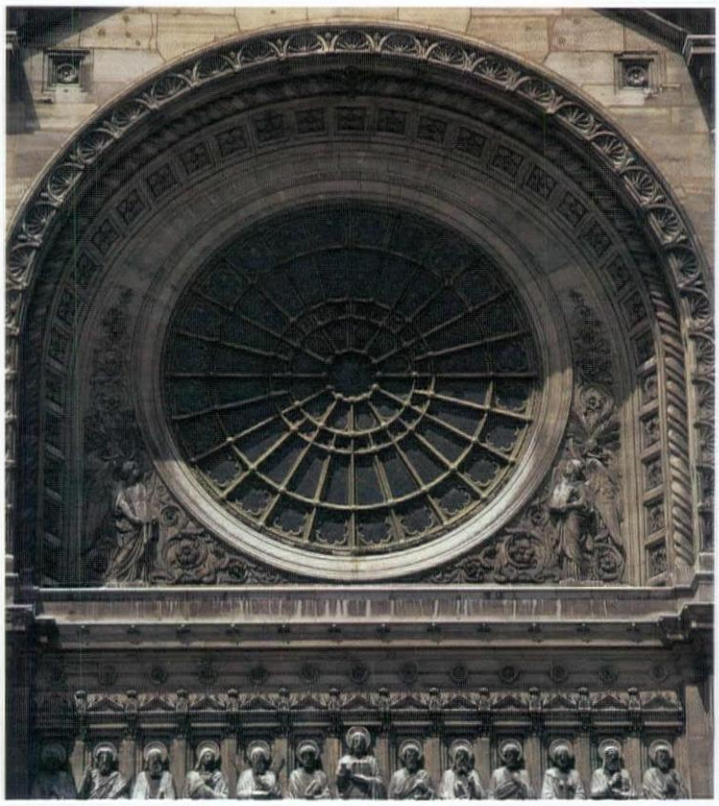
⑩



⑪



⑫



⑬

①〜⑤ノートル・ダム・ド・トラヴァイユ教会（1901〜03）Notre-Dame-du-Travail 設計：J. アストリュ 所在地：59, rue Vercingétroix, XIV^{e}, Paris ⑥〜⑬サン・トーギュスタン教会（1866）St-Augustin 設計：V. バルタール 所在地：Place St. Augustin, VIII^{e} 写真：下村純一

向く。　この骨組みが，石壁にリブ状の強度を付け加え，屋根荷重の一部を負担しているのだ。　多分に様式を取り入れた，装飾性の強い鋳鉄製の骨組みは，巧みに擬装されていて，石の部分と異和感がほとんどない。　建築家V.バルタールの力量が充分に伺える。　V.バルタールといえば，取り壊された旧レアールの市場のパビリオンの設計者として名高い。　ナポレオン三世，オスマン・セーヌ県知事のお気に入りの建築家でもあった。　彼に対する評価は定まらない。　ポザール的様式技法を，新時代の萌芽期まで持ち越して，新素材を良く使いこなしたという評価と，一方，両時代の折衷ともいえる煮え切れない作品，また建築家として確固とした主張を欠いた態度に対する揶揄とが合い半ばする。　サン・トーギュスタン教会は，あらゆる意味で彼の代表作のひとつである。

一方，モンパルナス地区のノートル・ダム・ド・トラヴァイユ教会の変哲のない，ロマネスク風のファサードから内部へ入ると誰もが，一瞬ぎょっとする。　内部に全く露出した型鋼を組み合せた柱・梁，しかもその形状だけは，旧態の石造のアーチを想起させるべき形態をしているのだ。　これを，昨今流行の擬様式や，フレームだけの，あいまいな空間の派生といった手法の先達と見るのは，明らかに考えすぎである。　私は，建築家J.アストリュの他の作品も，ノートル・ダム・ド・トラヴァイユの建設についての細かい経緯も知らぬ。　しかし何かで，内部を鉄骨で造ったのは，かなり予算的な問題によると読んだことがある。　事実，外部は，普通の石造である。　また，労働聖母教会といういかにも過渡的な時代のつじつま合せといった感じの教会名……，過去の時代に対するぎりぎりの清算という感じがする。　私は，この教会を数度訪れたことがあるが，その度に感じたのは，建築的な作品というより時代の苦吟であった。

私には，このふたつの教会は，全く性格の異った異父兄弟にうつる。　しかも片方の父親はブルジョア，もう一方の父親はプロレタリアなのであろうか。

●こみやま・あきら／建築家

有機建築の魔法（3）

ソーローの森、ライトの森

1

1845年の3月も末，ソーロー（1817—62）は，借りた一艇の斧を背負い，ウォールデン池のそばにある森へ出かけていく．

白松の若木を伐るためである．　ウォールデン池は，マサチュセッツ州コンコードの町から南へ1マイル半ほど行ったところにある．　ソーローは，1マイルも行かねば隣人に逢えぬ森の中で，自分の手で家を作り，ひとりで生きてみようと思いたったのである．

この時の体験を書いたのが，《ウォールデン》，日本ではその副題“Life in the Woods”のほうを生かして《森の生活》と訳されているものである．　フランク・ロイド・ライトは，ソーローが死んで数年後に生れている．　正確には同時代人といえないが，ライトが影響を受けた人物として，エマーソンなどとならんで，かならず列挙される一人である．

どのように影響を受けたかをライトはどこにも述べていないが，彼の青年期にエマーソンの超越主義とならんで，その弟子でもあったソーローの思想は，深い影と響きを彼にあたえたとみてよい．　むしろその洗礼を受けるところは青年たちの流行のようなものだっただろう．

ソーローは，家を作るにあたって，ひとりですべてをやったわけでない．　知りあいの手をかりて棟上げしているし，ある小屋を板材用にまるごと買っている．　人類の発明と産業が提供する便利をわざわざ無視することもないというのがソーローの考えで，やみくもに原始生活を志願したのではない．　いまアメリカに訪れている機械文明を考えるために，ひからびた日常生活を脱出するために森の中にはいったのである．

極端にいえば，人間は，なければないですむものが多ければ多いほど，豊かであるという自論を実証するためである．　人は，彼のしわざを見て，当然，気狂いといった．

ソーローには，はっきりした建築への考えがあった．　とりわけ装飾についてである．　彼は，森の中で，ある建築家の言葉を思いだした．建築における装飾は，真理の本髄であり，必然性であり，故に美であり，まるで啓示かなにかを受けたかのように言っているのを思い出した．　こんな考えは，ありふれたジレッタンティズムと大差なしとこきおろしている．　基礎からはじめないで蛇腹からはじめたと笑っている．

ソーローは，この装飾主義に機械文明の〈経済〉の必然を見ている．事実，《森と生活》は，〈経済〉という章からはじまっている．　もちろん装飾は彼にとって〈不経済〉である．　ほとんどの建築上の装飾は，空虚なもで，9月の突風にでも出逢えば，ストンとたちまちストリップしてしまう薄っぺらなものだと嘲笑している．

ソーローの森の生活は，まさに都会生活への反語である．　だから彼が推奨する建物はありふれた丸太小屋とコッテジになるのも必然である．しかも，そこに住む人々は，はめられても，嬉しくはないだろう．　できるなら，ソーローにけなされるような家にすみたいという夢をもっている．

彼の家における経済学は徹底していて，地下の穴蔵や屋根裏はもちろん，戸や窓さえも，どれだけ人間の自然にかなうものかと否定している．深い理由がみつかるまで用いるな，といっている．　これはライトが，のちにしきりと強調したのと同じではないか．　ライトは《森の生活》を読んだにちがいないから，たとえ忘れたとしても，心の底で受肉し，彼の内部で細胞化していたにちがいない．　ライトの言葉にいまさらながらソーローをかさねあわさないではいられない．　さらに「私が知る建築美とは，内から外へとしだいに成長していくものである」とさえ，ソーローは言っている．　ライトは，これも忘れたのだろうか．　私は，さきの号でメルヴィルを引いたが，ソーローの中にも，ほとんど老子と同じ言葉があったことに気がついた．　しかし，ライトの健忘症をせめる気など，毛頭ない．ソーローを頭ごしにしても，老子の引用のほうが，めりはりがある．

「いかなる野蛮時代であっても，建築上の装飾はネグレクトされていいといっているわけではない．　私たちの家は，貝殻の褄み家のように，まず生活とコンタクトしている内部の美を飾るところからはじめるべきで，外被から飾りたてるべきでない」

貝殻の理論も，すでにソーローの中にあることを知る．　装飾の否定ではなく，亀の甲羅のように自然にできあがるのならよいという考えである．　ライトを先駆している．　ギリシャ式やゴシック式の家をもつために，せっせと稼ぐのは，ごめんだともソーローはいう．

そもそもソーローは，建築家の存在を否定している．　エジプトの寺院であろうとアメリカの銀行であろうと，費用のわりには，たいしたものでなく，建築家の宗教や芸術への愛もたかがしれていると，こきおろしている．

よき建築家とは，必然性と品性をもって家の中に住む人間こそだともいう．　専門の建築家を認めていないのである．　若き日のライトはこれを読みながら，俺はちがうぞとファイトをわかしたであろうか．　このような考えをもつソーローがウォールデンの森につくりあげた家は，台所，寝室，居間，座敷兼用のワンルームであった．　天井もなし，漆喰もなし，むきだしのたるきが頭上をささえている．　必要欠くべからざる最低限の道具は，すべて揃い，それが壁につるされ装飾にもなっている．　これこそは，暴風雨の夜にたどりついてホッとするような隠れ家だと彼は自画自賛している．

有機という言葉は，いちども彼は使っていないが，ライト流には，〈有機的建築〉といってもまちがいあるまい．

6週間働けば，1年はらくに暮せるという計算のもとに，彼はウォールデンの森に，2年2ヶ月住んだ．　まわりは，すべて自然である．　樹々や鳥やリスたちと一体になって森の日々を過す．　彼は森の精霊たちの声に熱心に身を傾ける．　〈このはずく〉の不気味な叫びに，かつては人間だったのではないかと考えたりする．

彼がこの森を棄てるのは，孤独に耐えられなかったのではない．　それは，むしろ森の生活に成功したからだろう．　文明をできるだけ排除した生活の成功は，ひとたび味わえばもうあとは一種のルーティンが待つのみである．　余分なものをかかえて生きる文明の中でのルーティンと逆説

的に同じである．　だから，森を出る．

ソーローは，精神的現実に生きている．　人が彼をみて気狂いといい，勇気があるといっても，本人にはピンとこなかっただろう．　内面(フイクション)に生きてしまったものには，人があやぶむ生活をも現実に可能にしてしまう．それが，彼の森の生活である．　しかし，それは，社会的現実に生きているものと同質の現実ではない．　逆にいえば，彼の否定する社会的現実にまがまがしく生きる圧倒的多数の人々のおかげで，〈森の生活(フイクション)〉は可能だったともいえる．

もちろん，森に住む木こりと同質でない．　わが内面に忠実であろうとする文明生活者の観念的実験であり，それは成功したにすぎない．　だから，ソーローは，森をでていくのである．

それ故，森の精霊たちとの交歓も，原始に彼が戻ったからでなく文明の中にうごめく悪霊たちの力のおかげだったともいえるのである．　彼は，森の中で，文明のあれこれをかえって考えた．　しかし，なにもかも忘れて，蜘蛛の巣の霊妙なかたちや池の水のとらえがたい霊性にうたれる時こそ，かえって文明という観念によく生きていたのだともいえる．

2

私は，《森の生活》を読みながら，ライトの〈落水荘〉（1936）を思いだしていた．　ピッツバーグから1時間半ほどバスで揺られると，ペンシルバニア州のベア・ランの森の入口に着く．　メモを見ると，私が〈落水荘〉(1935) を見物した日は，1974年7月31日である．

このあたりは，緯度がそうなのか，北海道の風景に似ていて，夏とはいえスカッとしていたが，バスをおりて森の中へ入ると，さらにヒヤリとした涼気が肌を洗いたて，衣服ごしにしみわたる．　まさに森の霊気である．　旅の疲れがいちどきにふっ飛ぶというより，この涼気によって，疲れがたしかめられるという感じで，森の中をしばらく鉛のようなからだをひきづって歩いた．　時差ボケからまだ回復していず，森の中の精霊の挨拶もかたなしであった．

途中，お土産店などがある．　この百貨店主エドガ・カウフマンの別荘は，観光地になっているらしかった．　道をはさむ森の樹々は，歩くにつれしだいにせばまり，まもなく滝の音がきこえてくる．　ああ，〈落水荘〉は近くだなと思った時，とつぜん難破船のようなコンクリートの量塊が，目も綾なる青葉の繁る樹木のすきまごしに，ぬっと姿をあらわした．せわしげに鳥が囀っている．　そののどかさにつつまれるように滝の岩盤へグロテスクな飛行物体が着陸していた．

この彫刻的な別荘は，インターナショナル・スタイルへのライトの反撃であり，キュビズムとデ・スティルの源泉を汲みとり組みこんだものと評されているものだが，私にはいま急にソーローへの挑戦のようにも思えてくる．

おそらくソーローを意識したと思えないが，森の中に20世紀の〈有機建築〉を作ったにはちがいないのである．　19世紀の90年前に森の中に家を作ったソーローは，住む人間こそが，建築家だと考えた人である．　しかし，ライトはソーローに否定された〈建築家〉である．　共通しているのは，内から外へと成長していく家をモットーとしていることだ．

ソーローは，機械文明を否定しなかった．　否定はしないが，肯定したわけでない．　だからあえてウォールデンの森の中に住もうとした．その自製の家を作るにあたって，文明の道具を拒絶するほど頭が固くロマンチックだった．　機械文明を余剰の文明とし，それを剝ぐためにソーロー流の〈有機建築〉が生まれる．

建築家たるライトは，機械にたいして，もっと積極的である．　彼の有機のグラマーに機械をとりこんでいき，人間の有機，建築の有機を回復させようとはかっている．　おそらくソーローが当時の建築を否定することはもちろん，建築家否定でさえ，すべてライトは肯定したにちがいない．自分がその〈建築家〉であることが，ジレンマでありうしろめたいというより，むしろ彼の建築家としての大仰なフロンティア意識に火をつけたと思われる．

もちろん，推量だが，私の心としては断定である．　ライトにその言及はないが，彼の歩み，彼が見ききし，読んだものは，すべて彼の心霊の奥処に細胞の一粒となって目を見開いているとみてよい．　彼の意識などは，とるにたらない．　彼の文章活動などは，表層である．

野心的な建築家なら，だれでも構想を眠らせている．　構想をたえず自分にいいきかせているわけでない．　勝手に眠っている．　それが，とつぜん跳ねおきるのが，場にめぐりあった時である．　それをインスピレーションという．　これは，人間のうちなる神秘であり説明不可能だが，精密機械としての人間の観点からすれば因果的必然なのである．

ライトは，《A Testament》で，森の中，滝と岩礁という立地条件をみた時，岩から滝の上にかけられるキャンティレバーの住宅がふさわしいと思ったと，たんたんと述べているがむしろその裏に彼の興奮をさえ感じる．

実際にも，1938年の《アーキテクチュアル・フォラム》誌で敷地からインスピレーションを受けた一例だったとのべている．　ライトにとって，はじめての鉄筋コンクリートをためす場となり，森の中に機械の花が開いた．　この造型効果は，表面的なものではなく材料と構造方法がこのアイデアを開示したのだともいっている．　有機の王たるインスピレーションは，彼にとっていつも必然である．

現場を見てから1週間でスケッチはできあがったと，見物している時に，〈落水荘〉附属のガイドマンから説明された記憶がある．　森の中に別荘を作るにしても，なにも岩と滝の上とかぎらなかったはずだが，クライアントが，滝の音を聴くが好きだというのをきいて，すかさずその言質をとってインスピレーションを逃すまいとしたのだろうか．

オルギヴァナ夫人の回想によると，彼女とライトは，ここを訪ねるたび「舞いあがらんばかりのイマジネーションと絶妙なるボエトリの魔法(マジック)」(《Flank Lloyd Wright・His Work and His Life》)に経験をあらたにしたとある．　我ながら感心したというより，ライトは他人ごとのように目を瞠ったのかもしれない．

しかし，ソーローがこれを見たなら，なんと思っただろうと私は今，考えている．　ピラミッドを唾棄した男である．　造型の凄さだけでは，簡単にかぶとを脱がなかっただろうなと思ったりもする．　金持の別荘というのが，なにより気にいらなかっただろう．

私たちツアーの一行は，内部にもはいることができた．　今はカウフマン一族は住んでいない．　が，重要文化財として公開されている．　内部もまた例によって〈おいしい〉ものである．　息つく暇もないほど，小刻みにアイデアが迸り，それらが連続して一つに内臓化されている．　滝の音にまじって蟬の声がきこえる．　どうしたって，よそものは気持よく

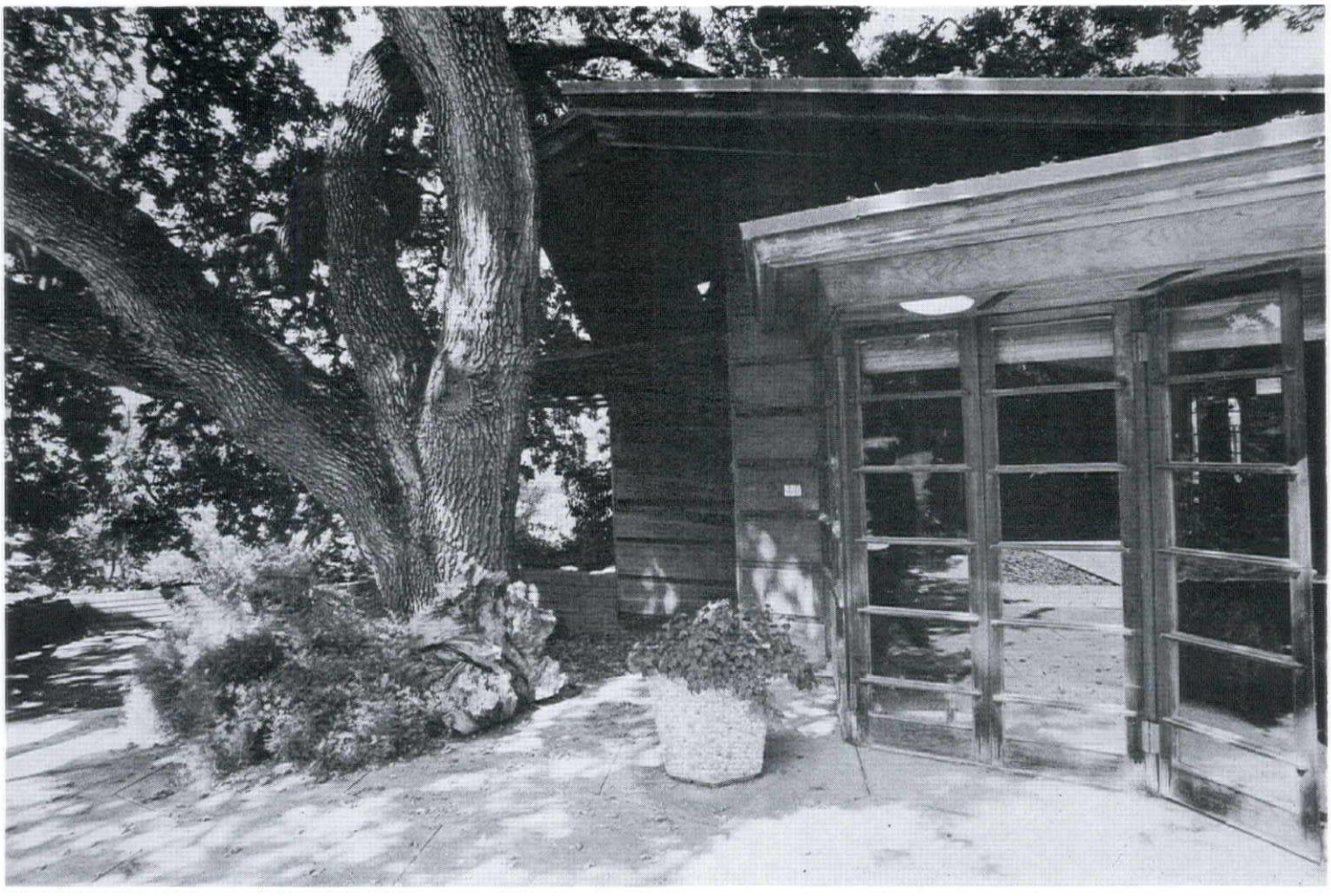


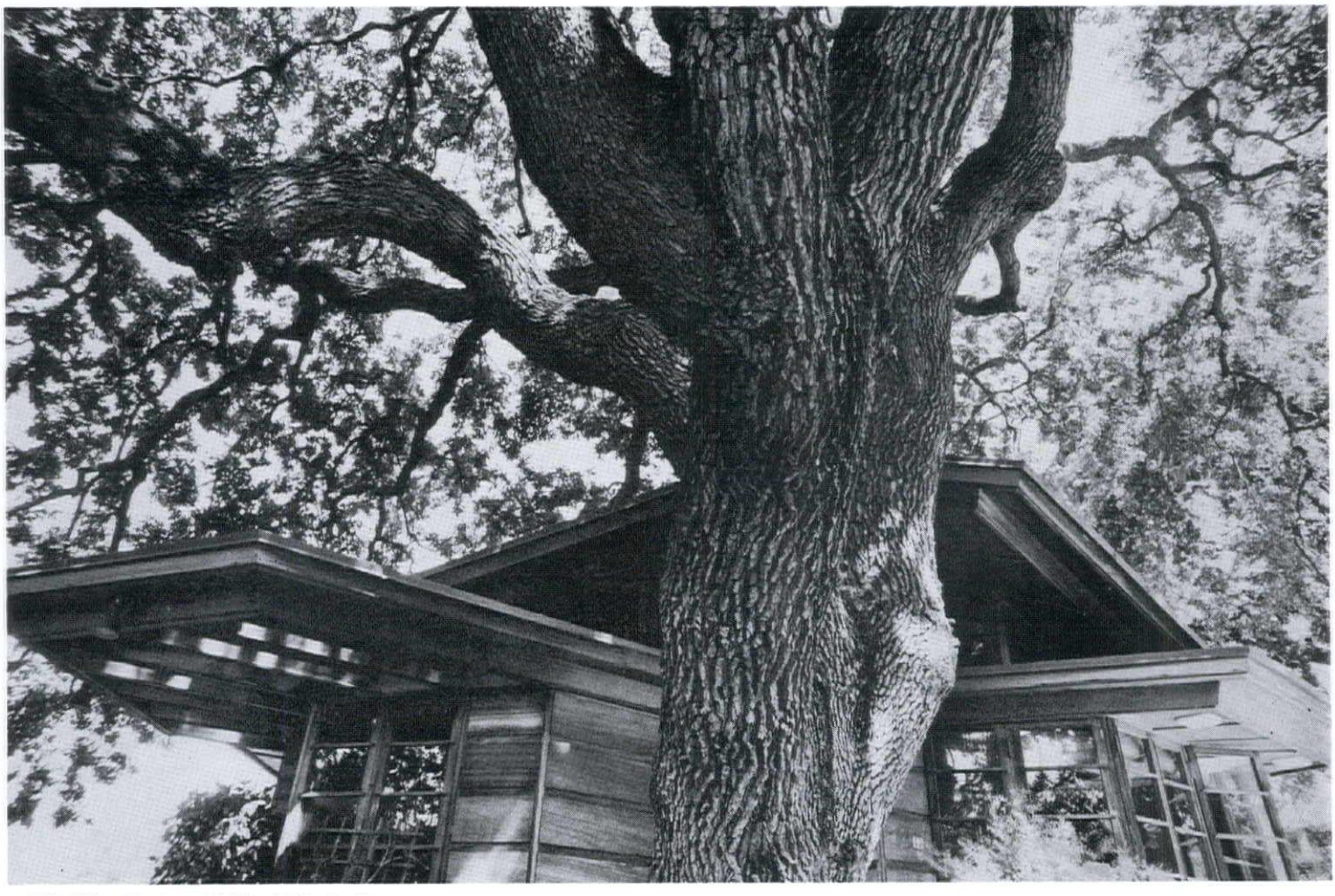
ハナ邸　1936　スタンフォード大学内，カリフォルニア



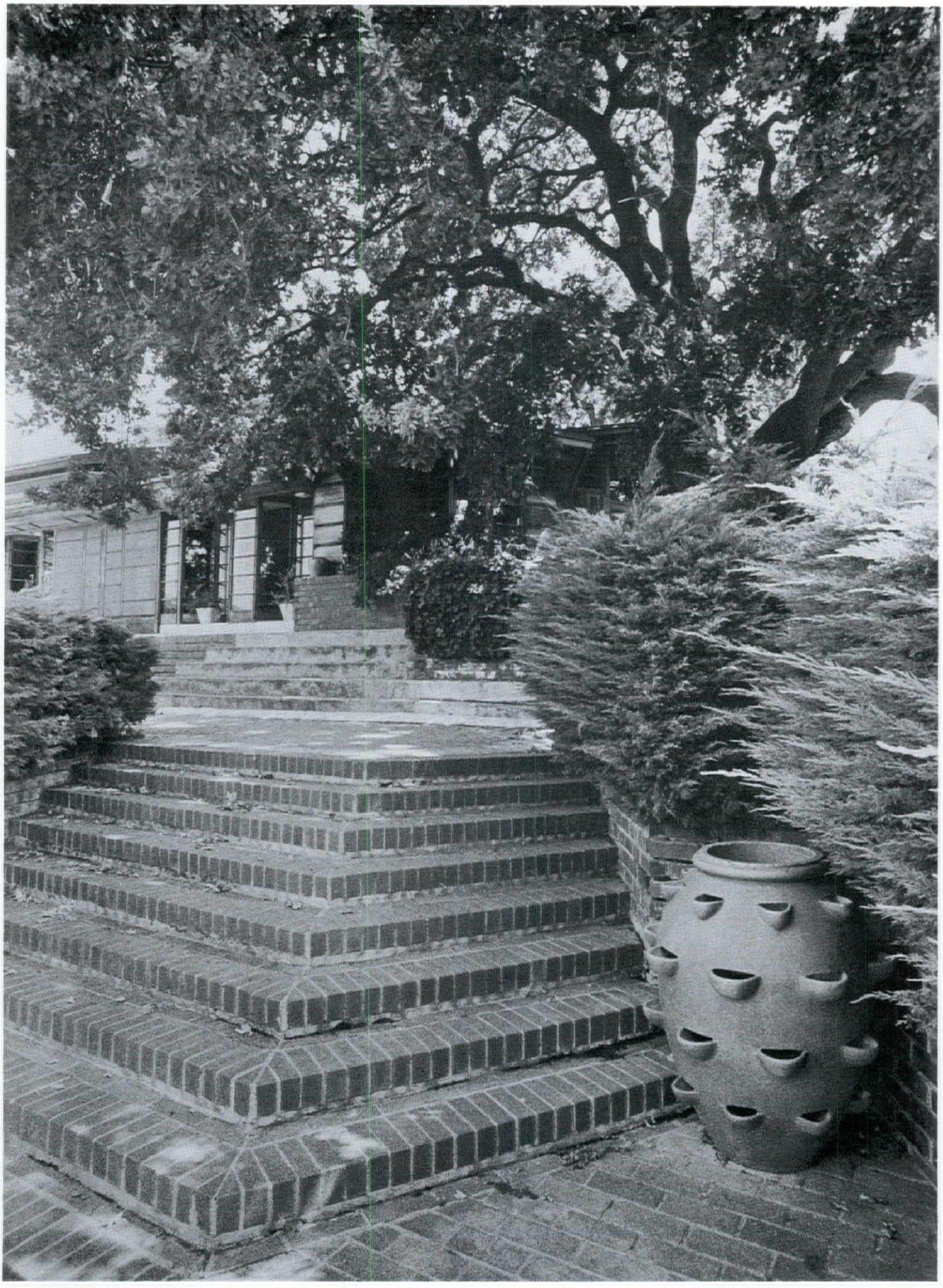


ハナ邸　1936　スタンフォード大学内，カリフォルニア





ハナ邸　1936　スタンフォード大学内，カリフォルニア



ハナ邸　1936　スタンフォード大学内，カリフォルニア

なる.

内から外へのライトの呪文が，みごとに実体化されているというべきなのか，部屋の中にいると，あの未確認飛行物体の着陸とみまがう造型の中に今いるのだということさえ忘れてしまう．　高低により展望を変え，空間に色をつける階段は，バリエションを尽し，史上に導かれても，階をのぼったという実感が湧かないほどだ．　ライトの魔法というしかない．

時間があったので，私は遠足気分で，この奇邸の中をめぐったり，外をうろついたが，ふと五浦にある岡倉天心の別荘を尋ねたむかしを想いだしたりした．　海に面した絶壁のてっぺんに突きだすようにして六角堂がある．　その小さな部屋の畳の上に座っていると，まるで海の上に浮び，荒々しい波に洗われているように感じられる．　ここには，東洋伝来の修業の道場のおもむきがあり，不安定な岩の上にいる感じのしない，〈落水荘〉とはちがうなと思ったりした．

六角堂では，これを作ったものたちの息づかいもなければ，岡倉天心の匂いもない．　私が入れば，私がいるだけだった．　しかし，〈落水荘〉には，ライトがいた．　持主のカウフマンの気配はなく，ライトの呼吸のみがあった．

現代人は，森というものを忘れているが，とくに夜の森は，精霊の存在を感じ，おそれおののかないではいられないところである．　ソーローが耐えられたのは，アミニズム化して原始人のように崇拝したのではなく，精霊を客扱いしたからだろう．　だが森の中とて昼の光を浴びた樹々は，自分を精一杯生きていて，人間を睨むようなところはない．

精霊の宿る森の木と〈樹霊〉と呼ばれる木は，ともにこわさがあるが，質は同じでないと思っている．　〈樹霊〉と呼ばれるものの放つ妖気の半分は，人間がつくりだすものだと思っている．　寺社などにある樹齢何千年とかいう神木の怪奇は，無数の人間の願いをこめた息が吹きかかることによって，いよいよ妖しげに変容していったように思われる．　トルコへ行った時，マリアの家とかいわれている名所を見物したが，このそばにあった妖木などは，人の息を食べて育ち，斧で切ればどす黒い血が吹きでてくるかと思える気味の悪いものだった．

これは，夜の森に感じる精霊のこわさとは，また別個のものである．ライトは，〈落水荘〉において，よく森をそのままとりこんでいる．　いや，森の中に溶けこんでいる．　だが，外へ出て岩盤の裏側にまわった時，家の中にとりこまれている１本の大木をみつけた．（9月号の写真参照）　その下半身は，石を積んだ壁でさえぎられ，その左右の幹は逃さぬぞとばかり背後からヌッと伸びてきたコンクリートの柱でガッシとはさまれている．枝葉をつけた上半身はそのまま空に向って放たれているが，水苔がついてヌルヌルした下半身は，樹霊化していた．　鉄のようなコンクリートで締めあげられて悲鳴をあげている．　というより，ライトの念力によって，かろうじて生命化しているような不気味さがあり，森の音楽を浴びて，いい気持で散歩していた時だけに，私はたじろいだ．

それだけではない．　アミニズムにあっては，石も岩も対象となる．やはり裏側にまわった時，でこぼこの岩礁から張りだした鉄筋コンクリートを安定させるための仕掛けを見た．　ライトは，裏の仕掛けをみせても，有機の魔法により，それ自体が模様となって，いわゆる完一性は崩れないが，ただ表から見た時とちがって，その岩が，どろりと〈岩霊化〉しているのである．（10月号写真参照）

左右に持出しした巨大なコンクリートの塊のうしろには縦に三つの小さなコンクリートの尾がとりつけられている．　あらかじめ岩にそれらのはいる三つの割れの目をつけて，それをはさみこみ，いわゆる相互貫入の魔法でキャンティレバーのコンクリートを水平に保つのである．

その岩塊は，コンクリートとなじむというより，合体することによって，うめき声をあげているように見えた．　それをライトの叱咤の声で，ふんばっているようにも感じられた．　これは人工化というより呪術化である．　この岩に吹きこまれ，しみこんだ息の重さは，無数の他者のものではなく，ライトひとりの念のこもった太い息である．　割ればズルズルと血のでてきそうな不気味さを呈していた．

ソーローが，これを見たなら，この20世紀の〈有機的建築〉の傑作をも，人をくつろがせないものとして，否定したにちがいない．

3

「敬して鬼神を遠ざく」

「怪力乱神を語らず」

これらは，《論語》の言葉だが，シャーマニズムの時代を生きていた孔子は，鬼神の存在を否定していたわけでない．　存在すると証明できないと同じように，存在しないとも証明できない〈目に見えぬものの世界〉だから，こういったのである．　語らなかったり，敬して遠ざけたりしたのは，信じることによっておこる人間の乱れを知っていたからだろう．　合理的な法治主義の権化の秦始皇帝も晩年は鬼神に乱れた．　孔子は，むしろ心では信じていたが，あえて遠ざけたところがある．

日本の庭にある樹木は，西洋にくらべ去勢化されているところがある．総じて樹霊の溢れる老木は，寺社に隔離される．　これは日本流の鬼神は敬して遠ざける法であり，知恵だろう．　だが，アメリカ人は，家のまわりに樹霊のこもった大木を平気で残したりするようだ．　あるいは，植えた木が時間を経て巨木化し，人の息を吸って樹霊化する．　敬して遠ざける知恵を知らない．

もともと呪術には，ライトが，〈落水荘〉で見せたように相互貫入的なところがある．　外観そのものが状況の必然から生れたにしろ，いやだからこそ奇っ怪な呪的モニュメントのごときところが〈落水荘〉にある．自然の本来もっているものに人間の力が相互貫入して，呪術の効果が生まれる．　シャーマニズムの名残りをなお生きる．　女の化粧や，だれかに愛されたのち棄てられた，人形の不気味さは，相互貫入の例である．

ホーソンの小説に，《七破風の屋敷》（1861）なるものがある．　この小説は，呪われたる〈七破風の屋敷〉そのものが，主人公だといってよい．

怪奇なゴシック趣味の建物で，七つの破風を空に向け，傲然と立っている．　ピンチョン通りに，この建物はある．　持主は，清教徒軍人で治安判事だったピンチョンという大佐である．　もともと，この土地は，マシュー・モールという老人のもので，大佐は魔法使いとして彼を処刑している．　「神はあの男に血を飲ませようぞ！」とのろって死んだ．　その後，この土地は大佐のものとなったが，七破風の屋敷をそこに建てた時，なんと棟梁大工は，処刑され，あげくに土地を奪われた霊能力をもった老人の息子だった．　そして，まもなくこの新屋敷で，なにものかに大佐は殺される．　ピンチョンの甥が犯人として逮捕され，証拠不十分で終身懲役となる．

物語はその数10年後にはじまる．　そのいまわしいいいつたえのあるピンチョン屋敷の玄関前には，巨大な根をはった楡の木が生えている．初代ピンチョンの曾孫が植えたもので80才以上100才近くになるかという巨木である．

「今なお強烈にして盛大なる成熟の過程にあり，街路の端から端までその影を倒し，高さは七破風のてっぺんをこえ，そのたれさがる枝葉は黒い屋根を掃んばかりであった．　その木は古い屋敷を美しく見せている．　まるで屋敷は自然の一部と化したかのように見える」

魔女狩りの判事を祖にもつホーソンは，人間の霊魂を信じた作家である．　ライトは，ホーソンの名も影響を受けた人間を列挙する時にくわえるから，ソーローと同じく彼の意識の細胞の中にその世界は受肉化しているといってよい．

私は，いかなる建物によっても，人の心は救われないだろうと思っている．　一時的にほっとさせたり使いやすかったりすることはあっても，矛盾なんてなまやさしいものでない心の奥にある葛藤，本人にもどうにもならぬ魂の無形のうごめきは，いかなる建物の力をもってしても，はかない．　むしろ人間のどろどろした情念や霊魂のいれものが，建築物というものなのだろう．

エマーソン流にいえば，人間は物質と別れることはできないのである．形なき精神の古巣は物質だからである．　ライトの建築が理性の理解を拒むところがあるのは，彼がこの〈形なき精神〉をこてのように使うからではないか．　ホーソンの描く七破風の屋敷が不気味なのは，物としての建物に住みついた人の魂がまといついているからだ．

建物だけでなく，そばに立つ樹木も霊性にめぐまれた樹木なら，それ自体から生命力を発しつつ，さらにそれを見る人の念的息吹きを受けとめ，栄養として生きるだろう．　樹霊の宿るといわれる木を見る時，もうそうとしか考えられない．

七破風の古い館の玄関前に立つ楡の巨木は，呪われたピンチョン一族の苦しい吐息だけでなく，噂して通る町の人々の吐息も，百年近く吸いつづけ，今では，その屋敷をも一呑みせんばかりに巨大化している．　これは，フィクションにすぎぬというより，そういう霊木は，だれもが一度は見，感じもしたはずである．

ライトは，敷地にあった樹木をそのまま残し，家屋の内部にとりこんでしまうこともよくする．　しかし，そっくり家のまわりに巨木を残すことがある．　ライトは，ピンチョンの化物屋敷にある楡の木のもつ効果をよく知っていたはずだ．

カリフォルニア州はスタンフォード大学の丘にあるハナ教授の住宅(1936)がその一例である．〈落水荘〉を落成した翌る年の作品である．道路側からの全景写真をみると，左右に巨木があって邸宅がその中にはさまれているという感じだが，私は左のほうの木しか気づかなかった．

それはプレイルームなどがあるほうの側面に，妖木としかいいようのない樹が1本立っている．　よほど興味があったのか同行の大倉舜二が，いろんな角度から何枚も撮っている．　角度や距離が，かわるたびにその異様さも変る．　なんという樹なのか，不明だが，その肌合いは，はちゅう類的で，皮の模様も柏のように直ではないくねくねと蛇行している縞模様である．

そばに近づいて見ると，ただ側面にこの妖樹をのこしたのでなく，まわりをレンガで囲み，その中に土をいれて，根元を埋める工作をしていることがわかる．　その土の部分は，六角形の亀甲模様の敷石を連続させたテラスとそのまま同一平面として接続するように仕組まれている．

この丘には，かつて原始林がおい繁っていたのかもしれない．　ハナ教授の趣味なのかライトが押しつけたのか，二人の意見が一致したのか知らないが，そのあつかいをみると，やはり内部と壁のようにドッキング化されているし樹霊としても祭りあげている気味もあり，ただ残したのでない．

股が幹の低い位置からいくつにも割れ，くねくねと上下左右に乱れ曲り，まるで妖怪の舞踏のおもむきがある．　曲り乱れながら上へ伸びていく性質の樹である．　三つ股の中央の幹などは途中でシャッポを脱ぎ，ぬけぬけと屋根をまたいで向うの空間へ伸びている．

だが，この妖木は，どこかユーモラスなところがあり，人間の生き血を吸っていないなという感じもした．　すくなくともライトの霊魂は宿っているという感じはするものの，どこか所在なげなところがあった．

そもそも，〈蜂の巣屋敷〉と呼ばれるハナ邸そのものは，外観はともかく，内部はかなり魔法的なのである．　たんに，朝になると木が伸縮してこすれ合い，音楽を奏でるというウグイス張りがほどこされているからではなく，六角形構造そのもののありかたにライトの魔法がある．　ここではそれを述べないが，住人のハナ教授はそれをみごとはずしていた．

ハナ教授は，内部に私たちを招きいれながらその撮影を断った．　それはライトの指示通りに部屋を使っていないからだという理由だった．

ソーロー流には，住むものこそが，建築家なのであるという流儀で教授がそうしているわけであるまいが，住むものをすみずみにまで縛りつけるライトの指示の圧力にハナ教授は抵抗したのだとはいえる．　すくなくとも，住むのは俺なのだと．

住みかたを大幅に変え，内部のデザインが，ライトらしくなくなっているとも思えなかったが，他の住宅で体験したようなライトの息がつまりそうな目を感じることがすくなかったのは，たしかだった．

それは，まさしく孔子の「敬して鬼神を遠ざく」の悪魔退散法の行使のせいだったとわかる．　ライトは，クライアントに口伝てでも住みかたを強制したにちがいないが，それよりもライトの〈有機建築〉そのものが，住む人を縛るのである．　すきまなくライトの目が遍在しているからである．

いくつかのコトバがおれをいつも見張っている
そいつらの視線を外らすことはできない相談
だからおれは真実を語らねばならない
そしておれはおれのコトバをしっかりと胸に抱く　（金関寿夫訳）

これはナヴァホ族のシャーマンの詩である．　シャーマンだから，人に魔法をかける側のはずだが，強烈な敵と戦っていたのだろう．

ライトは，20世紀のシャーマンだともいえる．　彼に住宅を作ってもらった人は，ライトの目，ライトの言葉に監視される．　よほどライト的素質をもった人でないかぎり，どぎまぎ，びくびくして住むか，ひたすら崇拝するしかない．

ハナ教授は，ライトの建築を尊敬したからこそ，依頼したのだろうが，みごと敬して鬼神を遠ざける術で打ち返していた．　内部だけでなく，はさみ打ちの妖樹さえからも，ライトの念を抜きとっている．　それは，ハナ教授が，インディアンの呪術師流にいえば，自分の〈コトバ〉，自分の生きかたをしっかりと胸にいだいていたからだろう．●くさもり・しんいち

■マイアミ旋風

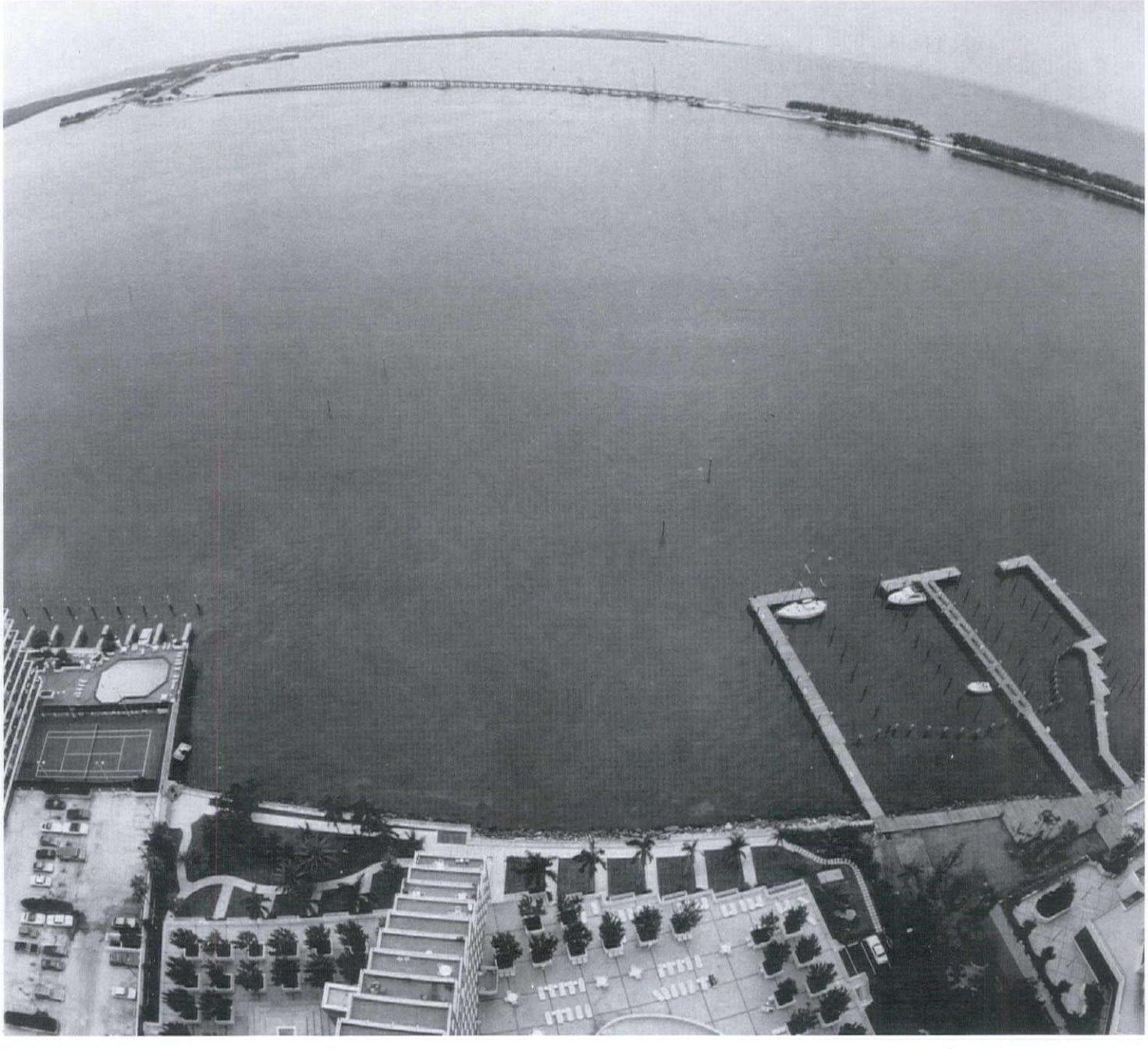
アルキテクトニカ

Arquitectonica in Miami

•

1977年，マイアミに大学を出たばかりの５人の若者が
東部から流れついた．
やがてその中から
ベルナード・フォート＝ブレシア，ローリンダ・スピア
ハーヴィン・ロムニーの３人を主体に
“Arquitectonica（アルキテクトニカ）”（スペイン語，Architecturalの意）が
生まれることになる．
フロリダの地に根をおろした彼らは
民間ディベロッパーとの協働を通じて
数々のプロジェクトをものし
いまやその拠点をヒューストンにまで拡げ，さらにその名を全米へと広めるようになった．
彼らはポスト・モダンを否定し
ラジカルなモダニストを目指す．
その思いきりのよい形態の背後には
彼らのサクセス・ストーリーが織り込まれているようだ．

●写真＝古館克明



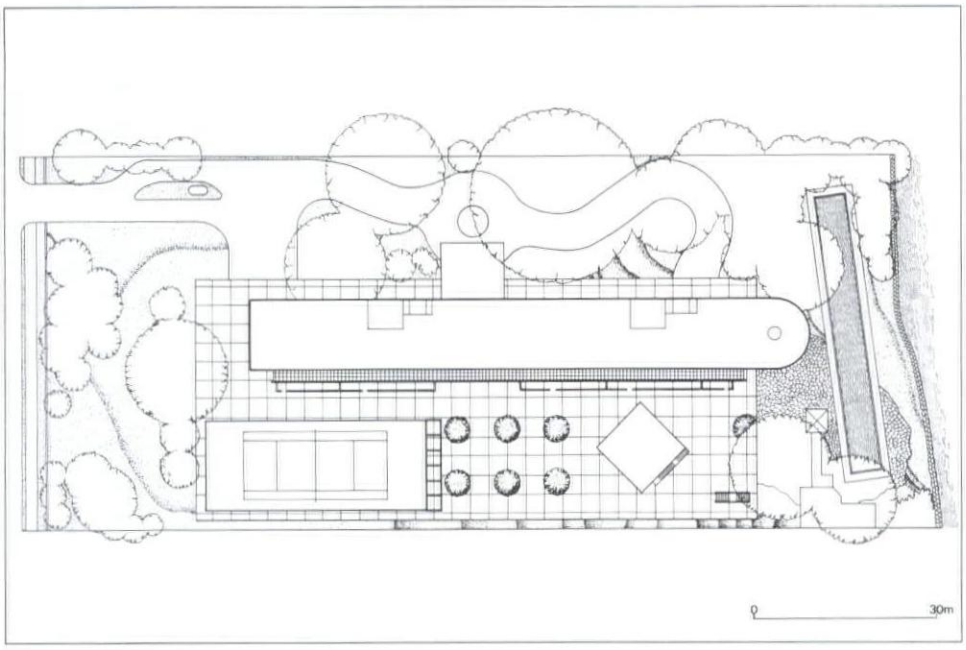




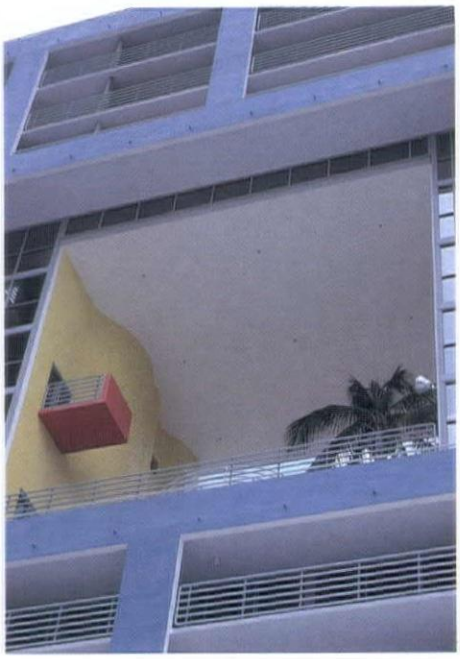
The Atlantis

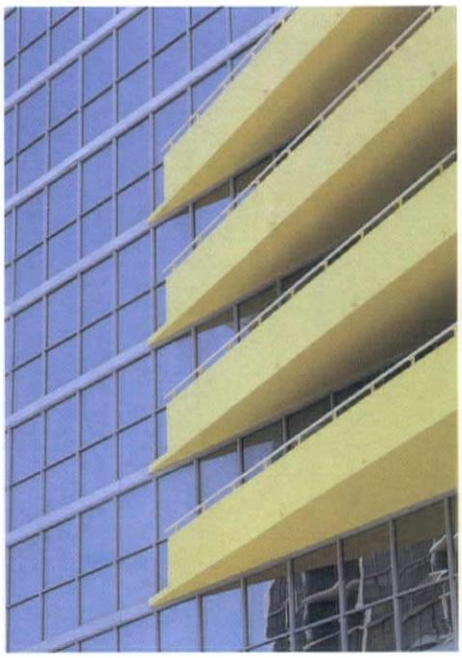
Miami, Florida

96戸，20階建のコンドミニアム．　東端にアールのつけられた全面ガラス張りの建物本体から，37フィート角の立方体が刳り抜かれて前庭上のヘルス・クラブとなり，ヴォイドとなった部分は不定形のプールとシュロの木のある〈スカイ・パティオ〉として8住戸に提供される．　また本体には，北側の眺望を得るための黄色い三角形のバルコニーが四段，および屋上の空調機器を隠す赤い三角形のフレームが付け加えられ，さらに南外壁面は特大の青いフレームで覆われる．　このフレームは立面に統一感を与えるとともに，ブリーズ・ソレイユとしても機能している．　1980年ＰＡ賞受賞．

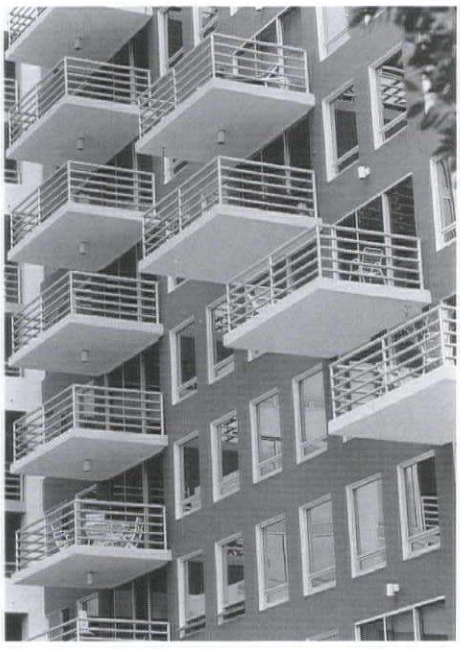


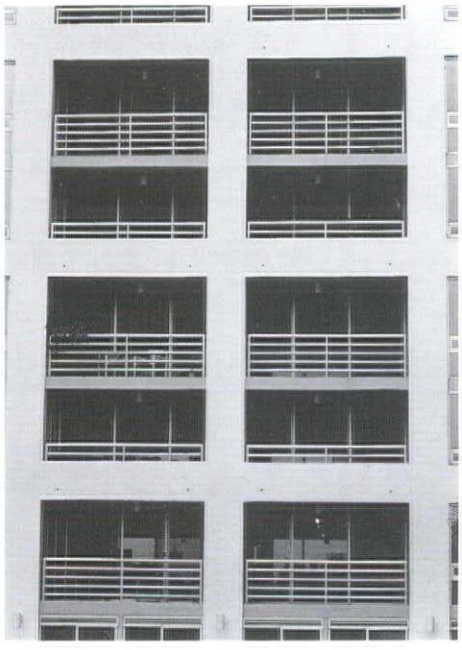










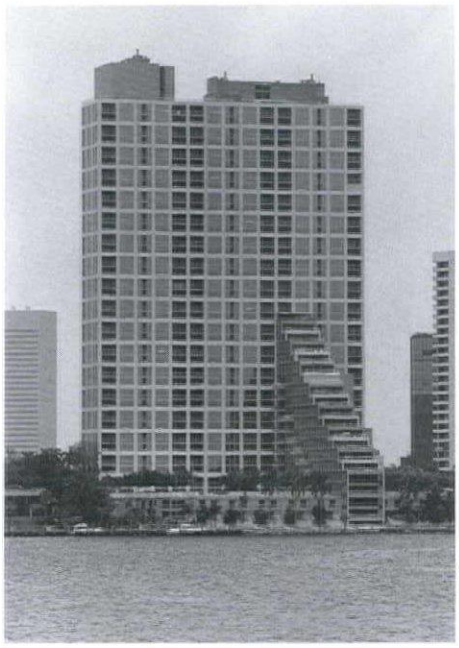


The Palace

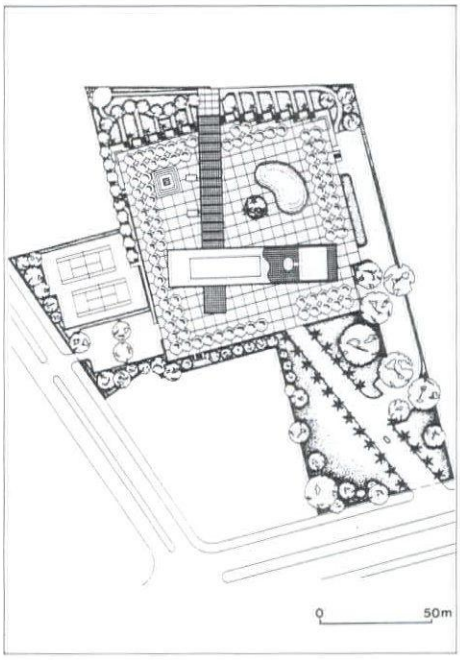
Miami, Florida

254戸，41階建の高級コンドミニアム．　抽象的なフレームとガラスの建物に，ややモダンではないメーソンリーの建物が貫通している．　その直交する建物は，ビスケー湾から立ち上がる巨大な階段を形づくり，本体を突き抜けた北側では，両方の建物に共用のモニュメンタルな車寄せとエントランス・ロビーになっている．　2つの建物は海岸線に沿って，軸線のふられた基壇の上にのっている．　この基壇は屋上に不定形のリクリエーション・プールをもつ2層の駐車場になっており，海側にはタウンハウスが並んでいる．　高層塔の屋上にはガラス張りのペントハウスが置かれている．









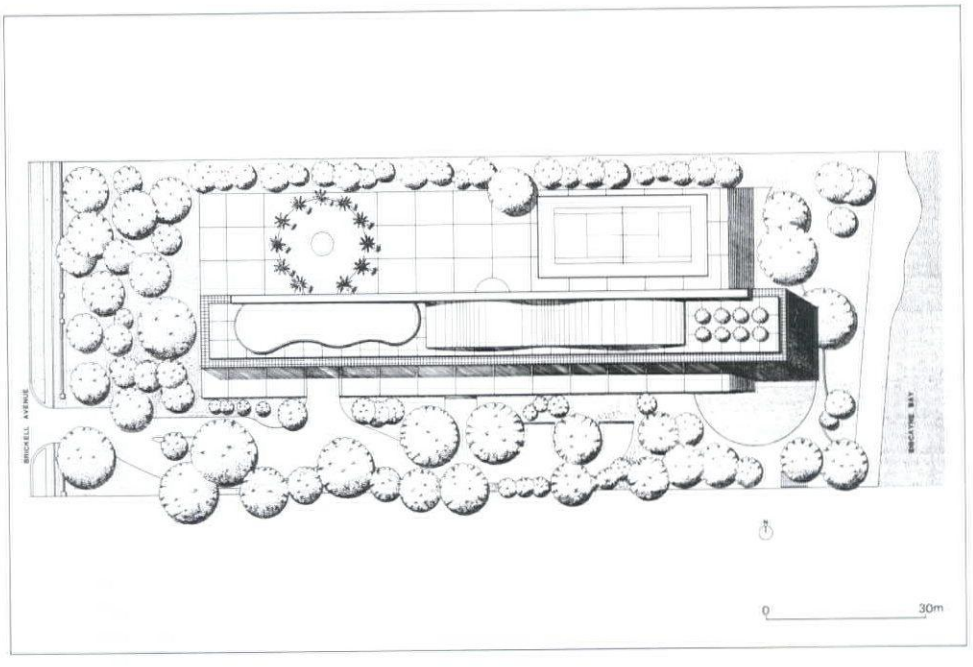


The Imperial

Miami, Florida



フラット・タイプ156戸，メゾネットを地上階に５戸，ペントハウスに２戸もつ31階建の高級コンドミニアム．ガラス張りの直方体にバルコニーの手摺壁がストライプ模様を描き，この建物の長さを強調している．北面には赤いメーソンリーの壁が浮かぶように張り付く．　そのスカイラインは湾側に高く傾き，付近の高層ビルから屋上ルーフテラスへの視線を遮る壁にもなっている．　南面には８層分の穴があけられ，人・車のエントランス通路になるとともに，北面の赤い壁の裏側を露わにする．　さらに２つの要素――サンルームを形成する濃紺のフレームと不定形の屋上ペントハウス――が付加される．





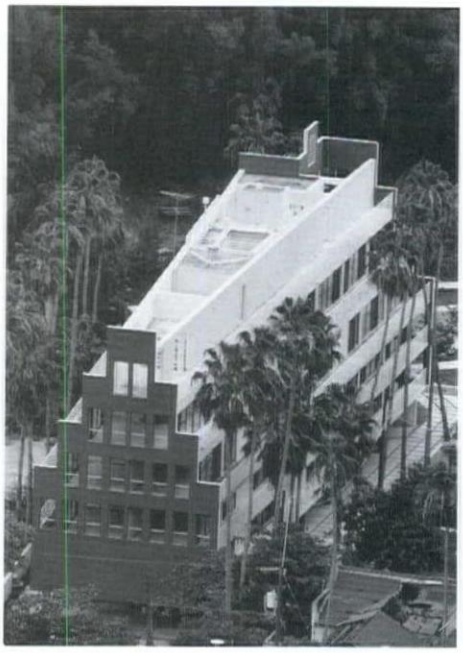


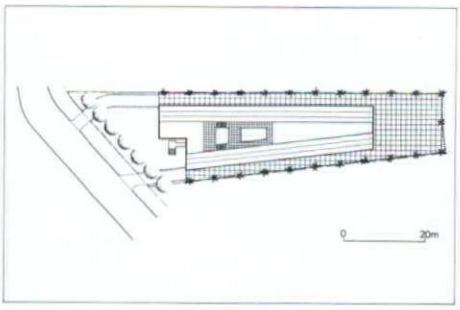


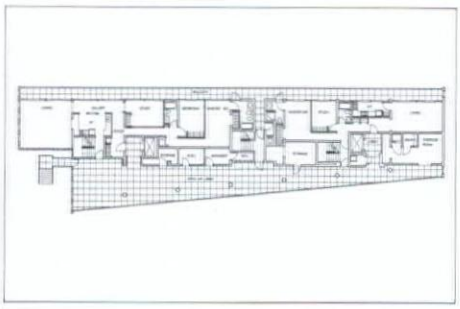
The Babylon Apartments

Miami, Florida

低層の集合住宅．　不定型の狭い敷地いっぱいに建てられ，市の建築法規によりセットバックした形態をしている．　またクサビ型の平面はこの建物に強いパースペクティヴの効果を与えている．　窓があけられた明色のメーソンリーの正面ファサードは，カーブした道路に沿って建つ周辺の建物に合わせるために，折り曲げられている．　側面のファサードを形づくるアルミとガラスの引違いサッシは，退屈で捉えどころのない現在のマイアミに相応しいものといえよう．　ロビー，共用廊下は外部開放型で，屋上にはプールと展望台が設けられている．





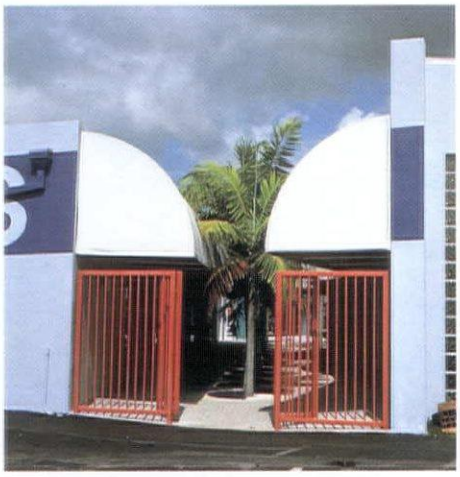


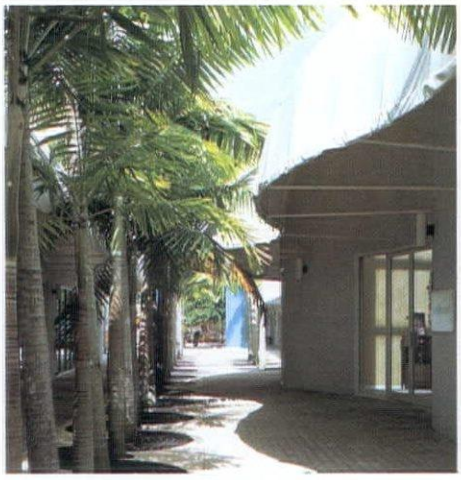


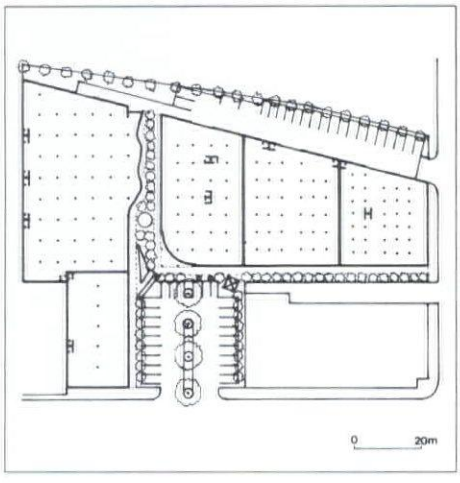
Decorative Arts Plaza

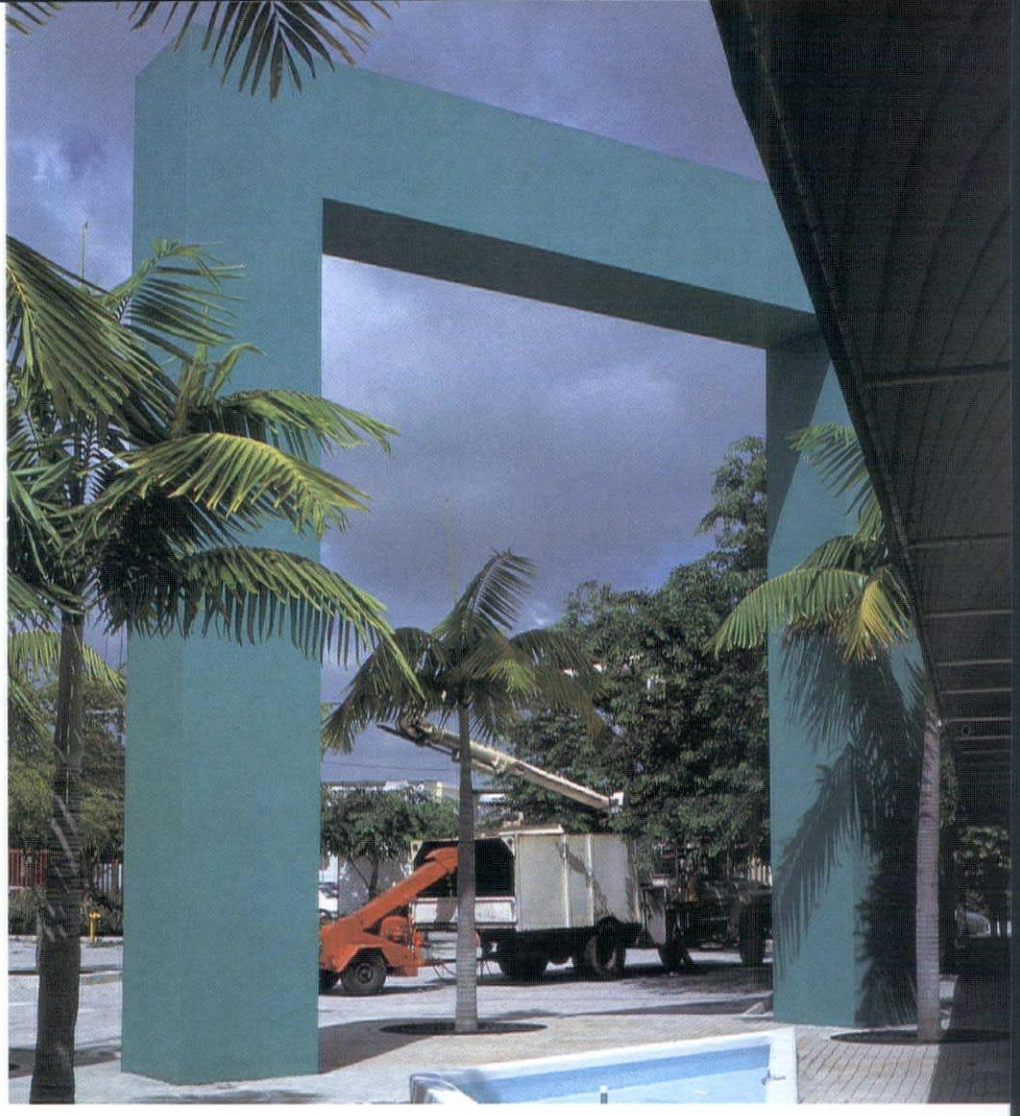
Miami, Florida ●

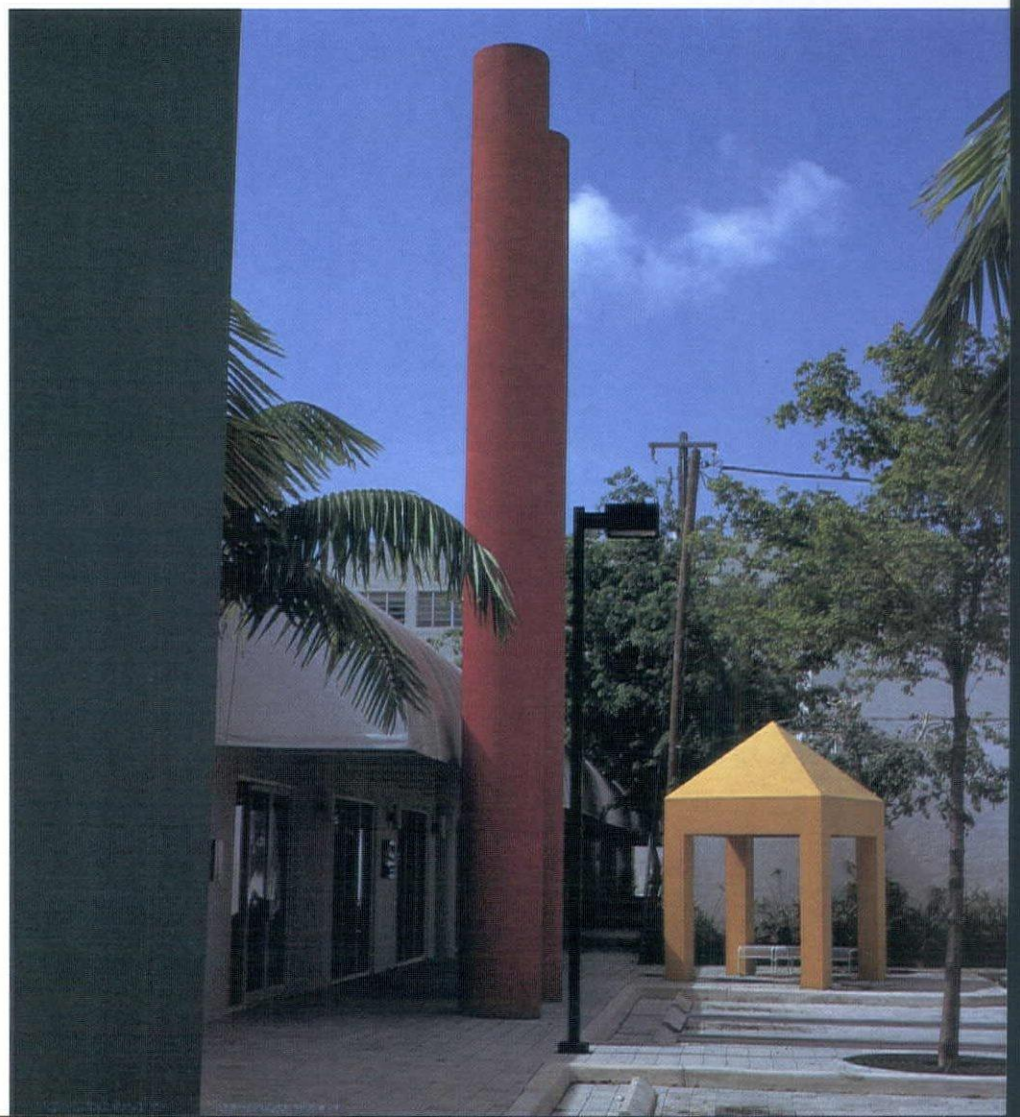
52,000スクウェア・フィート(約4800m²)の倉庫と家具のショー・ルーム。　敷地の形状から，前面に駐車場を設けると建物は通りから奥まって位置せざるを得ず，いかに人々の注意を奥にひきつけるかが，最大の課題だった。　ここでは，付近の他のショー・ルームと差別化するためにハデな原色やドギツイ形の装飾物は使わず，3つの単純な形の巨大なオブジェ——カナリア・イエローのピラミッド，オレンジがかった赤い2本の門柱，ホックニーのよく使うグリーンの門型——を駐車場の奥に控え目に配置している。

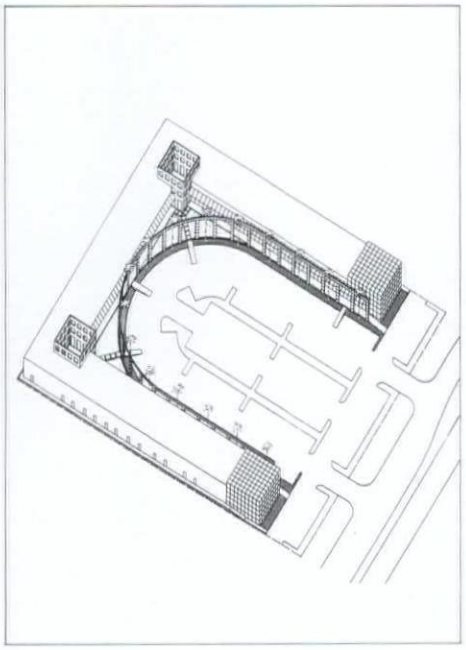


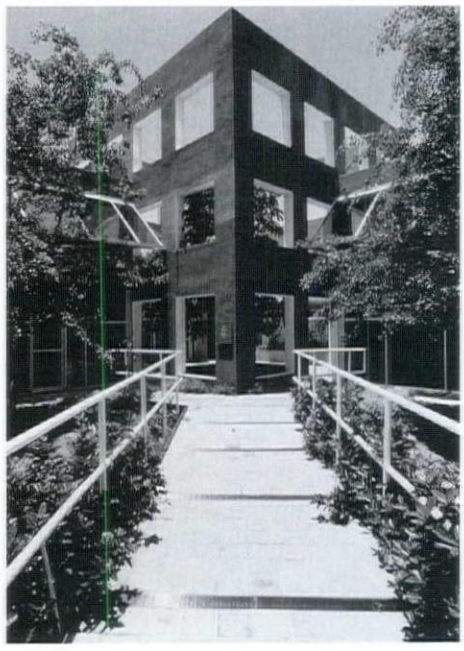








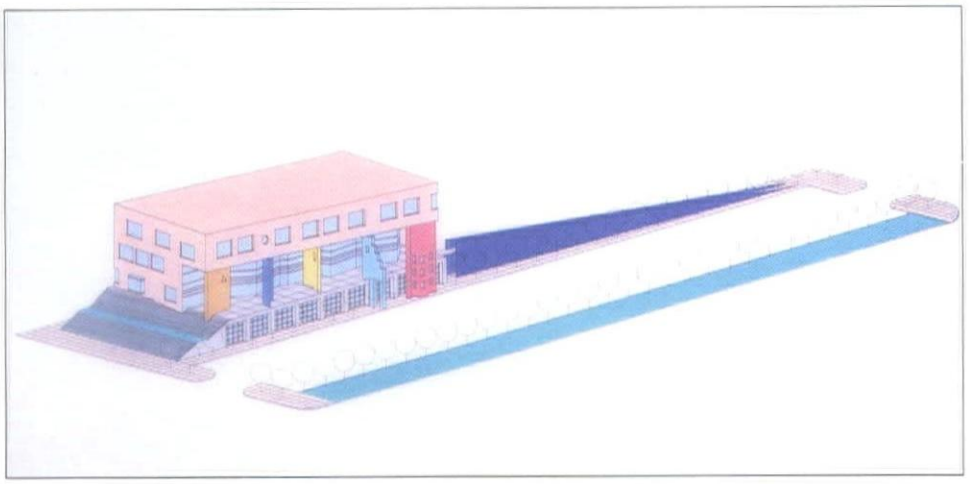




The Square at Key Biscayne

Key Biscayne, Florida

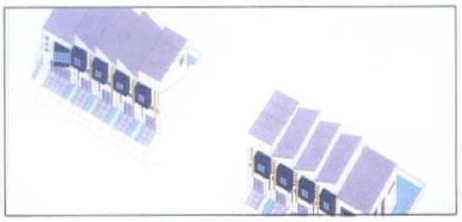
アメリカの郊外によくみられる連続式店舗のショッピング・センター。　計画上の要点は，前面の道路から駐車場がよく見え入り易く，駐車場からは各店舗が見渡せることである。　そのため，750～1500スクウェア・フィート（70～140㎡）の50の店舗がタイル張りの歩道に沿ってコの字型に配列され，その内側にU字型の巨大なコンクリートのアーケードが独立して建っている。コーナー部分にはそれぞれ赤とピンク色の壁に囲まれた戸外の部屋（中庭）が２ヶ所設けられて単調な郊外の環境にアクセントを与え，駐車場から距離的に不利な入隅部分へのアクセスとなっている。



Better Home & Living Center

● Houston, Texas

延30,000スクウェア・フィート（約2800㎡）の広さを持つ店舗とオフィスの複合ビル。　1階店舗の基壇の上に，L字型をした3層のオフィス階がのり，巨大な階段がその基壇上のプラザへ続いている。　4階部分がプラザ上に張り出してジグザグのカーテン・ウォールを受け，またそれはカラフルで自由な形をした壁で支えられている。　オフィスへの窓はアーケードの中にくつろいだ雰囲気で配置されている。



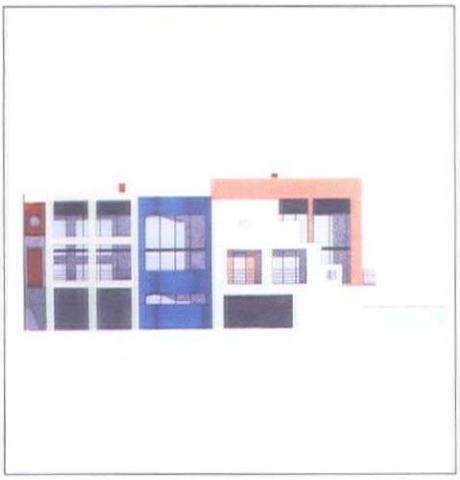


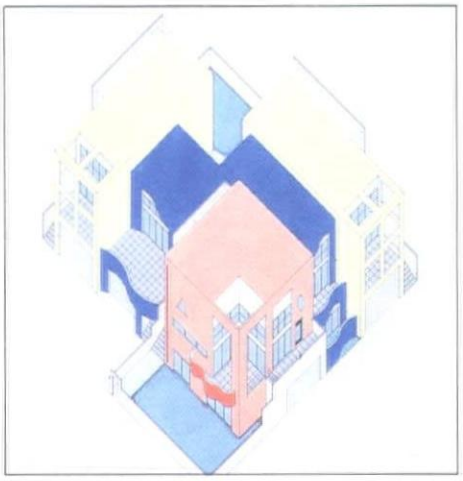


Haddon Townhouses

● Houston, Texas

10戸のタウンハウスが，にぎやかな交差点の両側に一列に並んでいる。　両端のものを除き勾配屋根の各ユニットは，3層で広さは約1,400スクウェア・フィート（約130㎡）。　黄色の壁が各ユニットの間を貫通し，それは階段室と住戸を仕切るとともに，ファサードではフィンのようになって現れる。　建物全体は白を基調に，赤・青・黄の三原色と黒でアクセントがつけられている。



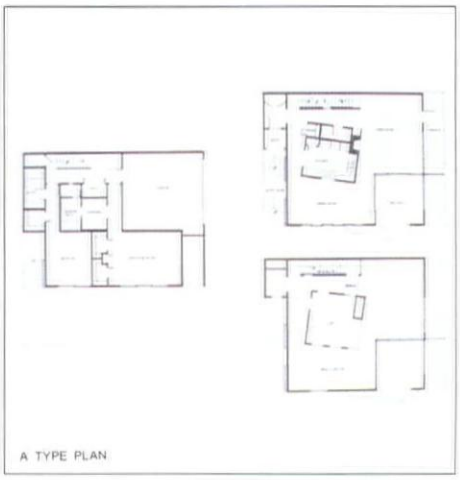


Taggart Townhouses

● Houston, Texas

4戸建タウンハウスのプロジェクト。　敷地は大きな公園を対角線上にのぞむ角地に位置する。　リビング・エリアは，眺望を得るために2階に置かれ，この部分は2層分，即ち居間に隣接する台所とその上階のロフト分の天井高さである。　2つの類以プランのユニットが両端に，そして正方形のユニットが角地側に置かれ，その間にL字型のユニットが角地側のユニットを取り囲むように配置されている。　両端のユニットはクリーム色のフレーム，コーナーのユニットはサーモン・ピンクのメーソンリー，L字型のユニットには青緑色の曲面テラスが連なる。





アルキテクトニカの“ロマンチック・モダニズム”

竹山 実

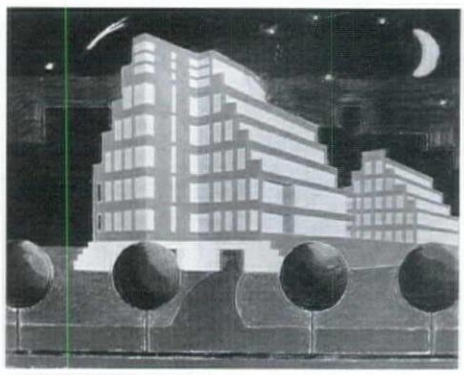
●

ＡＴ＆Ｔビルをはじめ，超高層の話題作を次から次へと建てつづけているフィリップ・ジョンソンとジョン・バギーが，ボストンのフォートヒル計画を発表したとき，「これはアルキテクトニカだ！」といったうわさがひろがったそうだ．　この計画案では，歴史主義への傾向が幾分かげをひそめ，３棟の事務所が，それぞれ別人の建築家が手掛けたかのように，ある種の不調和をもって，衝突し合っていたからだ．　もちろん，建物のシルエットだとか，カーテン・ウォールのデザインなどには，ジョンソン調が充分に漂っているのだが，全体の構成は，一般の目にも，アルキテクトニカの作品を直ちに連想させたのは事実だったのだろう．

「スタイルではなくアイデアだ．」といい切るアルキテクトニカの今までの作品に，支配的に共通しているのは，シンタックスの攪乱ということだろう．　それがデザインの衝突をつくりだし，そこから現代を表徴する，いわば不協和音が発生してくる．　たとえば《パレス》では，白い方形に赤い段上の建物が激突したような構成がとられたり，また《アトランティス》では，単純な形態や原色に塗られた面と線が，アクシデンタルに配置されているのを見ただけでも，そうしたシンタックスの攪乱がうかがわれるだろう．　それは，まるで子供の積木細工や，今はやりの〈ヘタウマ〉調のイラスト作品のようでもある．　その結果，アドホックな配置はスケール感を狂わせ，周辺にロマンチックな雰囲気をつくりだし，さらにマンガチックでポップやパンクさえものみ込んでしまう．

彼等は，今までのところ歴史主義への関心を一切示さないから，パラディオ風の窓とか，チッペンデール風のシルエットなどは使わない．　むしろ現代の記号現象に支配する〈生きた不秩序〉を建築にも封じ込めようとする．　建築の意味を生きた現代都市の神話性そのものに接近させようとする．　つまり，モダニズムのルールは破るけれど，常に新しさを求めるモダニズムの精神だけは継承しようというのだ．　だから，ポスト・モダニストと呼ばれるのを嫌い〈ロマンチック・モダニスト〉を自称する．

ところで，僕が彼等の作品をはじめて知ったのはＰＡ賞（1978年）をとった《バビロン》でだった．　先ず，ヘタウマ調のパースが眼をひいたが，それ以上にメンバーの一員にハーヴィン・ロムニーの名を発見したので驚いた．　ハーヴィンとはむかしニューヨークの事務所（ハリソン―アブラモビッツ）で



〈バビロン〉のドローイング．

一緒に仕事をした仲だった．　僕とは年令の差があって，彼はイエール大学へ入学する直前だったと思う．　ふたりともドラフトマンとして同じ仕事を分ち合った．　キューバ出身とかで，故郷の話をよく聞かせてくれた．多分，両親とともにカストロ政権を逃れて，アメリカへ渡ったのだろう．

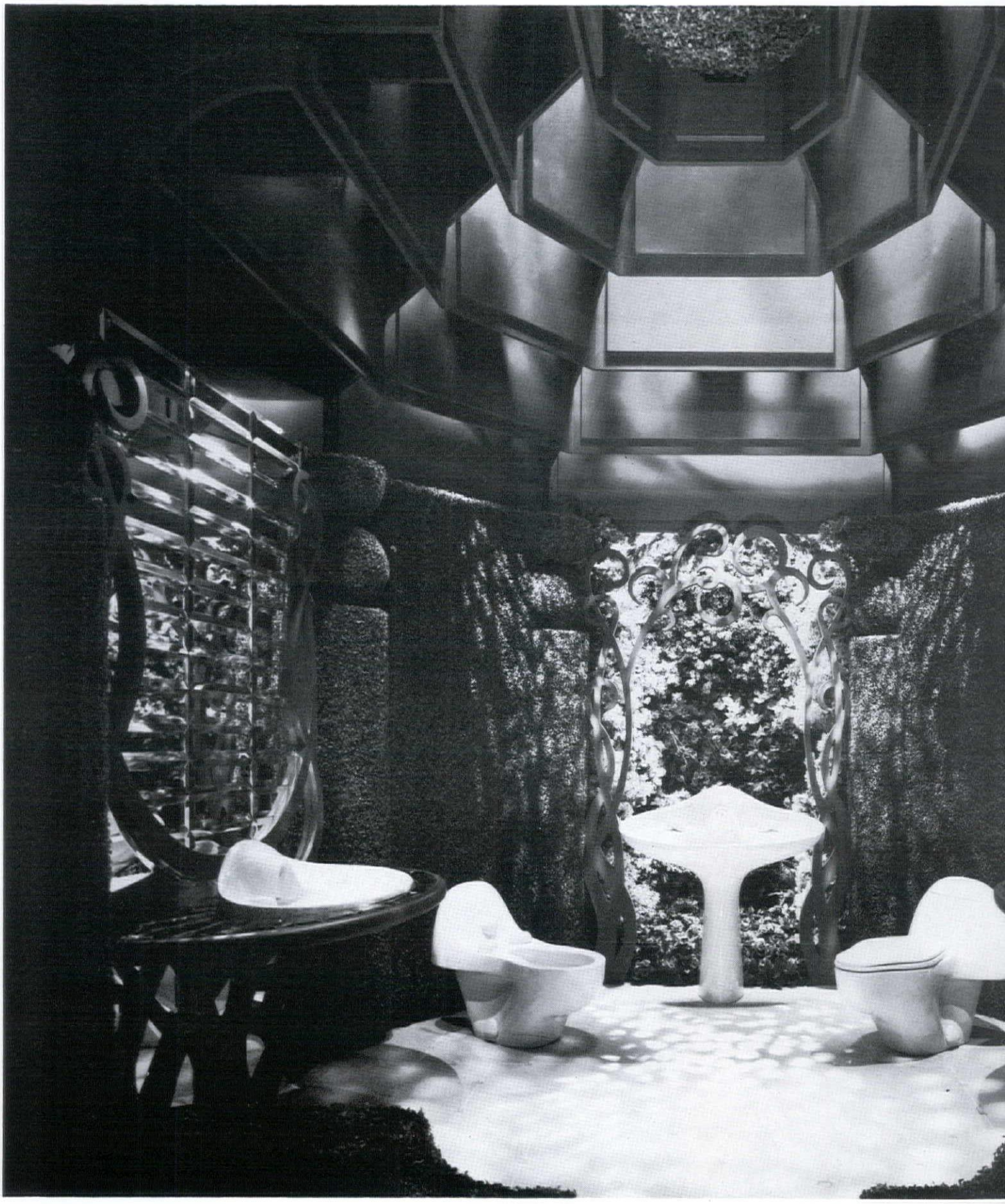
忘れかけていた彼と彼の作品を雑誌でみつけてなつかしかったが，それから間もなく彼に再会でき，アルキテクトニカを知る機会が与えられた．　同じ年の秋，日本から５人の建築家が招かれて毎週一人ずつ全米10都市にでかけレクチュアをして歩くという企画がもちこまれ，僕もそのひとりに加わってマイアミにもでかけることになったからだ．　ただ他の都市ではスポンサーが大学とかＡＩＡ支部だったのに，マイアミだけは《マイアミ建築クラブ》と記されてあったのが奇妙だった．　現地へ行って分ったことは，このクラブが実はアルキテクトニカだったということだった．　そこへでかけてはじめて，このクラブは民間の設計事務所で，内部には例のＰＡ賞をとった《バビロン》の計画案が掲げられ，小人数ではたらくスタッフの中に，なつかしいハーヴィンの顔をみつけだした．　彼等はその前年に，５人のメンバーで集まり事務所を開設したばかりだった．　仰々しく《マイアミ建築クラブ》という看板を掲げたのは，幾分沈滞気味の地元と，外部との接触にもっと新しい風を吹き込もうという狙いからだったという．　事実，その後もそうした新しい試みを色々と試みたようだし，それ故地元の冷やかな抵抗も少なからずあったようだ．

あれから数年，アルキテクトニカは今日，全米に知れわたるようになった．　５人いたアソシエートもふたり去ってベルナードとローリンダの夫婦とハーヴィンの３人になったが，スタッフはヒューストンの事務所を含めて30人以上にふくれあがった．　３人の平均年齢は33才――そうとは信じられない程，数多くの計画案を発表し，その幾つかをすでに実現している．　だから目下のところアメリカ中の学生や若い建築家の関心の的になっている．　何しろ，学校を出ていきなり事務所をもち，数年のうちに，あれだけの作品を数えあげるほどになった，この若い事務所に，熱い視線が注がれるのは当然のことかもしれない．

今までのところマイアミやヒューストンの作品が中心だが，そうしたディープサウスのいわば〈陽の当る場所〉の活力を，彼らの仕事は背景にしている．　そこには，こうした若い建築家のラジカルな志向性を擁護しようとする陽気な社会がまだまだ健在なのだろう．（事実，彼らの仕事はほとんど民間ディベロッパーによるものだ．）　実績を重んじ，建築の創造性を常に穏健な技術主義のレベルで評価するような社会との距離を測らずに，アルキテクトニカの常にラジカルでロマンチックな創造性についてだけ語ることは危険だろう．

●たけやま・みのる／建築家

THE WARREN PLATNER COLLECTION



高温焼成で優れた物性をもち、壁材・床材として最適なマテリアルといえるでしょう。

◉お問合せ・資料のご請求は下記へ

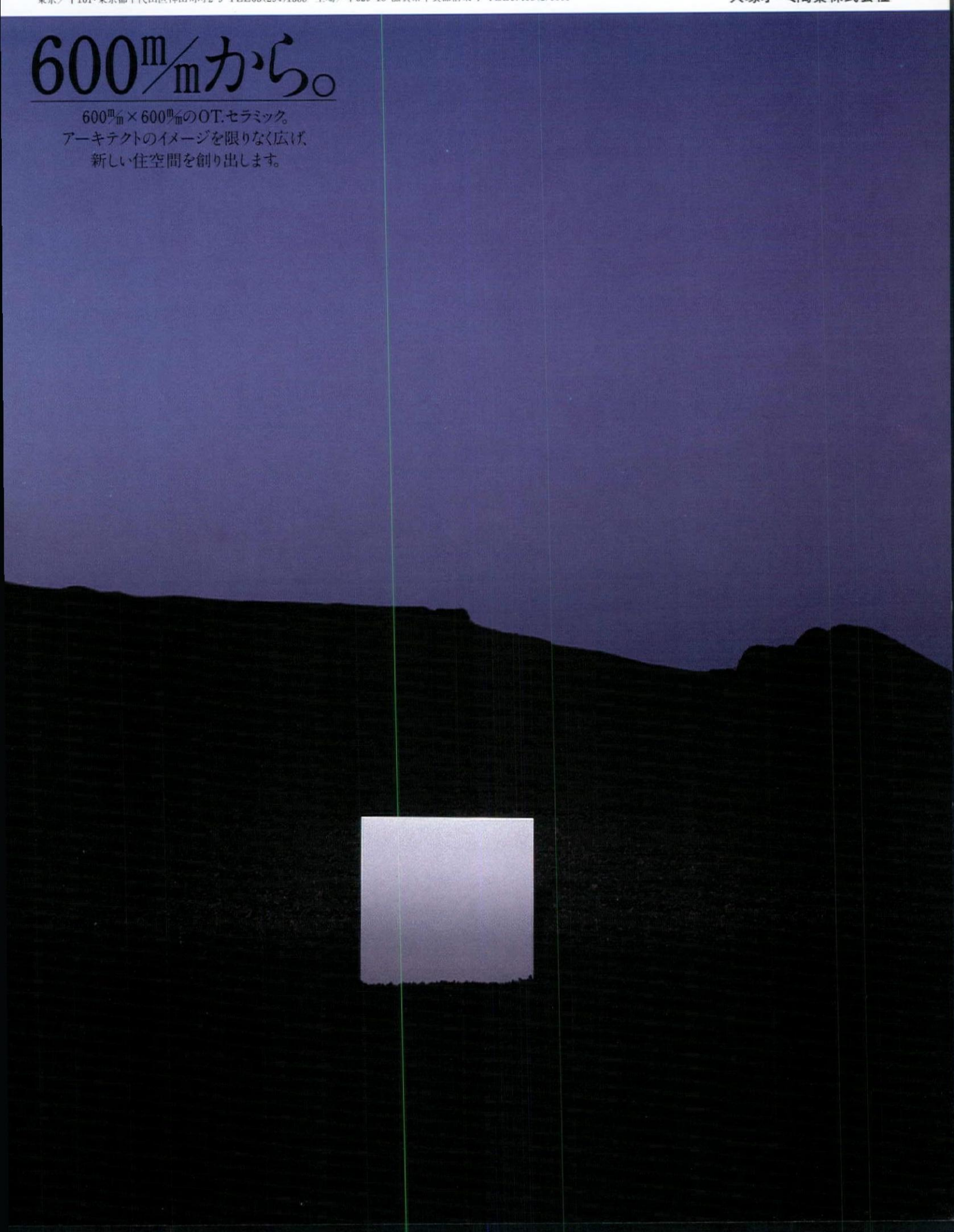
東京／〒101・東京都千代田区神田司町2-9 TEL03(294)1388　工場／〒529-18・滋賀県甲賀郡信楽町 TEL07488(2)3001

'OT.セラミック'

大塚オーミ陶業株式会社

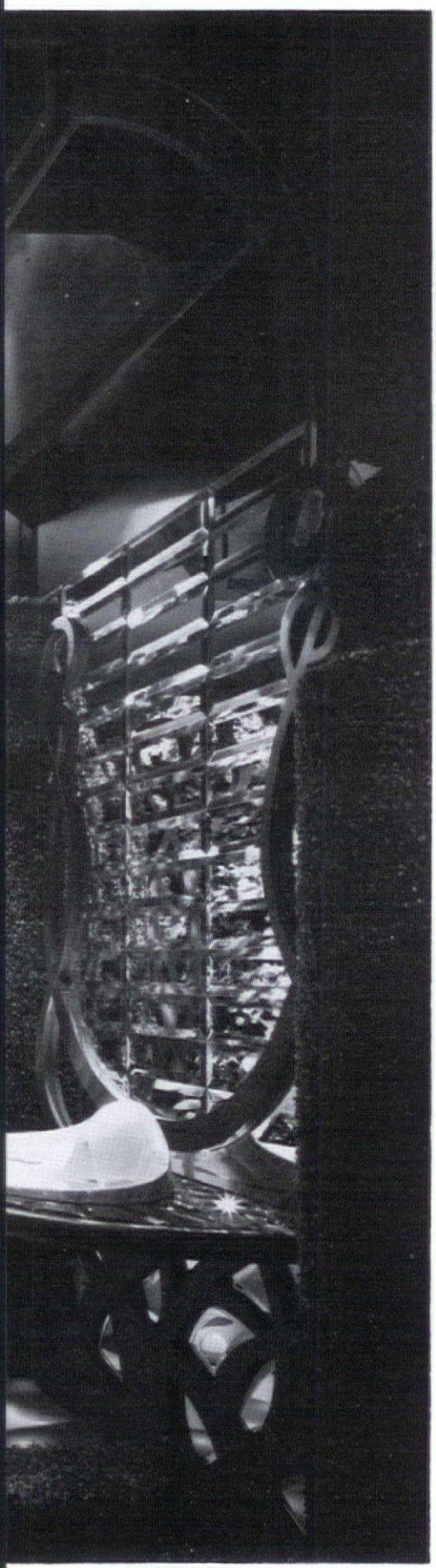
600㎜/mから。

600㎜×600㎜のOT.セラミック。
アーキテクトのイメージを限りなく広げ、
新しい住空間を創り出します。

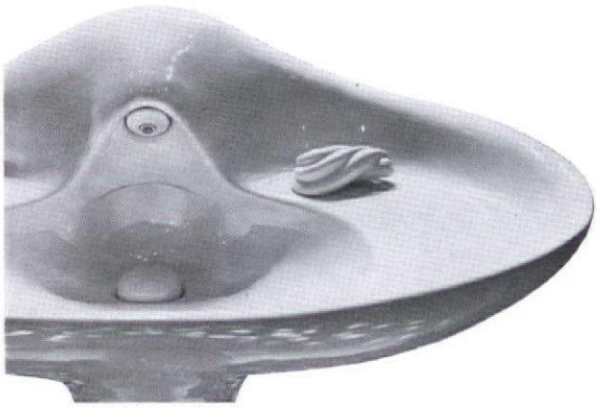


ウォーレン・プラットナーの衛生陶器

この一連の衛生陶器はW.プラットナーのデザインによるもので，今年4月にトロントで開催されたバス・ルームのためのシンポジウムで発表された．　人体のボディ・ラインからイメージされた曲線的なシルエットは，hand-glazed施釉された艶のある表面とともに，官能的で怪しげな雰囲気を醸し出している（展示スペース自体が何やら怪しげだが）．　また洗面器の蛇口やハンドル，排水孔，便器のバルブや取付ボルトなど，衛生器具につきものの金具類を総て陶製，もしくは陶器で覆い隠すことにより贅沢さを加味し，高級感を演出している．

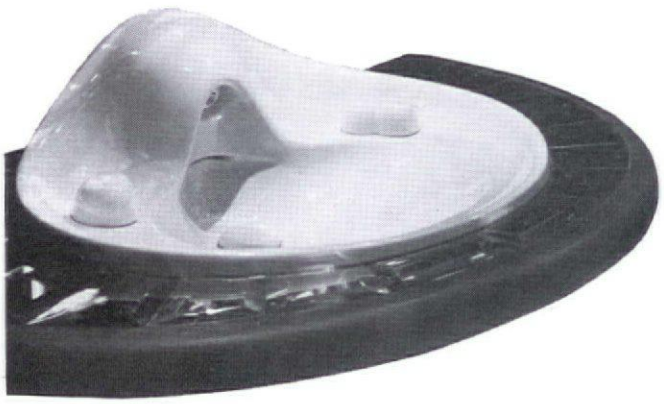


ペデスタル付洗面器



H：　972mm
W：1,016mm
D：　584mm

カウンターはめ込洗面器



W：762mm
D：533mm

便器



H：673mm
W：559mm
D：813mm

ビデ



H：483mm
W：356mm
D：762mm

日新製鋼



光をおさえて、イメージ新鮮。

屋根材の選び方ひとつで建物の表情が変わります。丈夫で長持ちすることはもちろん、周囲の外観にマッチした美しく、落ちついた色調の屋根材が今、強く望まれています。そうしたご要望にお応えするため、日新製鋼では、着色亜鉛鉄板「月星カラー」のニュータイプとして、完全つや消し仕上げを施した「月星カラーつや消し」を発売いたしました。標準色はブラック、ダークグレー、ブラウン、ダークブラウン、モスグリーン、ネービーブルーの6色、自然環境に映え、上品で美しい建物を演出します。ぜひご検討下さい。

完全つや消し仕上げの屋根材 **月星カラーつや消し**

■お問合せは ●本社 〒100東京都千代田区丸の内3丁目4番1号(新国際ビル)☎03(216)5511●大阪支社 〒541大阪市東区大川町1番地(日土地淀屋橋ビル)☎06(202)1331●名古屋支社 〒450名古屋市中村区名駅3丁目25番9号(堀内ビル)☎052(582)6061●札幌営業所☎011(241)7524●仙台営業所☎0222(22)5835●新潟営業所☎0252(43)3491●富山営業所☎0764(33)8011●岡山営業所☎0862(31)4355●広島営業所☎0822(48)4611●高松営業所☎0878(51)9756●福岡営業所☎092(781)1251

資料請求券 SD 11 カラーつや消し

書評

《都市の記憶》
粉川哲夫＝著
B6判　240頁
創林社　1400円

評者＝
植野 糾

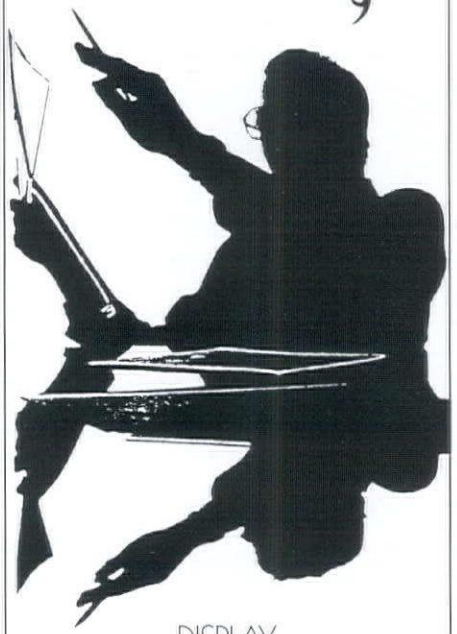
うさんくさい都市を求めて

広告と情報と喧噪に包まれて，街の表皮は今，饒舌に語り出している．　巷にあふれる多種類のタウン誌片手に，人々はグルメとイベントを求めて街を徘徊する．　まるでひとつのマスメディアのように街は情報源であり刺激剤である．人はその都度，街の愉しみ方のディスクを入れ替えては，軽々と都市をオモシロがっている．ロラン・バルトが，《表徴の帝国》(1970年) で日本の都市ならびに文化における夥(おびただ)しい程の記号（表徴）の氾濫について指摘して以来，一般大衆の側が街の表徴をあくまで軽薄に愉しむようになるまでに，約10年の歳月が経った．　この10年とは，生産・流通・消費の主体が，物から情報へと確実に移っていった時期でもあった．流通回路の最もフィジカルな現前である街並は，今やすっかり，情報＝広告の論理に身を任せて，１年前のタウン情報誌すら使いものにならない程の表層の変貌ぶりなのだ．　もはや，何を目ざしているかという変化の行方ではなく，いかに早く変わり得るかという変化の速度だけが問われている．

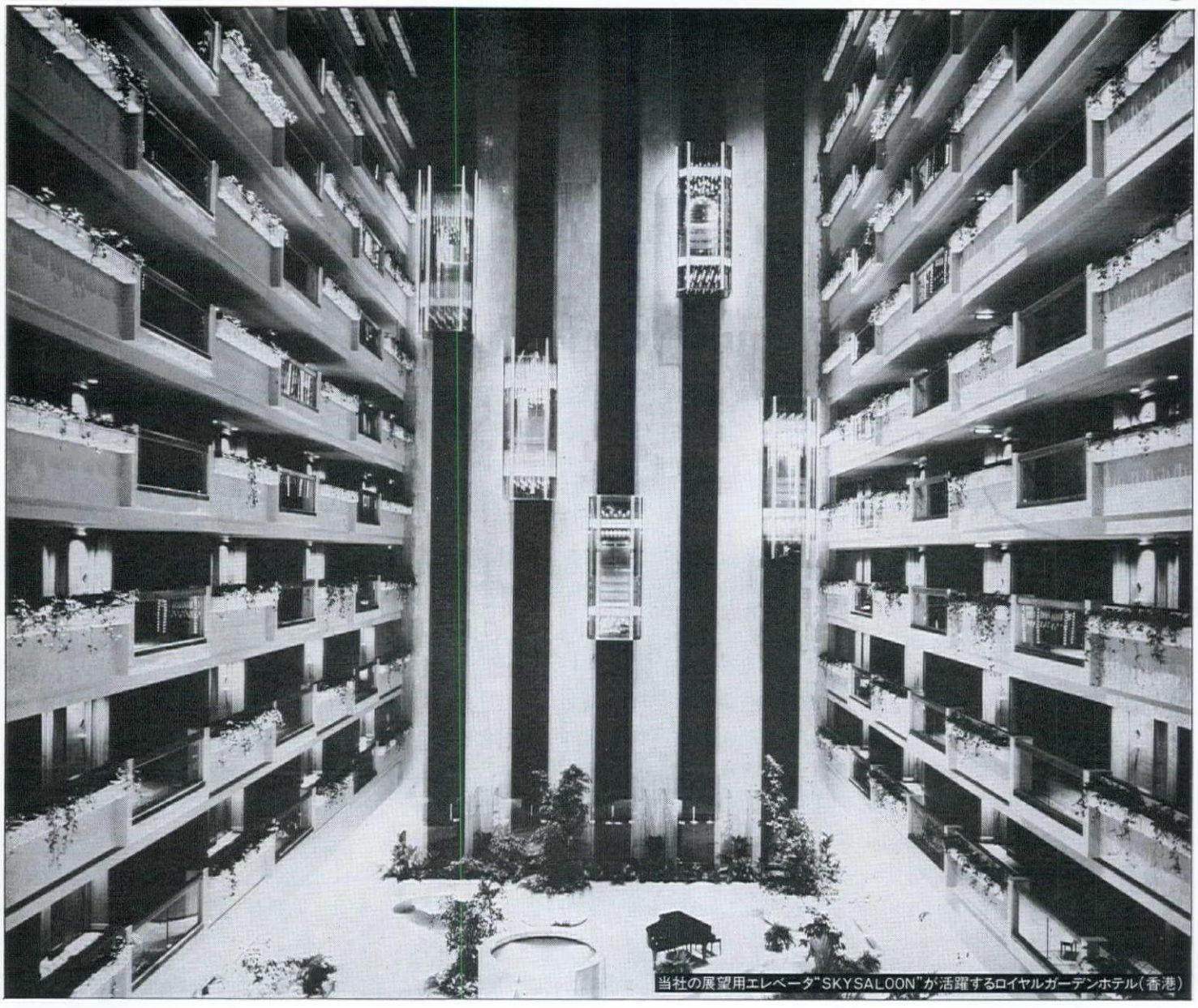
こうした傾向に粉川哲夫氏は〈遊歩者〉の視座から断固疑問を投げかける．　いわく「うさんくさくない街は面白くない」．都市のうさんくささとは，「一方的に作られてしまった都市を住んだり使用したりして，いかにこちら側にとり込めるか」の度合であり，「文化的，社会的にいろいろなものがいかに入り混じっているか」の度合である．　今の東京が必ずしものっぺりした均質な都市であるわけでなく，それどころか世界でも有数な程，異質なものが混合した街といえるのだが，個々の差異化が進めば進む程，一挙に総体として遠隔管理されてしまう危険性について粉川氏は語っているのだ．オモシロ都市東京が，実は浮遊するシニフィアンの戯れ事にすぎず，空疎化した（筈の）意味内容を大量消費という怪物にすっかり横どりされ，〈遊歩者〉にとって実にオモシロくない都市に成り下がっている，というのが氏の議論の大筋である．　実際，東京に何かを書き込もうとしても既に何かが書き込まれてしまっており，記憶を刻みつけようにも変貌の嵐の最中ではたえず記憶喪失症でいることを強いられる．

こうした状況は，生活と文化にさらにエレクトロニクスが侵食してゆく近未来において，より進行してゆくに違いない．　〈情報資本主義時代〉の〈電子都市〉において，こうした見えないシステムの支配にあくまで抗って，個々の自律を保ってゆくためには，それではどのような展望があるというのか．　粉川氏は〈情報資本主義〉の都市において貨幣ではなく情報の蓄積量の差別化が進むことに言及しながら，戦略的に情報資本の貧しい空間を作り出す〈スクウォッティング〉に着目している．　それは，情報集中都市マンハッタンに対して意図的に貧しくさせられているブロンクス地区のようなものではなく，都市内に入れ子のように発生するシミュラクルとしての〈貧困の空間〉を指しているのだ．　実際，幾つもの都市の内部で〈スクウォッティング〉が起っており（例えば1980年のチューリッヒ，1970年のサンティアゴ等），〈遊歩者〉が自由に書き込める解放区を創出しているという．　こうした未来展望はリドリー・スコットが映画〈ブレードランナー〉で描いたアジア的未来都市像を想起させる．　酸性雨の降りしきる湿ったその空間は，明らかに闇市空間のシミュラクルであり，そして大量にうさんくささを孕んでいたのだった．

●うえの・おさむ／鹿島建設設計部

ノバ30年のノウ・ハウが創りだす
確かな信頼、無限の可能性。
商空間の演出から環境空間の創造まで、
NOVAの歴史はヒューマンコミュニケイションの歴史です。

DISPLAY
EXHIBITION
SIGN
STORE
INTERIOR
NOVA
INTERIOR & TOTAL DISPLAY CO.,INC
ノバ・工芸株式会社
本社
〒104 東京都中央区八重洲2-6-13新八重洲ビル☎(03)272-0031(代表) FAX.(03)272-0038
横浜支店
〒221 横浜市神奈川区鶴屋町2-21-4第一安田ビル☎(045)311-4827(代表) FAX.(045)311-4876
高崎支店
〒370 高崎市新町8-5朝岡ビル☎(0273)25-5669
関西支店
〒600 京都市下京区河原町通り五条上る西橋詰町743 カーサミヤコ☎(075)351-6005 FAX.(075)351-6008
ノバ製作所
〒143 東京都大田区大森本町1-2-20☎(03)765-0061(代表)

●世界のエレベータ **FUJITEC**



当社の展望用エレベータ"SKY SALOON"が活躍するロイヤルガーデンホテル(香港)

エレベータは人の流れを読む。

●ビル交通需要の変化を予測して、エレベータが動く。しかも、その動きはきわめて効率的。FLEX-11はまさに先進の群管理システムと呼ぶにふさわしい装置です。中枢部には学習機能をそなえた高性能マイクロコンピュータを搭載。時々刻々変化する交通需要を逐次、分析・整理します。結果、常に最新の交通データが確保されます。乗場呼びが発生すれば、その交通データからビル内の人の動きを予測、最適なエレベータを割当てます。この予測割当てには高度なゲーム理論"ベイズ戦略"を応用。その精度の高さは驚嘆に値します。しかも待ち時間の短縮だけでなく、消費電力の節減、予報はずれの防止などからも総合評価し、割当てます。FLEX-11はサービス性でも、経済性でも一歩進んだ群管理システムです。

エレベータの動き、あざやか。FLEX-11

- ■エレベータは乗場呼びに素早く応答します。長待ち発生率は大幅に減少、平均待ち時間は約20%(当社比)短縮。
- ■高精度な即時案内。
- ■省エネ運転。乗場呼びには停止回数の少ない、走行距離の短いエレベータを割当て、消費電力を節減します。
- ■テナントの入れ替わりなどによる大幅な交通需要の変動にも自動的に対応できます。プログラムを変更する必要はありません。

●群管理システム

FLEX-11

フジテック株式会社
●本社 大阪府茨木市庄1-28-10 ☎0726-22-8151

●東京 03-443-5231 ●札幌 011-742-2241 ●仙台 0222-22-0271 ●横浜 045-201-0869 ●名古屋 052-261-6851
●大阪 06-441-8521 ●金沢 0762-61-5108 ●京都 075-231-7144 ●神戸 078-391-4795 ●広 島 082-231-6760
●高松 0878-31-0015 ●福岡 092-472-1591 ●鹿児島 0992-26-9555

新刊紹介

《NHK ブックス 462　絵になる都市づくり》

尾島俊雄＝著

B6判　226頁

日本放送出版協会　750円

〈都市〉という言葉のもつ響きは，かつてほどの魅力を失ったかにみえる．　しかし著者の心の中には，〈都市〉は確実に息づいているようだ．　本書は，日本の未来都市建設に夢を抱く著者の自問自答の書であり，いまや自然そのものとして捉えられた都市を巡って様々な角度からの考察がなされ，彼独自の都市観が展開される．　さらにそれは，具体的なデータや図表，そして彼が講座をもつ大学の学生のレポートなどとともに，私たちが夢に描くことのできるような都市の姿を浮かび上がらせようとする．

《エンパイア・ステート・ビル解体》

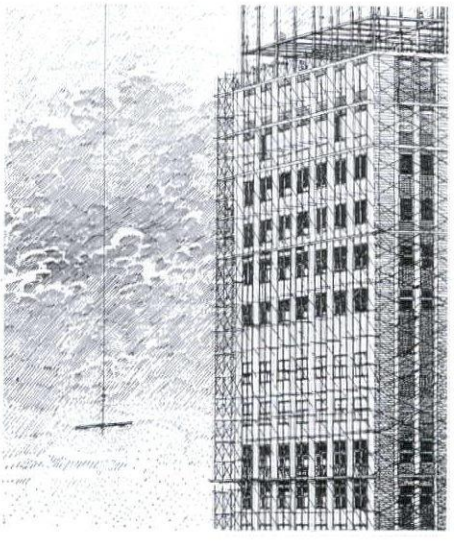
デビッド・マコーレイ＝著

中江昌彦＝訳

A4判変形　80頁

河出書房新社　2000円

1931年にニューヨークに建てられたあの世界一のビルが，それから約60年後に某石油産出国に買い取られ，その本社ビルとして砂漠に建て直されるために解体されるという，近未来小説(？)風の大人の絵本．　最上階からの解体のプロセスは，ペン画のイラストとともに，専門的だが判り易く説明される．　また解体のプロセスは，逆に建設のプロセスを辿ることであり，このビルの計画上の特長や構造を窺うことができて興味深い．



《朝日選書 261　近代日本の異色建築家》

近江栄・藤森照信＝編

B6判変形　270頁

朝日新聞社　980円

明治以来，日本の近代建築史を支えてきたものは，いわば〈官製〉のそれであった．　ヨーロッパに留学し，帰国後大学で教鞭をとった人々を中心にして，近代建築の正統派が形づくられてきたのである．　本書ではそのような〈官〉の系譜の正統派ではなく，〈民〉の系譜に属する異色の，あるいは異端の存在と思われる人々を取り上げ，その生涯と業績を紹介している．登場する建築家は，明治から昭和前期にかけての24人．　各建築家ごとに，編者をはじめ現代名うての書き手たちが執筆を担当し，近代化の激しい波の中で活躍した彼らの生きざまを，限られた紙面の中で手際よく紹介している．

《全版画集　ゴヤ》

谷口江里也＝編

A4判　232頁

講談社　4800円

1746年にスペインに生まれたゴヤは，伝統的画家としてロココ風の肖像画，風俗画や装飾画を描いたほかに，幻想的な絵や凄惨な現実，栄光の光と影を巧緻に描写した銅版画の連作を遺した．　本書はこれら版画作品の連作〈気まぐれ〉，〈戦争の惨禍〉，〈ディスパラテス〉，〈闘牛技〉，および独立版画の全239点を収録したものである．　それぞれの作品ごとにゴヤ自身の作品付記を収め，また詳細なデータと解説，および年譜を併載している．



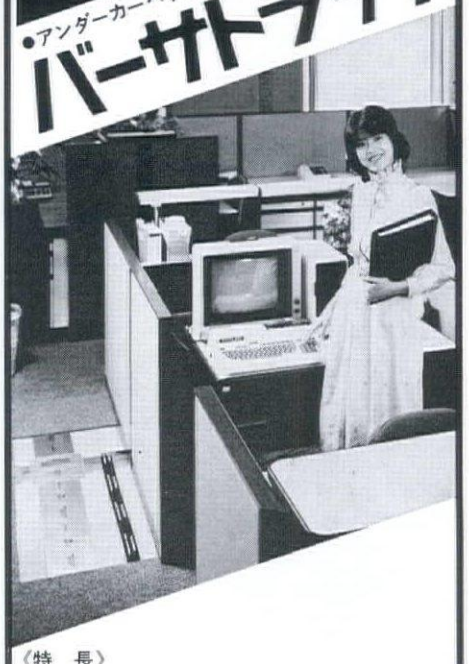
〈フランシスコ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス・画家〉

OA時代のオフィス内電力、データ伝送、電話配線方式に最適です。

ビル内配線方式の革命

●アンダーカーペット配線システム

バーサトラック



《特　長》

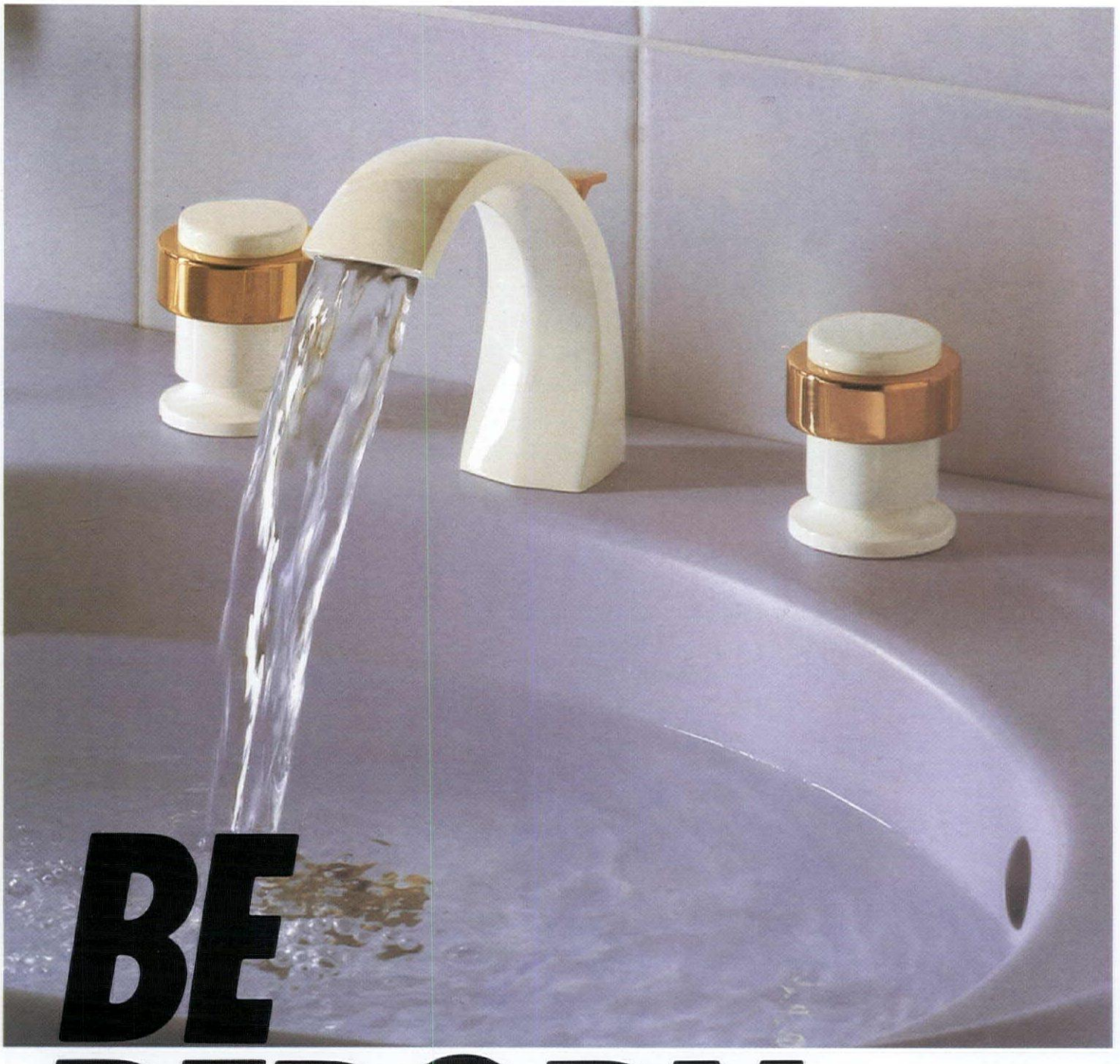
●自由な配線レイアウトができます。
●布設が簡単で、追加、変更も容易に行えます。
●美観にすぐれています。
●トータルコストおよび建築コストが低減できます。

《用　途》

●近代的新築オフィスビル。
●オープン・オフィスシステムビル。
●テナントビル、貸オフィスビル。
●銀行、デパート、スーパー等商用ビル。
●既存オフィスのOA化対応改装。
●工場のOAルーム、設計室等。

日立電線

本社：〒100 東京都千代田区丸の内2-1-2
(千代田ビル)
電話・東京03(216)1611(大代表)



BE REBORN

西独グローエ社商品をとおして、わが国の水栓金具業界のパイオニア的役割をつとめてきました。このたび新たな飛躍をめざし、日本スタナダイン社として生れ変り、ハイグレードな世界の水廻り商品をお届けいたします。

NEW MOENとして

モーンブランドで定評のある水栓金具は、過去10年ヤンマー産業株式会社が取扱って来ましたが、9月をもって契約が終了しました。今後は自社の製品としてMOEN水栓金具は日本スタナダイン㈱が一切の窓口となります。

日本スタナダイン社は、下記各社の日本における唯一の取扱い窓口です。

- ●米国スタナダイン社……モーン水栓金具
- ●西独グローエ社……グローエ水栓金具
- ●西独ドンブラハ社……水栓金具
- ●西独ケウコ社……バスアクセサリー
- ●西独V&B社……衛生陶器
- ●イタリア フィヤ社……水栓金具
- ●スペイン カサブェデス社……水栓金具

旧日本グローエ株式会社

MOEN

日本スタナダイン株式会社

本　社　東京・港区虎ノ門

住設事業本部　東京都新宿区新宿５－１－１　☎03(352)7341

大阪営業所　大阪市西区北堀江１－５－２　☎06(533)3015

GROHE

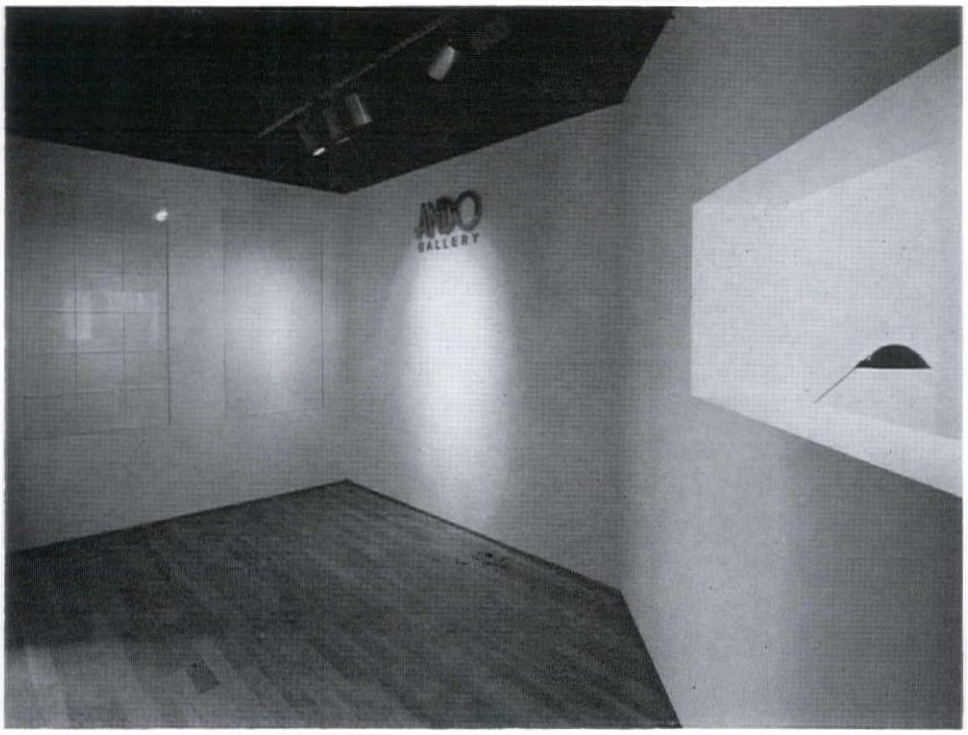
■NEWS

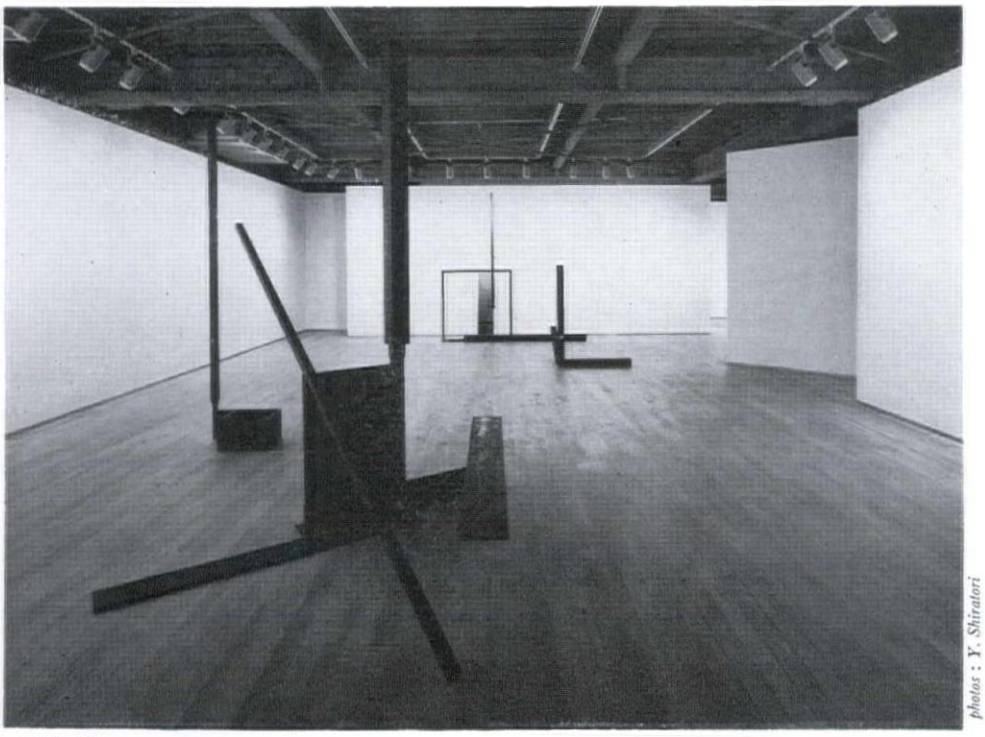
アンドー・ギャラリー・オープン

東京の港区北青山，ブラジル大使館の向かいの小道を入った鉄骨造の倉庫の最上階に，新しいギャラリーが誕生した．　ペンキ塗りの白壁に天井は鉄骨耐火被覆むき出しのままという空間．　設計は建築家の中込清．このギャラリーでは，日本の若手モダン・アーチストの作品を取り上げ，それぞれ約1ヶ月程度の会期で展示するという意欲的な姿勢でスタートしている．　また，建築・音楽・ダンス等までも視界に入れたインタージャンルな活動を企画している．　今後の日程は以下の通り．

根岸芳郎（1951年生れ）　10月30日まで
鈴木隆（1957年生れ）　11月2日～12月15日
長沢秀之　1985年2月中
岡崎乾二郎　1985年4月中

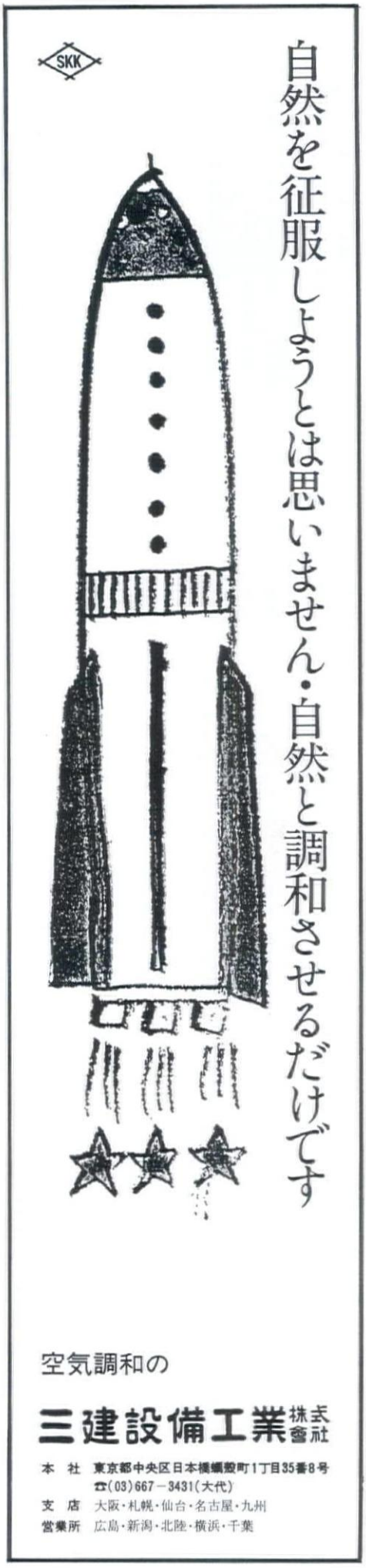
アンドー・ギャラリー（ANDO GALLERY）
東京都港区北青山2—12—39　サンルックビル　3F
tel. 03—479—6285

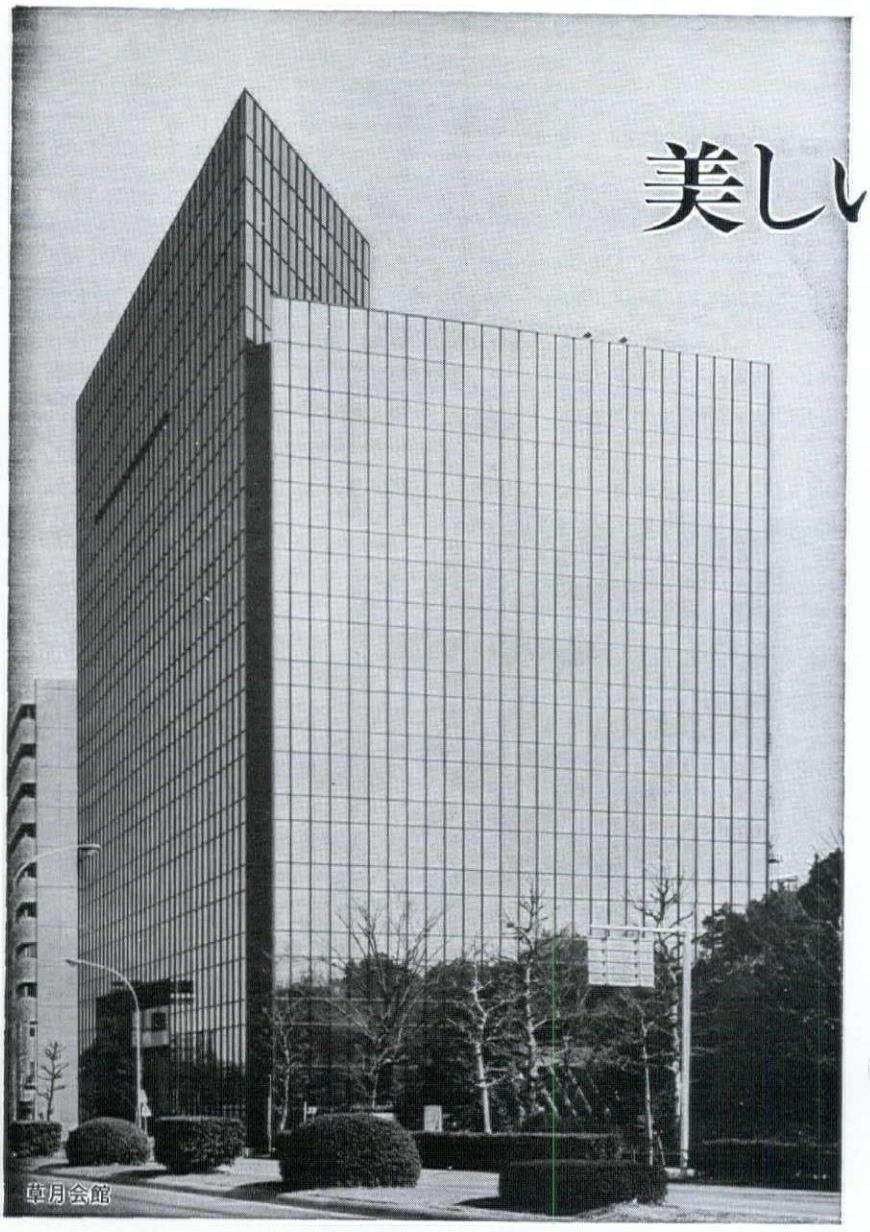




photos : Y. Shiratori

彫刻は鈴木隆




草月会館

美しい映像をつくる

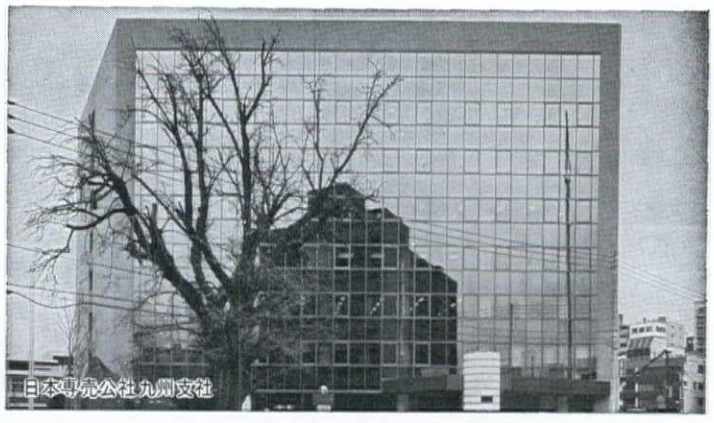
サスペンション方式
カーテンウォール

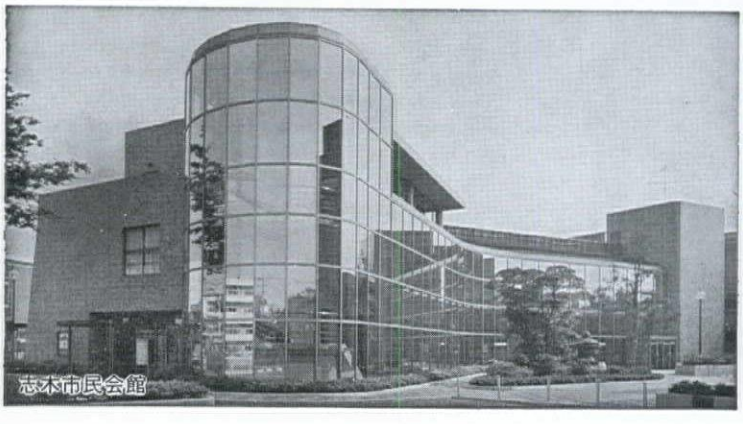
昭和サッシ
昭和鋼機株式会社

本　　社　東京都板橋区前野町6－1－10　〒174
☎東京(03)969-1101㈹営業(03)969-1171
大阪・札幌・仙台・新潟・横浜・名古屋・福岡・広島



小鳥工芸本社ビル


日本専売公社九州支社


志本市民会館


横浜関内ビル

■展覧会レポート

デザインニューウェーブ '84 日本

8月31日から9月5日にかけて，銀座松屋で，〈デザインニューウェーブ '84 日本〉展が開催された．　出品者は，グラフィック・デザイナー，テキスタイル・デザイナー，インテリア・デザイナー，建築家等，様々なジャンルの若手デザイナー16人．　会場は同じサイズの空間に分割されていて，デザイナーは与えられたその独立した空間を自由に使って（グラフィック・デザイナーには壁面しか与えられていなかったけれど）展示を行なった．　各ブースはそれぞれ違った雰囲気を持ち，さながらデザイナーの投影した小宇宙の陳列という感じだった．　これがコミッティーの意図であったのならかなり成功していたようだ．

もっとも，デパートというものは，そもそもこういう一種の分譲地方式で構成された空間だろう．　伝統的な都市で間口のそろった町並に違った職業の店が隣合うように，デパートでは室内化されたニュートラルな空間に，功利的な計算によって店がばらまかれる．　この展覧会は，会場が8階大催場であったことに象徴されるように（これはデパートにとっては展覧会とバーゲンセールが同質だということだろう），その意味でつとめてデパート的だった．　デパートの内の展覧会というよりデパートそのものである展覧会，デパートの雛形というか．

また，デパートが企業イメージを上げることで売り上げを伸ばし，そしてその一環としてこの種の企画が生まれてきたというのは，逆に言えば，この展覧会のデザイナーが結局のところデパートの売り上げに貢献したということだろう．　そうして，この〈共生〉に似た図式は，まさにここに出品した多くのデザイナーの仕事がなりたっている経済的な図式に等しいものである．　ブランド商品のショップをデザインするインテリア・デザイナーは，そこで商品のイメージにアイデンティティを与える代償としての報酬を受けとる．

それらは，常にそこから逃れることのないという意味でサブ・カルチャーであるのだが，結局のところ，今回の展覧会が示したのは，そういうサブ・カルチャーとハイ・カルチャーとの境界線が現在見えにくくなっていることだと思う．　金相珍氏のようなほとんどアートに近い（ある意味では，これはサブ・カルチャーのアート・コンプレックスなのだろう）ものはともかくとしても，日比野克彦氏のような，何だかどこにも分類できない作品（蛇足ながら，彼のブースが一番空間を感じさせた）を見ていると，その感が強くなってくる．　言い換えれば，先に述べたような生々しいギブ・アンド・テイクはカムフラージュされて，一段と高度な方法により〈共生〉が始まっているということだろう．サブ・カルチャーのあり方が変わりつつあることの一端を示した展覧会だったと言えるだろう．

●青木 淳／磯崎アトリエ

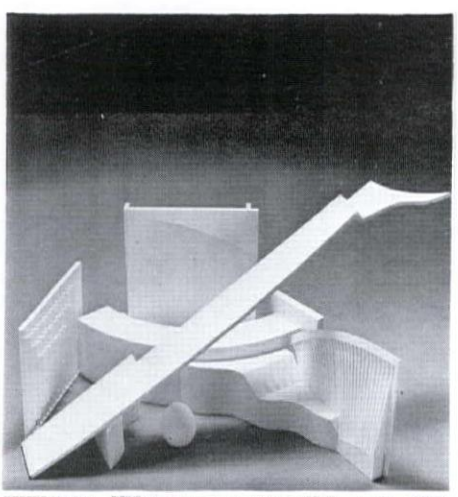
デザインニューウェーブ '84日本

会期：8月31日～9月5日

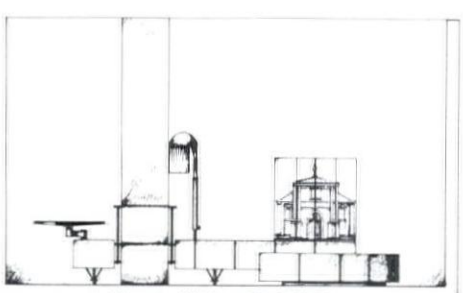
会場：東京・松屋銀座

主催：日本デザインコミッティー

出品者：井上嗣也，サイトウマコト，副田高行，戸田正寿，日比野克彦，山本清，高松伸，八束はじめ，the air，金相珍，北岡節男，岩倉榮利，瀬口英徳，藤江和子，森田正樹，ヤマザキミノリ



YKK50ビル　VIP エントランスのための家具　モデル／藤江和子

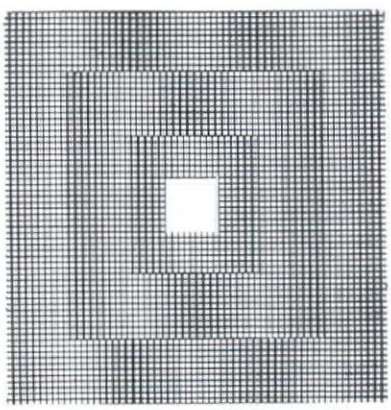


ドローイング／the air（沖健次＋渡辺妃佐子）

産業と文化生活に

クリアな空気を供給する——

これが菱和の仕事です



超高層・地域冷暖房・原子力・クリンルームに技術の可能性を追求し、新しい未来をきづくため研究をつづけています

菱和調温工業株式會社

東京都港区南青山2丁目3番6号

〒107 Phone：東京(03)402－7231

■展覧会レポート

〈日本のデザイン〉展

——伝統と現代——

今年の夏，モスクワにおいて大々的な〈日本のデザイン〉展が催されたことは，既に新聞や雑誌で何度も報じられている．〈伝統と現代〉という副題が添えられたこの展覧会は，モスクワ河河畔のソ連美術家同盟中央作家会館において，7月10日から8月26日までの1ヶ月半，想像外の多くの人々を集めて開催されたのである．

いわゆる西側の消費文化の国々と違うソ連においてこうした展覧会が行われたことを多少とも奇異に思う人々も少なくないかもしれない．だが，4年前のオリンピック以降，この国も着実に門戸開放(少なくとも文化面で)を果たしつつあり，それが今回，大々的になって現れたと考えることができそうだ．

展覧会の主催は，西武流通グループ，西武美術館，対外文化協会，ソ連文化省であり，いうなれば日本の民間団体とソ連の国家機関とが手を結んだことになる．既に何年もの文化交流の実績をもつ西武グループが，これを機会に新しい文化戦略に出たとみなした向きも多かったようだ．

それはさておき，この展覧会に対するモスクワ市民の反応は，信じられないほどの熱狂ぶりだった．早々と売り出した前売券がみるみる内に売れていき，会場の混雑を予想した主催者側が，オープン間際になって1日5回の入れ替え制に方針転換するほどの有様だった．1回の入場者数は1500人，それに招待者（そこにはその筋のコネで入る人間も含まれる）を加えて1日8000人もの人間がこの展覧会に集まり，会期中で何と40万人の入場者を記録したのだ．この40万人という数字がいかに大きいものか，日本の展覧会事情を知るものなら誰もが驚くに違いない．しかも，この入場券にはプレミアムがつき，闇ルートでは倍近い値段になっていたといわれる．

われわれが驚かされるのは，単にこうした入場者の数だけではない．街角を見ても何のインフォメーションもなく，勿論，雑誌，新聞などを見てもこの件に触れているものは殆どない．にもかかわらず，このモスクワ河の河畔をめざしてこれだけの市民が集まるのだ．おそらく，そこには市民独特の情報ルートがあるように思われる．口から口へニュースが伝えられ，町のプレイガイドで入場券を手に入れる．（もっとも展覧会がオープンした時には入場券の大半は売りさばかれていた．）日本の美術館や百貨店があらゆるメディアの力を借りて人々を動員するのと何と好対照であることか．

むろん，これだけの話題を集めた展覧会だけに，その内容もモスクワ市民を刺激するのに十分だった．〈日本のデザイン〉というテーマの下に，日本の伝統的なデザインと現代の先端をいくデザインを対照させ，そこに日本の文化を浮かび上らせようとするものである．展示計画には吉田光邦，田中一光，小池一子，川上元美といった一線のデザイナーたちが参加し，それがこの展覧会をより力強いものになしてい







会場風景

た．　基本コンセプトは，大きく〈衣〉，〈食〉，〈住〉，〈遊〉，〈工業デザイン〉と5つに分けられ，ファッションからグラフィック，ID，インテリア，建築といった内容が多岐にわたって盛り込まれた．　会場の入口を飾る本物の自動車から会場内に設置された実物大の家屋（町屋）が人々の眼を驚かした．

最近では，こうした日本のデザイン，芸術を紹介する総合的な展覧会が世界各地で催されている．　話題を呼んだパリの〈間展〉やロンドンの〈ジャパン・スタイル〉展．　こうしたものは，1970年度以降文化的にもきわめて成熟した様相を示してきた日本の現代社会を，その歴史性にからめて紹介していこうとするものであり，さらに欧米の文化圏に対する極東からのカウンター・パンチの意気込みすら感じさせる．このモスクワの〈日本のデザイン〉展もその点では変わらない．

ただ，モスクワの特殊な事情といえば，市民たちが日常的にこうした先端的なデザインに必ずしも接していないということがある．　とりわけ大量消費経済の中で磨きをかけてきた日本のデザインは，今や世界の中でももっとも先端を走るものとなっている．　そうしたものが，極東の国日本というある種のエキゾティックなイメージを介して，市民の関心を否応なく駆り立てる．　実際に会場を訪れた人々は，三宅一生のファッション，サントリーのコマーシャル・ビデオ，横尾忠則のポスターを眼にして興奮し，その一方できらびやかな能装束や漆器に羨望のまなざしを向けるのであった．　これは，明らかに今日のモスクワ市民が中産階級的な消費生活者に成熟してきたことを物語っている．　彼らの視線は，まさに彼らの消費への欲望を表わすかのように，日常生活に密着した品々に注がれていた．　このことを裏付けるかのように，会場内で流されていたコマーシャル・ビデオが盗難にあう事件が発生するなど，おそらく主催者にとっては予想外の〈反響〉に頭をかかえる一幕も窺えた．

現在，我国の一般的な文化状況の中でも，インテリアや建築に対する関心はますます拡がりつつある．　その意味で，会場の順路の終わりにあたる部分に，こうしたものが展示されたのは意義あることだった．　ただ，ソ連側の要請から展覧会カタログ（田中一光のデザインになる）は招待客にのみ配布されただけで，結局一般客には実質的に何の解説もないままであった．　日本のコンセプチュアルなインテリア・デザイン，そして建築にはおそらく多くの人々が不思議な顔をしながら結局のところは理解に到っていなかったのが実情ではないだろうか．とりわけ建築については優秀な第一線の若手デザイナーを8人もそろえながら，なかなかそのコンセプトを伝えるまでにはいかなかったようだ．　パネル展示に加えて，何らかの立体的なデモンストレーションが必要かもしれない．

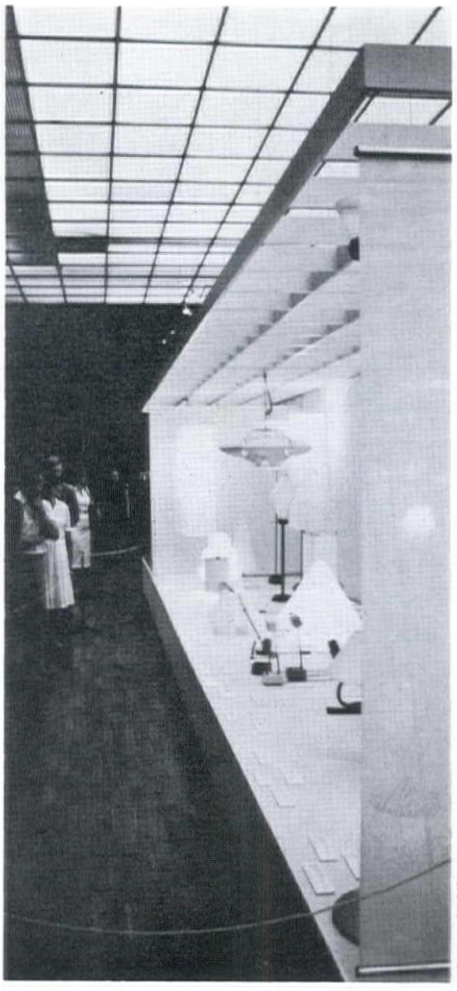
とはいっても，このモスクワ展，今までにないほどの成果を残し，モスクワの町に新しいデザインの衝撃を残して無事幕を閉じたのである．

●三宅理一／芝浦工業大学助教授

〈日本のデザイン〉展
——伝統と現代——
会期：7月10日～8月26日
会場：モスクワ，ソヴィエト社会主義共和国連邦美術家同盟中央作家会館
主催：西武流通グループ，西武美術館，対外文化協会，ソヴィエト社会主義共和国連邦文化省



会場風景



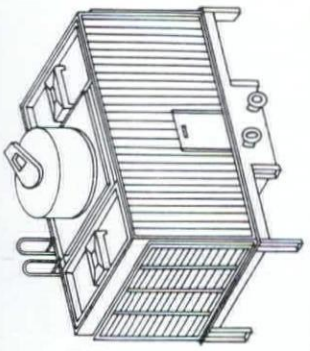
photos：R.Miyake

空研ファン＝騒音0（ゼロ）に挑戦

新製品発表——18シリーズ

音は更に低くなりました

送風機は全てFRP製



営業品目

空気吹出口・防排煙設備

KUKEN 空研工業株式会社

東京支店　東京都渋谷区宇田川町36－1　☎(03)464-0161(代)

本　社　福岡市中央区大濠公園2－39　☎(092)741-5031(代)

支　店　福岡・広島・大阪・名古屋

工　場　福岡・宮田・東京

お知らせ

川島織物講演会

●美を語る

・東京

〈みえがかりのしつらえ〉 内田祥哉

〈建築—ゆるやかな時間のデザイン〉 池田武邦

日時：12月5日（水） 18：00～21：00

会場：経団連ホール

・大阪

〈数寄と現代建築について〉 出江寛

〈様式の創造に向けて〉 村松貞次郎

日時：12月7日（金） 18：00～21：00

会場：朝日生命ホール

●住まいと住まい方

・高松

〈私の住宅設計手法〉 渡辺武信

〈家づくりから街づくりまで〉 藤本昌也

日時：11月16日（金） 18：00～21：00

会場：高松市民文化センター

・仙台

〈家と街並〉 曾根幸一

〈振る舞いとしつらえ〉 三輪正弘

日時：12月18日（火） 18：00～21：00

会場：戦災復興会館

各会場とも聴講無料，申し込み定員制．

問い合わせ先：(株)川島織物，各営業所

Tel.：東京 03-580-1681　大阪 06-347-0469

高松 0878-35-3518　仙台 0222-66-1449

一周忌記念シンポジウム〈白井晟一と現代建築〉

昨年11月，78歳で急逝した哲人建築家，白井晟一氏の一周忌を記念したシンポジウムが開催される．

講演：〈思い出すままに〉 川添登

シンポジウム：〈白井晟一氏の残したもの〉

芦原義信，長谷川堯，毛綱毅曠，鈴木博之，松葉一清（司会）

日時：11月21日（水） 18：00～20：30

会場：朝日新聞東京本社2F 朝日ホール

主催：白井晟一・一周忌行事実行委員会

後援：朝日新聞社，日本建築学会

入場料：1000円

申込方法：往復はがきに住所，氏名（返信用にも）を記し下記に申し込みのこと． 先着300名．

参加料は当日，返信用はがきと一緒に持参．

〒102 東京都千代田区平河町1-6-15 USビル501

㈱計画連合内 白井晟一・一周忌行事実行委員会

Tel.：03-230-2741

フランク・ロイド・ライトのオリジナル・ドローイング展

現代建築の巨匠フランク・ロイド・ライトのわが国で初めてのオリジナル・ドローイング展が開催される．この展覧会は，フランク・ロイド・ライト美術館建設資金調達のための展覧会がアメリカで計画されたのを機に日本でも公開されるもの． 8000点にものぼるドローイングの中から厳選された50点を展示．

会期：10月27日（土）～12月2日（日）

12：00～18：00 月曜休館

会場：GA gallery

東京都渋谷区千駄ヶ谷3-12-14 Tel.：03-403-1581

芝浦工業大学〈芝浦祭〉講演会

テーマ：21世紀へのメッセージ

・11月2日（金） 17：00～

〈畸型都市〉 三宅理一

・11月3日（土） 13：00～

〈遊戯性と積木の家〉 相田武文

・11月4日（日） 12：00～

〈建築は21世紀を越えて～長もち建築の設計〉

三井所清典

会場：芝浦工業大学田町校舎

東京都港区芝浦3-9-14（田町駅芝浦口下車5分）

入場料無料

問い合わせ先：芝浦工業大学第12回芝浦祭実行委員会

Tel.：03-452-3201（ex. 368）

オブジェになった建築展

従来の価値感から離れて，建築におけるより自由な視点と発想による表現をベースにした人間の内的イメージのオブジェ化を提案し，生活空間の中でのアートを創り出すことを目的とした展覧会．

出品作家：流政之，青木秀憲，荒知幾，五十嵐威暢，斉藤裕，彦坂裕，毛綱毅曠，山田脩二，他．

会期：11月15日（木）～12月25日（火）

会場：メタル・アート・ギャラリー・アオキ

東京都港区元麻布1-1-12 Tel.：03-454-4442

第6回たまがわ

〈自然・ひと・対話〉展

余裕ある屋外空間を持つショッピング・センター玉川高島屋主催の野外彫刻展． 本年度のテーマは，地域コミュニケーションの媒体，象徴である〈ベンチ〉．

出品作家：青木秀憲，東宮洋美，彦坂裕，矢萩喜従郎，山田脩二，山本清，他．

展示期間：59年11月11日～61年10月30日

展示場所：玉川高島屋ショッピング・センター

屋外13～14ヶ所および屋内5ヶ所

International Furniture Competition

WINNING PROJECTS TO BE DISPLAYED AT MAJOR INDUSTRY EVENTS

PROGRESSIVE ARCHITECTURE announces the fifth annual competition recognizing outstanding furniture and lighting design proposals, not yet being marketed by any manufacturer as of entry deadline, January 17, 1985. The competition is intended to give the design professions a forum to express ideas about the next generation of furniture design, at a time when architects and designers are increasingly custom-designing furniture for their projects and manufacturers are increasingly open to fresh ideas. The competition is specifically aimed at furniture intended for use, but the design need not be constrained by existing production or marketing practices. Entries may be based on either fabricated pieces or project drawings. Designers are encouraged to consider the aesthetic and ideological implications for furniture design implied by the current concerns within architecture and other design disciplines.

WINNING PROJECTS will be published in the May 1985 P/A and they will be displayed at major industry events during the year. Winners will be honored in New York City at an awards ceremony in early March attended by press, designers, and industry manufacturers.

In addition to the exposure afforded the submissions, the competition will encourage further discourse between the entrants and respected furniture producers. Any ongoing discussions will, of course, be up to the individual designers and manufacturers, but benefit to both is anticipated.

SUBMISSIONS are invited in all categories including chairs, seating systems sofas, tables, desks, work stations, storage systems, lighting, beds, and miscellaneous furniture pieces.

THE JURY FOR THIS COMPETITION

Gae Aulenti, architect, industrial and furniture designer, Milan, Italy.
Thomas H. Beeby, partner, Hammond Beeby and Babka Incorporated, Chicago, architect and furniture designer.
Ralph Caplan, writer, editor, and critic, New York.
Charles Gwathmey, partner, Gwathmey Siegel & Associates, New York, architect and furniture designer.
Richard Schultz, industrial and furniture designer, Barto, Pa.

JUDGING will take place in New York City during the month of February. Designations of *first award*, *award*, and *citation* may be made by the invited jury, based on overall excellence and advances in the art.

[Turn page for rules and entry forms]

DEADLINE FOR SUBMISSION
JANUARY 17, 1985

Entry form
International Furniture Competition

Please fill out all parts and submit, intact, with each entry (see paragraph 11 of instructions). Use typewriter, please. Copies of this form may be used.

ENTRANT:
ADDRESS:

ENTRANT PHONE NUMBER *(day):*
(evening):

CATEGORY:

ENTRANT:
ADDRESS:

DESIGNER(S) RESPONSIBLE FOR THIS SUBMISSION
(identify individual roles if appropriate):

I confirm that the attached entry meets eligibility requirements (paragraph 1-3) and that stipulations of publication agreement (paragraphs 4-6) will be met. I verify that the submission is entirely the work of those listed on this form (or an attached list as necessary).

SIGNATURE
NAME *(typed)*

FURNITURE COMPETITION
Progressive Architecture
P.O. Box 1361, 600 Summer Street,
Stamford, CT 06904

(Receipt)
Your submission has been received and assigned number:

ENTRANT:
ADDRESS:

ENTRANT:
ADDRESS:

ELIGIBILITY

1 Architects, interior designers, industrial designers, and design students from all countries may enter one or more submissions.
2 Design must be original. If found to be substantially identical to any existing product design, entry will receive no recognition.
3 Designer may be under contract to or in negotiation with a manufacturer for this design, but design must not be available in the marketplace as of entry deadline.

PUBLICATION AGREEMENT

4 If the submission should win, the entrant agrees to make available further information, original drawings or model photographs as necessary, for publication in the May 1985 P/A and exhibition at major industry events.
5 P/A retains the rights to first publication of winning designs and exhibition of all entries. Designer retains rights to design.
6 P/A assumes no obligation for designer's rights. Concerned designers are advised to document their work (date and authorship) and seek counsel on pertinent copyright and patent protections.

SUBMISSION REQUIREMENTS

7 ***Submissions will not be returned under any circumstances.*** Do not use original drawings or transparencies unless they are sent with the understanding that they will not be returned. P/A will not accept submissions with outstanding custom duties or postal charges.
8 Drawing(s) and/or model photo(s) of the design should be mounted *on one side only* of one 20″x 30″ foamcore board presented horizontally. ***Any entry not following this format will be disqualified.***
9 There are no limits to the number of illustrations mounted on the board, but all must be visible at once (no overlays to fold back). No actual models will be accepted. Only one design per board.
10 Each submission must include a 5″x 7″ index card mounted on the front side of the board with the following information typed on it: intended dimensions of the piece of furniture, color(s), materials, components, brief description of important features, design assumptions, and intentions. This information is to be presented in English.
11 Each submission must be accompanied by an entry form, to be found on this page. Reproductions of this form are acceptable. All sections must be filled out (by typewriter, please). Insert entire form into unsealed envelope taped to the back of the submission board. P/A will seal stub of entry form in envelope before judging.
12 For purposes of jury procedures only, projects are to be assigned by the entrant to a category on the entry form. Please identify each entry as one of the following: Chair, Seating System, Sofa, Table, Desk, Work Station, Storage System, Lighting, Bed. If necessary, the category "*Miscellaneous*" may be designated.
13 Entry fee of $35 must accompany each submission, inserted into unsealed envelope containing entry form (see 11 above). Make check or money order (no cash) payable to *Progressive Architecture*.
14 To maintain anonymity, no identification of the entrant may appear on any part of the submission, except on entry form. Designer should attach list of collaborators to be credited if necessary.
15 Packages can contain more than one entry; total number of boards must be indicated on front of package.
16 Deadline for sending entries is January 17, 1985. First class mail or other prompt methods of delivery are acceptable. Entries must show postmark or other evidence of being en route by midnight, January 17. Hand-delivered entries must be received at street address shown here by 5 p.m., January 17.

ADDRESS ENTRIES TO:
International Furniture Competition
Progressive Architecture
600 Summer Street
P.O. Box 1361
Stamford, CT 06904

海外建築情報 8411

編＝DUCTSPACE
植野紘＋小菅克己＋田名網雅人＋宮崎長志＋森徹＋若松久雄＋Nadim Karam

眩学のすすめ

世の中に受け入れられなければ，どんなに卓越したアイデアも意味がないし，徐々にでも認められれば，ささいなアイデアもいつかは大きな効果を生む．　およそ建築家の仕事はアイデアを売り物にする以上に他者の説得にエネルギーを注ぐべきである．　他者とはコンペの審査員や施主や時には一般市民であり，説得のためには建築表現自体に衝撃性を持たせてインパクトを与えたり，他者におもねった表現によってコンセンサスを得たりすることも必要なのである．　そのためのプレゼンテーションには多大なエネルギーを覚悟しなければならない．　錯綜した情報が飛びかう現代の生産回路の中で，自身の明解な切断面を開示して自己を認めさせること．　この説得の技術をとりあえず〈眩学〉と呼ぶことにしよう．

眩学とは人々を眩惑し，判断能力を失わせ，知らず識らずのうちに精神そのものを呪縛してしまう技術である．　思えば建築に限らず，歴史を通じて眩学の大家が常に世界をリードしてきたと言える．　たとえば，イエス・キリスト．　彼の卓抜な説得の技術は弟子達に聖書として記述され，プロパガンダ学として現代にまで引き継がれている．　ソクラテスやブッダや孔子も又，同様であった．　西欧の高等教育の根幹をなす〈言語〉に関する学でも，重要視されていたのは説得の技術を磨く〈弁論術〉と〈修辞術〉であった．

見たまま，聞いたまま，思ったままをそのまま述べることが日本の戦後教育の理念であった．　その意味で〈弁論〉はともかく〈修辞〉は無駄なものとして極力排除されてきた．　それ故か，内容の優劣にかかわらず我々の表現はあらゆる領域で稚拙であったと言える．

常に他者との関係において初めて成立し得る建築表現であるからこそ，建築家も〈眩学〉を身につけなければならない．

建築に眩学をとり入れるためにはどんな方法をとってもよいのだが，とりあえずその手法をいくつか列挙してみよう．

1．テクノロジーの名を借りること．　妖術や呪術といった類の眩学とは対極にあるが，素人に理解しづらいブラックボックスという点で同質．　ＣＡＤやビデオ等エレクトロニクス技術を駆使すること．　建築表現に技術的相貌を付与すること．　人々は最先端に説得される．

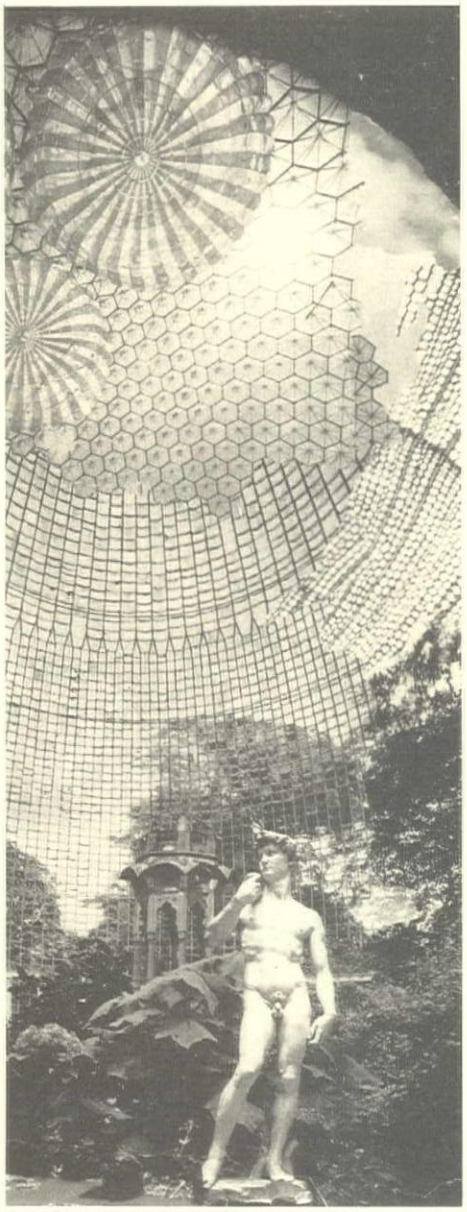
2．衒学的なスタイルをとること．　思想はファッションと心得て，理解するよりも使える思想を早めに準備しておくこと．　「ああ言えばこう言う」程度の知識を広く浅く詰めこんでおくこと．　いわゆる観念的建築がこれにあたる．　人々は難解なものに弱い．

3．距離を売り物にすること．　時間的と空間的の２種類の距離がある．　前者には歴史的様式の転写や未来志向のＳＦ的表現があり，後者には遠く離れた魅力ある地域からの引用の表現がある．　人々はエキゾチシズムに弱い．

4．建築の枠組を操作してみせること．　建築の諸要素を削ぎ落として豊饒なる沈黙を演出する．　あるいは空間に関わる事象は総て建築と規定して無内容な饒舌で追ってみる．　人々は思わせぶりに誘惑されやすい．

これだけの手法でも様々な場面で活用できるが，眩学の手法は当然これだけではない．

いずれにせよ建築という表現に関わる以上，多様な位相で表現の技術を磨いて自己表現を高め，他者を説得する技術＝眩学を獲得する必要があるだろう．　もっとも表現すべき何ものかがあっての話だが．　（小菅克己）



バックミンスター・フラーの温室／ニイルス・オレ・ルンド

ＡＡ：L'architecture d'aujourd'hui
ＡＤ：Architectural Design
ＡＲ：Architectural Record
ｄ：domus
ＰＡ：Progressive Architecture

ニューオリンズ博

愉しみのエクリチュール

THe New Orleans Fair
New Orleans, La., U.S.A.
〈A R　1984年7月号〉

博覧会建築は近代建築史に重要なメルクマールを築いてきた。　すぐ思いつくだけでも，パクストンの水晶宮，エッフェル塔，コンタマンの機械館，シカゴ博のフラードーム，大阪万博お祭り広場などが挙げられる．それらの多くが各々の時代の最先端技術の提示であったことは偶然ではない。　近代のアドバタイザーとしての博覧会が，同じく近代を牽引してきた技術の表現の場となったのは，当然の帰結といえる．

ところがこのニューオリンズ博では歴史を変えようという気負いや技術的冒険の類が一切見られない．あるのはただくったくのない明るさだけなのだ．

大量消費時代において，新技術も猛烈な早さで消費されている。　最先端技術は発見と同時に少なくとも知識・情報のレベルはすぐに一般大衆まで行きわたってしまうのだ。　こういう状況下で博覧会はもはや技術誇示の場でも情報提供の場でもなくなり，祭り・遊びの空間となってきているといえる。　ニューオリンズ博にみられる愉しみ様式＝ディズニーランド様式は正にこうした脈絡の上で読まれるべきなのだろう．

川・水をテーマとしたこの博覧会での圧巻は，ムーア，ターンブル，ペレッツ・アソシエイツの，800mにわたって続くワンダーウォールである。　狭義のポスト・モダンの建築のもっぱら衒学的な深読みを期待する引用とは異なって，このウォールに用いられる建築ヴォキャブラリーは歴史上どこにも見当らないにもかかわらず，遠い子供の頃，童話や夢の世界で出合ったようなそんな愉しみのエクリチュールなのだ。　ディズニーランド様式といってもよいそれは，意味内容を戦略的に空虚化し，シニフィアンのみ浮遊させることで充分に現代の様式たりえている。　そこでは知ったかぶりの深読みは肩すかしに会い，内容を求める深刻さは場違いの浮き目に会う。　ましてや愉しみの奥に大量消費の巧妙なからくりを読みとることなど無粋なことらしいのだ。　そしてただひたすら気軽にお祭りを楽しむことだけが要請されている．　(Q)



ニューオリンズ博　全景



Wonder Wall／C. Moore, W. Turnbull, Perez Associates

ファカルテ・ド・メドサン

モードとしてのハイテック

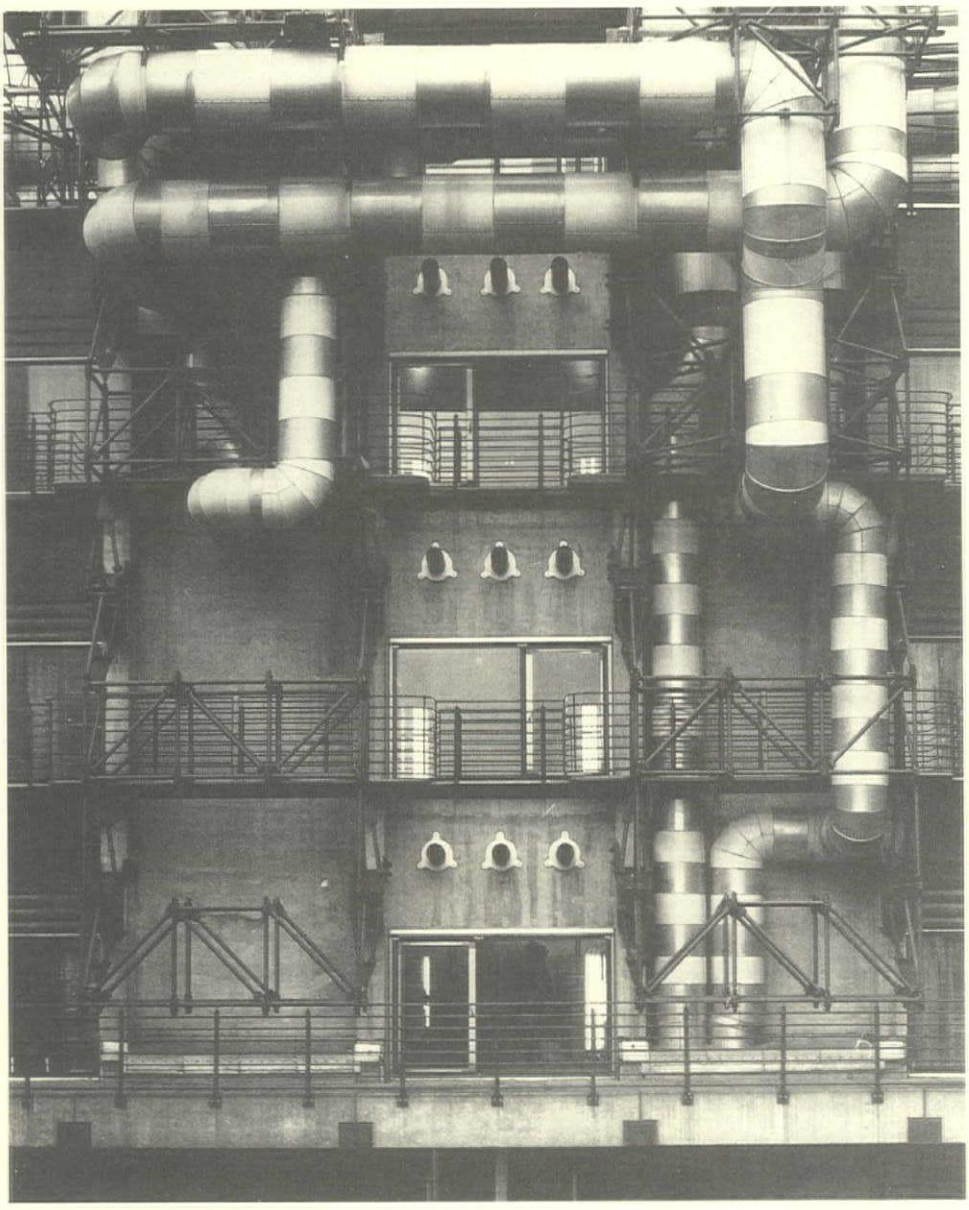
Faculté de Medécine, Technische Hochschule
Aix-la-Chapelle, West Germany
設計：Weber, Brand & Partner
〈A A　1984年4月号〉

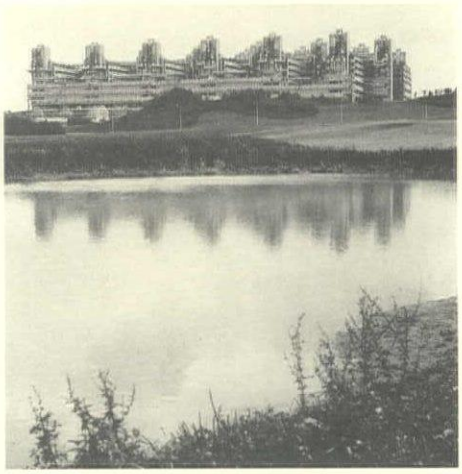
ハイテック――近年，ますます勢いを強めつつあるこの潮流には，大きくいって2つの位相が見てとれる．1つは方法論としてのハイテック．　細部にかける異常なまでの執念，システムへの展開力の巨大なポテンシャルからいって，レンゾ・ピアノがその代表にあげられる．　もう1つは，モードとしてのハイテック．建築とテクノロジーの間のギャップを一挙に短絡することによって，自らをshow offし，大衆にアピールしようとする姿勢で，リチャード・ロジャースが代表格である．　両者の幸福な結合が，ポンピドー・センターの巨大な成功をもたらしたわけだが，以降2人の歩んだ道は大きく分かれてしまったように思われる．

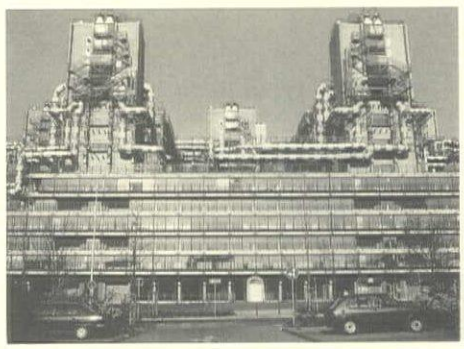
西ドイツの片田舎，エックス・ラ・シャペルに巨大なハイテック建築が完成した．　1500床の病院，研究所，3000人の学生を有する医学部を含む200,000㎡のコンプレックスで，4列のコアによって分節された3つのバンドにより構成されたプランはシリコンチップのメタファーとなる．　異様に強調され，象徴化させられた設備ダクトがRCの壁体にからみつくさまは，ポンピドー・センター様式とでも言いたくなる程，強い類似性を示しているが，事実このプロジェクトのデザインは1969年，ポンピドー・センターの完成と前後して決定されたものであり，当時のハイテック・モードを強く反映している．　重いRCとスチールの取り合せ，色使いなど，デザイン上の問題点はいくつか挙げられる．　しかし注目すべきは，15年のタイムラグによって，類似のデザインがこれほど古びてしまうという事実である．　モードはフォルムの死を前提として増殖する以上，モードとしてのハイテックの，それは当然の運命なのかもしれない．

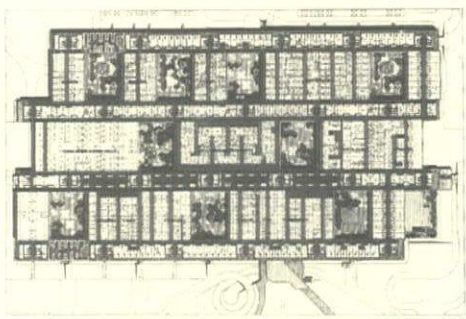
ともあれ，このプロジェクトは，ハイテックの歴史に刻まれた1つの墓碑銘となりうることだけは確かであろう．

（M＋Nadim）









機械じかけの色鉛筆

CAD：The wows & the wherefores
〈PA　1984年5月号〉

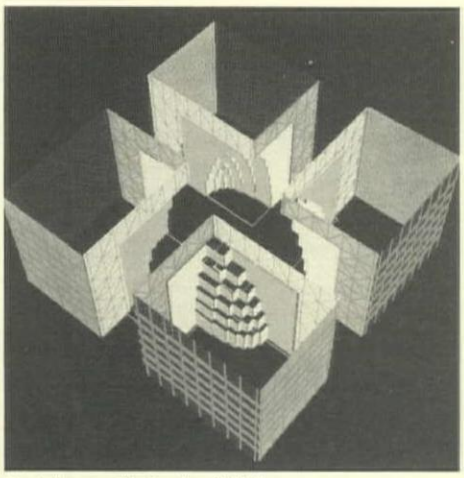
CADも，単に効率化を狙ったComputer Aided Drafting，説得上の効果の先行したCompute Aided Displayの段階を経て，ようやく本来のComputer Aided Designの意味が実質を持つ底辺の拡がりを見せ始めたようである．PAの5月号が大々的なCAD特集 "Computer in Architecture" を組んでいる．

構成は，①大規模事務所によるコンピューターの様々な使用例，②若手作家による使用経験レポート，③大学での最新実験例，④機器類の紹介，だが，中でも興味を引くのは，この号の表紙を飾っている②の若手作家による使用実験だろう．

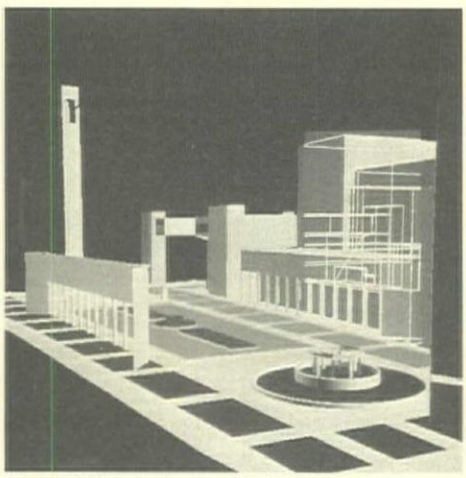
日頃コンピュータには，むしろ懐疑的なPA賞受賞作家3グループ――モルフォシス，UKZ，ベイティ＆マックにアップルのコンピューター"Lisa"を数ヵ月貸し出し使用させたのである．

①での主にSOMによる使用例は，実利と眩学的視覚効果を巧みにバランスさせて，計算と経験のきいたプレゼンテーションにまでまとめているのに対して，②の実験は，創造手段としてどう使えるかを模索している状態が，誰に見せるでなく素朴に表われている．　彼らの使用範囲は，エレメントの置換によるプランや立面の様々なオルタナティブの平面的な作図の段階だが，色鉛筆や淡彩の表現形式と切り離せないモルフォシスなどの計画が，ぎこちないプリンターの線に置き換えられているのを見ると，その素朴さに色鉛筆のドローイングに共通するものが感じられる．　機械と人間のインターフェイスのステージが，普遍化しつつあるのだろうか．

また，彼らのコンピューターについての使用後の反応は，一様に，面白い，これからも使おうと，アメリカらしい若々しさに満ちている．　ビデオ・アートなどの分野では，コンピューターを駆使した画像処理は，その技法と発想が一体となっている様な生理的な使われ方をしているが，建築家もまた，この機械じかけの色鉛筆を愛用するようになるだろう．　(T.M.)



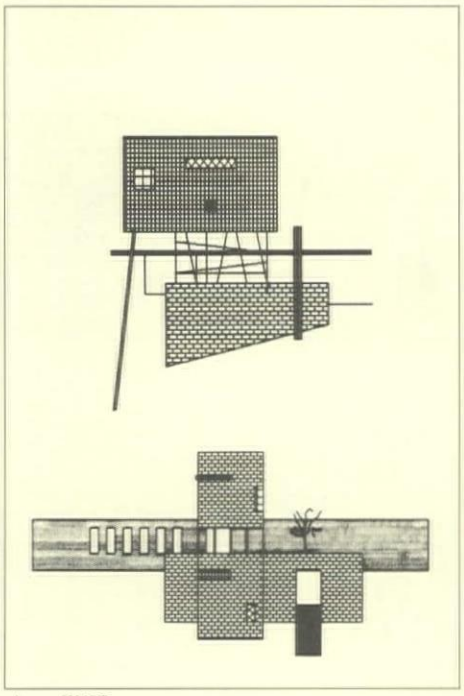
Kuwait Insurance Co. Complex／SOM



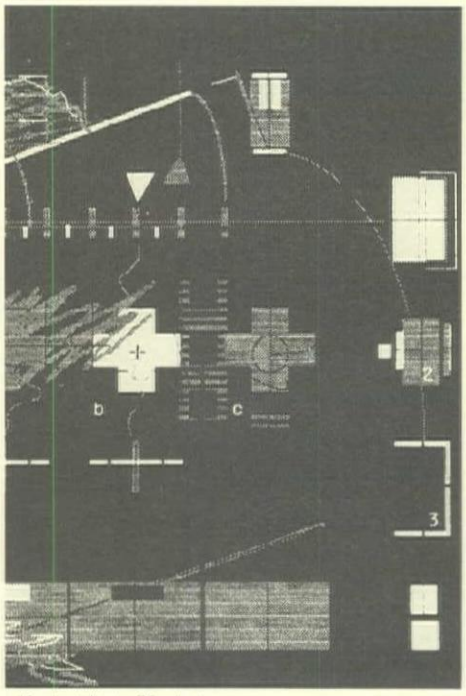
Milwaukee Performing Arts Center／Design Professionals Inc.



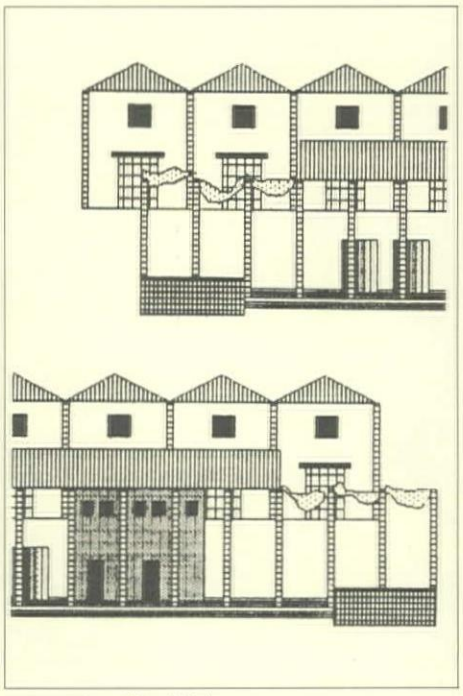
computer graphics／The Cornell graphics



a house／UKZ



a Morphosis house／Morphosis



prototype winery／Batey & Mack

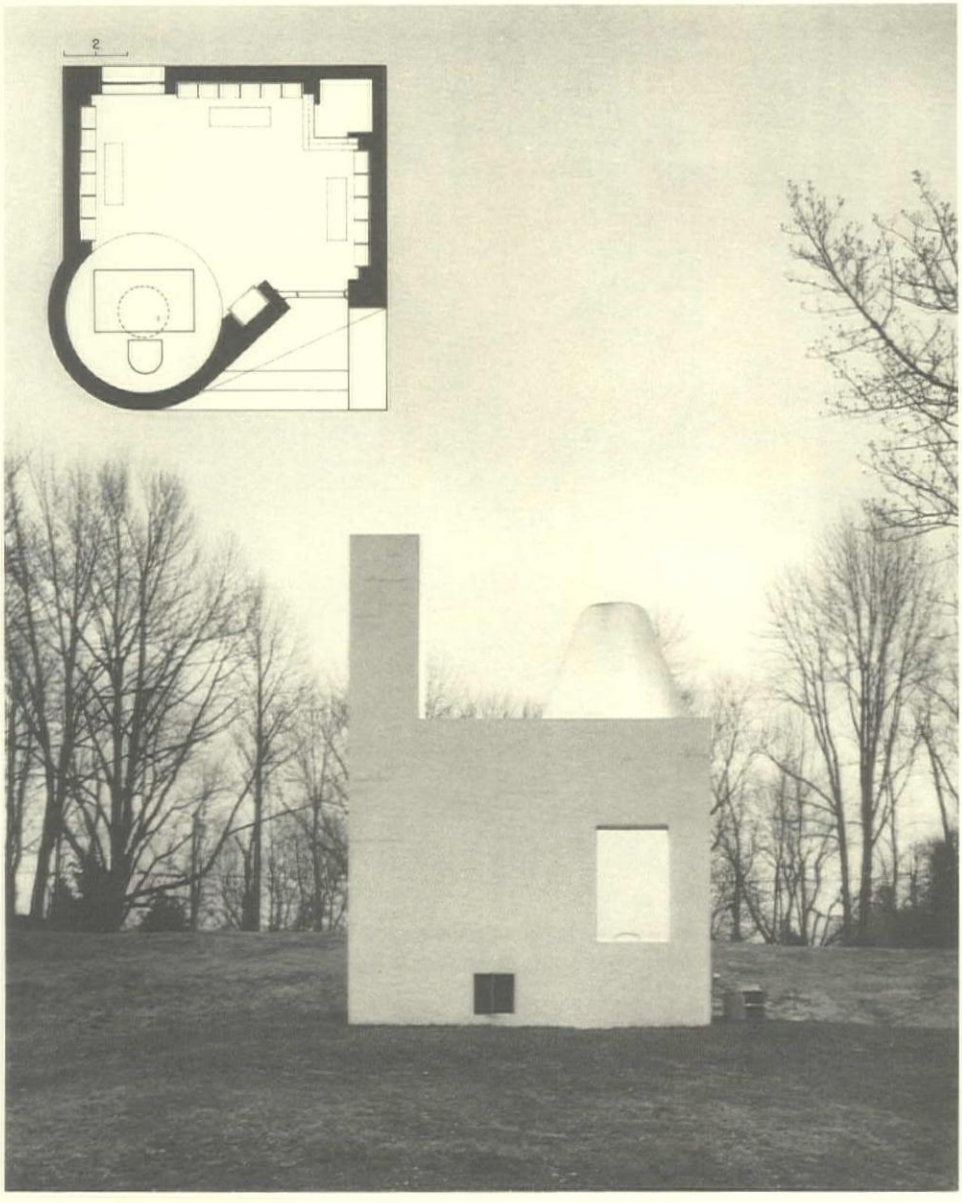
ジョンソン・スタディー

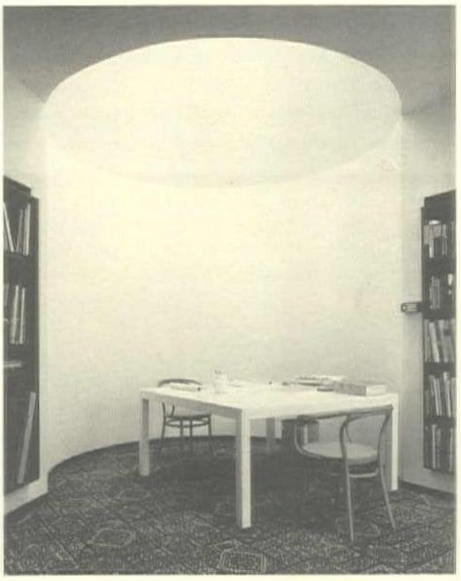
セルフ・パヴィリオン

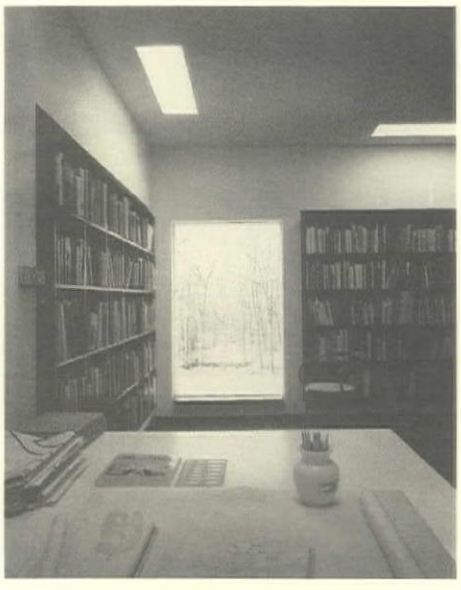
Architect's Retreat
New Canaan, Conn., U.S.A.
設計：Philip Johnson
〈A R　1983年7月号〉
〈d　1981年7月号〉

この書斎は既によく知られている。P.ジョンソンのなんと6番目のパヴィリオンなのである。ニューキャナンにある40エーカーの土地に建てられた，またもやショッキングな建築家の隠れ家である。ここであえて掲げるのは，この小作品に幾つもの術が隠されているからだ。書斎というよりパヴィリオンというのがあっている。このパヴィリオンの第1の術は，自身の所有のものであり，作者のデザイン・エッセンスが実体化されているという第三者の期待作りである。普通の自邸に見られるものとは更に離れて，より自己の純粋オブジェとしてのストーリーづけである。第2にアーキテクトというものがふりまく優雅さの術である。広い土地にこれだけ自由に創りつづけているという第三者の憧憬の対象となっている状態を意味する。第3に試作品提示の術である。数々のビッグ・プロジェクトの合い間にスタイルをそれぞれ変えたものを提示していく。これらはスタイルの試作品であり実験であるが，その様式スタイルが世間で認められ始めた時は金字塔的存在になるようにセッティングされている。またおもしろいことに一般の試供品，試作品は小さい。このミニチュアの考え方が6つのパヴィリオンの総てについて裏付けられる。しかも前述の優雅さは，スタイルをミニチュアにしてコレクターの様に常に所有しているという余裕をも感じさせるわけであるが，ミニチュア・シュールともいうべき効果は抜群の手法といえよう。この小さい作品の中をくまなく見入らせる役目を果たし，単純が故それだけ見る者の想像をかきたてる。土地に対するスケール感が，やたらとあるのもこの効果の1つだろう。

しかし，なんといっても，このパヴィリオンの一番の術，自己の展示の術をわすれてはならない。即ちこの水も何もない小さな書斎に入ると精神的にとても集中できるというジョンソンだが，この書斎は何よりもその状態をイメージ・メーキングさせてしまう程のジョンソン独自のセルフ・パヴィリオンそのものであるということである。　(H.W.＋Nadim)







デイヴィッド・ホックニー

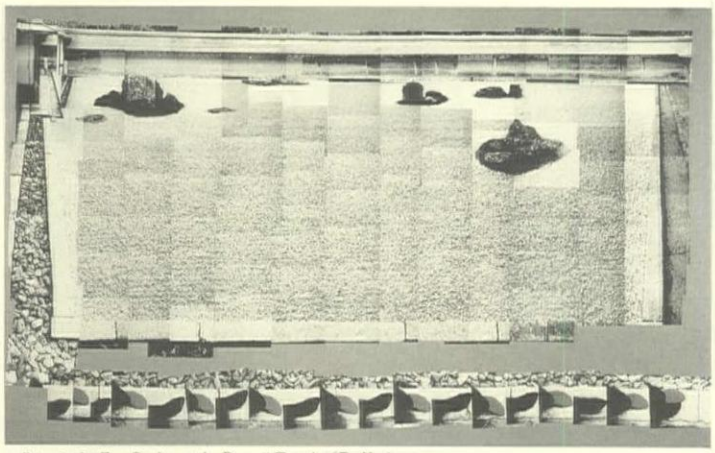
視差の集積

David Hockney Photographs
〈A D　1983年11／12月号〉

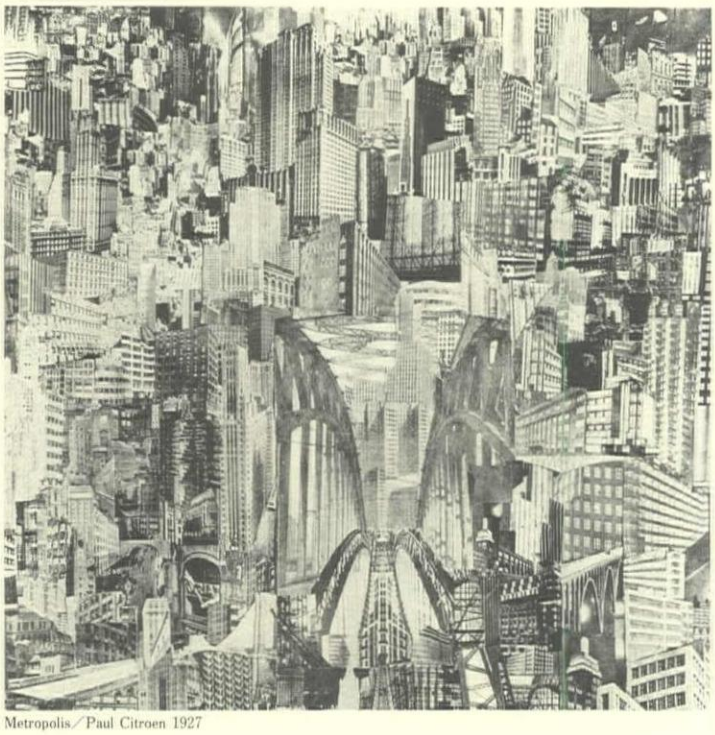
日頃見慣れている１つの風景も，画素（ピクセル）の集合体として分解しながめていると，そこにはまた新たな発見がある．　デイヴィッド・ホックニーの作品は，我々の目にしているものを分解し集積することにより新たなシーンを創造してくれる．　竜安寺の石庭も日本人の我々にとっては原風景ともいえるシーンであるが，彼の手にかかると一挙にそれは我々が見たことのないアブストラクトなものへと変貌する．　それは，分解するという１つの操作により，日常見ることのできない，想像することすらできないシーンを与えてくれる．　日頃見慣れた風景も，簡単な操作を加えることにより，新鮮な発見ができるのだ．

流行とは，同じ状態にいるということに耐えられない，時間が停止するということに耐えられないという，人間の弱さの現われである．　突如として現われて，新しい要素，見慣れぬ要素を付け加えていくものなのである．　そこにはなにか今までとは違った差異性が強調される．　流行が出てきたときにそれに抵抗しにくいのは，流行を常に望んでいて，それが常に新しさと結びつくからである．　新しさは時間的な新しさであると同時に回帰的な新しさでもあり，円環的な新しさ，見慣れぬものの復帰，回帰という要素をもっている．　こうした人間が渇望する目新しさへの欲求を満たす手段として，ごく普通の状況に１つの操作を加え，パフォーマンスを演出するという，ホックニーのそれは最も手短なものといえよう．　いまあるものに手を加え，あたかも新しいものであるかのようにリファインする．　彼は，ある時はポラロイドカメラを使い，またある時は魚眼レンズや鏡を使い，巧みに表現をかえるのである．　その操作は角度を変えることや，裏返しにすること，ばらばらにすること，装飾（オーナメント）を付け加えることでもよい．　要はそうした操作をする発想である．　それにより，短期的な欲求を満たし誘惑するのである．　それがすなわち〈眩学〉なのである．

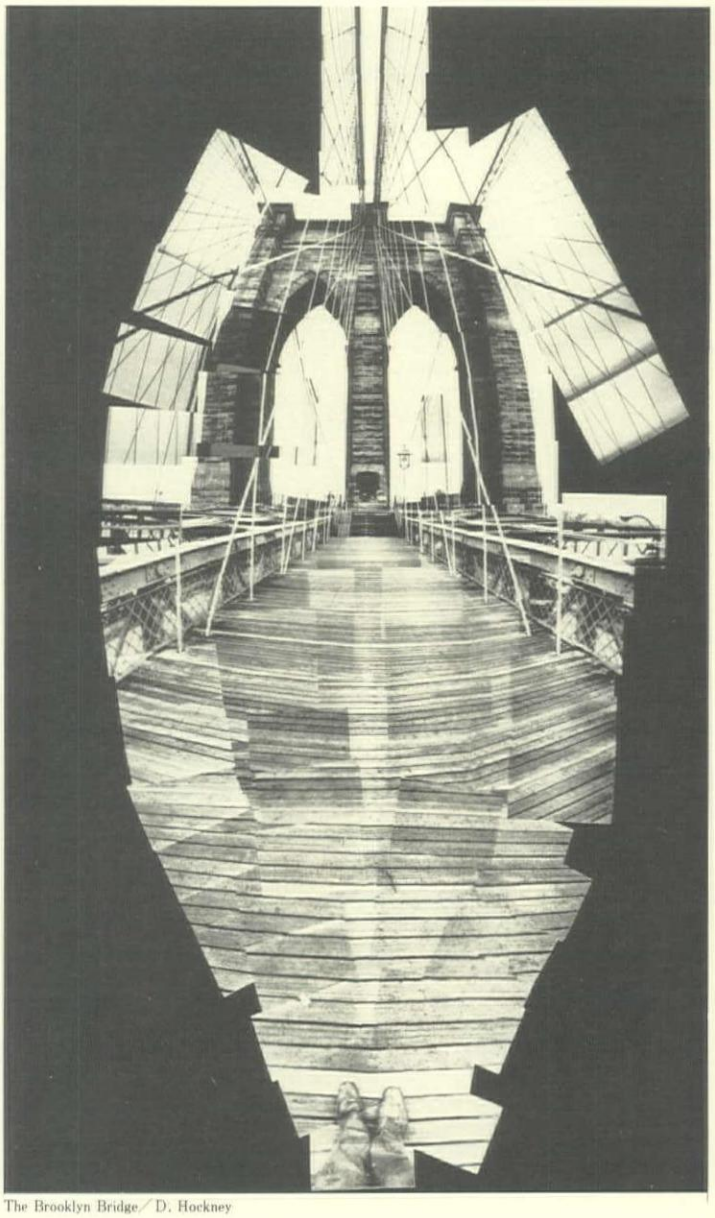
（人）



walking in the Zen Garden at the Ryoanji Temple／D. Hockney



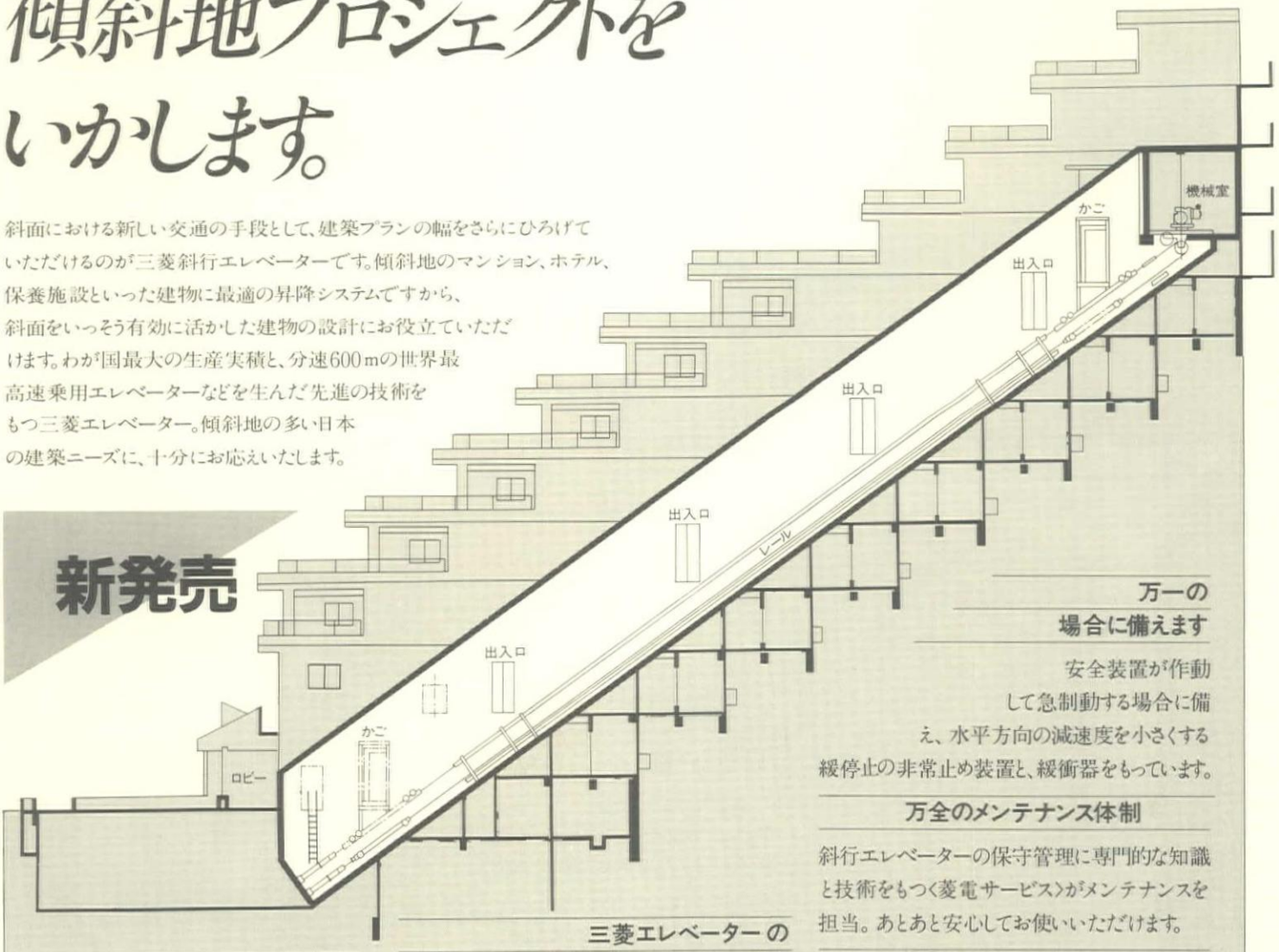
Metropolis／Paul Citroen 1927



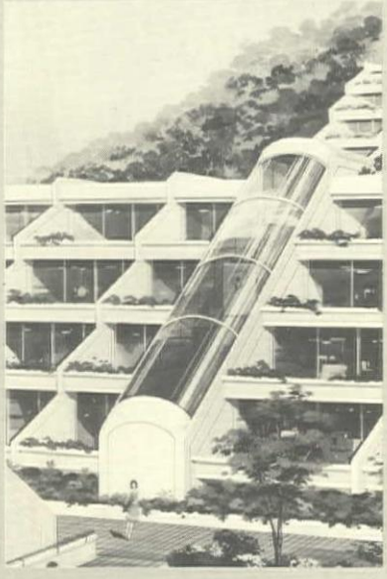
The Brooklyn Bridge／D. Hockney

斜めに走って傾斜地プロジェクトをいかします。

斜面における新しい交通の手段として、建築プランの幅をさらにひろげていただけるのが三菱斜行エレベーターです。傾斜地のマンション、ホテル、保養施設といった建物に最適の昇降システムですから、斜面をいっそう有効に活かした建物の設計にお役立ていただけます。わが国最大の生産実積と、分速600mの世界最高速乗用エレベーターなどを生んだ先進の技術をもつ三菱エレベーター。傾斜地の多い日本の建築ニーズに、十分にお応えいたします。



新発売



三菱エレベーターの先進技術が生きています

乗用エレベーターとして高い評価をいただいている三菱エレペット〈アドバンス〉。その豊富なノウハウを基に、斜行エレベーターとして必要な機能を徹底的に解析して設計しました。安全性、信頼性、快適性、操作性など、〈アドバンス〉のすぐれた特長がそのまま生かされています。

スムーズ、快適、安全に走ります

マイコン制御で水平方向の加減速を低く押え、円滑に斜走します。またドアの窓から斜めに動くかごの動きを見ることができるなど、乗客が無意識に垂直の動きを想定してしまうことがないような、さまざまな安全面への配慮をしました。

万一の場合に備えます

安全装置が作動して急制動する場合に備え、水平方向の減速度を小さくする緩停止の非常止め装置と、緩衝器をもっています。

万全のメンテナンス体制

斜行エレベーターの保守管理に専門的な知識と技術をもつ〈菱電サービス〉がメンテナンスを担当。あとあと安心してお使いいただけます。

豊富にそろった8タイプ

標準機種で8タイプ。用途に応じた最適の機種がお選びになれます。また昇降行程、停止数など、特別な仕様にも応じられます。オプションも豊富に用意しました。

▼標準機種一覧表

No.	形式	速度 (m/min)	容量 定員(人)	容量 積載荷重 (kg)	傾斜角	昇降行程 (斜辺)	停止数
1	P9-CO-45	45	9	600	20°〜45°	最大60メートル	最大15カ所
2	P9-CO-60	60					
3	P11-CO-45	45	11	750			
4	P11-CO-60	60					
5	R9-2S-45	45	9	600			
6	R9-2S-60	60					
7	R9T-2S-45	45					
8	R9T-2S-60	60					

★No.5〜8は戸袋が谷側にくるものを標準とします。
★No.7, 8はトランク付きです。

★本機種の設置については、(財)日本建築センター昇降機遊戯施設等性能評定委員会の評定が必要ですので、ご計画の際は、あらかじめ当社にご相談ください。

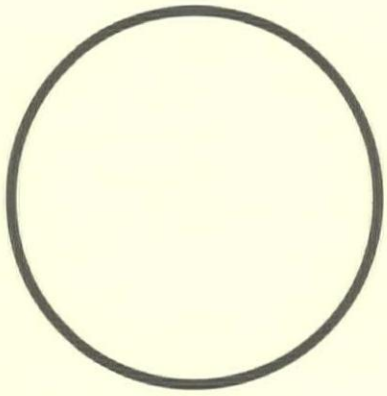
三菱斜行エレベーター

●詳しい資料をご希望の方は資料請求券をハガキに貼って〒100東京都千代田区丸の内2-2-3(三菱電機ビル)
三菱電機株式会社昇降機事業部へどうぞ。
●お電話でのお問合わせは、お近くの三菱電機営業所へどうぞ。
札幌(011)212-3726/仙台(0222)64-5633/新潟(0252)41-7221/富山(0764)42-2324/東京(03)218-2749/
名古屋(052)565-3160/大阪(06)347-2271/広島(082)248-5278/高松(0878)51-0001/福岡(092)721-2163

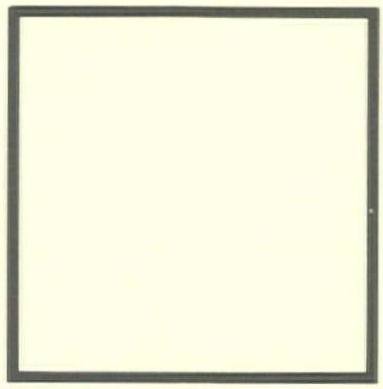
資料請求券
斜行エレベーター
SD
8411
あなたの電話番号をご記入ください。

未来を開発する
三菱電機

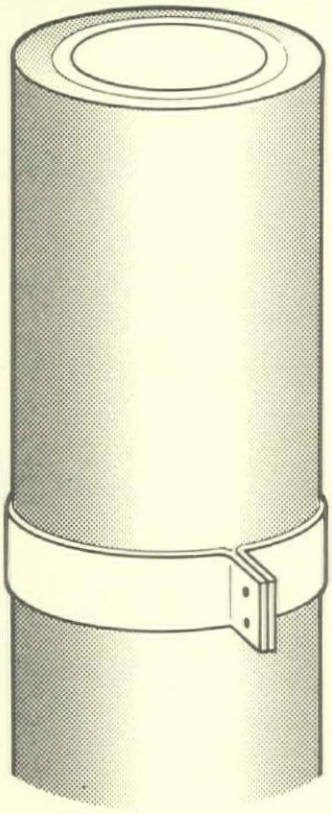
ニチアスの建築用煙突ライニング材は、



と



ニューカポスタック

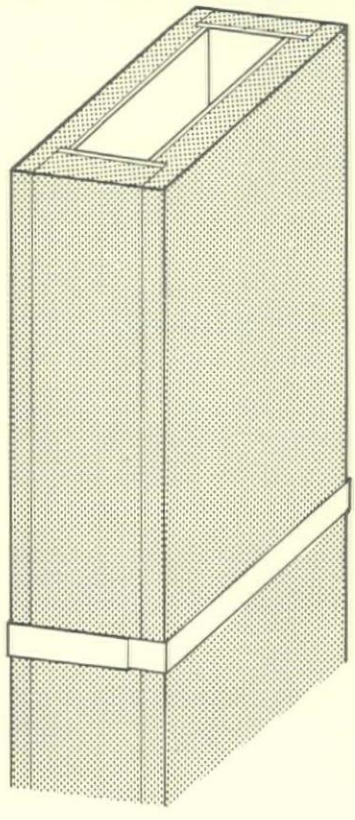


ニチアスは、煙突ライニング材「カポスタック」の発売(昭和39年)以来、長年の経験を生かし各種の建築用煙突ライニング材を開発し時代の要求に応えてまいりました。ビル・集合住宅をはじめ、学校関係のボイラ・自家発電機の煙道の煙突ライニング材として幅広く利用されています。

●**芯材不要**　ニューカポスタックの内側に特殊ライナー層を設け、コンクリート打込み時に芯材の不要な製品です。コンクリート煙突あるいは鋼製煙突のライニング材として使用されます。●**地震対策**　ニューカポスタック・は、カポ部のすぐれたコンクリート付着性・柔軟性・構造などから地震対策としてレンガ煙突の改修工事に使用されます。

●**ユニット煙突**　コンバインボードは外側をアングルで補強し、ユニット煙突として使用されます。●**角型用打込ユニット**　コンバインボードは角型筒状の打込ユニットとして、内部補強し、コンクリートを打込みます。

コンバインボード



(単位: mm)

		丸　型　用	角　型　用
商　品　名		ニューカポスタック	コンバインボード
構　　造		複合円筒	複合板
サ　イ　ズ		212φ～914φ・1014φ～1300φ	1220×2440
厚　　さ		※50・75・100　※65・75・100	50・70※
施工方法	打　　込	○	○
	鋼製煙突	○	－
	組立ユニット	－	○
備　　考		特殊ライナー＋カポスタック	高シリカ層(10t)＋ケイカル層

※印は標準品

ニチアスの建築用煙突ライニング材

ニチアス

本社／東京都港区芝大門1-1-26 〒105
☎03(433)7241 大代表

東京支社 ☎ 03(438)9731(代)
名古屋支社 ☎052(931)9217(代)
大阪支社 ☎ 06(252)1371(代)
九州支社 ☎092(531)3031(代)

資料請求券 煙突ライニング材 SD

カタログ請求は本社広報課まで

グルッポ・スペッキオ——その罪と終幕



●ミケランジェロ〈最後の審判〉　ローマ，システィーナ礼拝堂

この数ページを書き終えると，私の青春の中で最も愉快で，楽しく，実りの多かった時間が終わってしまって，それは二度ともう戻ってくることがない．　この号でグルッポ・スペッキオが，終わってしまうからである．……and summer's lease has all too short a date……〈また，夏の期間が短いのをどうしたらいいのか（シェークスピアのsonnetより）〉ただし，感傷ばかりに，ひたっているわけにはいかない．　ここはひとつ，グルッポの犯した罪に思いをめぐらして，読者という神に対して告白し，その許しを得なくてはならない．　さもなくば，われわれは罪を背負ったまま地獄の業火に焼かれなくてはならない．

グルッポの罪とは何か．　ひとつには，匿名のスタイルをとった事．　この欄を書きはじめた時，われわれは建築を志す名もない（その状態が今は変わったとは決していえないにしても）大学院生だった．　匿名とは，名を明かすことによって失う何かの多い人間が採用するスタイルである．　たとえば堤清二は辻井喬を名乗る．　グルッポには失う何かはなかったが，名を明かせば失う何かのない人間が書いているということがたちまち読者に明らかになって，それは逆に大きな何かを失うことだった．　これを称して〈裏返しの匿名〉．　これがグルッポの発明にして，詐術であった．　某建築家が私に曰く，〈グルッポ・スペッキオは外人が書いているんじゃなかったんですか．〉　私の日本語は誉められたのか，それとも貶されたのか．

外人，あるいは外人らしき匿名ライターの書く，日本建築のノート——この形式こそがグルッポをおもしろくもし，またつまらなくもした．　偽外人の匿名ライターによる日本ノートは，古くはイザヤ・ベンダサンがいて，最近まで続いているものには，週刊新潮のヤン・デンマンがいる．　偽外人はまず海外に関する教養の披露〈ワタシノクニデハコレアタリマエ〉〈外人記者ナカマニヨレバ〉ではじめ，〈シカルニ日本デハ……〉とうけ，〈変ナ国ダ〉と結ぶ．　するとたちまちもっともらしい日本批評が出来あがるという，水戸黄門的ワンパターンの批評形式である．　この形式を用いれば，日本の建築界など山ほど〈ヘンナトコ〉だらけで，それゆえ，ヤン・デンマンもグルッポもこれだけ長続きしたわけである．　しかし，この批評形式の根本には〈外人〉の無責任さと，〈匿名ライター〉のやっつけ仕事があって，〈ヘンナトコ〉を指摘する以上に問題を深めたり，つきつめることは決してない．　週刊誌を埋めるには最適の読み物で，それなりの情報量もレトリックもつまっているが，それ以上でもそれ以下でもない．こういう批評の連載は長続きするからといって，続くにまかせて放っておいていいものではない，とわれわれは判断し，ここにわれわれの自己批判の血がにじむほどの厳しさがあった．　これほど自分達の限界を了解しているという意味において，グルッポ・スペッキオは全く端倪すべからざる批評精神の持ち主であった．（吾）

思いやり

グルッポ・スペッキオの葬列に加わって，その白鳥の歌に耳そばだてんとＳＤ誌をひっくりかえせば，足かけ8年にわたる歳月の流れの，なにやら狂おしい交配の持続のようなものが迫ってきて，折々の気分の記憶が多様の相を与えはするものの，つまるところ同じようなことを，手を変え品を変え言って来たのだなあ，と我ながらあきれもし，また感心もしている．

とはいえ，初期のものに見出しうる初心と謙虚とが，慣れと技巧の上達とによってときに見失われる嫌いもなくはないことに気づくのは，さほど愉快なことではない．　本人がそうなのだから，他の方々の心情やいかに，と思いやれば，心胆凍てつく思い．　最近になってようやく，思いやりという言葉を覚えたのである．語り口ということに，つい神経をとがらせてしまうのも，思いやりの欠落に端を発していたかも知れない．

ただ，自らの語り口に思いやりを介入させては批評にならぬ．　逆に，批評になっちゃいなかった，とすれば，それは思いやりの証しというものだ．　悪態をつききるのもまた，難しい．

ともすれば読む本まで偏向し，書店で建築のコーナーにしか足が向かなくなった頃があって，ある距離を切実に必要とする思いから下の一文を認めた記憶がある．当時とりわけ難解ぶった文章が幅をきかせていた頃でもある．　むろん，間違っても山口瞳の肩を持つつもりはなく，それが自分の足場を建築界内部に見出した最初でもあった．　仲間うちの符牒*の自覚である．

建築界の，言葉に対する感受性の貧困さ加減は，いまもって連綿と承け継がれ，他分野にはとても出てゆけぬお粗末な言説が，各所に飛び交っている．　鋭敏な感性は，無邪気な信頼から決して生まれはせぬ．

初心忘るべからず．　あらためて初心にかえることにしよう．　それからもうひとつ，これからは思いやりの時代なんだぜ．（聖）

国内建築ノート　7912　　グルッポ・スペッキオ編

建築界のディスクール

大きな本屋の店先に足を踏み入れ，各分野ごとに区分けされてズラリ並んだ書棚を見わたすと，かすかに気の遠くなる心地がして，たとえばある分野の書棚の前に佇み，ただ居並ぶ本どもの背文字をうつろなまなざしが追っているだけで，いわくいいがたき圧迫感にたじろぐことがある．とりわけ自分の専門分野以外の，日頃関心も抱かずにやりすごしている書棚をたまたま前にしたときに，その感覚は著しい．

たとえばたった15×21×2.5cmの空間にこめられた人々の執念が，ひしひしと伝わるせいかもしれない．　あるいは情報量の膨大さとはかけはなれて卑少な人生のはかなさを，それとはなしに自覚するせいかもしれない．　しかしなんといっても，未知なるものにはなにかしら反感を抱く，という人間心理の大原則に，その感覚は帰されてよい．　どうも各分野には，それぞれ固有の用語やら言いまわしがあって，そうした語り口の紡ぎ出す世界の存在を垣間見たり，醸し出される独特の雰囲気なんぞに浸ったりすると，そんな気分になるらしい．　どこかしら異和感と，いわれなき嫌悪感と，そこはかとなき焦燥感とが入りまじって，心境の複雑なることこのうえない．

他の分野から見た建築界も，おそらくはそうした異和感，嫌悪感，焦燥感を撒き散らかしているに違いないし，建築界の内部においてさえ，さまざまな語り口が飛び交っていて，相互に異なる語り口同士での反目や断絶は，意志の疎通に最低限必要な程度の語り口すら共有されていない現状を露呈している．　他の分野からの反感に関しては，その例の枚挙にいとまがない．　たとえば今年のアスペン会議で議長をつとめた黒川紀章に対して，「この種の分野では，建築家が先行しては駄目なのだというのが，東京オリンピック以来，各種の国際行事に関与してきた，私の結論である」と苦言を呈するデザイン評論家*の存在があったり，パリの「間」展における磯崎新への批判もしばしば耳にする．また，少し以前に建築家の間で秘かに回覧されたという，かの週刊新潮８月23日号における山口瞳の例もある．　かれはたまたま手にした建築雑誌における建築界――ただし部分的ではあるが――の語り口に驚愕し，それらの文章を引用しつつ批評して，「私には，はっきり言って，こういう人たちの頭の構造がわからない」と言い切ったすえ，「そうして，あえて，専門家として，これらの文章だけを批判せよと言われるならば，〈相当に程度が悪い〉と答えざるをえない．　日本語として，ナッチャイナイのである」と決めつける．　これを読んで「よくぞ言ってくれた」と小躍りしたおめでたい建築家たちも少なくないというから，建築界内部の断絶も，ついでに浮き彫りにされた格好である．

はたして建築界の語り口とはいかなるものか．　そしてそれは外部にも通用するものなのか．　また内部の対立の様相やいかに．　そんなあたりを，まさしく天に唾する行為と明々白々自覚しつつもあえていってみよう，題して〈建築界のディスクール〉．



●〈白い恋人達〉駒井哲郎／みづゑ7703

＊勝見勝1979年７月13日付・読売新聞夕刊

＊「仲間が仲間の符牒を発明して行くのは当然な事であって，例えばテキ屋諸君はテキ屋諸君の符牒を活用する．　そして彼らの間では，符牒は実際行為に関して姿をあらわすだけだから，符牒は常に正当な役割を謙譲に演じている．　だが，批評家諸君の間では，符牒は精神表現の，あるいはその伝達性の困難を，故意にあるいは無意識に糊塗するために姿をあらわして来るのだから話が大変違ってくる．　この困難を糊塗するという事は，別言すれば，自分で自分の精神機構の豊富性を見くびってしまうことに他ならない以上，見くびられたこの自分の精神機構の豊富性の恨みを買うのは必定であって，符牒は勝手に反逆し，自分の発明した符牒が人をまどわすと同程度に当人を誑かす．　馬鹿を見るのは読者ばかりではない，批評家当人たちも仲間同士の泥仕合で馬鹿を見ている．

これらの符牒の堆積に，ともかくも一礼するのは礼儀だとは思うが，一つお辞儀をしたらさっさと歩かしてもらいたいものだと考える．　私は，出来るだけ素面で作品に対して，出来るだけ正直に私の心を，多少は論理的に語ろうとする．」

（小林秀雄《アシルと亀の子Ⅰ》より）

1979年12月号タイトル・掲載作品

機能主義の美徳

●BMW

❶国立屋内総合競技場
／丹下健三＋都市建築設計事務所

❷上原通りの住宅／篠原一男

建売業者と建築家の距離

●新聞広告

❶54の窓／石井和紘＋難波和彦

❷54の屋根／石井和紘建築研究所

建築家気質

❶斐太祈／梵寿綱

❷ダイケン企業本社ビル／渡辺豊和

語りと騙り

❶西日本総合展示場／磯崎新アトリエ

❷積木の家Ⅰ／相田武文設計研究所

❸54の屋根／石井和紘建築研究所

❹上田の住宅／富永譲＋フォルムシステム研究所

❺MK邸／早川邦彦建築研究室

〈本音〉と〈建前〉

❶岩崎美術館／槇総合計画事務所

❷栗津邸第１次案／原広司＋アトリエ・Φ

❸徳丸小児科／長谷川逸子

サバイバル——奇妙な安定の時代の中で

70年代＝混迷の時代。　主題の不在が叫ばれ，閉塞だの世紀末だのと状況論ばかりが先行し，誰もが手さぐりでモダニズムを乗り超えようとしていた時期。　勿論今とて何ほどの違いがある訳ではないが，10年前，僕らが建築への門をたたいたころには，事態は今よりもなお深刻で，先のみえない時だった。

オイル・ショックで冷水を浴びせられたモダニズムは，次々と粗をさがされ解体され，マニエリスムが吹聴されて〈新しさ〉という概念さえもが古びた過去のものとなっていった。　あちこちイマジナリー・アーキテクチュアの火が上ったとはいえ散発的で，歴史主義もシンボリズムもハイテクも，未だ個人的な試みの段階として胎動していただけだった。

ところが80年代になると，先は相変わらずはっきりしないまでも，70年代に生をうけた各々のイズムは，ゆるい淘汰をうけただけで，ひとつひとつが皆安定した構図を形成してゆく。　諸子百家・百花繚乱とはいえ，もはや何が出てくるか想像もつかないというムチャクチャさは消え去った。　ポスト・モダンもレイト・モダンもハイテクも，もはやそれぞれの体裁を整えたムーブメントになってしまったのである。

奇妙で不思議な安定感のある80年代，しかし実は誰もそれを終の住みかとは思わない。　特にポスト・モダニズム。　だからあまりに深くそこに足をつっこむ危険をさけて，表現は軽くなってゆく。　心の底から湧きでる活力ではなく，上すべりの愉楽によるイメージの消費——

そんな時には，否，そんな時代だからこそ，自らの概念が表面だけでなく本物の響きをもっているか否かを，心の中で密かに検証しなければならない。　70年代ほどそうした根源的思考が流行らぬ今日でも，確かな手応えを感じさせるものは生き残る。　サバイバル——あなたは，そして僕らは90年代に生き残れるか？（E）

国内建築ノート　7905　　グルッポ・スペッキオ編

サバイバル

《現代建築は生きのこれるか？》というのが今回のテーマである。　明治，そして近代建築黎明期の偉大なる建築に対しては，保存運動が叫ばれて久しいけれど，はたして今日の建築作品には，将来，保存への要望が高まるような価値が存在しているだろうか。

勿論，未来において評価される価値を予測するなどということは不可能で，そんなことを考えるのも不毛なことには違いない。　だれも遠い未来での賞讃を胸に抱いて設計しはしないのだから。　しかしそんなことを考えながら町を歩いていると，やはり〈その場しのぎ〉の建物群〉には，それに特有の薄っぺらさと影のうすさ，つまり存在感の弱さを感じてしまう。　今建てられつつある建物が，30年もすれば惜しげもなく取りこわされて，全く新しい景観にとってかわられてしまうとすれば，現代の建築は我々に対してどんな意味をもっているのだろう。

《現代建築は生きのこれるか？》今ここでこのような問題を取り上げようとし，そこに重要性を見出そうとしているのは，ひとつには，建築が持つ〈意味〉のうちでも，人間及び建築の本性・根源的性格に根ざしたものの中に高い価値があると考えるからである。　そのときどきの流行や風潮のみにおし流されずに，人間と建築の関わりをじっくりみつめた結果としての建築作品には，そのような根源的性格が何らかの形で現れている。　そしてその本性はそう簡単に変化する訳はないのであって，それに基づく何かを我々に訴えかけてくる建築ならば，それは未来においても必ずや価値を保ち続けるだろう。　様式や表現手法が少々変わっても，そこに語られている内容が本質的なものであれば，それは生きのこれると思われるのである。

そういった考え方は現代の建築思想の中にもうかがうことが出来る。　「ある時点で計画されたものは，否応なしにその時代の烙印を押されている。　技術の展開状況や社会的条件からして，その時代を〈つくりあげられた表情〉のうえで超えることはできない。　超え得るのは，その深部にひそむ概念だけである」*と磯崎は言う。　〈時代を超えた概念性〉——それこそは近代建築後の今日，安心しておし流される潮流をもたぬ現代の根本的なものへの問いかけの究極をなすものである。　それは人間と建築の本性と深く関わっているものである。　そして，それが今日の建築作品の中に実現されているかどうかを考える時に最も有効なのは，それが何十年も後になって，数多くの技術的革新や表現様式の変遷・時代精神の流転に耐えぬいて生きつづけられるか，という問いかけなのである。　サバイバル——あなたの設計は生きのこれるか？



《Ancient Architecture》

＊新建築7806〈磯文彦〉論より。　傍点筆者。

1979年5月号タイトル・掲載作品

慣れ

●マツダ・コスモのデザイン・プロセス

●ダットサン・510

飽き

●スコア：モーツァルト　交響曲第38番二長調K.504

●ピニンファリーナのフェラーリディーノ・プロモーションの変遷

あきらめの哲学

❶今宿の家／坂本一成



❷三井物産本社ビル／日建設計

❸甲東アレイ／安藤忠雄建築研究所

❹草月会館／丹下健三＋都市建築設計研究所

ファッショナブル

❶ソニー・ビル／芦原建築設計研究所

❷銀座くのや／黒川雅之建築設計事務所

❸フロム・ファースト／山下和正建築研究所

❹ハナエ・モリビル／丹下健三＋都市建築設計研究所

男の身勝手

❶北鎌倉の家／黒川雅之建築設計事務所

❷PMTビル／伊東豊雄

❸川崎市民プラザ／川崎市建築局建築部　神谷・荘司計画設計事務所



変奏の季節

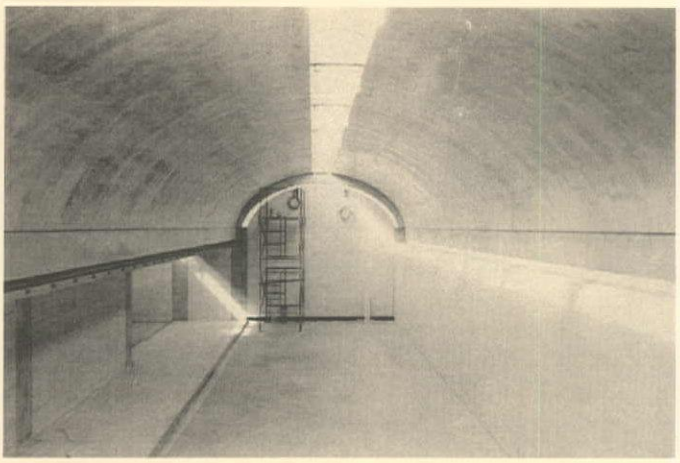
〈主題と変奏〉というテーマでグルッポ諸氏に取り組んでもらってから5年程経った。　周知の様に，その後この変奏という技法は，例のポスト・モダニズムと呼ばれる，より正確に言えば，その中の歴史主義的色彩の強い一群の作品の登場によって，随分と脚光を浴びた。　しかし1年前には磯崎新のつくばセンタービルの完成をもってかなり注目されるかにみえたポスト・モダニズムという話題も，建築界の主題とはなり得ず，この秋ポスト・モダニズムなどと叫ぶのは売れないコピーライターぐらいである。　建築家が自らのしがらみの中で，自らに勢いをつけるハズミに，多少のお題目が必要であったという感じであろうか。

しかし，それは変奏という技法が建築に於いて有効な手法ではなかったからではなく，むしろ余りに当然のことであったからである。　したがって変奏の素晴らしさに多くの建築家が目を向け始めた分，魅力的な変奏曲が増えてきた様に思える。

現代は新たな主題を提示することの極めて難しい時代であるという。　その事にある者はいらだちを覚え，ある者は開きなおりを見せている。　それ故，変奏という技法にこれからも多くの建築家が手を染めるであろう。　ただその結果生み出される変奏曲が，見る者，訪れる者に再びそうしたい気持ちにさせ，より多くの人々にそう思わせる程魅力的な作品になるには，やはり相当な力量と努力が必要なようで，更に変奏曲が自律した価値を獲得し，そこから現代に於ける主題を示し得る域に達するにはもう少し時間がかかるような気がする。　したがって逆に今はじっくりと構えて変奏に励むのに良い時期なのかもしれない。　出来るだけ美しい魅力的な変奏曲を生み出すなかで，我々の主題，我々の時代の主題が，うっすらと浮かび上がってくるような気がする。　あせらず，開きなおらず，やろうではありませんか。　ではまた何処かで。（K.I.）

国内建築ノート　7910　　グルッポ・スペッキオ編

主題と変奏



●Light is theme の表紙より
例えばカーンは自らも変奏曲を作曲したが，同時に，カーンを主題とする変奏曲も数多く生れた。

建築家は，建築という行為に何らかの主題を持って臨む。　コンセプチュアルなレベル，スタイルのレベルなど，人によりさまざまであり，普遍な主題もあれば，その場限りの物もある。ある建築家が全く新たな主題を生み出す場合もあろう。　このような多くの主題の中には，他の建築家も，その時，避けては通れない，あるいは積極的に取り組みたいと感ずる主題がある。そのような主題の回りには，また多くの変奏が生れる。　主題を肯定的に把え，その主題に内在する可能性の全てを引き出そうとすれば，素晴しい変奏が，いささか否定的な結果としては，パロディーが生れる。　勿論，主題と変奏の関係も多様である。　変奏の1つ1つが，独立した作品である場合もあり，主題によっては，複数の変奏の提示により1つの作品として成立する場合もある。　いずれにせよ，優れた主題からは，多くの変奏が生まれ，逆にその変奏の出来，不出来によりその主題自体が検証されるということもある。

ところで，作品を受けとる側は，必ずしもその主題を知っている訳ではない，否むしろ知らない場合の方が多いかもしれない。　数多い変奏曲の中には，誰もがその主題を知っている曲もあれば，逆に，その変奏曲が有名になることで，その主題が知られるようになった曲もある。　本来，変奏曲も1つの曲として独自の価値を持っており，その主題の処理の仕方のみが変奏曲の価値ではない。　我々がある変奏に感銘を受けるとすれば，それはその作者がその主題を基に独自の世界を造り出しているからである。　つまり，有能な編曲家は同時に，オリジナリティーにあふれる作曲家なのである。

建築界にも編曲家は多い。　彼らの探し出してくる主題も尽きないようだ。　事実，魅力的な主題も少なくない。　しかし，この情報過多症を患っている現在，変奏曲を変奏する建築家や，変奏技術を競う人々もまた多いことに気付く。　このような行為が本来の主題と混同されている事実は否定し得ないだろう。　現代は明確な主題を提示するには難しい時代かもしれない。　安易に示すことの是非も問われよう。だが，それだからこそ，〈主題と変奏〉という自律的かつ相補的な構造を持つ主題に眼を向けてみることも必要なのである。

1979年10月号タイトル・掲載作品

さりげなく
●田園の奏楽／ジョルジョーネ
●パリスの審判／マルコントニオ・ラモンディ
●草上の昼食／マネ
●ヴィーナスとキューピッド／クラナッハ，ピカソ
●ラス・メニナス／ヴェラスケス，ピカソ
❶山本邸／山本理顕設計工場

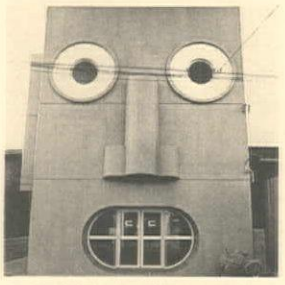
変奏の3つの形式
❶阪急グランドビル／竹中工務店
❷住川邸／毛綱モン太建築工房



❸日本赤十字本社ビル／黒川紀章建築・都市設計事務所

ヴァレリーの嵐の一夜
❶埴乎堂／白井晟一　❷原爆堂／白井晟一
❸親和銀行本店第一期／白井晟一
❹渋谷美術館／白井晟一
❺軽井沢の山荘／吉村順三　❻蓼科の山荘／奥村昭雄

顔は顔　PART I
❶金太郎商店ビル／太田建築研究室
❷顔の家／山下和正建築研究室



❸グレゴリアー通りの宮殿／フェデリコ・ズッカーロ
❹サン・ロレンツォのドーム／グァリノ・グァリーニ
❺アボーツウッド／エドウィン・ラッチェンス
❻本願寺飛雲

ロマン派的主題
❶ハナエ・モリビル／丹下健三＋都市建築設計研究所
❷カサ・ミラ／A.ガウディ
❸南湖の家／坂本一成　❹坂田山附の家／坂本一成

再びHamlet or Macbeth

人間には二種類いる，建築家にも二種類いる，と私は思う．　一人はMacbeth．　Macbethは一介の武将に過ぎなかった．　その一介の武将が王を殺して自ら王冠を手中にした．　如何にしてこういうだいそれたことが可能になったか．　彼が魔女の預言を聞いたからである．　自分がいずれ国王になるという魔女の預言を聞いたからである．　Macbeth型建築家は，それぞれ魔女の預言を携えている．　魔女の預言とは，時には強烈な自己演出であり，あるいはたくみな観念の武装である．　マクベスが預言にしがみついたように，Macbeth型建築家は，巧みな演出と観念を武器にして，のしあがっていく．

もう一人はHamlet．　彼はもともとデンマークの王子であり，一介の男ではなく，ひとかどの人間であった．ひとかどの人間は運命にしがみついたりはしない．運命をもてあましている．　彼はむしろ優柔不断である．　to be or not to be．　決断に手まどり，人から見ればもどかしく，故意に軽薄をよそおうが根本的にお人よしで，その軽薄さで心ならずも人を傷けたりする．　Hamlet型建築家は，社会的成功とか，富とかとは縁遠くなりがちである．

多くの建築家はHamletとMacbethの間をゆれ動く．Hamletほど育ちのいい建築家もいないし，またMacbethのように，冷血に徹しきる建築家もいない．　多くは，その両者の間で，どっちつかずのうちに，あいまいで現実的な人生をおくっていくことになる．　そして私がグルッポで試みたことのひとつは，Hamletの優柔不断をたしなめることであり，ひとつはMacbethの独善，自己宣伝，羞恥心の欠如を発くことにあった．それが成功したかは，読者の判断を待つほかない．

（ちなみに，1978年2月号の〈Hamlet or Macbeth〉は全頁，私が一人で執筆し，これはグルッポ史上唯一の出来事でした．）（吾）

国内建築ノート　7802　　グルッポ・スペッキオ 編

Hamlet or Macbeth?



●シェイクスピア

「われわれは夢と同じ材料で出来ていて，われわれの小さな生涯は眠りでかこまれている．」とシェイクスピアはいう．　シェイクスピアほどルネサンスの想像力の解放に酔い痴れた詩人も無かったが，彼の中には想像力への悪意に満ちた猜疑心も育まれていた．　彼はいかなる現実をも想像の力で作ることができて，それぞれの現実が〈真実〉だった．　現実とはこれほど根拠の不確かなものなのか，幻覚とどこが異なるのか，そして真実とは偶然のことなのか，これがシェイクスピアのいだいた猜疑心である．

建築家もまた，想像力に対する不信をいだき，そして今もいだき続けている．　幻覚とどこが異なるのか，そして何とかして偶然をぬけ出した真実というのはないものかと……．　例えば機能というようなもので何とか偶然をぬけ出せないものかと……．　想像力は解放されたが，それが仕えるべき人はいるのかと．　すなわち刹那的効果や衒奇の修辞学を超えたある本質的なものがありえるのか，と……．　ヴァレリーはそういう本質的なものがないというのも決して誤ってはいないという．「真実とは偶然のことだからである」と．　ただしその偶然ははたして何によって支えられるのか……．　ヴァレリーはこう答える．「芸術は人間的に完全な者の行為であることが大切である．」　そしてゲーテもすかさず，「ひとかどのものを作るには，ひとかどのものになることが必要だ．」と答えた．　伊藤ていじ氏もまた同じように答える．「建築が人間の表現であるとすると，人格が完成するためには長生きしなければならない」．　これらの答えを支えているのは古典主義者の体力と，自己への確信である．

《ハムレット》においても想像力とははたして信頼にたるのか，が問題にされていると福田恆存氏は言う．　ハムレットは行為に移ろうとして，必ずやその豊かな想像力の過剰にさまたげられる．　優柔不断といえば確かにそうである．　しかし，それでもハムレットという人物が信頼に足るのは，彼がデンマークの王子というひとかどの人物だったからであり，思い立ってすぐ行動に移せるほどハムレットの置かれた状況は単純ではなかった，というのが福田氏の意見である．　ただしマクベスは疑わしき人物だと氏は続ける．　マクベスはもともとひとかどの人物ではなかった．　そういう人間には本当の想像力は存在せず，あるのは観念と自意識の過剰だというのである．　さて，あなたはHamlet or Macbeth?

1978年2月号タイトル・掲載作品

シェイクスピア劇におけるレトリック

❶国立屋内総合競技場
／丹下健三＋都市建築設計研究所

❷ミネアポリス・アート・コンプレックス
／丹下健三＋都市建築設計研究所

❸ブロンクス・ディベロップメンタル・センター
／リチャード・マイヤー

❹群馬県立近代美術館／磯崎新アトリエ＋環境計画

❺西日本総合展示場／磯崎新アトリエ

マクベスの全集作り

❶健康文化センター石川厚生年金会館
／黒川紀章建築・都市設計事務所

❷ジャクリースの像／パブロ・ピカソ

❸ガルシュの家／ル・コルビュジエ

❹内なる空Ⅰ／富永譲＋フォルム・システム研究所

ハムレットにおける懐疑主義

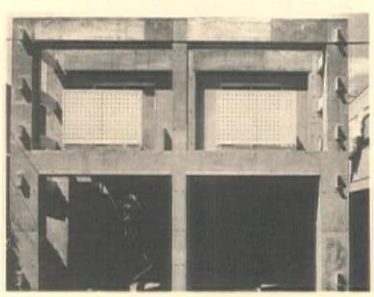
❶ルーアンの寺院／クロード・モネ

❷ラックス本社・中央研究所
／設計事務所ジェネラルドラフティング

❸愛知県緑化センター／瀧光夫

❹住吉の長屋／安藤忠雄建築研究所

❺高橋邸／石井和紘建築研究所



ハムレットの軽薄さ

❶ブルーボックスハウス／宮脇檀建築研究室

❷秋田相互銀行河辺支店／宮脇檀建築研究室

❸東京都美術館
／前川国男建築設計事務所＋横山建築構造設計事務所

❹直島町民体育館・武道館／石井和紘建築研究所

ハムレットは失敗作か

❶本荘保育園／小川信子＋アトリエ・モビル＋赤井奈津子＋小笠原亭

❷秘權檜（ルボア平喜）／梵寿綱

❸日本プレスセンター／日建設計・東京

❹今市市文化会館
／神谷五男＋都市環境・建築設計事務所

❺群馬東京電波玉村工場／野沢正光建築工房

国内建築ノートが読者に開放されます。

グルッポ・スペッキオから聖吾評へ

SD Space Design

〈国内建築ノート〉欄変更のお知らせ

■グルッポ・スペッキオ解散

永らく親しまれ，人によってはＳＤの顔（あるいは恥部）とまでいわれたグルッポ・スペッキオではありましたが，今年一杯で惜しまれながらも姿を消すことになりました。　そして，来年度から国内建築ノート欄は広く読者に開放されることになりました。

■新機軸のしくみ

竹山聖，隈研吾の両人が，**聖吾評**を名乗って来年よりこの欄を担当します。　両名が，毎号読者に**宿題**（テーマ）を出します。　読者はその宿題にのっとって，どしどし投稿して下さい。

応募原稿は，両人の審査を経て，４点に厳選されたのち，掲載されます。

投稿は本名でするも可，筆名でも可。　職業を書くも可，書かざるも可，年齢を書くも可，書かざるも可。　投稿者の自主性と機転と売り込み精神にまかされています。

読者の原稿には，竹山，隈両名の講評も掲載されます。　願わくはその蛇足のページが霞むほどの，超々絶々たる原稿が，全国津々浦々より蝟集せんことを。

■新機軸のめざすもの

懸賞論文というものが，どの世界にもあって，建築の世界もその例にもれませんが，本欄は懸賞論文では決してありません。　むしろそれからできる限り遠く，その対極たるをめざしています。　また，いわゆる〈投稿欄〉というものとも全く違います。　懸賞論文，投稿欄の大げさで，振りかぶったような語り口は本欄には向きません。　それらの語り口を支配している上から下へとふりかざしていくベクトルにかわる，新たなるベクトルなりテンソルを求めます。　この欄はそういった下降する矢をたばねて陳列する場所ではなく，むしろ雑然ときらめく階梯のようなもので，その階梯こそが**現在**を突如としてわれわれにもたらしてくれたり，また**現在を超えたもの**をかいま見せてくれるのではないか，というわけです。

その際に今までのグルッポ・スペッキオの文章は全く参考にはなりません。（謙遜！）　悪しからず。（吾）

'85年2月号の当欄への参加を募ります。



1985年2月号国内建築ノート・宿題

「正しい建築と面白い建築」

宿題解説

世に正しい建築は多々あれど，なおかつ面白い，というのは滅多にない．　あるいは逆も言えて，面白い建築はあっても，しかも正しい，というのが稀だ．

今回のテーマは，正しくてかつ面白い建築はありうるか，ありうるとしたらどういった形で，ありえぬとしたら何故に，というものである．　正しいことと面白いことは両立するか，ということである．　正しい建築と面白い建築の関係を考える，ということである．

どちらかのみについて論ずるのも，無論かまわないわけですが，できればこの両者の連関，対比の妙（あるいはアホらしさ）をすくいあげて欲しい，というのが評者の願いである．

正しいというのがどういうことかわからない，などとフヤけたことは言わないで欲しい．

ンなこたァテメェで決めることだろーが！

面白いというのも個人差があって，などとアタリメーのことをほざかんでくれたまえ．

個人差のハザマに落とし前つけるかケツまくるかが，人生ってもんでござんしょう．

ところで評者の気分で申し添えますならば，正しさだとか面白さなんぞをどういった位相でとらえるかはひたすら各人のセンスにかかっておりまして，切り口の鮮やかさこそを良しとしたい，とかようにまあ考える次第であります．　1／200で矩計をかくなんてことがないように，1000字には1000字の世界がある．こいつも忘れないでもらいたいことのひとつです．　正しさも面白さも，1000字の中にすっぽりと納めこんで下さい．　まちがっても大論文の断片のようなものを送りつけたりしないように．　それは来たるべきあなたの大論文のため，大切に取っておくことです．

ともあれテーマは自由に解釈していただいて結構，できれば正論のみならず，珍論・奇論・異論・暴論を心より待望いたします．（聖）

応募規定

■応募の資格　とくになし

■提出物　本文(1,000字以内)．本文の内容に即した写真・図，そのコメント．本文は原稿用紙に清書のこと．写真・図は現物またはコピーとし最大Ａ４判程度．　また出典（掲載誌名，掲載年月）を明記のこと．

■締切　1984年12月10日（当日消印有効）

■送り先　〒107　東京都港区赤坂６－５－13　鹿島出版会ＳＤ編集部

■提出物の返却　提出物はいっさい返却いたしません．

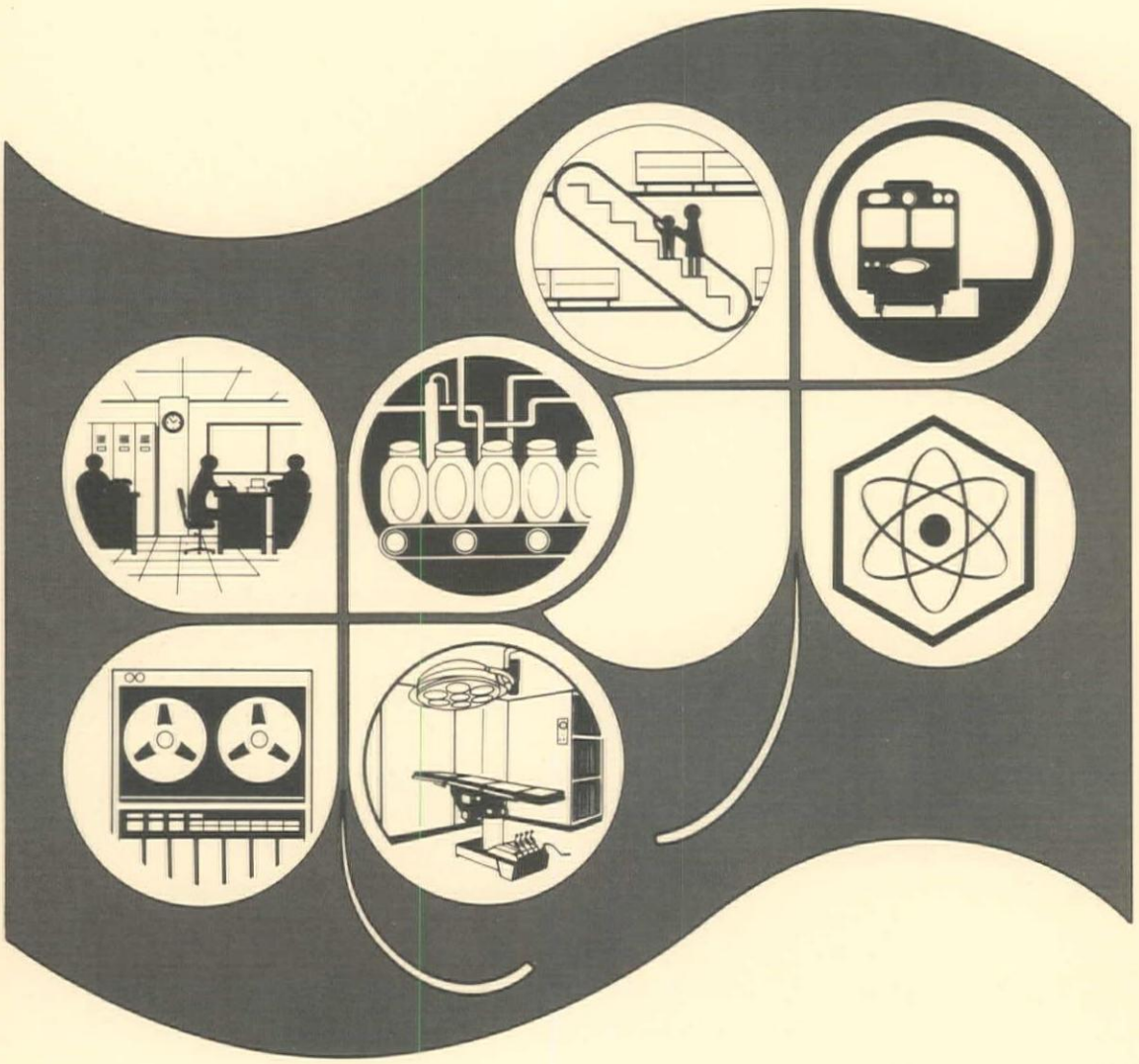
■掲載　ＳＤ誌1985年２月号〈国内建築ノート〉欄．

■問い合わせ　宿題（テーマ）に関する問い合わせは御遠慮下さい．

■御礼　採用された方には，ＳＤ半年分（採用号以降）を差し上げます．

MODAIR

あすの空気調和をになう



自然より清浄な環境づくり
それが東熱のねがいです

〔東熱〕がめざす「空気調和」とは、温湿度調整だけでなく、有毒ガスの除去、脱臭、除塵等、人間の生活環境、あるいは高度生産環境を作り出す総合技術です。

この開発された個々の技術を更に、総合的に発展させ、都市全体としての環境改善に寄与してゆくことに東熱としての使命感を持っております。

〔東熱〕によって開発された技術は●地域冷暖房●アイソレーター●サンシャイン計画●超高層ビル●病院●地下鉄等、あらゆる分野に生かされ都市環境の整備、浄化に貢献しております。

〔東熱〕は常に社会の要望に対応した、技術の開発をし、より清浄でより快適な生活環境を皆様に提供いたします。

東洋熱工業

本　社／〒104／東京都中央区京橋2－5－12
TEL 03（562）1351大代表
支　店／札幌・仙台・関東・新潟・横浜・名古屋・大阪・広島・九州
営業所／水戸・前橋・静岡・京都・神戸・岡山・高松

SD (Space Design)
Back Issues and Price Lists
1979—1984
Price include seamail postage fee.

SD

●hardcover edition

Arata Isozaki ¥4500
28 great works of Arata Isozaki with notes by himself. Writings by Hans Hollein.

Kisho Kurokawa ¥4500
Extensive works of Japanese metabolist, with writings by C. Lévi-Strauss, etc. Full English texts.

Fumihiko Maki ¥4500
Selected works—architecture and urban design—of Fumihiko Maki. Full English texts.

Tadao Ando ¥4500
Selected works and drawings of T. Ando. Writings by Y. Futagawa etc. Full English texts.

Kenzo Tange ¥5000
58 architecture and urban design of Tange, selected by himself. 202 pages. Full English texts

Kenzo Tange 1977–83 ¥5300
1980–83, 21 architecture and urban design of Tange. Chronological lists. Full English texts.

Overseas Subscription

Please register my order for the following back issues of **SD**

.....

Name

.....

Profession

.....

Address

.....

The amount is being sent in advance by:
☐international money order
☐enclosed check

.....

Signature

.....

Please enter my subscription to **Space Design (SD)**
Starting in _____, 1984

.....

Name

.....

Profession

.....

Address

.....

The amount is being sent in advance by:
☐international money order
☐enclosed check

.....

Signature

.....

☐new subscription
☐12 issues ¥30000 (seamail postage included)
☐24 issues ¥50000 (seamail postage included)

Post Card

stamp

Subscription Department

SD

Space Design

Kajima Institute Publishing, Co., Ltd.

5–13 Akasaka 6-chome, Minato-ku,

Tokyo, 107 JAPAN

Post Card

stamp

Subscription Department

SD

Space Design

Kajima Institute Publishing, Co., Ltd.

5–13 Akasaka 6-chome, Minato-ku,

Tokyo, 107 JAPAN

Overseas Subscription

Art Deco in New York ¥5000
About 80 Art Deco architecture. The Art Deco architectural map and list of New York City.

The Whirlpool: ¥4500
Post-Modernism-Young American Architects Works and projects of 50 young American architects.

●Selected back issues

7901 Kazuo Shinohara ¥4000
31 individual houses of Shinohara whose exhibition were held at Paris, New York, etc. 192 pages. Full English texts.

8304 Michael Graves ¥3000
Major works including The Republic Bldg. and The Fumana Bldg.

8401 Arata Isozaki 1976–1984 ¥5000
Twenty-three works including Tukuba Center Bldg. by Isozaki, with notes by the architect. Full English texts.

8402 The Arts and Crafts Movement and Late Nineteenth Century British Architecture ¥2500

8403 Two Pillars of German Industrial Design: D. Rams and F.A. Porsche ¥2500

8404 Gardens: Wonderland of Contrivance and Illusion ¥4300
All the major gardens in Europe and U.S.A. English texts.

8405 L.A. Modernism ¥2500
Including the interview with Esther McCoy. English text.

8406 The Artist Le Corbusier: Lithographs and Etchings ¥2500
Columbus, Indiana: Museum of Modern American Architecture

8407 Art Nouveau: Capturing the Magic of Dim Space ¥4000
All the major Art Nouveau architectures in Europe. Photographs by Keiichi Tahara, 116 pages including 48 color pages.

8408 Mario Botta ¥2500

8409 Hisao Kōyama: The Three Books of Architecture ¥2500
Hisao Kōyama's Composition Book introducing his works. English text.

8410 James Stirling: New State Gallery Stuttgart ¥2800
Robert Venturi: Venturi Collection of Knoll International
English texts by James Stirling and Robert Venturi.

8401 Arata Isozaki 1976-1984

8404 Gardens

＜都市住宅＞1984年10月号　定価980円

特集 低層集合住宅を考える 総集編

1977年より20回に渡るシリーズ＜低層集合住宅を考える＞を振り返り，現在にその意味を問う総集編．　ここ10年間のハウジングの動向・成果のすべてが検索できるインデックスを付す．

●

アンケート：

東孝光　上田篤　内井昭蔵　太田隆信　菊竹清訓　北原理雄　黒沢隆　阪田誠造　鈴木博之　鈴木恂　清田育男　曽根幸一　田村明　西沢文隆　早川和男　平井保雄　藤本昌也　三沢浩　水谷穎介　室伏次郎　山下和正　ほか

●

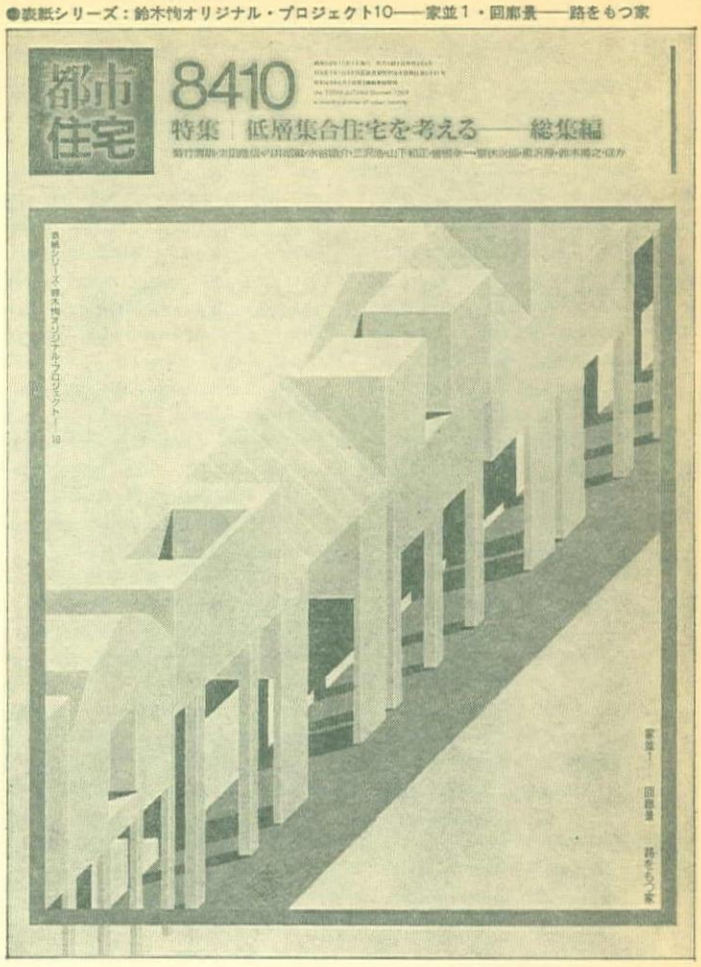
ケーススタディ：日本の低層集合住宅　1974—1983

サンハイツ金沢八景　茨城県営六番池団地　ライブタウン浜田山　ベルエール芦屋　WAT HOUSE　代官山集合住居　ライブタウン沼袋　ビラ・ノーバ　ユーロハイツ駒沢　藤ヶ丘タウンハウス　OHP八雲　ハイツ飯倉　広島県営鈴ヶ峰第2団地　石川県営諸江団地　狛江タウンハウス　パークシティ浦安第3期　鵠沼ハウス　ガーデン南山手　ハイツ千隈　金沢シーサイドタウン1号地低層住宅地　ビラージュ浄水苑　調布ハウス　タウンハウス西神　東所沢タウンハウス　上用賀タウンホーム　木場公園三好住宅　茅ヶ崎緑が浜ハイツ　ドムール北畠　宮崎台ガーデンテラス　コモンシティー北柏

●

ハウジング・インデックス　1975—1984

●表紙シリーズ：鈴木恂オリジナル・プロジェクト10——家並1・回廊景——路をもつ家



＜都市住宅＞1984年11月号　定価980円

特集 都市環境と水辺●ヒューマン・エンヴァイロメントのための水

●

論：都市空間における水辺の復権へ——泉真也

論：サンアントニオのリヴァーウォーク——梅沢忠雄

●

ケーススタディ：北米にみる水際線空間の演出と活性化

構成・執筆——UG都市設計

ルーズベルトアイランド——ニューヨーク

フォスターシティ——サンフランシスコ

ボストン都心臨海部

ジ・インナーハーバー——ボルチモア

サンフランシスコ港

サウスストリート・シーポート——ニューヨーク

ロングビーチ——ロサンジェルス

ミッションベイパーク——サンディエゴ

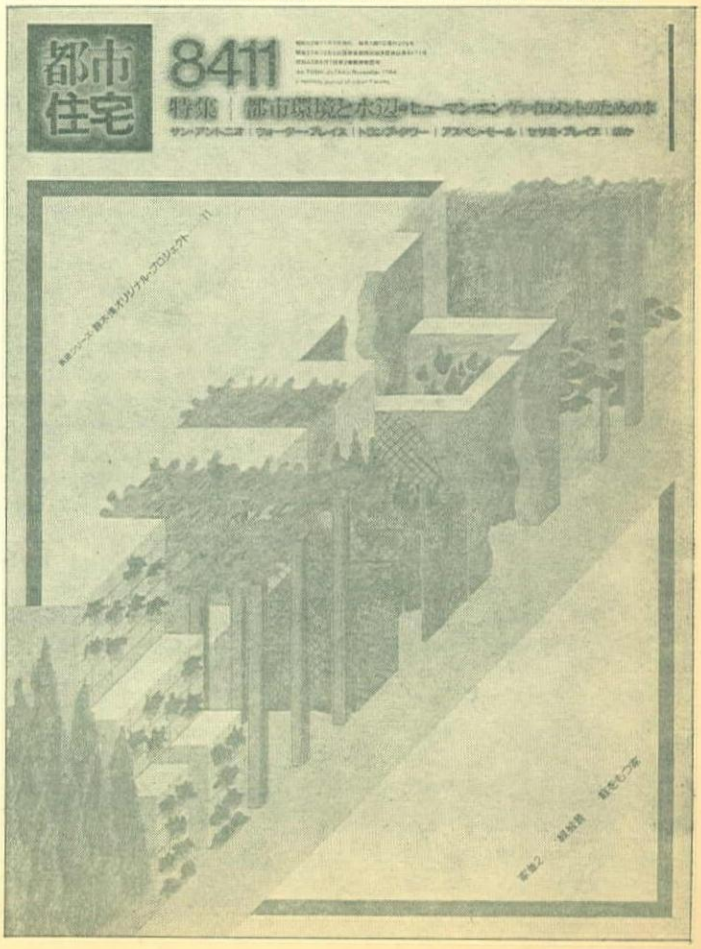
マリナデルレイ～ベニスビーチ～サンタモニカ

ミシガン湖畔——トロント

ミシガン湖畔——シカゴ

アスペンモール——アスペン

●表紙シリーズ：鈴木恂オリジナル・プロジェクト11——家並2・緑被景——庭をもつ家



SD 1981→1984　●：特集　ONS：Nice Space　ON：ニッポン　OP：PARIS　OS：2001年のSPACE DESIGN　○椅：椅子　○色：いろ

1981

定価¥1100，＊＝特別定価

1＊ ●アンドレア・パラディオ／ラ・ロトンダ，サン・ジョルジオ・マッジョーレ教会，バシリカほか　対談＝磯崎新＋高階秀爾＋長尾重武　論文・資料　○P＝高階秀爾＋田原桂一　＊＝¥3000（ハードカバー装）

2＊ ●ハリー・サイドラー／パリのオーストラリア大使館，H.サイドラー自邸，文＝H.サイドラー，P.ドリュー　○ヴィジョン・イン・モーション❸　○P＝小宮山昭＋田原桂一　○NS　蘇州の庭園　＊＝¥1300

3 ●新古典主義／ポスト・モダニズムと新古典主義，〔Ⅰ〕考古学とイマジネーション，〔Ⅱ〕自然と形態〜〔Ⅲ〕　文＝八束・川向・菊池・彦坂・小林・青木　●W.ブラットナーの近作2題　○P＝遠山一行＋田原桂一

4 ●グナー・バーカーツの近作／コーニング・ガラス美術館ほか　●ジャン＝J.ルクーの幻想画集　●ディッシング＋ヴァイトリングの作品　○P＝大久保雨樹＋田原桂一　○NS　ホーフブルクの旧宮廷図書館

5＊ ●ジオ・ポンティ 1891-1979／ピレッリ・ビルほか　文＝G.ポンティ，L.ポンティ，A.メンディーニ，三輪正弘ほか　○P＝進来廣＋田原桂一　○NS　ダルムシュタット芸術家村　＊＝¥2300（ハードカバー装）

6＊ ●安藤忠雄／小篠邸，松本邸，福邸，STEP，上田邸，堀内邸，石原邸，住吉の長屋ほか　作品リスト　対談＝西沢文隆＋横文彦　文＝二川幸夫　○P＝堂本尚郎＋田原桂一　＊＝¥3000（ハードカバー装）

7 ●シエナ——イタリア中世都市の生と死　田島学　文：①〜⑪　田島学　●北ヨーロッパのファクトリー・デザイン5題　○ヴィジョン・イン・モーション❹　○P＝田淵安一＋田原桂一　○NS　ハッサンのモスク

8＊ ●環境芸術としての建築——SITEの場合／BEST 社店舗シリーズほか　文＝J.ワインズ　●もうひとつの木の空間⑤／文＋写真＝須山義幸　○P＝森田一敏＋田原桂一　○NS　ピサの斜塔　＊＝¥1300

9＊ ●岡田新一：抽象と細密／岡山市立オリエント美術館，中近東文化センター，警視庁本部庁舎ほか　作品データ・年表・経歴　抽象と細密＝岡田新一　○P＝植田実＋田原桂一　＊＝¥3000（ハードカバー装）

10 ●デンマークのデザイン／家具，照明器具，テーブルウェア，ID，DSBほか　文＝渡辺力，光藤俊夫，梨谷祐夫，渡辺和子，藤本清春，今井一夫　○P＝野見山暁治＋田原桂一　○NS　ルイジアナ美術館

11＊ ●高浜和秀の建築と家具／建築：ウンブリアのヴィラ，家具：LEGO，MANTILLA，照明器具：SAORI，ほか　文＝清家清ほか　○P＝阿部良雄＋田原桂一　○NS　セビリアの大聖堂　＊＝¥1300

12＊ ●黒川雅之の仕事／VILLA-H，河野邸，銀座くのや，パンドラ，T-ジョイント，アクティング，メカビーンズほか作品データ・年表　対談＝黒川雅之＋押野見邦英　○P＝高田博厚＋田原桂一　＊＝¥1500

1982

定価¥1300，＊＝特別定価

1＊ ●堀口捨己——建築と庭園の空間構成／紫烟荘，岩波邸，八勝館ほか　文＝堀口捨己，山口廣，木村徳国，東孝光，西沢文隆，富永譲，早川正夫ほか　年表データ　○S＝泉真也　＊＝¥3000（ハードカバー装）

2＊ ●メンフィス：ニュー・インターナショナル・スタイル，あるいは，家具のポスト・モダニズム　●VISIC：〈詩と音楽と映像〉の新たな創造的融合ほか　○S＝竹山実　○NS　ダダ・ハリズ・ワプ　＊＝¥1500

3 ●フォスター・アソシエイツ——建築の近未来／香港上海銀行，ルノー配送センター，IBMテクニカルパーク，オルセン・センターほか　文＝N.フォスター，杉村恵司　○S＝尾島俊雄　○NS　サンアントニオ

4 ●V.グレゴッティ事務所——建築の地理学／新カラブリア大学，ジュッカ島造船所ほか　文＝V.グレゴッティ，松井宏方，松井淳ほか　●公共空間の彫刻　○S＝小嶋勲　○NS　サンタンブロージオ教会堂

5＊ ●イスタンブールの都市と建築：ビザンチンからバロックまで／ハギア・ソフィア，オルタキョイ・モスクほか　文＝三宅理一，日高健一郎ほか　写真＝田原桂一　●現代建築と陶芸　○S＝林昌二　＊＝¥1500

6＊ ●I.M.ペイ・アンド・パートナーズ／ナショナル・アートギャラリー東館，グラス市庁舎ほか　文＝高瀬，林，神谷，高垣，渡辺　○S＝戸村浩　○NS　ストーンヘンジ　＊＝¥3000（ハードカバー装）

7 ●幻の日本建築：失われた建築，描かれた建築／古代・中世・近世：西和夫編　近代：森田一敏編　現代：湯澤正信編　●コロムビア大学学生寮／ガスミー&シーゲル　○S＝鈴木博之　○NS　ジャイプール

8＊ ●渦巻くポスト・モダニズム——Young American Architects／文＝松永，渡辺，彦坂，他　対談＝竹山実×石井和紘　●流政之の《北追岬》　文＝小川照　○S＝早川和男　＊＝¥3000（ハードカバー装）

9 ●建築の中の都市の系譜：ウィーン／文＋写真構成＝ソクラティス・ディミトリオ，川向正人　ウィーン建築地図　○ヴィジョン・イン・モーション❺　○S＝佐貫亦男　○NS　ポール・ゲッティ・ミュージアム

10＊ ●エーリック・グンナール・アスプルンド／森の火葬場，森の礼拝堂，ストックホルム市立図書館他　文＝菊竹，武藤，下村，今井，宗ほか　作品所在地図・年表　○S＝月尾嘉男　＊＝¥3500（ハードカバー装）

11 ●《リエージュ大学》——新キャンパス計画：建築と自然との対話／熱源センター，応用化学センター他　●G.バイヒルの放送局　●井上武吉の作品，三木健弘の作品　○S＝中村守保　○NS　ヘルシンキ中央駅

12 ●《SD レビュー，1982》／全19作品出展　座談会＝槇文彦＋鈴木恂＋元倉真琴＋布野修司　●マルヌ・ラ・ヴァレの集合住宅／設計＝R.ボッフィル　○S＝森政弘　○NS　チェルトーザ・ディ・パヴィア

1983

定価¥1300，＊＝特別定価

1＊ ●ニューヨークのアール・デコ／クライスラー・ビル，エンパイア・ステート・ビル，他　アール・デコ建築地図・リスト　文＝岡田，渡辺，高瀬，六鹿，小林　○椅＝藤枝晃雄　＊＝¥3500（ハードカバー装）

2＊ ●省エネルギーのスペース・デザイン——アメリカ編／フッカー・ケミカル・ビル，イリノイ州センターほか　文＝石福，高瀬，山岡，酒井，佐藤　○椅＝元永定正　○NS　シャンボール城　＊＝¥1500

3 ●イタリア——建築＋家具＋ID＋グラフィック／①メンフィス②マテリアルイデア展③イタル・デザインほか　文＝竹山実，荒知幾，細江勲夫　○椅＝松本哲夫　○NS　サンタ・マリア・ラ・ヌォーヴァ大聖堂

4＊ ●マイケル・グレイヴス／リバブリック・ビル，フマナ・ビル，ポートランド・ビル，プロセク邸他　文＝M.グレイヴス，片木篤ほか　●ウィンドー・ルーム・ファニチュアー展　○椅＝篠原一男　＊＝¥1800

5＊ ●永遠のモダーン：トーネット——曲木椅子のあゆみ／文・解説＝島崎信，加藤晃一，実測図・年表他　●アブタイペルク美術館　文＝磯崎新ほか　○椅＝安東早苗　○NS　ハンコックのシェーカー村　＊＝¥1600

6 ●イタリア合理主義／イタリア合理主義の周辺：八束はじめ，Ⅰ．合理主義前夜：鵜沢隆，Ⅱ．ミラノ・コモの合理主義：稲川直樹，Ⅲ．トリノの合理主義：大内昌弘ほか，参考文献リスト　○椅＝小原二郎

7 ●K.F.シンケル——生きつづける至上の建築の遺産　●パリ，ラ・ヴィレット公園国際コンペ　●アメリカのパブリック・スペース　●モデリスタ：G.サッキの仕事　○椅＝向井周太郎　○NS　ヴィースの教会

8＊ ●建築と照明／シカゴ・オーケストラ・ホール，新宿NSビル他　文＝西沢文隆，C.エンゲル，小西武志，小倉善明，面出薫，吉井澄雄ほか　○椅＝永井敬二　○NS　ウシュマル　＊＝¥1500円

9＊ ●丹下健三／サウジアラビア王国国家宮殿，キングファイサル財団本部，ボローニア・フィエラ地区センター，赤坂プリンスホテル，他　全21作品　論文＝丹下健三　○椅＝小池一子　＊＝¥3500円

10＊ ●建築と都市空間の保存と再生／都市：アイヒシュテット，ウルビノ，ボストン他，建築：アーケード，銀行，ホテル，大学他，文＝川向，野口，渡辺(泰)，渡辺(純)，高垣，芦原　○椅＝藤江和子　＊＝¥1800円

11 ●アメリカン・ボザール 1870——1940／アメリカン・ボザール再考　香山寿夫　序，❶—❺章，あとがき＝小林克弘　●バグダッドの国際会議場／ヘイッキ・シレン　○椅＝遠山孝之　○NS　ドブロヴニク

12 ●《SD Review，1983》／全22作品出展（4招待作品含む）　座談会＝槇文彦＋鈴木恂＋山本理顕＋布野修司，文＝伊藤哲夫，岩村和夫　●P.A.キング&S.ミランダの近作　○椅＝大橋晃朗　○NS　ボロブドール

1984

定価¥1500，＊＝特別定価

1＊ ●磯崎新1976—1984／つくばセンタービル，岡之山美術館，福岡相互銀行本店新館，ロサンゼルス現代美術館他全23作品　磯崎新の道程　自註＝磯崎新　文＝八束はじめ，鈴木博之　○色＝栗津潔　＊＝¥3300

2 ●アーツ・アンド・クラフツと世紀末のイギリス建築／ヴィクトリア朝から20世紀へ＝鈴木博之　序，❶—❽章＝片木篤，年表　○ヴィジョン・イン・モーション❼　○NS　マラバルテ邸　○色＝金寿根

3 ●ドイツ I.D. の双璧——D.ラムズ F.A.ポルシェ／シェーバーコーヒーメーカー，電話機ほか　文＝西沢健，黒川雅之，向井周太郎，渡辺武雄，細江勲夫　○NS　サマラの螺旋状ミナレット　○色＝村上静男

4＊ ●庭園：虚構仕掛の ワンダーランド　文＝彦坂裕，関和明，進土五十八，菊池誠，片木篤，倉田直道，上山良子，L.ハルプリン，G.エクボ，M.ローリー，ほか　庭園舞台装置百科　○色＝宇佐美圭司　＊＝¥2800

5 ●ロスアンジェルス・モダニズム／インタヴュー：E.マッコイ　文：八束はじめ，菊池誠，渡辺真理，R.ローズ　●ルシアン・クロール：手法と実践　○NS　カイザーウィルヘルム記念教会　○色＝早川邦彦

6 ●画家コルビュジエ／文：松浦寿夫　●コロンバス／文：高瀬隼彦　●ニューオーリンズ美術館　●パドヴァの建築家ジュゼッペ・ヤペッリ　文：L.ブッピ，渡辺真弓　○NS　ウィリアムズバーグ　○色＝川本恵子

7＊ ●世紀末建築／写真：田原桂一　文：飯島耕一，伊東順二，F.スーボー，池内紀，小池一子，J.クラヴリ，三宅理一　インタヴュー：A.ロブ＝グリエ，田原桂一　○色＝栗辻博　＊＝¥2500

8 ●マリオ・ボッタ／インタヴュー：M.ボッタ　文：野口昌夫，東孝光，北山恒　●チェコスロヴァキア・キュビズム　●二つの家　○連載＝F.L.ライト　呪術の空間　序　草森紳一＋大倉舜二　○色＝村井修

9 ●香山壽夫の建築三書／奥村・日野水邸，林原邸，小湊の海浜荘，東京大学資料館，東京大学経済学部，他　論文＝香山壽夫　●フランク・ロイド・ライトの実験住宅　○NS＝タージ・マハル　○色＝武井邦彦

10＊ ●シュトゥットガルト美術館新館／文＝J.スターリング，J.ライクワート，他　●ノル・ヴェンチューリ・コレクション　文＝R.ヴェンチューリ，大橋晃朗，他　○NS＝香港　○色＝黒木靖夫　＊＝¥1700

SDバックナンバー常備店

●東京
中央区　八重州ブックセンター　03（281）1811
千代田区　三省堂本店（神田）　03（233）3314
　書泉ブックマート　03（294）0011
新宿区　紀伊國屋本店　03（354）0131
渋谷区　大盛堂書店　03（463）0511
豊島区　西武百貨店ブックセンター03（981）0111

●札幌
旭屋書店　011（241）3007

●横浜
有隣堂本店　045（261）1231

●大阪
北区　旭屋書店本店　06（313）1191
西区　柳々堂　06（443）0167

●京都
駸々堂京宝店　075（223）1003
大龍堂書店　075（231）3036

●大学生協内書店
東北工業大学
早稲田大学理工学部
法政大学理工学部
関東学院大学

SD12月号予告

特集＝

SD Review, 1984

第３回〈SD Review, 1984〉展 出展作品の誌上発表!!

出展作品：

浦崎の家／石田敏明，二世帯の家／井上掘子，東八幡平 帰蝶山荘／海老塚耕一＋菱沼利行，かねす蒲鉾本舗本社屋／片岡山訓，
(株)コサカ本社社屋／木村丈夫＋野田俊太郎，MAISON FORMULA 1984／黒川哲郎，小笠原社宅／小林克彦，FEV HOUSE／小宮山 昭，
KOYA APARTMENT HOUSE／小屋雅義＋大内 栄，杉並の住宅—物質試行13／鈴木了二，修学院の家Ⅱ／高松 伸，
石幡邸（径と広場のある家）／竹ノ内一雄，ATLANTA'83／中澤王久東，衣笠の画廊喫茶／中野佳子，SIRASAGI COMPLEX／早川邦彦，
東北タマヨシ／能勢修治＋永井久美，ライフイン京都／若林広幸，池田病院／渡辺武信

特別出展：槇 文彦

SD1985年１月特大号予告

特集＝建築のハイテック・スタイル

HIGH-TECH Style of Architecture

もはや皮相だけの流行としてのハイテックの時代は終わった！
様式として定着し，今，さらに新しい段階〈成熟期〉に向けて，
新たなる可能性を模索する建築のハイテック・スタイル．
その理念と方法論をマルチ・アングルから分析し，その多様なデザインを紹介する．

N. フォスター，R. ピアノ，J. ブルーヴェ，C. イームズ，B. フラー，F. オットー，P. ライス＋T. バーカー，池辺陽，
ABK，A. スタントン，アラップ・アソシエーツ，D. ニクソン＋J. カブリッキー，FBHWS，N. グリムショウ，I. リッチー
R. アースキン，J. ヌーヴェル，C. ブルールマン，ベンテム＋クロウエル，G. マーカット，H. ヤーン，F. ゲーリー，M. ジャンセン　他

SD

10月号好評発売中!!

特集①＝

James Stirling：

シュトゥットガルト美術館新館

文：J. スターリング，巴辰一，本村佳久，J. ライクワート，杉本俊多

特集②＝

Robert Venturi：

ノル・ヴェンチューリ・コレクション——椅子・ソファ・テーブル

文：R. ヴェンチューリ，大橋晃朗，小川守之　インタヴュー：石井和紘

特別定価＝1700円



明日を築く知性と技術 ●鹿島出版会 ●東京都港区赤坂6-5-13 ●電話 (03) 582-2251 ●振替 東京6-180883 ●SD選書：各四六判

SD 選書

■今日の造形文化に関心のあるすべての人びとにおくる，新しいタイプの選書 ■現代文明のあらゆる課題をあつかい，新鮮でダイナミックな視点を提供する選書 ■高度に細分化し，専門化した現代文明の各領域をつなぐかけ橋となる選書 ■写真・図版を豊富に入れて，ヴィジュアルに編集し，感覚と知性に富む読者のよき伴侶となる選書.

①現代デザイン入門
勝見 勝著 ¥1,500

②現代建築12章
カーン，ルドルフ他著／山本学治訳編 ¥980

③都市とデザイン
栗田 勇著 ¥980

④江戸と江戸城
内藤 昌著 ¥1,200

⑤日本デザイン論
伊藤ていじ著 ¥1,500

⑥ギリシア神話と壺絵
澤柳大五郎著 品 切

⑦フランク・ロイド・ライト
谷川正己著 ¥1,500

⑧きもの文化史
河鰭実英著 ¥1,500

⑨素材と造形の歴史
山本学治著 ¥1,500

⑩今日の装飾芸術
ル・コルビュジエ著／前川国男訳 ¥980

⑪コミュニティとプライバシイ
シャマイエフ，アレクサンダー共著
岡田新一訳 ¥1,500

⑫新桂離宮論
内藤 昌著 ¥1,200

⑬日本の工匠
伊藤ていじ著 ¥1,500

⑭現代絵画の解剖
木村重信著 品 切

⑮ユルバニスム
ル・コルビュジエ著／樋口 清訳 ¥980

⑯デザインと心理学
穐山貞登著 ¥980

⑰私と日本建築
アントニン・レーモンド著 ¥1,500

⑱現代建築を創る人々
神代雄一郎編 ¥980

⑲芸術空間の系譜
高階秀爾著 ¥1,500

⑳日本美の特質
吉村貞司著 ¥1,500

㉑建築をめざして
ル・コルビュジエ著／吉阪隆正訳 ¥1,500

㉒メガロポリス
J.ゴットマン著／木内・石水共訳 ¥1,500

㉓日本の庭園
田中正大著 ¥1,500

㉔明日の演劇空間
尾崎宏次著 品 切

㉕都市形成の歴史
アーサー・コーン著／星野芳久訳 ¥1,500

㉖近代絵画
オザンファン，E.ジャンヌレ共著
吉川逸治訳 ¥980

㉗イタリアの美術
A.ブラント著／中森義宗訳 ¥980

㉘明日の田園都市
E.ハワード著／長 素連訳 ¥1,500

㉙移動空間論
川添 登著 品 切

㉚日本の近世住宅
平井 聖著 品 切

㉛新しい都市交通
B.リチャーズ著／曾根・森岡共訳 ¥980

㉜人間環境の未来像
W.イーウォルド編／磯村・星野共訳 ¥980

㉝輝く都市
ル・コルビュジエ著／坂倉準三訳 ¥1,500

㉞アルヴァ・アアルト
武藤 章著 ¥1,500

㉟幻想の建築
坂崎乙郎著 ¥1,500

㊱カテドラルを建てた人びと
J.ジャンベル著／飯田喜四郎訳 ¥1,500

㊲日本建築の空間
井上充夫著 ¥1,500

㊳環境開発論
浅田 孝著 ¥980

㊴都市と娯楽
加藤秀俊著 ¥980

㊵郊外都市論
H.カーヴァー著／志水英樹訳 品 切

㊶都市文明の源流と系譜
藤岡謙二郎著 品 切

㊷道具考
栄久庵憲司著 ¥980

㊸ヨーロッパの造園
岡崎文彬著 ¥980

㊹未来の交通
ハル・ヘルマン著／岡 齊訳 品 切

㊺古代技術
H.ディールス著／平田 寛訳 品 切

㊻キュビスムへの道
D.H.カーンワイラー著／千足伸行訳 ¥1,500

㊼近代建築再考
藤井正一郎著 ¥980

㊽古代科学
J.L.ハイベルク著／平田 寛訳 ¥690

㊾住宅論
篠原一男著 ¥1,500

㊿ヨーロッパの住宅建築
S.カンタクシーノ著／山下和正訳 ¥980

(51)都市の魅力
清水馨八郎・服部銈二郎共著 ¥980

(52)東照宮
大河内直躬 ¥690

(53)茶匠と建築
中村昌生著 ¥1,500

(54)住居空間の人類学
石毛直道著 ¥1,500

(55)空間の生命—人間と建築
坂崎乙郎著 ¥980

(56)環境とデザイン
ガレット・エクボ著／久保 貞訳 ¥980

(57)日本美の意匠
水尾比呂志著 ¥1,500

(58)新しい都市の人間像
イールズ，ワルトン共編
木内信蔵監訳 ¥780

(59)京の町家
島村 昇他著 ¥1,500

(60)都市問題とは何か
レイモンド・バーノン著／片桐達夫訳 ¥980

(61)住まいの原型(Ⅰ)
泉 靖一編 ¥980

(62)コミュニティ計画の系譜
佐々木 宏著 ¥1,500

(63)近代建築
V.スカーリー著／長尾重武訳 ¥1,500

(64)SD海外建築情報(Ⅰ)
岡田新一編 ¥980

(65)SD海外建築情報(Ⅱ)
岡田新一編 ¥980

(66)天上の館
J.サマーソン著／鈴木博之訳 ¥780

(67)木の文化
小原二郎著 ¥1,500

(68)SD海外建築情報(Ⅲ)
岡田新一編 ¥980

(69)地域・環境・計画
水谷穎介著 ¥980

(70)都市虚構論
池田亮二著 ¥780

(71)現代建築事典
ウォルフガング・ペーント編
浜口隆一・神代雄一郎監訳 ¥1,900

(72)ヴィラール・ド・オヌクールの画帖
藤木康雄著 ¥780

(73)タウンスケープ
T.シャープ著／長 素連・もも子共訳 ¥780

(74)現代建築の源流と動向
L.ヒルベルザイマー著／渡辺明次訳 ¥980

(75)部族社会の芸術家
マリアン・W.スミス編／木村重信他訳 ¥780

(76)キモノ・マインド
B.ルドフスキー著／新庄哲夫訳 ¥1,500

(77)住まいの原型(Ⅱ)
吉阪隆正・他共著 ¥980

(78)実存・空間・建築
シュルツ著／加藤邦男訳 ¥1,500

(79)SD海外建築情報(Ⅳ)
岡田新一編 ¥780

(80)都市の開発と保存
上田 篤・鳴海邦碩共編 ¥980

(81)爆発するメトロポリス
W.H.ホワイト・他著／小島将志訳 ¥980

(82)アメリカの建築とアーバニズム(上)
V.スカーリー著／香山寿夫訳 ¥980

(83)アメリカの建築とアーバニズム(下)
V.スカーリー著／香山寿夫訳 ¥980

(84)海上都市
菊竹清訓著 品 切

(85)アーバン・ゲーム
M.ケンツレン著／北原理雄訳 ¥980

(86)建築二〇〇〇
C.ジェンクス著／工藤国雄訳 ¥980

(87)日本の公園
田中正大著 ¥1,500

(88)現代芸術の冒険
オト・ピハリ＝メリン著
坂崎乙郎・宝木範義共訳 ¥980

(89)江戸建築と本途帳
西 和夫著 ¥980

(90)大きな都市小さな部屋
渡辺武信著 ¥980

(91)イギリス建築の新傾向
R.ランダウ著／鈴木博之訳 ¥980

(92)SD海外建築情報(Ⅴ)
岡田新一編 ¥980

(93)IDの世界
豊口 協著 ¥980

(94)交通圏の発見
有末武夫著 ¥980

(95)建築とは何か
B.タウト著／篠田英雄訳 ¥1,500

(96)続住宅論
篠原一男著 ¥1,200

(97)建築の現在
長谷川 堯著 ¥980

(98)都市の景観
G.カレン著／北原理雄訳 ¥1,500

(99)SD海外建築情報(Ⅵ)
岡田新一編 ¥980

(100)都市空間と建築
U.コンラーツ著／伊藤哲夫訳 ¥1,500

明日を築く知性と技術 ●鹿島出版会 ●東京都港区赤坂6-5-13 ●電話 (03) 582-2251 ●振替 東京6-180883 ●SD選書：各四六判

⑩環境ゲーム
T.クロスビィ著／松平 誠訳 ¥980

⑪アテネ憲章
ル・コルビュジエ著／吉阪隆正編訳 ¥980

⑫プライド・オブ・プレイス
シヴィック・トラスト著
井手久登・正子共訳 ¥980

⑭構造と空間の感覚
F.ウィルソン著／山本・稲葉共訳 ¥1,500

⑮現代民家と住環境体
大野勝彦著 ¥980

⑯光の死
H.ゼーデルマイヤ著／森 洋子訳 ¥980

⑰アメリカ建築の新方向
R.スターン著／鈴木 一訳 ¥980

⑱近代都市計画の起源
L.ベネヴォロ著／横山 正訳 ¥980

⑲中国の住宅
劉敦楨著／田中 淡・沢谷昭次共訳 ¥980

⑳現代のコートハウス
D.マッキントッシュ著／北原理雄訳 ¥980

㉑モデュロールⅠ
ル・コルビュジエ著／吉阪隆正訳 ¥1,500

㉒モデュロールⅡ
ル・コルビュジエ著／吉阪隆正訳 ¥1,200

㉓建築の史的原型を探る
B.ゼーヴィ著／鈴木美治訳 ¥980

㉔西欧の芸術1 ロマネスク(上)
アンリ・フォション著／神沢栄三・他訳 ¥1,500

㉕西欧の芸術1 ロマネスク(下)
アンリ・フォション著
神沢栄三・他訳 ¥1,200

㉖西欧の芸術2 ゴシック(上)
アンリ・フォション著／神沢栄三・他訳 ¥1,200

㉗西欧の芸術2 ゴシック(下)
アンリ・フォション著／神沢栄三・他訳 ¥1,200

㉘アメリカ大都市の死と生
J.ジェコブス著／黒川紀章訳 ¥980

㉙遊び場の計画
R.ダットナー著／神谷五男他・共訳 ¥1,200

㉚人間の家
ル・コルビュジエ他・著／西沢信弥訳 ¥1,200

㉛街路の意味
竹山 実著 ¥1,500

㉜パルテノンの建築家たち
R.カーペンター著／松島道也訳 ¥980

㉝ライトと日本
谷川正己著 ¥980

㉞空間としての建築(上)
ブルーノ・ゼーヴィ著／栗田 勇訳 ¥1,500

㉟空間としての建築(下)
ブルーノ・ゼーヴィ著／栗田 勇訳 ¥980

㊱かいわい〔日本の都心空間〕
村野博司著 ¥1,500

㊲歩行者革命
ブライネス，ディーン共著
岡 並木監訳 ¥980

㊳オレゴン大学の実験
C.アレグザンダー著／宮本雅明訳 ¥980

㊴都市は「ふるさと」か
ローマイス著／武 基雄・他共訳 ¥980

㊵建築空間「尺度について」
P.ブドン著／中村貴志訳 ¥980

㊶アメリカ住宅論
V.スカーリーJr.著／長尾重武訳 ¥980

㊷タリアセンへの道
谷川正己著 ¥680

㊸建築 vs. ハウジング
M.ポーリー著／山下和正訳 ¥980

㊹思想としての建築
栗田 勇著 ¥980

㊺人間のための都市
P.ベーターズ著／河合正一訳 ¥980

㊻都市憲章
磯村英一著 ¥980

㊼巨匠たちの時代
R.P.バンハム著／山下 泉訳 ¥980

㊽三つの人間機構
ル・コルビュジエ著／山口知之訳 ¥980

㊾インターナショナル・スタイル
ヒッチコック・他著／武澤秀一訳 ¥980

㊿北欧の建築
S.E.ラスムッセン著／吉田鉄郎訳 ¥980

(51)続建築とは何か
ブルーノ・タウト著／篠田英雄訳 ¥980

(52)四つの交通路
ル・コルビュジエ著／井田安弘訳 ¥980

(53)ラスベガス—忘れられたシンボリズム
ヴェンチューリ他著／石井・伊藤共訳 ¥1,500

(54)ル・コルビュジエ
C.ジェンクス著／佐々木宏訳 ¥1,500

(55)デザインの認識
R.ソマー著／加藤常雄訳 ¥980

(56)鏡—虚構の空間—
由木常雄著 ¥980

(57)イタリア都市再生の論理
陣内秀信著 ¥980

(58)東方への旅
ル・コルビュジエ著／石井 勉・他共訳 ¥980

(59)建築鑑賞入門
コーディル，ケノン共著／六鹿正治訳 ¥1,500

(60)近代建築の失敗
P.ブレイク著／星野郁美訳 ¥1,500

(61)ルイス・マンフォード
木原武一著
四六判 256頁 ¥1,500
生と文明に関する評論28冊に及ぶ著作を著わした碩学マンフォードの思想と未来への洞察を最も平明にまとめた概説書. マンフォードの思想に関心を抱く若い読書子にとって，初めての入門書成る.

(62)「いえ」と「まち」
—住居集合の論理—
鈴木成文・他共著
四六判 244頁 ¥1,500
長い歴史の上に築かれ，しかも現在急速に変わりつつあるわが国の住生活の実態を明かし「住居およびその集合をいかに計画するか」を30年余の研究の成果として示す実践住居論.

(63)文化財と建築史
関野 克著 ¥1,200

(64)日本の近代建築(上)
その成立過程—稲垣栄三著 ¥1,200

(65)日本の近代建築(下)
その成立過程—稲垣栄三著 ¥1,200

(66)住宅と宮殿
ル・コルビュジエ著／井田安弘訳 ¥1,200

(67)イタリアの現代建築
V.グレゴッティ著／松井宏方訳 ¥1,200

(68)バウハウス—その建築造形理念
杉本俊多著 ¥1,500

(69)エスプリ・ヌーヴォー
〈近代建築名鑑〉
ル・コルビュジエ著／山口知之訳 ¥1,200

(70)建築について(上)
F.L.ライト著／谷川睦子・正己共訳 ¥1,200

(71)建築について(下)
F.L.ライト著／谷川睦子・正己共訳 ¥1,200

(72)建築形態のダイナミクス(上)
R.ルドルフ著／乾 正雄訳 ¥1,200

(73)建築形態のダイナミクス(下)
R.アルンハイム著／乾 正雄訳 ¥1,200

(74)見えがくれする都市
横 文彦・他共著 ¥1,500

(75)街の景観
J.バーク著／長 素連・もも子共訳 ¥1,200

(76)環境計画論
田村 明著 ¥1,500

(77)アドルフ・ロース
伊藤哲夫著 ¥1,200

(78)空間と情緒
箱崎総一著 ¥1,200

(79)水空間の演出
鈴木信宏著 ¥1,500

(80)モラリティと建築
D.ワトキン著／榎本弘之訳 ¥1,200

(81)ペルシア建築
A.U.ポープ著／石井 昭訳 ¥1,500

(82)ブルネッレスキ
G.C.アルガン著／浅井朋子訳 ¥1,500

(83)装置としての都市
月尾嘉男著 ¥1,500

(84)建築家の発想＝私の師匠たち
石井和紘著 ¥1,500

(85)日本の空間構造
吉村貞司著 ¥1,500

(86)建築の多様性と対立性
R.ヴェンチューリ著／伊藤公文訳 ¥1,500

(87)広場の造形
カミロ・ジッテ著／大石敏雄訳 ¥1 500

(88)西洋建築様式史(上)
H.バウムガルト著／杉本俊多訳 ¥1,500

(89)西洋建築様式史(下)
H.バウムガルト著／杉本俊多訳 ¥1,500

(90)木のこころ＝木匠回想記＝
J.ナカシマ著／神代・佐藤共訳 ¥1,500

(91)風土に生きる建築
若山 滋著 ¥1,500

(92)金沢の町家
島村 昇著 ¥1,500

(93)ジュゼッペ・テッラーニ
ブルーノ・ゼーヴィ編／鵜沢 隆訳 ¥1,500

(94)水のデザイン
D.ベーミングハウス著／鈴木信宏訳 ¥1,500

(95)ゴシック建築の構造
R.マーク著／飯田喜四郎訳 ¥1,500

(96)建築家なしの建築
B.ルドフスキー著／渡辺武信訳 ¥1,500

(97)プレシジョン(上)
ル・コルビュジエ著／井田・芝共訳 ¥1,500

(98)プレシジョン(下)
ル・コルビュジエ著／井田・芝共訳 ¥1,500

(99)オットー・ワーグナー
<ウィーン世紀末から近代へ>
H.ゲレーツェッガー著／伊藤・前藤訳 ¥1,500

(100)環境照明のデザイン
石井幹子著 ¥1,500

明日を築く知性と技術　●鹿島出版会　●東京都港区赤坂6-5-13　●電話（03）582-2251　●振替　東京6-180883　●図書目録呈

近代建築ガイドブック〈西日本編〉

松葉一清・宮本雅明・土田充義・木島安史・伊藤行・杉本俊多・小野木重勝・山本忠司…他共著　四六判　276頁　¥2,800

洞海湾，関門，筑豊石炭遺跡，博多天神，九大，有田・唐津，熊本，日豊本線，鹿児島，南山手・東山手，長崎，市街地，軍艦島，五島教会堂，香川，愛媛，徳島，高知，岡山市，倉敷・児島，津山，広島市，呉・江田島，山陰，山口・宇部・萩，岩国・柳井…，計25コース，作品数約500.

近代建築ガイドブック〈関西編〉

福田晴虔・石田潤一郎・沢田清・柴田正巳・中川理・山形政昭共著

四六判　310頁　¥2,800　●好評発売中！

好評発売中の〈関東編〉につづく第2弾.

大阪の商業の中心・船場の商業建築にはじまり，ミナミの歓楽街，橋めぐり，堺の工場群，港町神戸の洋館，兵庫県の産業遺跡，あめりか村，文化都市・京都の大学施設等々24のコース．　600余の作品を数多くの図版・写真を収録して説明する，関西地域の近代を知るためのガイドブック.

近代建築ガイドブック〈関東編〉

●好評発売中！

東京建築探偵団著・顧問：村松貞次郎　四六判　276頁　¥2,300

建築の七つの力

鈴木博之著　四六判　184頁　¥1,800

連想の力，数の力，ゴシックの力，細部の力，模倣の力，地霊の力，過去の力——建築を成立させている，あるいは建築を読解する上でのこれら七つの契機，領域を論究した，気鋭の歴史家による建築論.

住まいにオヤジの居場所をつくる100章

榊沢成明著　B6判　224頁　¥1,400（イラスト100頁余）

オヤジの居場所として「書斎の復活」を望む声が高い．本書は，住まいの中でオヤジあるいは男の城とは何かを考え直し，書斎だけでなく，知的再生産の場をつくる実例やアイディアをイラスト付きで明快に解説する.

マンションを長持ちさせる100章

榊沢成明著　B6判　224頁　¥1,200

マンションをよみがえらせる100章

榊沢成明著　B6判　224頁　¥1,200

住まいを長持ちさせる100章

榊沢成明著　B6判　224頁　¥1,400

住まいの建て方と選び方100章

失敗しないためのチェックポイント——中村幸安著　B6判　¥1,500

■読む事典としても興味尽きない一冊本の建築百科！

世界建築事典

ニコラウス・ペヴスナー
ジョン・フレミング
ヒュー・オナー
共著

鈴木博之監訳

A5判　544頁　¥5,800（〒¥300）

●本書の項目は，建築の様式や部位に関する術語，各国建築史，人名からなっており，項目数は1,700余である.

●扱う範囲は先史・古代から現代に至り，西欧から東洋・中南米にまで及んでいる．　一冊本の建築小百科事典と言える.

●掲載した写真図版は1,000点を越え，一冊で人名事典，術語事典，歴史事典，図解事典などの要素を満たす，要を得た事典である.

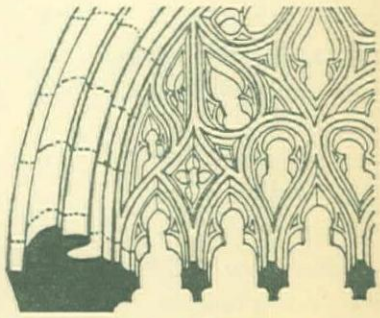
●本書の底本は *A Dictionary of Architecture*, 1975, Penguin Books で，その原形は *The Penguin Dictionary of Architecture*, 1966 である.

●1966年の出版物は，その後改訂されながら版を重ね，重宝な事典として世界的に普及している．　その1972年版に，さらに署名項目，写真図版，参考文献等を大幅に増補したものが本書の底本である.

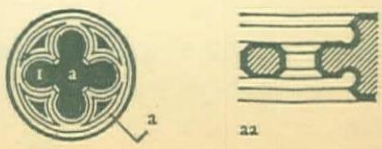
●本書の項目は，原著のアルファベット順の配列を，訳語の五十音順に編成しなおした．原綴による検索のためには，巻末に欧文索引（訳語対照）を加えた.

●翻訳は，東京大学の西洋建築史専攻者が訳稿を作り，監訳者が徹底的に推敲した．本書は，東大建築史研究室の総力を結集した訳書である.

●ニコラウス・ペヴスナー　Nikolaus Pevsner
1902年ライプツィヒに生まれる．1924年学位取得後，1924—29年ドレスデン美術館勤務，　1929—33年ゲッチンゲン大学講師．　1934年英国に移住，　1949—55年ケンブリッジ大学教授およびフェロー．　後にロンドン大学に移り，1967年退官するまで教授．　1967年英国王立建築家協会ゴールド・メダルを受ける．　1969年ナイトに叙される．　1983年ロンドンに歿．　この間，オックスフォード大学その他で教鞭をとり執筆活動を行う傍ら，アーキテクチュラル・レヴュー誌の編集にたずさわり『ペリカン美術史叢書』，『イグンランドの建築』の監修を行う.



流紋トレーサリーの細部，カスプを巧みに用いた例



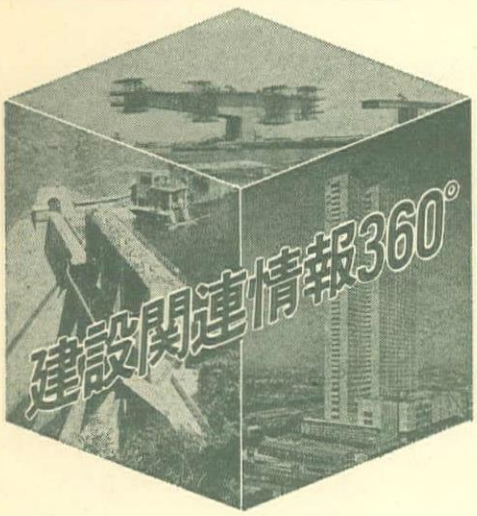
葉形飾り（aa：断面におけるカスプ）

人気急上昇

予約申込殺到!!

年間予約購読、郵送制

書店ではお求めになれません



月刊 ダルトンレポート

DALTON REPORT

「建設業のいま」を満載したニューリトルマガジン

B410号 目次

スポット 戸口まできたわが国の海洋開発

●シリーズ・ザ・建設業●朗報！「雨水流出抑制型下水道」の登場

●スコープ●自然と共存する健康環境こそアメニティ

調査 建設コンサルタントの海外活動促進策と意義

報告 モデル定住圏づくりにプロジェクト・メニュー方式を導入(上)

コンクリートの塩害問題究明にメス！

●わいどあんぐる●二千メートル級深海ロボでケーブル作業へ／第二電電、全国にソフト新会社

●霞が関ホットライン●建築士法違反は60%もの高水準／民間活力で地方都市の活性化を

●タウンパトロール●北海道のヒグマ、絶滅のピンチ！／秋田へいらっしゃい超安値工場が一杯

●情報るうむ●パソコンが使える構造計算プログラム／外壁診断ロボット次々と誕生

●ハウジング●買い手——戸建が半値、地主—手放さず利潤／民賃管理信託の第一号建物着工へ

●地域レーダー●展望ギャラリーもある横浜市美術館／"21世紀の大阪"建築コンペで町造り

●ローカルスポット●筑波に"ベンチャー企業村"建設計画

DALTON EYE／らんきんぐ／海外トピックス／サイエンス／GUIDE／GOODS & GOODS／語録／用語／他

建設マンのための気楽に読めるユニークな建設情報誌です。

●忙しいあなたに代って必要な情報を収集・整理してお届けします。

●これさえ読んでいれば高度情報化社会で遅れをとることはありません。

購読のお申し込みは今すぐに！
大変割安な定期購読料金です。

ただいま定期購読のお申込みを受付けています。
申込書用紙をきりとり、もれなくご記入のうえ、ハガキに全面のり付け貼付し、下記までお送りください。
※お申込みは個人名でおねがいします。

購読申込書の送り先
〒107 東京都港区赤坂6-5-13
㈱鹿島出版会 情報システム事業部
ダルトンレポート読者係 ☎03(583)6050

●定期購読料 1年購読(12冊) 4,800円(1冊当り400円)
(送料共) 3年購読(36冊) 9,600円(1冊当り266円)

※購読料金のお支払いは、ダルトンレポート本誌に添付の郵便振替用紙でお近くの郵便局からお払込みください。

DALTON REPORT 定期購読申込書

□新規購読申込 SD

フリガナ お名前			
ご自宅 〒 ☎ 住所			
お勤め先	該当のものに○印を	ご専門	建築 土木 機械 電気 事務 ほか
(職種)		ご担当	設計 施工 管理 営業 経理 ほか
購読期間(☑印をつけてください)		□1年	□3年

明日を築く知性と技術 ●鹿島出版会 ●東京都港区赤坂6-5-13 ●電話 (03) 582-2251 ●振替 東京6-180883 (SS) シルバーシリーズ

〈シルバーシリーズ〉 SS

■幅広い視野から建築，デザイン，都市，さらに文化全般にわたる諸問題を解明する新しいシリーズ．
■学生諸君におくる SD 選書の姉妹シリーズ．

庭のたのしみ

──西洋の庭園二千年──

アンヌ・スコット＝ジェイムズ著／オズバート・ランカスター絵
横山 正，増田能子共訳 四六判 180頁 ¥1,600

イギリスを中心とするヨーロッパ庭園史の概説書． ローマ時代のブリタニアにはじまって，現代のパティオに至るまで，18章にわたって各時代の庭園の様式を要領よく説明している．

鎮守の森

上田 篤編 四六判 250頁 ¥1,800

鎮守の森は，生活環境，文化遺産として最近その価値が見直されている．本書は，阪大の鎮守の森保存修景研究会が主として滋賀県で行った現況調査をまとめたもの 内容，調査方法とも興味深く，極めて示唆に富んでいる．

建築のことば

竹山 実著 四六判 244頁 ¥1,800

現代建築をどのように捉えたらよいか？ ことばから建築へ，建築からことばへと視点を換えながら，160コマの絵で話を展開する．

建築とポップ・カルチュア

レイナー・バンハム著／岸 和郎訳 四六・320頁 ¥2,300

建築デザイン史家バンハムは，ヒューマニズムに満ちた眼差しで多方面にわたる時評を行っている． 本書は氏のエッセイ25編．

ガス灯からオーブンまで──ガスの文化史
中根君郎・江面嗣人・山口昌伴共著 356頁 ¥2,500

これからの美術館
長谷川 栄著 220頁 ¥1,800

シルクロードの夢と現実──正倉院随想
李家正文著 260頁 ¥1,600

進化する都市
パドリック・ゲデス／西村一郎・他訳 360頁 ¥2,800

建物はどのように働いているか
E. アレン著／安藤正雄・他共訳 280頁 ¥2,500

多様化する人びとの欲求＝図でみる個人バタン
穐山貞登著 176頁 ¥1,500

半過去の建築から
木島安史著 192頁 ¥1,500

建築美の世界＝鑑賞・分析・比較
井上充夫著 252頁 ¥1,900

絵で見る住宅様式史
M.M.フォーレイ著／八木幸二・他共訳 356頁 ¥2,800

水道の文化史＝江戸の水道・東京の水道
堀越正雄著 320頁 ¥2,200

盛り場＝人間欲望の原点
服部銓二郎著 196頁 ¥1,500

口紅から機関車まで＝インダストリアル・デザイナーの個人的記録
レイモンド・ローウイ著／藤山愛一郎訳 432頁 ¥2,800

創造するこころ
《山本学治建築論集・全3巻》第3巻 250頁 ¥1,800

造型と構造と
《山本学治建築論集・全3巻》第2巻 220頁 ¥1,600

歴史と風土の中で
《山本学治建築論集・全3巻》第1巻 230頁 ¥1,600

新しい街路のデザイン
デザイン委員会＋イギリス都市計画協会共編／中津原努・他訳 224頁 ¥1,800

建物はどうして建っているか〈構造一重力とのたたかい〉
M.サルバドリー著／望月重訳 180頁 ¥1,600

建築を教えるものと学ぶもの
大江 宏・近江 栄・太田邦夫・他著 224頁 ¥1,600

建築の心理学
クリフォード・モーラー著／扇谷弘一訳 180頁 ¥2,100

個性ある都市＝横浜の都市デザイン
岩崎駿介著 216頁 ¥1,600

建築は兵士ではない
鈴木博之著 256頁 ¥1,600

タウンハウス＝町家の再生
上田 篤編 220頁 ¥1,800

実現されたユートピア
月尾嘉男・北原理雄共著 252頁 ¥1,800

フランス建築事情 付・パリ建築案内図
三宅理一著 220頁 ¥1,800

絵で見る建築様式史
O.ランカスター著／白石和也訳 216頁 ¥1,600

日本のすまい・内と外
E.S.モース著／上田 篤・加藤晃規・柳美代子訳 350頁 ¥2,900

オフィス空間＝サラリーマンの場所と生理
草森紳一著 224頁 ¥1,600

《塗床材》

スペースコートS
スペースコートM

株式会社エービーシー商会



㈱エービーシー商会では，今度手軽に塗れるペイントタイプの塗床材，スペースコートSとプレミックスタイプの樹脂モルタル，スペースコートMを新発売した．

スペースコートS

アクリル変性エポキシ樹脂を主成分とするフロアペイントで，だれでも簡単に施工できる．　基剤に硬化剤を加えて混合するだけで，ローラーバケでも平バケでも手軽に塗れ，しかも下地のモルタルやコンクリートが湿っていても塗れるうえ，施工の翌日に使用できる．またアクリル変性のため色彩が鮮やかで，着色性も抜群で，柔軟性のある塗膜は適度の防滑性があり防塵性，耐候性にも優れている．

標準色　12色　材工設計価格1,500円/m²(300m²以上)

スペースコートM

施工が簡単な樹脂モルタル塗床材で，アクリル変性エポキシ樹脂が主成分であらかじめ着色された細骨材が調合されている基材に，硬化剤を加えて混合し，金鏝塗り1回で仕上げることができ，しかも耐候性，耐久性に優れている．

標準色　12色　材工設計価格4,500円/m²(300m²以上)

株式会社エービーシー商会
東京都千代田区永田町2丁目12番14号
〒100　Tel 03-507-7111（代）

《ユニットハウス》

マルティカプセル

株式会社菱晃



㈱菱晃では，今度 FRP 製の多目的ハウス，マルティカプセルを新発売した．　これはメインカプセル(200万）とサブカプセル（80万）が基本となっており，あらゆるレジャー，業務用の休憩・宿泊施設，隔絶された場所における観測・監視などの施設に適している．

特長

①ガラス繊維強化プラスチックでガラス繊維に不飽和ポリエステル樹脂を含浸積層して造られているので，塩害，凍害，礪害に強く，腐ったり錆びたりしない．

②熱伝導率が木と同じぐらい低く，結露，結氷がおこりにくい．

③重さは500kgと軽いのでユニック付トラックで運搬，組立てができ，また山岳地，積雪地，湖上，海上など道路のない所でもヘリコプターで吊り下げて運搬できる．

④設置は，平地，斜面，土中など立地，土地性向を問題にせずでき，基礎は不用でワイヤーだけでできる．

⑤形はトンネルの複合体で，潜水艦と同じような構造なので丈夫である．

仕様

広さ　メインカプセル7m²　サブカプセル2.9m²

換気　自然換気10.7m³/時間＝0.7回/時間

株式会社菱晃
東京都中央区築地4丁目3番8号
〒104　Tel 03-542-5871（代）

《外内装吹付材》

メタコートG

三菱レイヨン・エンジニアリング株式会社



三菱レイヨン・エンジニアリング㈱では，従来より発売し好評を得ているアクリル系弾性塗料，メタコートの性能を一段と高めたハイグロス弾性厚膜塗料，メタコートGを新発売した．

特長

①エマルジョン塗料では出せなかった優雅な光沢を持ち，溶剤型塗料に匹敵する艶がある．

②伸度が大きく，塗膜はヘアラックに十分追随する．

③雨水と共に塩分，酸性容液の浸透を防ぎ，躯体の劣化を防止する．

④表面は汚れがつきにくいので，美観が永く保つ．

⑤塗膜は抗張積が大きいので傷が付きにくく強靭である．

⑥溶剤を全く使わずに施工できるため，異臭がなく，またローラ工法を行なうことにより飛散防止，無騒音施工も可能である．

⑦仕上塗を省略した2コートタイプのため，工期の短縮，経費の節減になる．

三菱レイヨン・エンジニアリング株式会社
東京都中央区京橋2丁目3番19号
〒104　Tel 03-272-4321（代）

AM 建材情報

《シーリング材》

SIKAFLEX 200シリーズ

日本シーカ株式会社



日本シーカ㈱では，今度様々な用途に応じた新しいポリウレタン一成分形工業用接着・シール材，SIKAFLEX-200シリーズを新発売した．　この200シリーズは，201，221，231，241，250，251，255と品番を揃え，使用方法も充塡，シール，塗布と幅広い使い方が可能で，硬化速度，荷姿も用途に応じ選択ができるようになっている．

特長

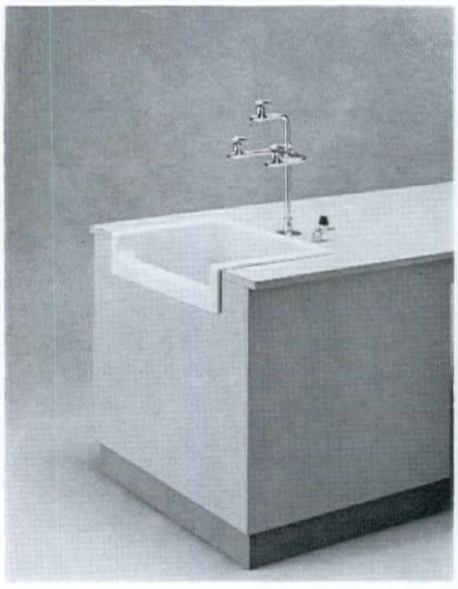
①一成分のため，品質は均一で作業性に優れている．
②優れた伸びと接着力があるので，振動，衝撃の吸収性がよい。
③引裂き抵抗が大きい．
④耐久性，耐水性が抜群で，また腐蝕性，耐海水性がよい．
⑤上塗り塗装が可能である．
⑥研磨などの加工ができる．

日本シーカ株式会社
東京都港区新橋4丁目2番1号
〒105　Tel 03-436-6031（代）

《流し台》

新型実験用流し

東陶機器株式会社



東陶機器㈱では，今度学校の理科室やさまざまな研究施設の実験室などで使われ，塩酸，硫酸などの薬品に強く，耐酸性，耐アルカリ性に優れた新型実験用流し2機種（SK-146，SK-147）を新発売した．

特長

①三方セルフリムタイプの新しいデザインで，教育施設用実験台の工業規格に合わせた寸法になっている．
②槽内寸法が大きく，水とびに十分配慮がされている．
③排水口部にベルトラップが内蔵されているが，上端に目皿を設け底面を平らにし，流しの中に実験用器具が置ける。

仕様・価格（写真タイプ）

外寸　590×400×420mm
内寸　510×308×240mm
色　白および標準色5色
33,300円（化学水栓11,200円含む）

東陶機器株式会社　広告宣伝課
東京都港区虎ノ門1丁目1番28号
〒105　Tel 03-595-9736

《張床》

マチコ コーデラ

東洋リノリユーム株式会社



東洋リノリユーム㈱では，従来よりノンアスベストの塩ビタイル普及品として，ニューマチコVを発売しているが，このノンアスベストタイルの充実を計るため，今度オフィスビルから専門店まで幅広く使える新しい感性をもった高級ノンアスベストビニルタイル，マチココーデラを新発売した．

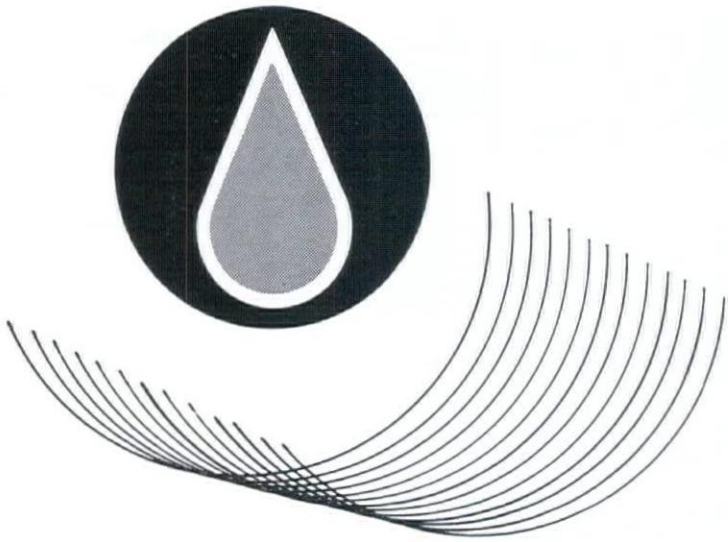
特長

①アスベストを全く含まないソフトな軟質ビニルタイルである．
②定色差設計の5色のチップを混合圧延して作られているので，やわらかで微妙な新感覚の床ができ，また継目，汚れが目立たない．
③模様は下まで均一に通っているので，歩行量が多く摩耗の激しいフロアでも美しさがいつまでも変らない．
④ソフトでナチュラルな色調と，くせのないニュートラルカラーのグラデーション配列による17色構成となっている．

仕様・価格

規格　横303×縦303×厚さ2，3mm
設計単価　2mm厚3,000円/m²
（平場300m²以上材工共）
3mm厚4,500円/m²

東洋リノリユーム株式会社　営業推進部
兵庫県伊丹市東有岡5丁目125番地
〒664　Tel 06-492-1331（代）



誠意と情熱

◎総合設備工事

ビル設備
空調・給排水衛生

工場設備
各種配管・公害防除

住宅設備
給排水衛生・給湯・暖冷房

ガス設備

◎環境整備工事

一般土木
上下水道・舗装・宅造

◎ガス機器関連販売

東横工業株式会社

取締役社長　根本　豊

横浜本店／横浜市西区平沼二丁目11番11号　TEL(045)323-2531

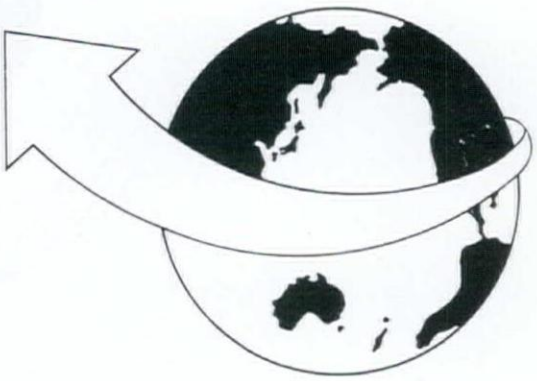
東京本社／東京都千代田区内幸町二丁目1番1号(飯野ビル)　TEL(03)593-0671

〈支　店〉　大阪・東北

〈営業所〉　北海道・岩手・福島・群馬・栃木・多摩・千葉
川崎・厚木・横須賀・湘南・静岡・福岡

未来に向って…

限りある資源
限りある空間の中で
より快適な環境づくりの
ために努力しています。



●営業種目
空気調和・冷暖房・給排水・衛生設備・設計施工

C.C 株式会社 朝日工業社

本社・東京支社　〒105 東京都港区浜松町1－25－7　電話03(434)6171(大代)
大阪支社　〒532 大阪市淀川区加島1－58－59　電話06 (302) 2271(代)
支店　北海道／東北／名古屋／中国／九州

N 日章工業株式会社

●本　社　〒101　東京都千代田区内神田3－11－7(日立神田別館)　☎03-254－3000
●大阪支店　〒541　大阪市東区平野町2－7(豊ビル)　☎06-201－5704
●仙台駐在　〒980　仙台市中央3－2－27(日産生命館)　☎0222-21-6989

日立製作所エレベーター・機電特約店
日立製作所OAシステム特約店
日立金属フリーアクセス、ハイベース特約店
旭化成建材パイル・ヘーベル代理店
大和ハウス工業代理店

施設商品

エレベーター・エスカレーター
立体駐車場設備(新明和工業)
バスユニット(日立化成工業)
住宅機器類
集中浄化槽
受水槽
ソーラー
受変電設備
自家発電設備
無停電定電圧定周波電源装置
ビル監視制御装置
冷暖房空調設備
通信設備
ターボ冷凍機・吸収式冷凍機
各種ポンプ設備・換気設備

OAシステム機器

パーソナルコンピューター
ワードプロセッサー
ファクシミリ
オフィスコンピューター

建材商品

AHSパイル
ヘーベル
フリーアクセスフロア
ハイスプリット・ハイベース鉄骨
大昭和ユニボード

建設商品

クローラクレーン
ショベル
軽量鉄骨プレハブ規格建築物
軽量鉄骨系プレハブ住宅



東光電気工事株式会社

取締役会長　松本　福男　　取締役社長　菅　保之

東京都千代田区西神田1－4－5　〒101　電話292－2111　大代表

広告についてのお問合せの際は≪SD を見て≫と御明記願います

トータル計画で新時代の環境づくりに貢献



人間活動の大きな変化に対応できなくなって、大気汚染という深刻な問題をかかえた都市。現代に生きる私達にとって、どのようにその問題に対処していくかは重要な課題です。いま、失われた自然環境をとりもどし、都市そのものを新しくよみがえらせる目的で都市再開発が注目されています。新菱は独自の空気調和技術で大気中の塵埃・有毒ガス・臭気を浄化して都市の体質改善をします。地域冷暖房をはじめ街ぐるみの広範囲にわたる地域の集中管理システムを開発し、健康で文化的な生活環境を築きます。

さわやかな世界をつくる
新菱冷熱（しんりょう）

新菱冷熱工業株式会社
東京都新宿区四谷2－4　TEL(357)2151(大代)

桟木工法による壁体用打込ブリック

一般タイル工事

五十年の歴史と実績の

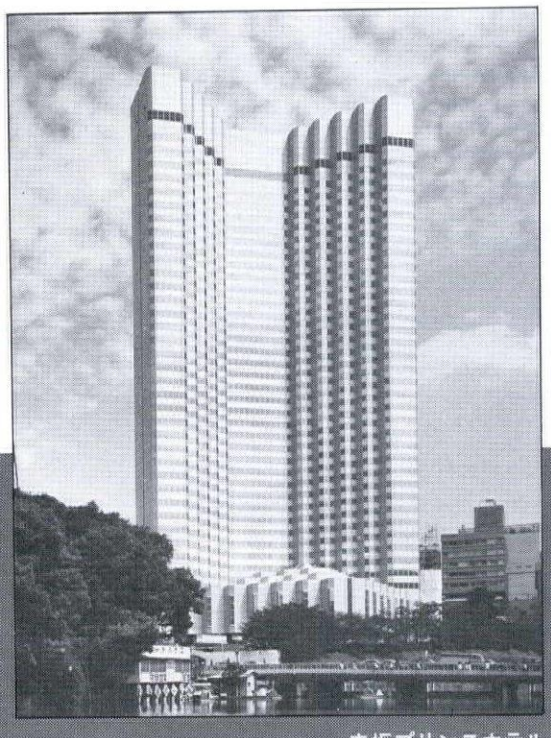
不二窯業株式会社

取締役社長　松嶋健壽

本　　社	東京都中央区新富2—14—5	電話 03 (551) 7255 代 〒104
札幌営業所	札幌市中央区大通西14—1	電話011 (241) 8960 代 〒060
仙台営業所	仙台市二日町3—11	電話0222 (22) 5124 代 〒980
関越営業所	高崎市中居町2—6—23	電話0273 (53) 0588 代 〒370
大阪営業所	大阪市淀川区西中島3—5—8	電話 06 (301) 9166 代 〒532
福岡営業所	福岡市博多区奈良屋町11—8	電話092 (281) 0378 代 〒812
新潟出張所	新潟市女池4—14—14	電話0252 (85) 6638 代 〒950
シンガポール事務所	Tonan Trading Co., Ltd. Singapore Office. Tel. 2227570, 2227157. Telex. Rs 34755 Tonasp	
韓国事務所	Royal Enterprise Co., Ltd. Tel. Seoul, 765-3631～3, Telex. K 24637. Roystar.	

建築と設備の調和

給排水衛生設備　消火設備　冷暖房設備



赤坂プリンスホテル

NEO 株式会社 西原衛生工業所

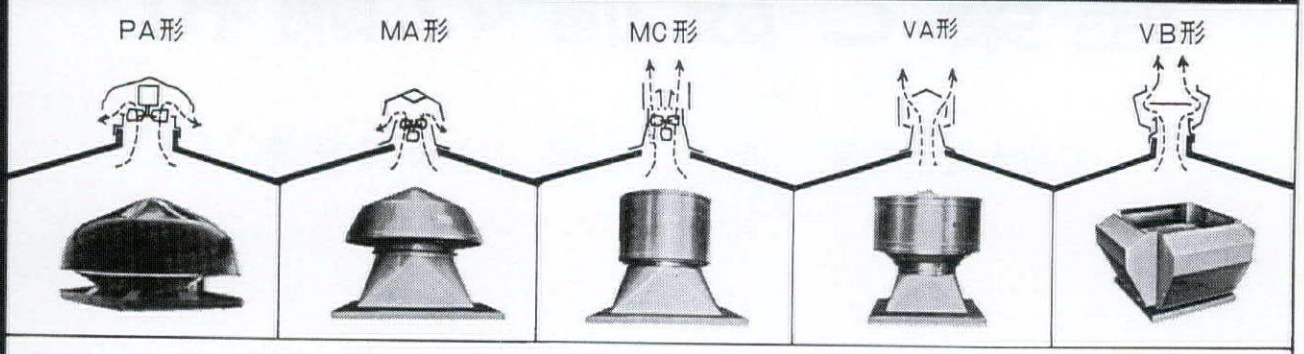
東京都港区芝浦3-6-18　TEL 03-452-7441代表

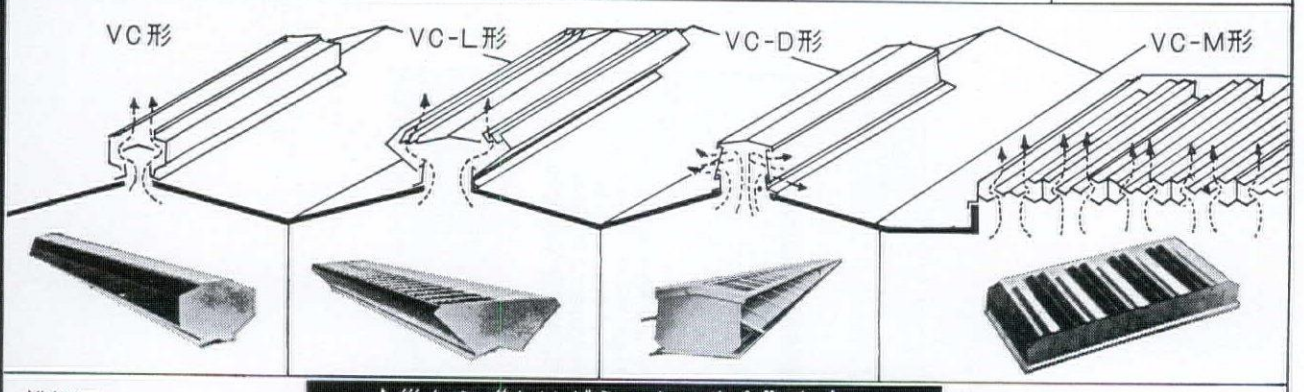
名古屋・横浜・千葉・新潟・仙台・札幌
静岡・藤沢・大宮・長岡・盛岡・青森・函館・旭川・帯広

坂本商会は創業70余年換気・排煙・採光の専門メーカーです

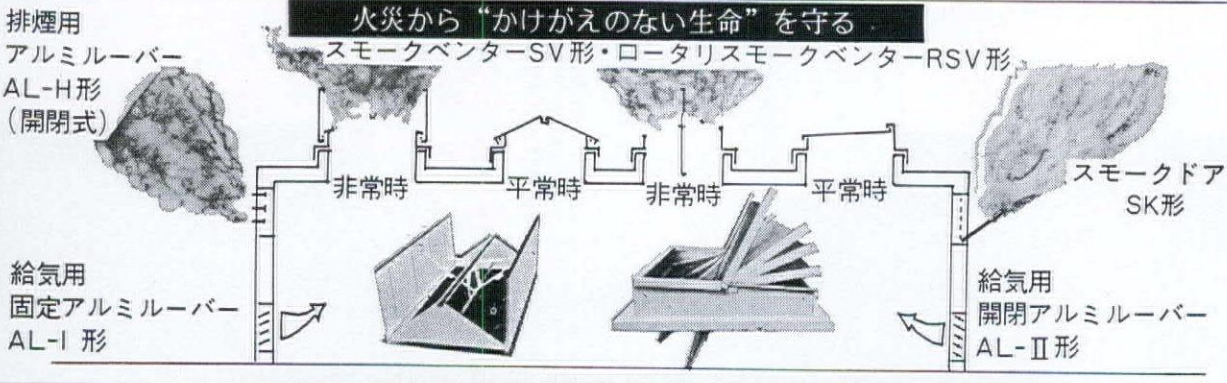
強制換気・自然換気装置　排煙・ルーバー装置　採光装置

“自然の風”を効率よく招く坂本式ルーフベンチレータ群

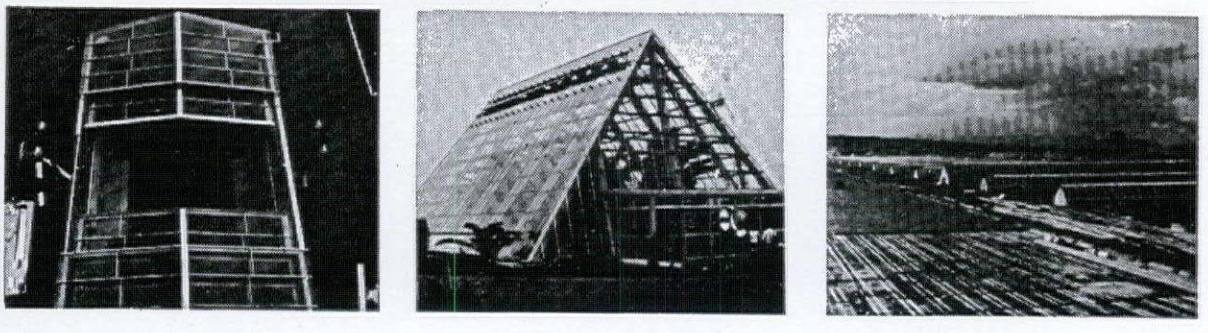




火災から“かけがえのない生命”を守る



“太陽の恩恵”を全身でウケとめる坂本式スカイライト



株式会社　坂本商会

本　社　東京都中央区日本橋2－16－12（江戸二ビル）
〒103　電話 東京（03）271－5591（代）
松戸工場　千葉県松戸市松飛台420番地
〒270　電話 松戸（0473）87－6595（代）
技術研究所　千葉県松戸市松飛台字御囲217番地
〒270　電話 松戸（0473）87－3148
施工部　東京都墨田区東向島2丁目15番11号
〒131　電話 東京（03）619－2221（代）

カタログをご請求下さい

広告目次

SD誌に広告をお申し込みの際は

下記広告代理店にご用命下さい（五十音順）

●共栄通信社

東京——東京都中央区銀座8-2-1
ニッタビル（572）3381
FAX（572）3590

大阪——大阪市北区西天満3-6-8
笹屋ビル（362）6515
FAX（365）6052

●建報社

東京——東京都中央区銀座1-16-5
篠原ビル（563）2576

大阪——大阪市東区淡路町1-12
昭栄ビル（231）4548

●新建社

東京都中央区日本橋3-5-12
守尾ビル（271）3271

●中外広業社

大阪——大阪市北区浪花町14-25
日本生命天六ビル（376）1791

東京——東京都千代田区内神田1-11-1
酒井ビル（293）0621

名古屋——名古屋市中区錦1-13-19
北辰名古屋ビル（221）7641（代）

ア　㈱朝日工業社——020
オ　大崎電気工業㈱——001
　　大阪電気暖房㈱——014
　　大塚オーミ陶業㈱——77
カ　軽井沢ホテル鹿島ノ森——011
　　㈱鎌倉製作所——005
　　鹿島建設㈱——008
キ　近畿電気工事㈱——006
ク　空研工業㈱——90
サ　三協アルミニウム工業㈱——016
　　三建設備工業㈱——85
　　㈱坂本商会——024
シ　新菱冷熱工業㈱——022
　　昭和鋼機㈱——86
タ　高砂熱学工業㈱——004
　　大興物産㈱——010
ト　㈱東芝——表3
　　凸版印刷㈱——013
　　東横工業㈱——019
　　東光電気工事㈱——021
　　東洋熱工業㈱——108
ナ　中立電気㈱——012
ニ　日本軽金属㈱——表4
　　日本フィスバ㈱——表2
　　日本電気㈱——003
　　日新工業㈱——009
　　日本バルカー工業㈱——014
　　㈱西原衛生工業所——023
　　日章工業㈱——020
　　日新製鋼㈱——80
　　日本スタナダイン㈱——84
　　ニチアス㈱——100
ノ　ノバ工芸㈱——81
ヒ　日立電線㈱——83
フ　不二窯業㈱——022
　　フジテック㈱——82
　　㈱ブリヂストン——015
マ　松下電器産業㈱——002・007
ミ　三菱電機㈱——99
ヤ　山田照明㈱——026
リ　菱和調温工業㈱——87

C.F. DOWNLIGHT
コンパクト蛍光灯ダウンライト新登場

新光源 省エネ 高効率

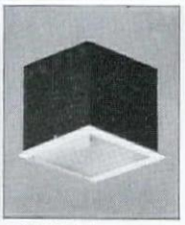
3つおさめた光のカプセル。

少ない消費電力と長寿命を実現。

「C.F.ダウンライト」シリーズは、ヨーロッパのオスラム社とフィリップス社で同時開発された〈コンパクト蛍光ランプ〉を光源に採用。消費電力は、普通電球で同一照度を得るときと比べおよそ⅓。寿命は5倍という省エネを実現しています。この新光源のメリットを最大限に活かすため設計されたのが、「C.F.ダウンライト」シリーズのコンパウンドカーブです。



ラウンドタイプ



スクエアタイプ

コンパウンドカーブが グレア(まぶしさ)を追放。効率をあげた。

「C.F.ダウンライト」シリーズでは、従来の反射板が持つノングレア思想をさらに押しすすめ、効率アップを追求するため反射板の上半分を放物線、下半分を楕円構造に設計した"コンパウンドカーブ"を採用しました。放物線によって作られた強い光を逃がさず、楕円反射板が巧みにグレアをカットします。



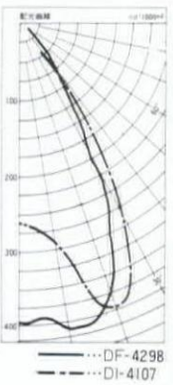
「C.F.ダウンライト」シリーズDF-4298

容易なメンテナンス機構。

点灯時のランプポジションは水平状態ですが、メンテナンス時には、ランプ本体を斜め下に動かすことで、ランプ交換を容易にしています。



「C.F.ダウンライト」(DF-4298:9W×2灯)を従来の普通電球使用のダウンライト(当社DI-4107:60W×1灯)と比較すると直下では約2倍、直径2m内の平均照度では約1.6倍(どちらも天井高2.5mの場合)の照度を得ることができます。光源の寿命を考え合わせると、大幅な省エネルギーが可能となりました。



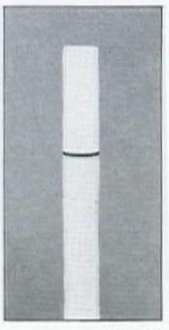
●光源仕様—DULUX(OSRAM社)・PLランプ(PHILIPS社)
7W×2灯:DF-4297、DF-4299、DF-4301
9W×2灯:DF-4298、DF-4300、DF-4302
9W×1灯:AF-4173、AF-4174、BF-4218、BF-4219
●「C.F.ダウンライト」シリーズは実用新案・意匠登録出願中です。

C.F.OUTDOORシリーズ〈同時発売〉

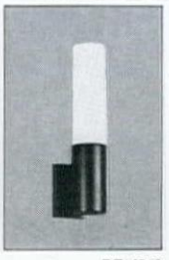
◀GARDEN LIGHT
▼WALL BRACKET



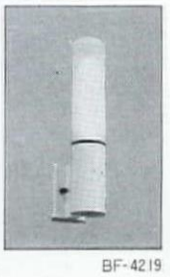
AF-4173



AF-4174



BF-4218



BF-4219

山田照明

本社・ショールーム／〒101 東京都千代田区外神田3-16-12 ☎(03)253-5151(大代)
電設部 ☎(03)255-5545代 市販部 ☎(03)255-5541代 東京店 ☎(03)253-5151(大代)
横浜店ショールーム／〒220 神奈川県横浜市西区南幸2-20-1 ☎(045)311-1731(大代)
仙台ショールーム(0222)67-1630代 福岡ショールーム(092)712-5151代 札幌営業所——(011)811-2215代
高崎営業所——(0273)63-1442代 埼玉営業所——(0486)64-6921代 静岡営業所——(0542)37-1651
名古屋支社——(052)775-7161代 大阪支社——(06)643-3421代 岡山営業所——(0862)75-1789
広島営業所——(082)285-5401代 鹿児島営業所——(0992)58-0031